建築と社会

ARCHITECTURE AND SOCIETY ● VOL.52

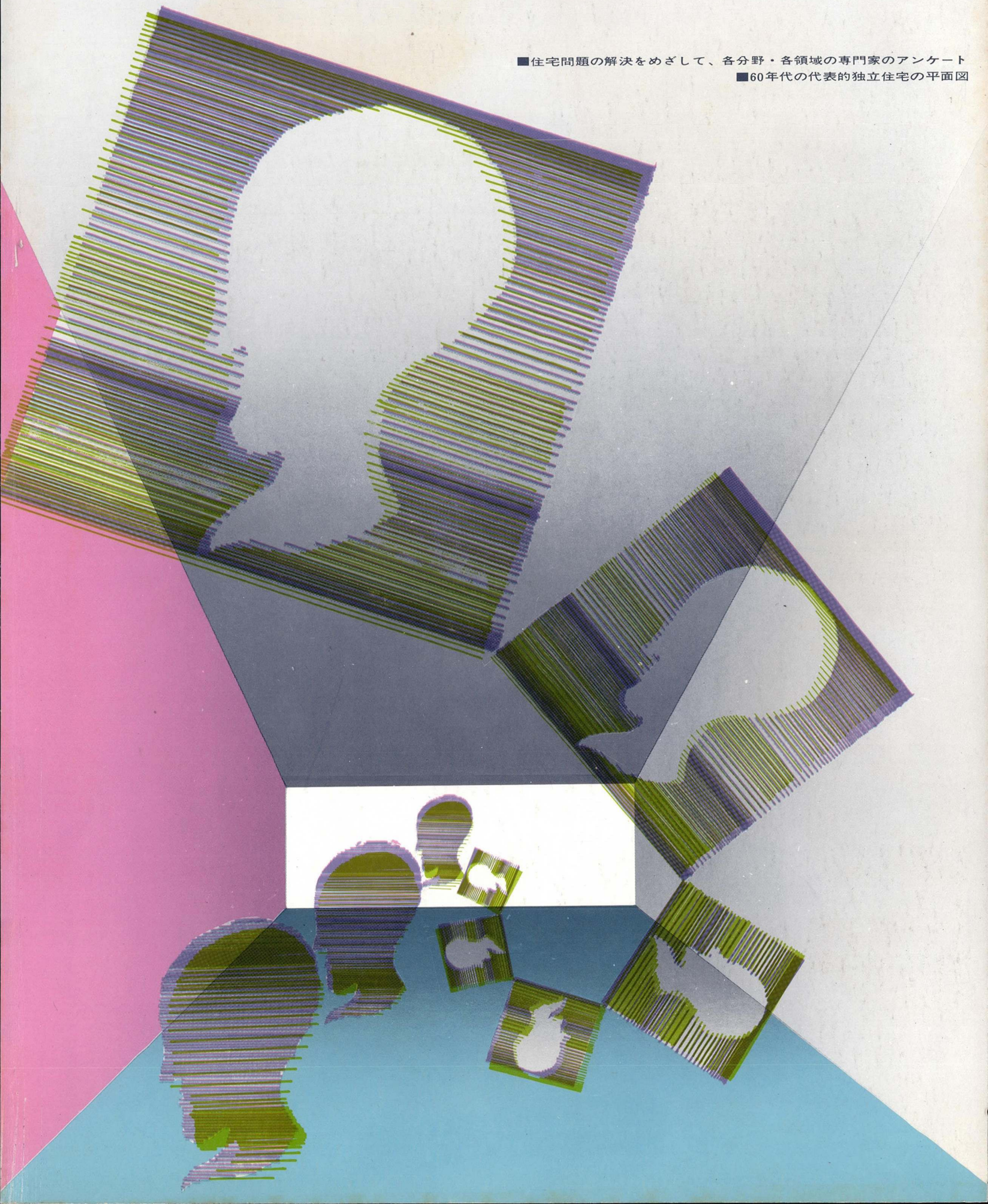
社団法人　日本建築協会
昭和46年 1 月25日発行　第52輯第 1 号
毎月 1 回25日発行
昭和24年 3 月19日第 3 種郵便物認可

特集
住宅 ―60年代の総括と
70年代の展望

1971
昭和46年

1

■住宅問題の解決をめざして、各分野・各領域の専門家のアンケート
■60年代の代表的独立住宅の平面図



"鉄をつくり 未来をつくる"住友金属



同じ建て坪なら　倍ぐらいには使えます

事務所・工場・倉庫など、中型構造物の建築をご計画中なら、ぜひ、住友のプレハブ骨組《スミフレームV》をご利用ください。中柱が不要で、間口、屋内スペースが広くとれ、同じ建て坪なら、まず、倍ぐらいに活用でき、合理的です。強靱で耐久性に富み、建築も簡単。 360種以上の標準設計を用意しています。

住友のプレハブ骨組

スミフレームV

住友金属

住友金属工業株式会社

大阪 ── 大阪市東区北浜5の15(新住友ビル) ☎(203)2201
東京 ── 東京都千代田区丸の内1の8(新住友ビル) ☎(211)0111
営業所 ── 福岡・広島・岡山・高松・名古屋・富山・静岡・新潟・仙台・札幌

謹賀新年
1971

71年を迎えて 業務調整の年

日本建築協会会長　東畑謙三

日本万国博も大成功裡に終って、その立役者ともいうべき建築界は大任を果してやれやれと肩の荷をおろした感じである。
建築の万国博であったと言われた位に業界は総力をあげたのであった。うれしい事にわが建築界の実力を万国に示した絶好の機会でもあった。その喜びも未ださめやらぬ中に新しい年を迎えたのである。
建築界の発展は元来我が国の生産力、経済力の発展に追随してゆくものである。業の性質上、それ自身の発展によって我が国全体の経済力をリードするわけにはゆかぬ。ところが過去数年にわたり我が国の生産力は全く驚異的な発展をとげた。然しながらそれが余りに急速であったため、いわばG.N.P.を追うのに急であったため、このあたりでいくらかよどみが出て来たのではなかろうか。河川でもいかに急流であってもある距離には淵がありよどみが出来るものである。パルプの生産は大いに昇ったが廃液の処理をするひまがなかったのでヘドロがたまったのである。
建築界も亦過去数年の急速な発展の影にやはりこのヘドロ的存在、パイプの中のスケル的存在がふえているのではなかろうか。いたづらに過去の数年の建築に眩惑されている年ではない。この辺で一度調整を必要とする時機が来ているのではなかろうか。業務の調整、これが本年度の建築界の課題である。そしてその期間は相当長びく恐れがある。
然しながら我が国力の発展の基調には何ら変りはないのだから建築界の発展も亦これと歩を合わすであろうが永らくたまったスケルをよく洗い落しながら、これ亦永らく蓄積した実力と高い技能を充分発揮して落ち着きながら進むべきであろう。



京都オリエンタルホテル

所在地	京都市東山区山科上花山桜谷町
建築面積	3,676.61m²
延面積	19,406.31m²
構造規模	RC造B1，6F，P2
工期	昭和44年1月～昭和45年2月

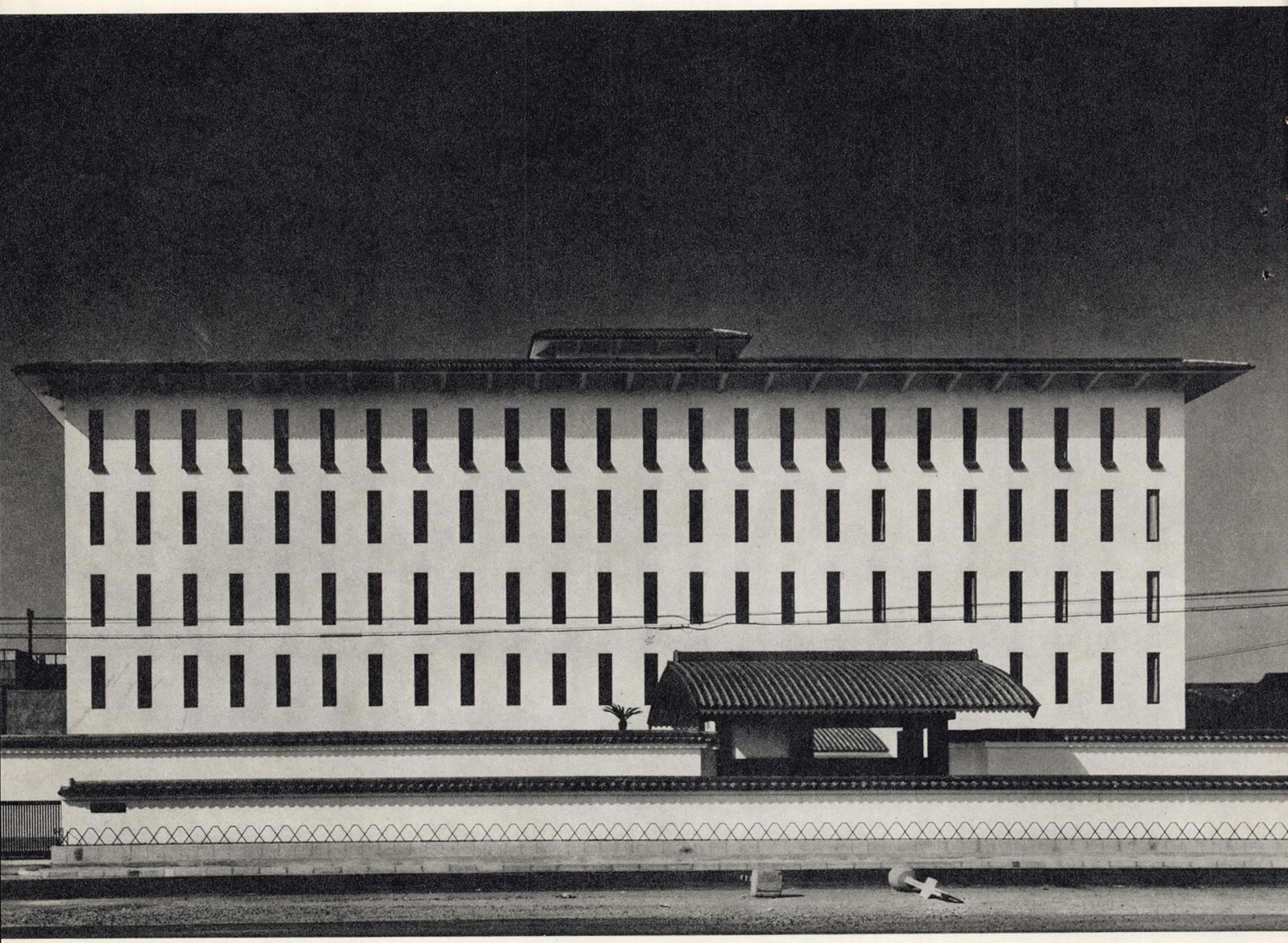
設計施工　株式会社　**大林組**



大阪駅前第一ビル

設　計	㈱東畑建築事務所
所在地	大阪市北区上曽根崎上４丁目
建築面積	9,218m²
延面積	101,406m²
構造規模	ＳＲＣ造Ｂ６，12Ｆ，Ｐ４
工　期	昭和40年５月～昭和45年４月

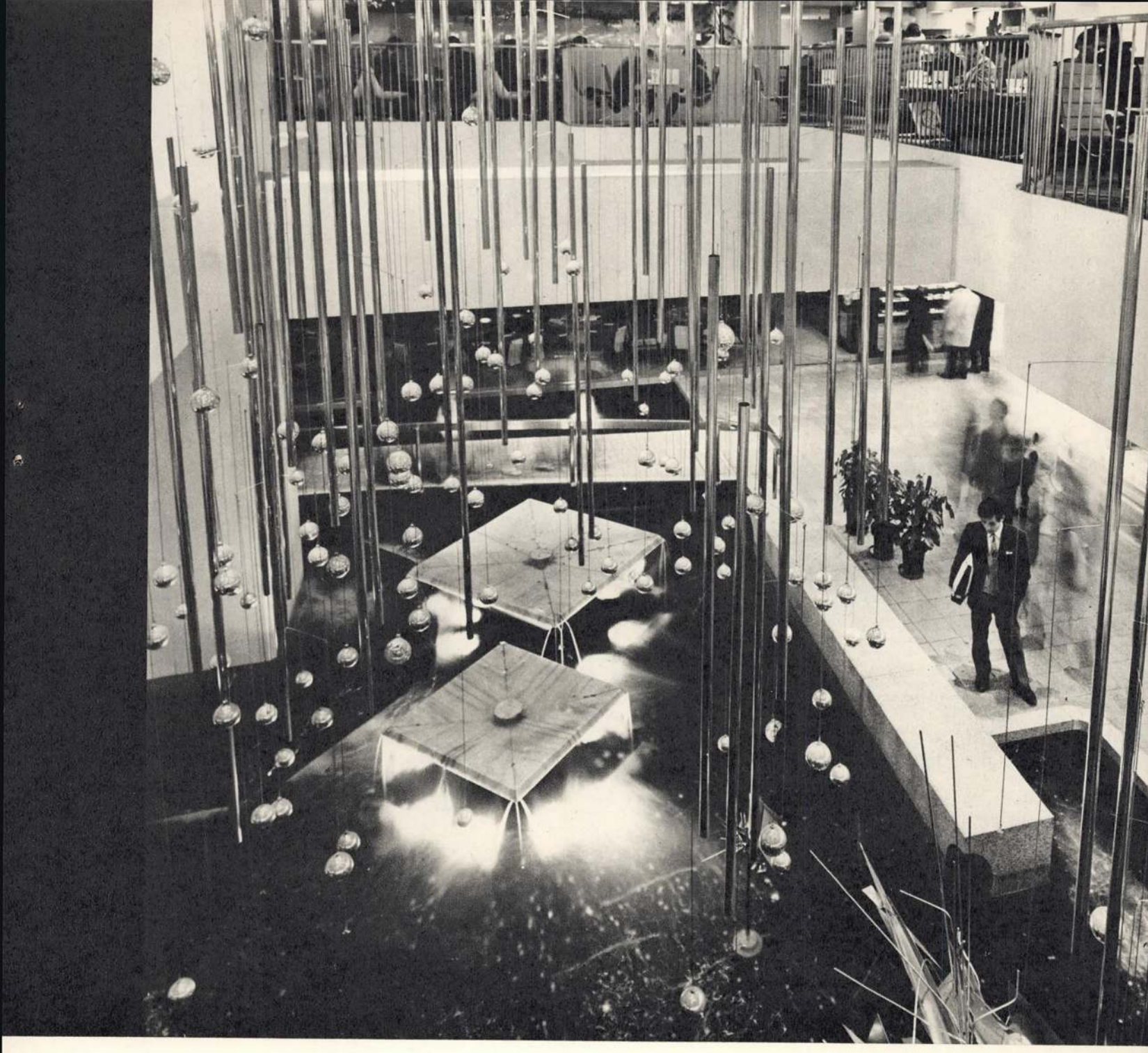
施　工　株式会社　**大林組**



小西本社屋

設計施工　株式会社　竹中工務店

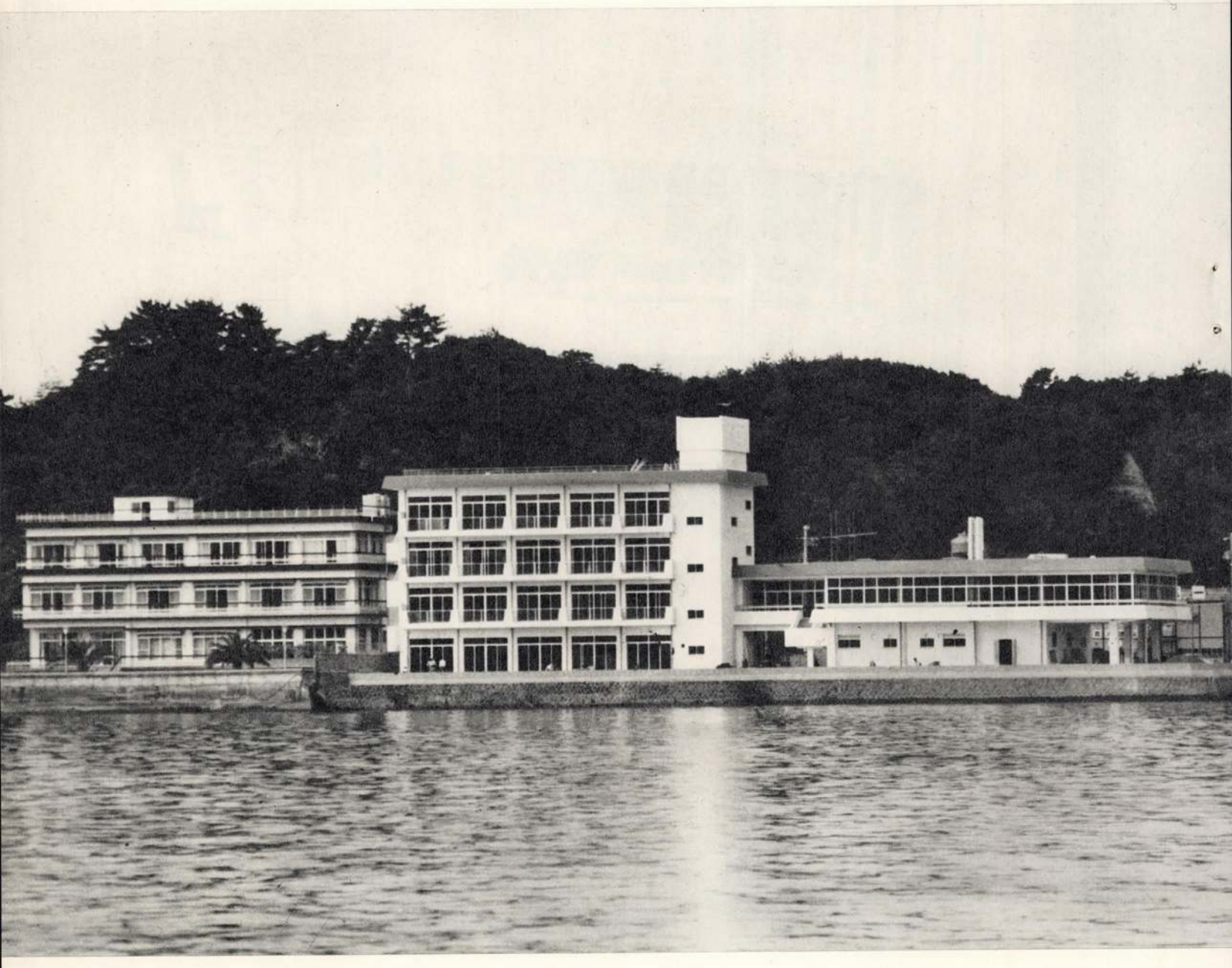
所在地　伊丹市伊丹字中の町４１０
建築面積　1,832.32m²
延面積　7,822.74m²
構造規模　ＳＲＣ造Ｂ２，５Ｆ，Ｐ２
工　期　昭和43年12月～昭和45年10月



阪急梅田駅

所在地	大阪市北区小深町，芝田町
建築面積	24,800m²
延面積	166,400m²
構造規模	SRC造B4~4F；S造5F~17F，P3
工期	昭和42年4月～昭和48年11月

設計施工　株式会社　**竹中工務店**



㈱神戸製鋼所健康保険組合
白浜保養所

設計施工　株式会社　青木建設

所 在 地　和歌山県西牟呂郡白浜町字月崎376号
建築面積　611m²
延 面 積　1,514.60m²
構造規模　本館RC造2F, 宿泊棟RC造4F
工　　期　昭和45年4月～昭和45年11月



明石市庁舎

施　工　株式会社　**淺沼組**

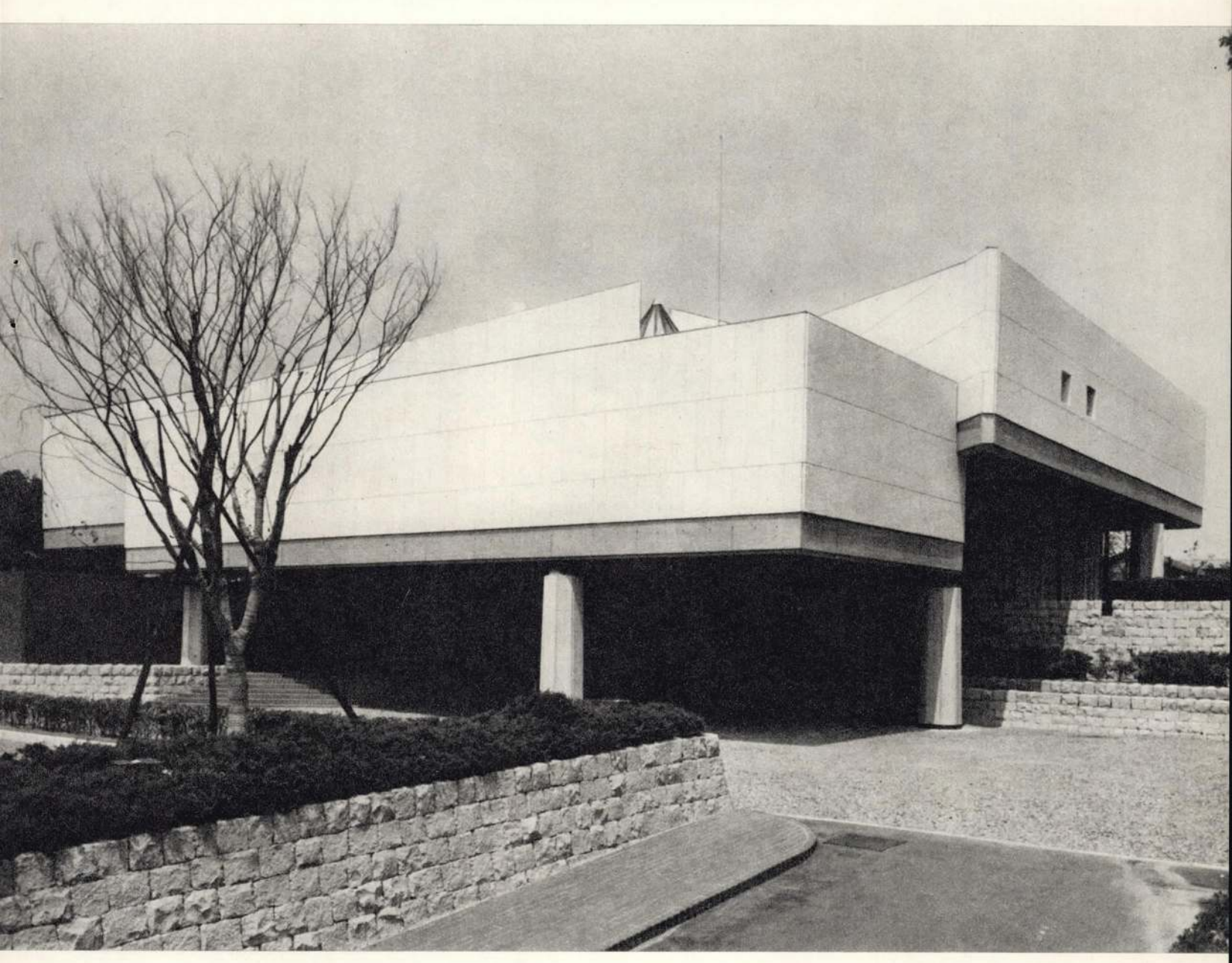
設　計	㈱安井建築設計事務所
所在地	明石市中崎町１の１
建築面積	4,166.65m²
延面積	15,119.64m²
構造規模	議会棟RC造4F，事務棟SRC造8F，P1 窓口棟ＲＣ造２Ｆ
工　期	昭和44年７月～昭和45年10月



兵庫県第二県庁舎・議場

施　工　鹿島建設株式会社

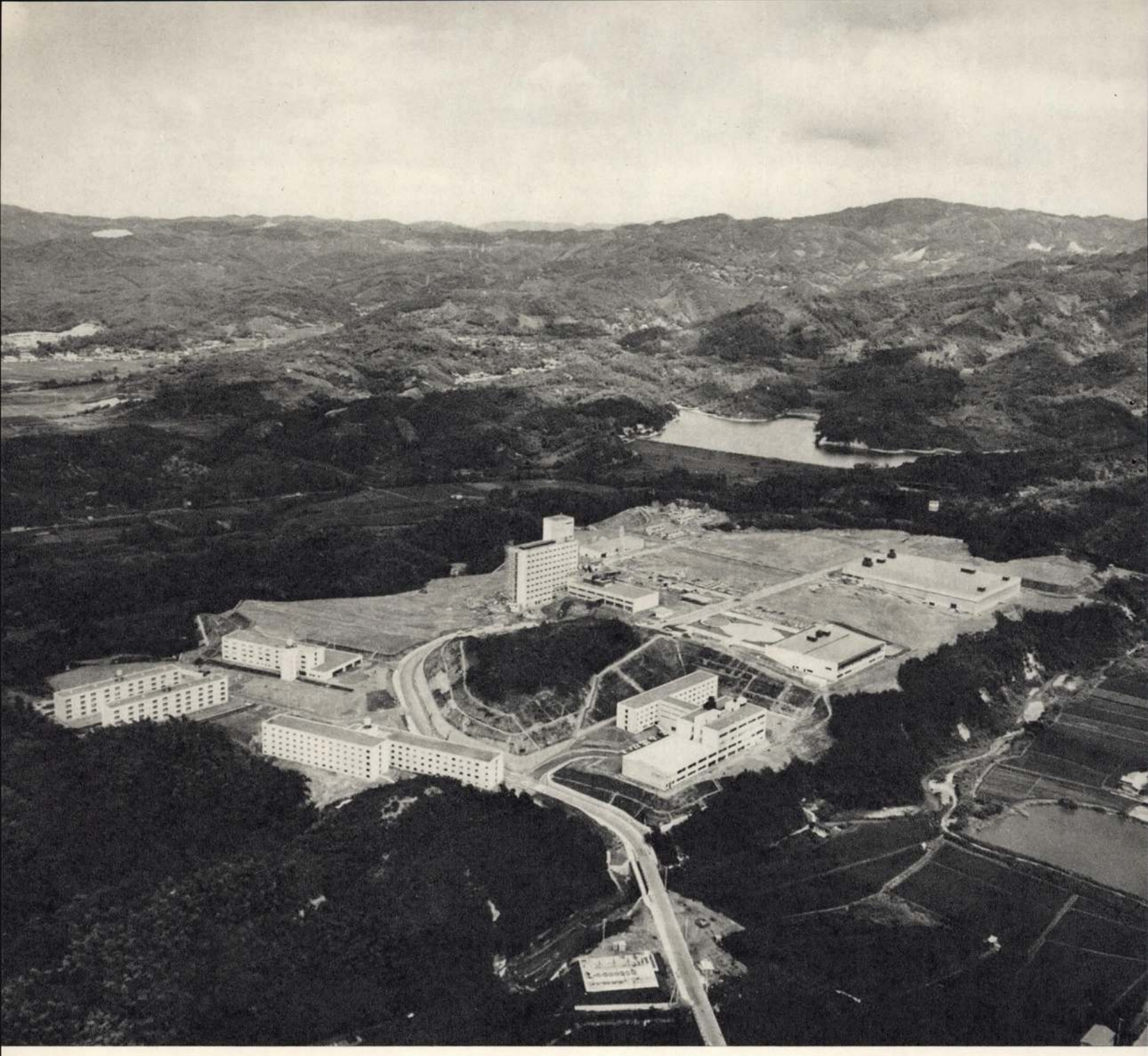
設　計	兵庫県建築部営繕課
所在地	神戸市生田区下山手通4丁目
建築面積	2,819.580m²
延面積	19,222.721m²
構造規模	SRC造一部RC造 庁舎B2, 12F, P3 議場B2, 4F
工　期	昭和44年4月～昭和45年12月



有芳園西館

設　計	㈱　日　建　設　計
所在地	京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24−1
延面積	2,203.49m²
構造規模	ＳＲＣ造Ｂ２，２Ｆ
工　期	昭和43年12月～昭和45年２月

施　工　株式会社　**鴻　池　組**



シャープ総合開発センター

所在地　奈良県天理市櫟本町
工　期　昭和44年6月～昭和45年8月

	建築面積	延面積	構造規模
中央研究所	1,972m²	10,017m²	SRC造B1，8F
研修所	2,441m²	8,144m²	RC造4F
クラブハウス		2,897m²	RC及S造平屋建
ELSI工場	5,890m²	9,803m²	RC及S造B1，1F
パワーセンター		704m²	RC造平屋建
インフォーメイション		134m²	S造平屋建
家族寮(2棟)	913m²	3,672m²	RC造4F
男子寮	1,988m²	6,589m²	RC造5F
女子寮	1,374m²	3,489m²	RC造4F

設計施工　清水建設株式会社



八戸里市街地住宅

設　計	ＲＩＡ建築綜合研究所
所在地	東大阪市下小阪１２０の１
建築面積	1,243.71m²
延面積	12,717.00m²
構造規模	SRC造1F～4F, RC造5F～11F, P2F
工　期	昭和44年１月～昭和45年８月

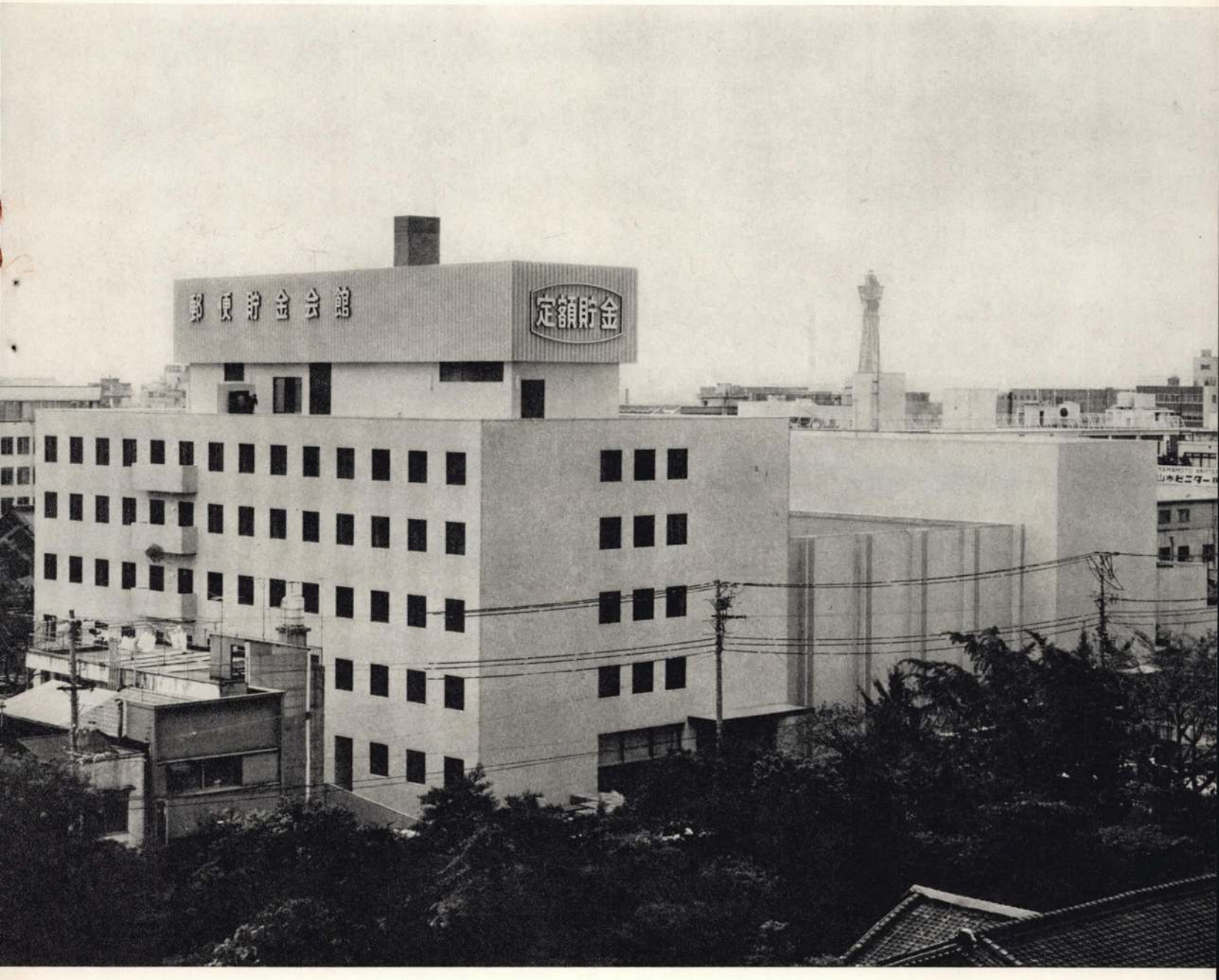
施　工　株式会社　**錢高組**



東京建物本町ビル

設計施工　大成建設株式会社

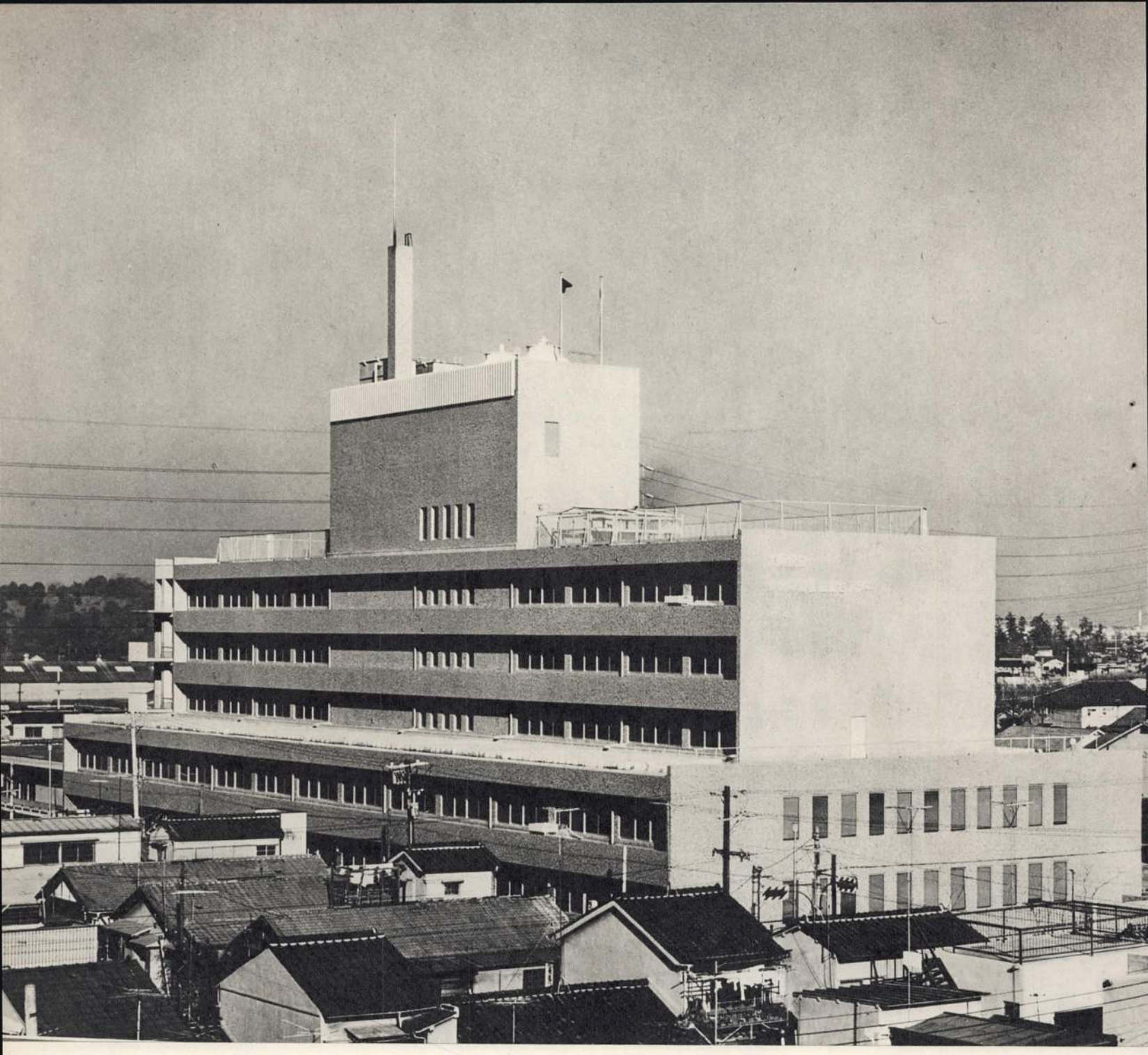
所在地	大阪市東区本町4丁目1, 2, 3
建築面積	1,265.264m²
延面積	15,288.921m²
構造規模	RC造B3，SRC造9F，P3
工期	昭和43年9月～昭和45年3月



大阪郵便貯金会館

設計監理	郵政省大臣官房建築部
所在地	大阪市天王寺区上本町9丁目
建築面積	1,896m²
延面積	8,511m²
構造規模	RC造B2，5F
工期	昭和44年3月～昭和45年10月

施工　戸田建設株式会社



大阪府立身体障害者福祉センター

施　工　株式会社　間　組

設　計	㈱　日　建　設　計
所在地	堺市旭ヶ丘中町４－１３６
建築面積	2,133m²
延面積	10,139m²
構造規模	ＲＣ造Ｂ１，５Ｆ，Ｐ１
工　期	昭和43年10月～昭和45年３月



新扇町ビル

設　計	㈱東畑建築事務所
所在地	大阪市北区南扇町5
延面積	7,961.10m²
構造規模	SRC造B1，9F，P2
工　期	昭和44年3月～昭和45年4月

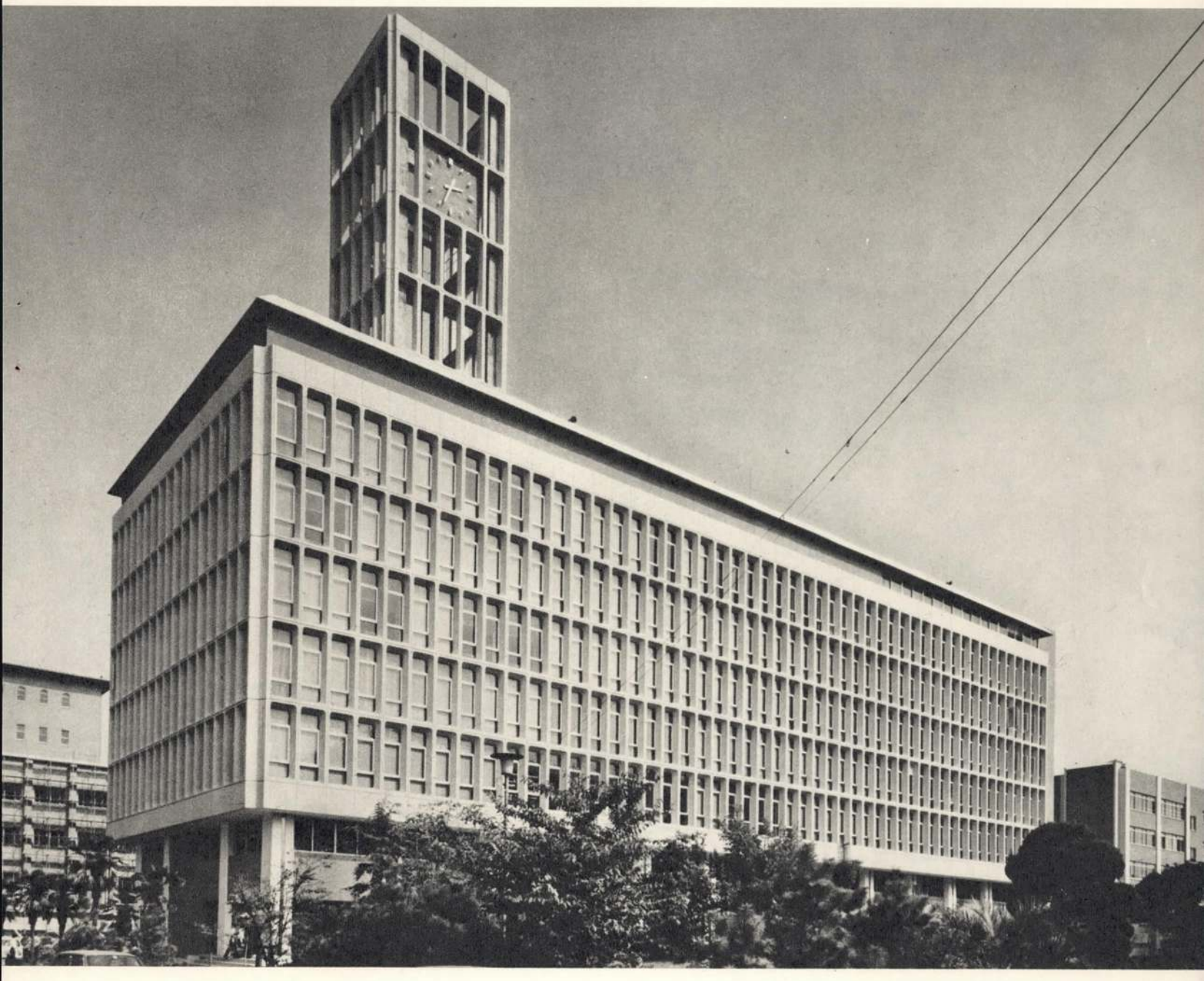
施　工　不二建設株式会社



大阪工業高等専門学校体育館

施　工　株式会社　藤田組

設　計　㈱海上静一建築事務所
所在地　寝屋川市大字池田中428
延面積　4,336.92m²
構造規模　RC造，屋根S造，1部2F
工　期　昭和44年11月～昭和45年6月



近畿大学本館図書館

設　計	㈱富家建築事務所
所在地	東大阪市小若江３２１
建築面積	2,257.15m²
延面積	18,849.75m²
構造規模	ＳＲＣ造Ｂ１，８Ｆ，Ｐ２
工　期	昭和43年12月～昭和45年８月

施　工　株式会社　**松村組**



ホテル レークビワ

設　計　株式会社　**大阪建築事務所**

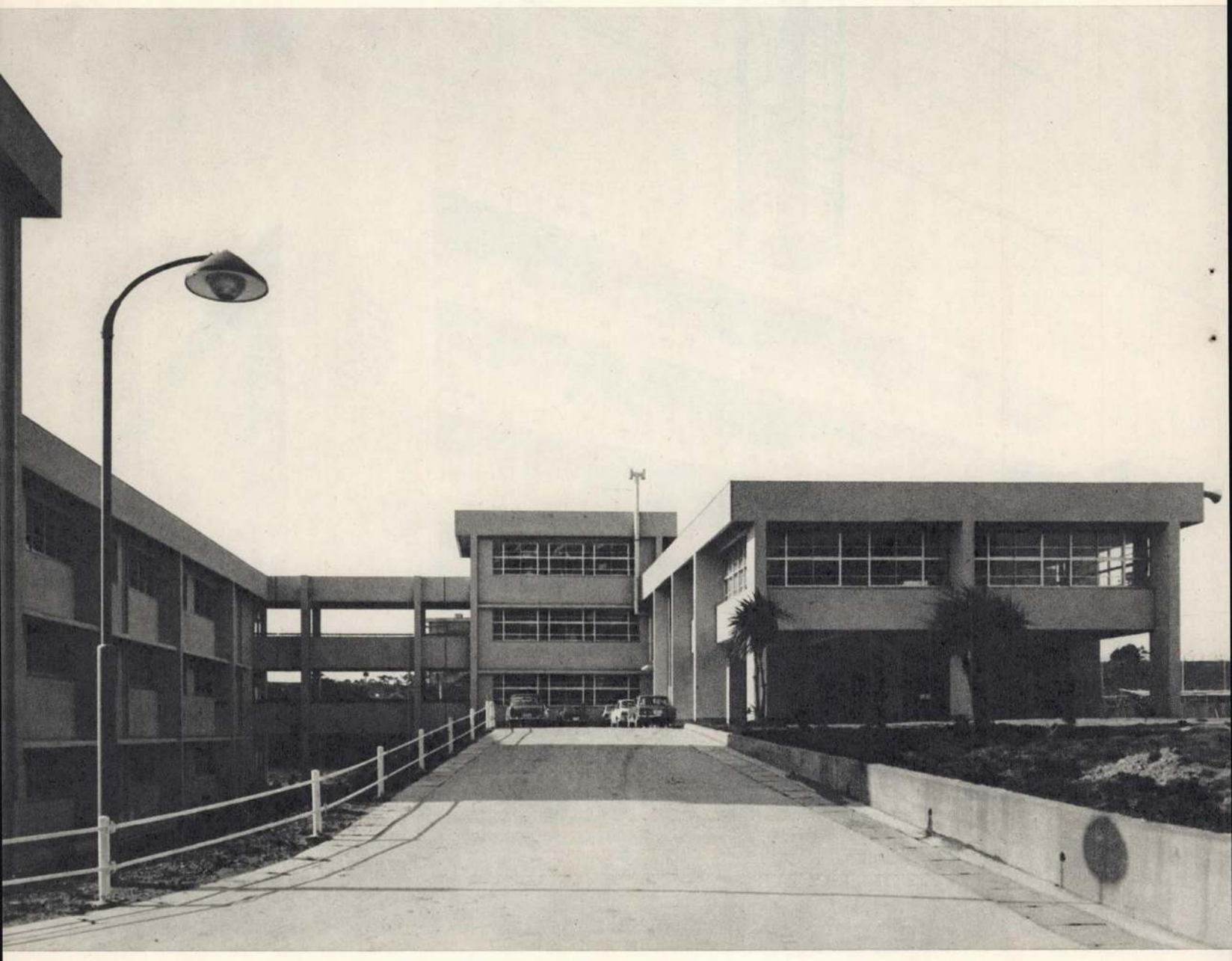
施　工	㈱竹中工務店
所在地	滋賀県守山市今浜町２６２０
建築面積	4,284m²
延面積	13,000m²
構造規模	S造及RC造B1，14F，P2
工　期	昭和44年２月～昭和45年３月



大阪信用金庫本店

施　工	野村建設工業株式会社
所在地	大阪市天王寺区上本町8丁目
建築面積	1,067.54m²
延面積	8,015.02m²
構造規模	SRC造B2，6F，P2
工　期	昭和44年5月～昭和45年4月

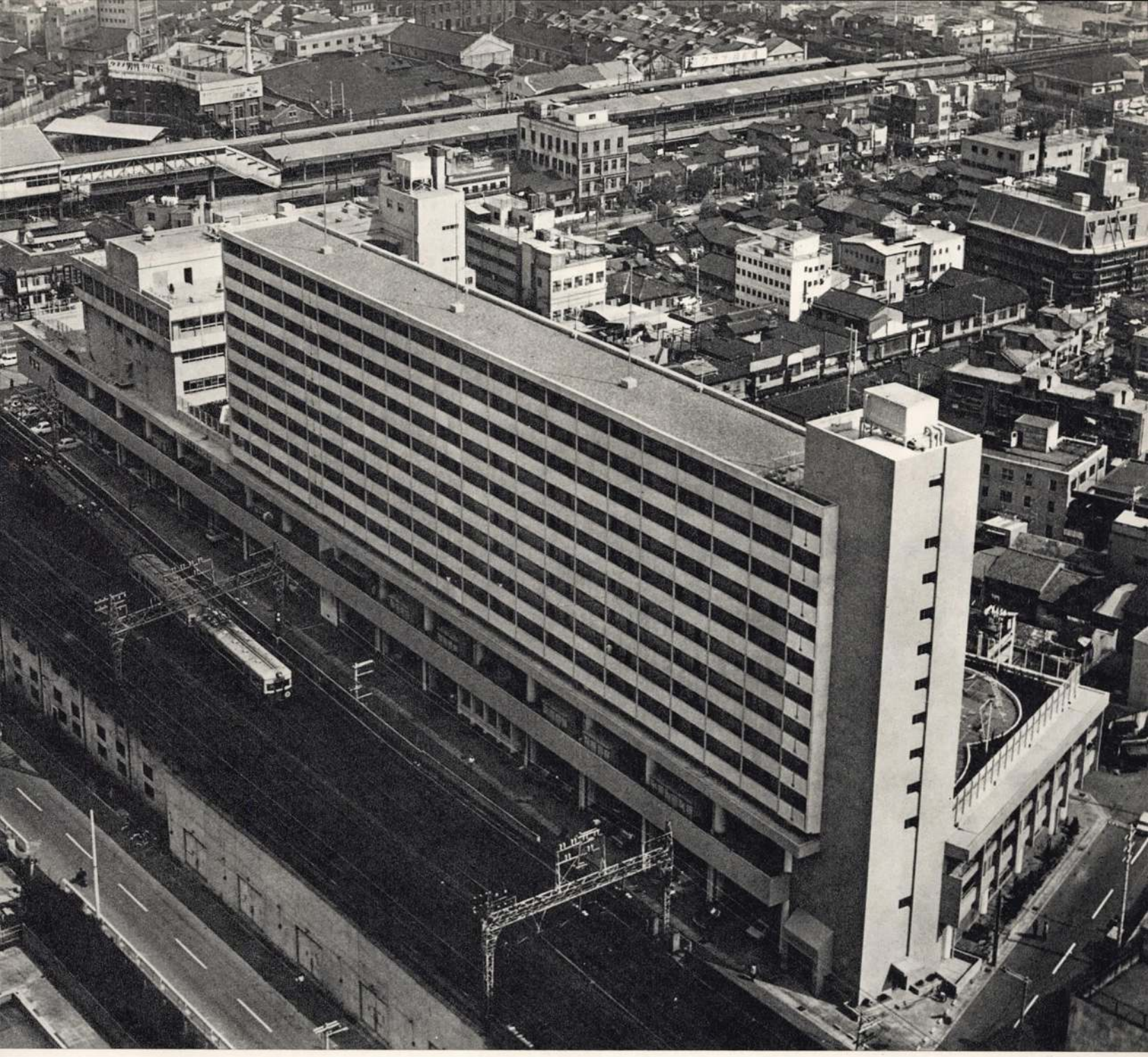
設　計　株式会社　**田中小西建築事務所**



豊中市立第九中学校

設　計　株式会社　竹内建築事務所

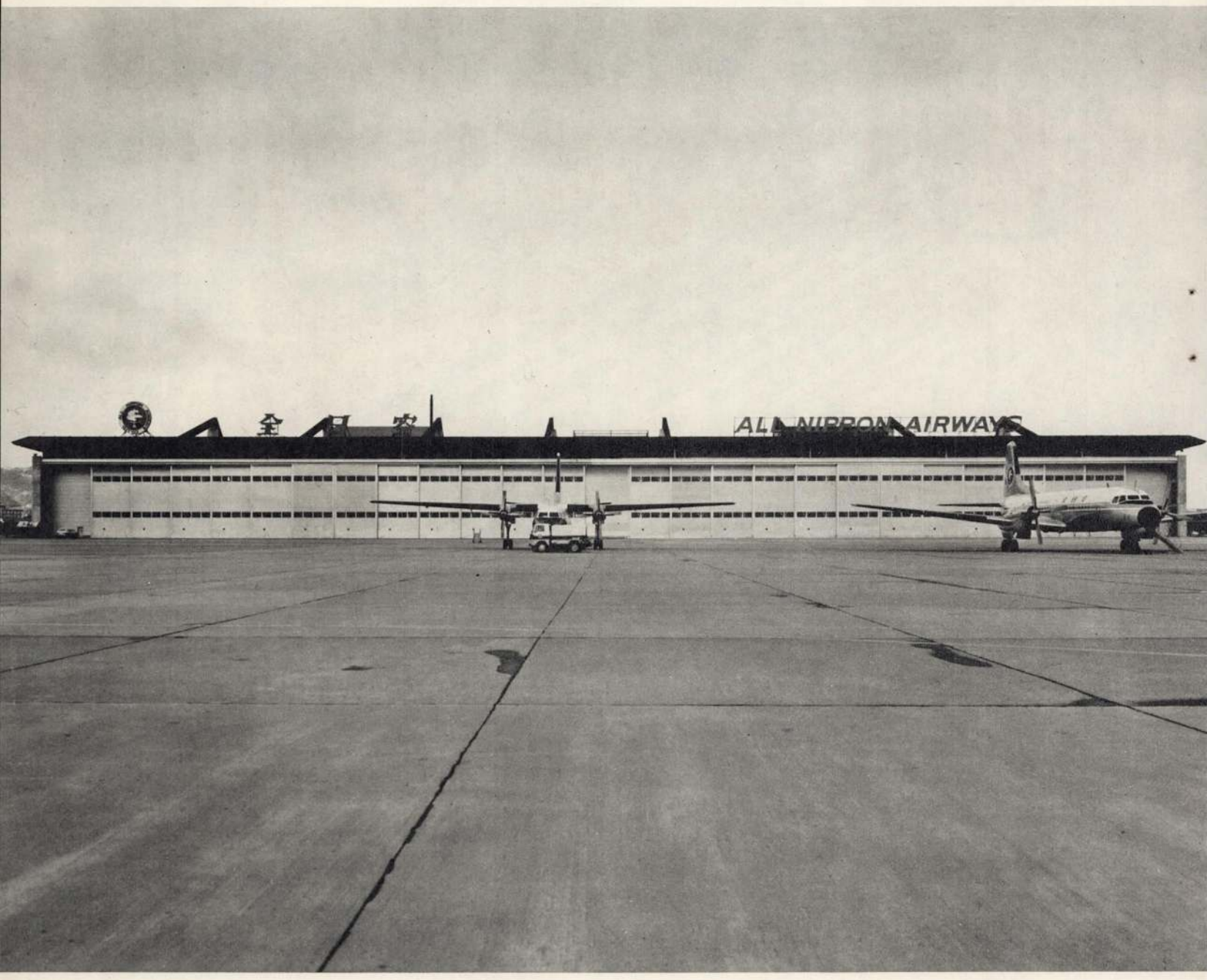
施　工	㈱　新　工　務　所
所在地	豊中市新千里南町
建築面積	1,823m²
延面積	4,314m²
構造規模	RC造3F，P1
工　期	昭和44年8月～昭和45年3月



愛隣総合センター

設　計　株式会社　**東畑建築事務所**

施　工	㈱　奥　村　組
所在地	大阪市西成区西入船町3
建築面積	4,989.6m²
延面積	23,205.6m²
施　設	労働施設(寄場、福祉施設) 10,520.9m²
	病院施設(100ベッド) 3,866.4m²
	住宅施設(177戸、集会室、屋上庭園) 8,514.7m²
	共用施設(電気、ボイラー、ポンプ) 303.6m²
構造規模	SRC造B1，13F，P
工　期	昭和43年8月～昭和45年9月



全日本空輸㈱大阪第一号格納庫

設　計　株式会社　**日建設計**

施　工	㈱　大　林　組
所在地	伊丹市・豊中市・池田市大阪国際空港内
建築面積	10,538.74m²
延面積	15,861.06m²
構造規模	ＳＲＣ造３Ｆ，Ｐ１
工　期	第1期　昭和40年12月～昭和41年９月
	第2期　昭和44年４月～昭和45年２月



日本生命広島第二ビル

設　計　株式会社　**安井建築設計事務所**

施　工	鹿島建設株式会社
所在地	広島市八丁堀16－11
建築面積	1,365.71m²
延面積	14,989.29m²
構造規模	SRC造B1，9F，P4
工　期	昭和43年11月～昭和45年7月

日本建築協会常設委員会・本年の抱負

事業委員会本年の抱負

事業委員長　北垣智造

万国博は史上最大の成果を収め、今千里丘陵はあの華々しさとは打って変って再び静寂の中に静まりかえっている感すらしております。日本の建築界にエポックを画した万国博は無言の反省と多くの示唆を語りかけているかに見えます。それは虚無ではなく飛躍の前の静けさとも言えましょうし、思惟から作動への序曲であるとも申せましょう。

さて当事業委員会の活動は会員相互に密着した活動の場でもあり、ひいては当協会の会勢にも大きな影響を与える場であります。然しながら社会と遊離した建築活動は所詮砂上楼閣に似ております。私共は社会の動向を先取りしこれに対処する必要を忘れてはなりません。言い換えれば、広く社会性のある啓蒙の場として社会との接点を模索してゆきたいと念じております。どうか私共の意図を御賢察の上会員諸兄より自由活達な御見解をお聞かせ願えれば幸であります。

出版委員会本年の抱負

出版委員長　石崎潑雄

日本建築協会における出版事業は、協会の種々の事業のうちでも、きわめて重要な地位をしめているものと思う。有益な書物の発刊によって、会員に奉仕することは出版委員会としての責務であり、今日までその方向に向って委員会も事務局も努力してきたつもりである。また従来、出版した書物で好評を得たものも少なくないものと信じている。しかし今後、さらにより良い書物の出版に心がけたい。それには会員諸兄の御批判を頂戴することも大切であろう。忌憚なき御意見、御注文を出版委員会まで、頂ければ幸である。このことは何も本年に始まった問題ではないけれども、建築技術あるいは建築業が日々に発展している今日、建築に関する書物の果す役割の重要性を痛感し、ここに改めて述べた次第である。

建材委員会の抱負と希望

建材委員長　堀内三郎

毎年、年頭に当り、想を新たにし今年こそはとの念に燃えるのであるが、実行は仲々思うとおりには進まないことが多い。建材委員会は当協会の中でもその特色を生かしたユニークな委員会の一つで、単に新しい材料の紹介に止まらず、使用者の側からの経験や検討を通じてより良い建材の発展やその使用方法の適正化をはかるという使命を担っているものである。したがって、会員の諸氏からの建材に対する注文や質問がどしどし寄せられ、それに対して生産者側からの反応が示されるという相互交流の場として活用されることが最も望ましいわけである。この意味から今年はできるだけ会員の皆様にもアンケートその他でご意見を聴取し、その声を反映させてゆきたいと考えているので、どうかご遠慮なく活発なご意見をどしどしお寄せ下さるようお願いする次第である。

住文化

住宅委員長　岡橋作太郎

東京都内のマンションに知人を訪ねた。セントラルヒーティング、給湯付。3寝室に夫婦と子供2人の計4人。バスルームは1室、便器だけが間仕切られて別室に置かれている。居間は食堂をも兼ね、程々の広さ、天井はシャンデリヤなどはなくプレインな白っぽい仕上げ、壁紙も白っぽい、敷物はオリーヴ色、家具はマホガニー色、椅子の配置は型に嵌まらずに整い、まずは立派な住宅。

ところが、話題が引越し早々の出来事に移った——用を済ませた子供がフラッシュ・レヴァーを押し下げたとたん水が勢いよく流れたのはよいが、隣室で快適なシャワーを楽しんでいたパパは急変した熱湯にびっくりぎょうてん——幸いに大事には至らなかったこのハプニングを家人はおかしそうに語った。

一体この漫画的場面は何を意味するのであろうか。直接には、もちろん、配管技術の水準を示しているのだけれども、また我国住文化の特性を示しているようだ。

70年から71年へ

法規委員長　福田朝生

70年は「建築基準法の一部改正」が国会を通過し、引き続き政令改正の手続きが進行中です。おそらくこの雑誌がお手許に届く頃には単体、集団規定とも決定を見ていることでしょう。更に71年には容積率全面実施の手続きが論議のまとになることが予想されます。

6月下旬に出された「建築確認申請書の不適合部分の訂正処理」に関する指導課長通達も非常な論議を呼びました。各特定行政庁とも漸時実施にうつされる見通しですが、ただでさえ難解な基準法に加えて関連法規にまでかかわりを持つ確認申請書の手続きが、このような一篇の通達によって円滑化され、行政面での省力化が行なわれようとは恐らく誰も考えてはいないと思われます。71年の初頭にあたり建築関連法規の抜本的な合理化が望まれる次第です。

本年の建築データシート編集委員会

建築データシート編集委員長　中原　茂

既に会告で発表された通り、本会創立50周年記念出版の一環としての「建築データシート」の刊行は昨年11月号のシートを以て一応の終結を見ました。したがって標記委員会は本年3月末迄の任期を最後に解散されることになります。委員会の発足以来満4年の長い間非常なご苦労とご尽力を賜わりました委員各位、並に全シートの監修と熱心なご指導を賜わりました坂静雄博士に対しまして、深尽なる謝意を表する次第であります。また色々とご支援を頂きました会員諸兄に対して一言申上げたいのは、このデータシートには予定掲載目次に欠けているシートがあり、また初期に刊行されたシートで既に改訂を要するものが散見されることで、こんごこのシートを更に永続的活用を図り、充実したものとするための新しい「建築データシート委員会」が新年度より発足することによって、新企画に基づくデータシートの増補、改訂が行なわれることになりますことをどうぞご期待の程願います。

教育委員会

教育委員長　橋本忠保

昨年は万博の年で心配していた諸事業「鉄骨構造設計講習会、現場実務講習会、建築の知識講習会、高校生デザインコンクール、高校生施工教育の指導」に、いずれも会員諸氏の協力と各委員や関係者の積極的な努力により、例年以上の成果をおさめることができました。万博は近畿地区に多くの大小さまざまの問題を残し、台風のように過ぎ去りましたが、成果が大であっただけに、その後の空白感が解消するには本年末までかかるものと思われる。また経済の驚異的な高度成長は、公害・不況・物価高等の問題を抱え、各企業は投資を渋りがちで、近畿地区の建設業界は近年にない最低の年と思われる。建設関係技術者は冷静に自分達の周りを見直し、技術の限界に挑戦する年だと思われる。

本年は昨年の事業の外に、新しい事業も企画し、積極的に教育活動をすすめたいと思いますので、会員諸氏の御指導と御鞭撻をお願いします。

編集委員会より

編集委員長　鳥田家弘

8000会員の広い層と厚みを尊重し、それぞれの分野の問題を前向きにとらえ、一層広い価値への展望を得てゆくこと。簡単には行きませんが、せめて狭い独断的ジャーナルとならぬよう心掛けます。編集部会の都度、各界皆様の暖かい御援助を頂き有難う御座います。「情報」は今日の流行語ですが、それは皆様の判断に奉仕する縁の下の役目。いやらしい教祖まがいの押し付けはいけません。

そこで、現在の元気混沌の中にあって、各界の問題点とそこに伏在するさまざまの価値概念を少しでも客観的な明るみに出し、共通のものにしてゆきたいと委員会は考えています。またそのためにも、上記に反して独断的勇み足を時にするだろう新進気鋭の若い世代の人の意見を、その足を問わず真の胸裡を問うようにして、十分聞いてゆく機会を持ちたいと思います。



新製品　カラー フロートガラス

サンゴールド®

サンゴールドは，今までにないゴージャスな色調と光沢をもったカラー フロートガラスです．
外光の時間的流れの中で，メタリックに輝き，あるいは淡く沈み――サンゴールドのおりなす微妙な色彩変化による空間演出は，建築に新しいデザインの可能性を広げました．
サンブルー，サングレー，サンブロンズに続く，いわば第4の色サンゴールドは，都市に未来の輝きを付加するものとして，ひとびとに新鮮な印象を与えるでしょう．

サンゴールド4つの特性

1．新しい色彩と光沢をもっている．
2．太陽熱線を反射・吸収して居住性能を高める．
3．反射像・透視像には全くゆがみがない．
4．ガラスの厚さに関係なく色調が統一できる．

厚み● 6，8，10，12mm

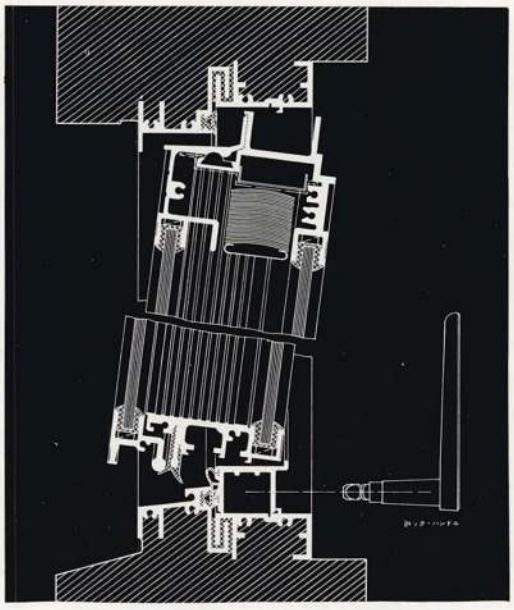
旭硝子

本社■東京都千代田区丸の内2－1－2（千代田ビル）
〒100　TEL（03）211－0411
大阪支店■大阪市北区堂島船大工町53（毎日大阪会館）
〒530　TEL（06）346－1121

空間防衛

「空間防衛」という使命を果たすために
カマチの設計ひとつにも細心の注意が払われました

たとえ断熱ガラスを使っても、サッシ部分は無防備だったものに対し、エルミン窓は障子、枠ともに断熱材ネオプレーンによって内・外側が完全に絶縁されています。外気熱の影響はほぼ完全にシャットアウトできました。その結果、空調コストの大巾なダウンをお約束できます。



ELUMIN WINDOW

精度の高い規格品が揃います

高い精度こそ窓の生命
エルミン窓は枠材の組立てからグレージングまで一貫して工場で行なわれます　特殊なベンディングマシンとパンチングマシンの使用により窓の精度は抜群　それぞれ完全な互換性を持っています

● 大型窓が180度ダイナミックに横軸回転

清掃の時は障子部分を180度反転させることができます。ガラスの外面も室内側から手軽に安全に拭けるわけです。都会のビルではこの独特の機構がどんなに大きな経済的メリットを生みだすか知れません。
もちろんふだんの時は特殊なロックで固定します。エルミン窓は最大高2200㎜、最大巾3000㎜、最大面積4.3㎡という大型窓の製作が可能。この場合も気密性、断熱性、遮蔽性能の良さは変りません。



● 外部の騒音を侵入させません

二重ガラス、気密構造、断熱構造、特殊な引きつけ型のロックなどエルミン窓の特長のすべてが、高い遮音性能に結びつきます。外部の騒音はほとんど気になりません。

ブラインド内蔵アルミ二重窓
エルミン窓

エルミン窓の性能比較表

項目	窓の種類	エルミン窓 内外6㎜ガラス アルミ断熱枠	普通のアルミサッシ 一重ガラス6㎜ アルミ枠	複層ガラス窓 内外6㎜ガラス 密閉空気層6㎜ アルミ枠
熱貫流率 Kcal/m²·h·℃	ガラス面	2.6	5.8	3.0
	窓全体	2.8	6.1	3.9
遮蔽係数 スラット角度45° 外倒し スラットの色中間色		0.35 ブラインド内蔵	0.64 内側ブラインド	0.57 内側ブラインド
日射による冷房負荷 北緯35°41' 16時 西窓8月 Kcal/m²·h		210	384	342
通気量 m³/h·m	風速10m/sec	0.20	0.37	
C=0.8	風速20m/sec	0.38	1.05 気密機構	
遮音性能 透過損失	500%	34	29	27
dB	2000%	42	30 気密機構	32

日本エルミンサッシ株式会社
本　　社　東京都千代田区岩本町1丁目11番2号(三泉ビル)TEL 861－1891(代表)
大阪営業所　大阪市西区京町堀1の125(東洋ビル)TEL 441－1979(直通)443－1461(ビル交換)



あれから百年、三島の宿は変りました。

ホワイトLGもその変貌に一役買っています——

その昔、上り下りの旅人でにぎわった東海道の宿場町三島。今では新幹線の停車する近代都市に変りました。

その三島駅で、**ホワイトLG**がホームの屋根をささえています。錆びないこと。これがホワイトLGの使われる要因です。

特　長
- ■防錆処理なしで使用できる。
- ■塗装にも適している。
- ■経済的である。

月星印

特殊亜鉛めっき軽量形鋼

ホワイトLG

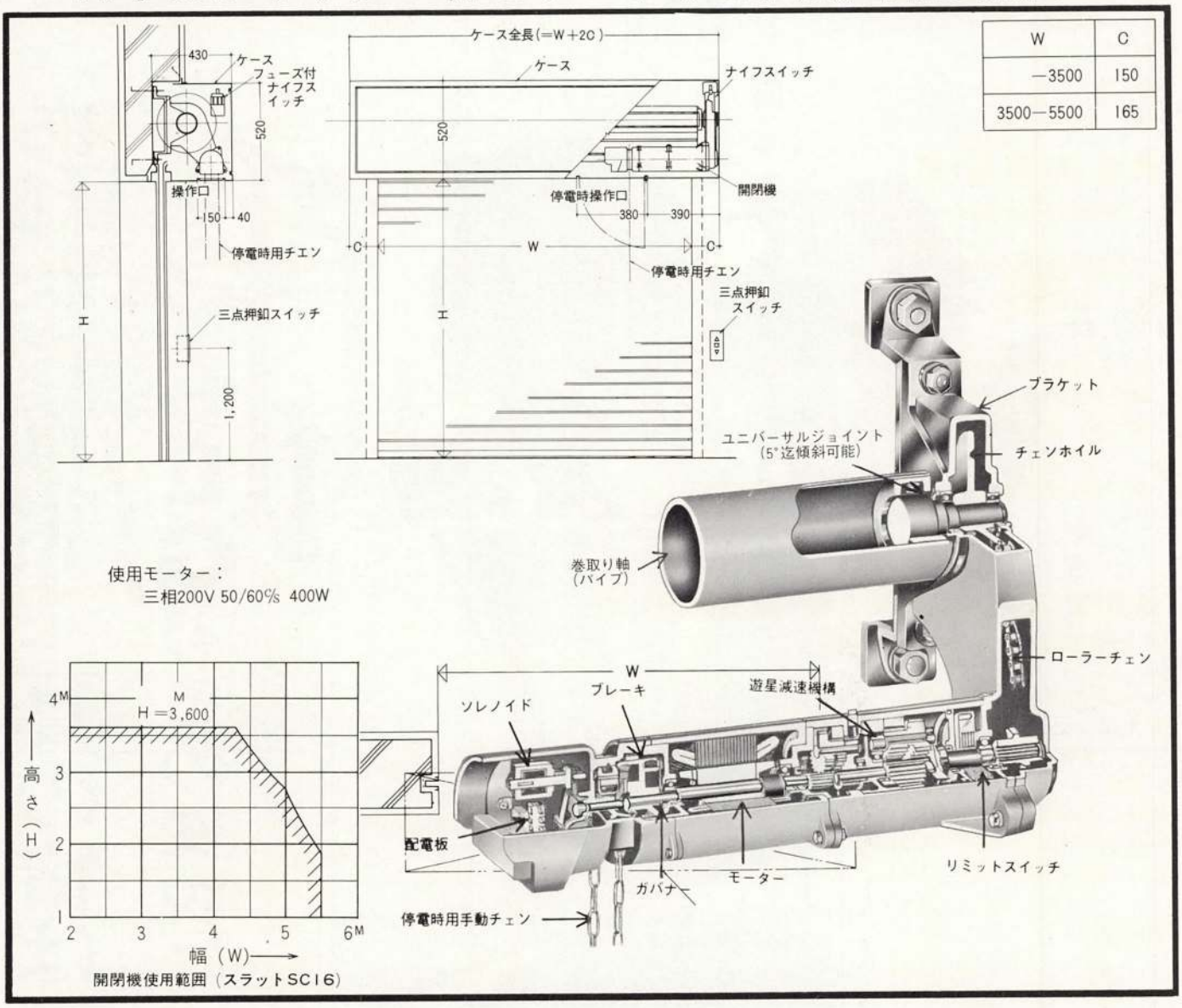
総合スチールメーカー

日新製鋼株式會社

東京都千代田区丸ノ内3—4—1(新国際ビル)
TEL　東京　03(216)5511(大代表)

くらしと鉄を結ぶ月星印

日本のシャッター界をリードする画期的新製品!!



W	C
—3500	150
3500—5500	165

開閉機使用範囲（スラットSC16）

L型 電動開閉機

出願中　特許　リミットスイッチ　ガバナー機構　手動機構　実用新案　巻取り軸との連結機構　およびL型機構　チエン収納箱

L型電動開閉機は、日本シャッター技術研究所において、長年にわたり、国立大学精密機械工学部諸教授の指導をあおぎつつ、当社技術陣が総力をあげて研究開発し、遂に従来の開閉機の概念を破って完成した画期的な新製品です。

この開閉機には独創に満ちた新機構が数多く取り入れられており(特許3件、実用新案2件を出願中)、減速機、モーター、ブレーキ機構、停電時用手動装置はもとより、リミットスイッチ、配電板に至るまで、すべてを一つの円筒内にコンパクトに納めてあります。

従って、建築設計上の納りが非常に簡単で、しかも、取付やその後の保守点検等も楽にできるよう考案されております。

これらの点から見て、従来の製品に比べ総ゆる点に秀れており、シャッター開閉機の決定版といえるでしょう。

●特長●

1. 開閉機を設ける場所の心配がいりません。
2. 凸部のない真直なシャッターケース。
3. 袖壁は不用です。
4. 減速機構はすべて完全密閉式です。
5. 小型で耐久力に富む減速機構。
6. 給油の必要がありません。
7. エンドレス強力ローラーチエンの内造。
8. リミット・スイッチを完全に内造。
9. 手動操作をひとつにしました。
10. ヒューズ装置の取付けが可能。
11. 一斉・両面・遠隔操作いづれも可能です。

株式会社 日本シャッター製作所

本　　社　大阪市東淀川区田川通6丁目38番地　電話代(301)3656
枚方工場　枚方市大字招提 大阪府中小企業団地内　電話(0720)(57)4535～6
東京工場　川崎市新丸子東3丁目1159番地　電話代中原(41)6325
名古屋工場　名古屋市中川区北江町2丁目12番地　電話代(361)7441
九州工場　福岡市粕屋町仲原釜屋2727番地　電話代(65)6131

営業所　仙台・東部・城西・横浜
静岡・北陸・神戸・岡山
高松・広島・北九州・大分
宮崎・鹿児島

◀会員の受章

このたび下記会員諸氏は，秋の叙勲ならびに褒章を受けられました。ここに誌してその栄誉をお慶び申し上げます。

秋の叙勲

勲一等瑞宝章　永野重雄氏（新日本製鉄㈱会長）
〃　〃　小田原大造氏（久保田鉄工㈱会長）
勲四等瑞宝章　伊藤鉱一氏（伊藤建築設計事務所長）
勲六等単光旭日章　浜田豊太郎氏（山田組社長）
黄綬褒章　石田憲二氏（朝日工業社副社長）
〃　〃　村石秋吉氏（浪速合板株式会社社長）
藍綬褒章　吉川清一氏（清水建設㈱社長）

◀会員名簿発行遅延についてお詫び

当初，昨年12月発行を目途に，準備を進めておりましたが，会員および諸官庁資料の回収遅延など，諸種の事情により原稿作成が遅くなり，極力努力はいたしましたが，1月中旬発行の運びとなりました。
これがため，会員の皆様方に多大のご不便，ご迷惑をおかけいたしましたことを，深くお詫び申し上げます。

◀実務に直結した建築工事別説明会（第1回）「住宅のユニットシステムについて」

最近大都市には超高層建築が相ついで建設されますし，各地に住宅団地開発が急ピッチに進み，1戸建の住宅が大量に建築され，また中高層のプレハブ集合住宅がますます量産ブームの様相を呈しております。これに関連して住宅のユニットシステムによる優秀な製品の提供や能率的な施工がさかんに行われています。

今回は安井建築設計事務所，佐野社長殿にお願いして掲題についての有益なご講話を拝聴し，併せて下記有名な3社の担当者からカタログ・スライドにより製品の特色や工法を詳しくご説明をしていただき，あとで質疑応答をすることにしております。

日　時　1月27日（水）13.30→17.00
会　場　大阪市西区靱1-118　大阪科学技術センター4階・401号室
定　員　200名
申　込　1月25日までに電話（231-9640番）で事業課へ。
ただし定員に達したときは申込期限前でも締切ります。

プログラム

○開会の挨拶　社団法人日本建築協会事業副委員長　近藤義雄氏
○「住宅のユニットシステムについて」
株式会社安井建築設計事務所取締役社長　佐野正一氏
○説明題名・説明者
1.「ユニットバスの動き」
東陶機器株式会社ユニット工事事業部工事第一課長　有元憲正氏
2.「日立設備ユニットについて」
日立化成工業株式会社結城工場設計部主任技師　庄司圭輔氏
3.「住宅設備機器のユニット」
松下電器産業株式会社住宅設備機器研究所
デザイン部設備ユニット開発室室長　伊藤義明氏
○閉会の挨拶
社団法人日本建築協会事業委員会幹事　三宅浩氏

説明要旨

■「ユニットバスの動き」

現在のユニットバスは，ほとんどクローズドシステムで行われている。種類も　イ）パネル式，ロ）キュービック式，ハ）セミキュービック式など種々雑多である。

材質的にみても，プラスチック系，木質系，スチール系，コンクリート系など様々なものが用いられている。これらは更に細分化，複合化され，このたび弊社にて，オープンユニットへの足がかりとなる外壁一体型のユニットバスの開発に成功するに至った。

さらに，建築サイドの要請から生れたユニットバスは使用者側の満足を得る段階を迎え，現在の弊社標準品S・Eタイプの改良がなされつつある。これら最新の動きについてご説明申し上げる。

■「日立設備ユニットについて」

労働力の払底と量の増大を軸に省力化と建築生産の工業化は建築業界共通のテーマであり，なかんづく水まわりを中心とした機能集約部の工場生産化が設備ユニットの工程短縮・省力化のキーポイントと目され特に関心を持たれつつある。

そこで設備ユニットの現場を当社7年の歴史をふりかえりつつ紹介し，現在提起されている問題を取り上げ今後の設備ユニットの有り方について考えてみたい。

特に今後設備ユニットの発展を期するには単にメーカーのみの努力では不充分で設計，施工の両面での建築サイドのご協力を必要とする。そのような観点からのいくつかの提案もしたいと考える。

またこのたび，日本設計事務所殿，鹿島建設殿のご理解とご協力のもとに行なった京王プラザホテル納めバスユニットのカセット工法について紹介し，この種超高層ホテル用バスユニット工事の参考に供したい。

■「住宅設備機器のユニット」

住宅建築におけるプレハブ化，中高層化が強まり，これに即応した設備のユニット化が要請されるとき，すでに発表した「バスユニット」「ウォールキッチンユニット」「電化ダイニングユニット」「ランドリーユニット」「電化洗面化粧ユニット」などの機能に，さらに冷暖房設備，集中コントロール設備などを加え，すべての設備機能をひとつのユニットとして，コンパクトにまとめた「ナショナル住宅設備コアユニット」を開発

●住宅設備ユニットに対する考え方，取り組み方，方向について
●住宅設備コアユニットの解説

をスライドを通してご紹介する。

附記　本年度の各種説明会の第1回は「住宅のユニットシステムについて」第2回は「住宅の電気，ガス熱源によるセントラルヒーティングについて」をテーマとして催しますが，同じく住宅に関係のある説明会でありますので，なるべく2回ともご聴講を希望します。第2回は3月5日（金）の予定です。

◀ニチモ甲子園第6コーポラス新築工事の見学会

日　時　2月5日（金）15.00（集合）→17.00（解散）
〔参考〕運賃は各自負担のこと→大阪より往復 160円
14.29 阪神電車　梅田発　西宮行急行乗車
14.46 甲子園下車
集合場所　阪神電車「甲子園駅」西出口附近・目標会旗
建築概要
施　　主　ニチモプレハブ株式会社
（プレハブ分譲住宅の企画，設計，監理，販売まで一切）
施　　工　鉄建建設株式会社
所 在 地　西宮市甲子園浦風町 105-3
（電話　0798-41-1242，鉄建建設作業所）
阪神電車，甲子園駅から徒歩4分
敷地面積　2,356.77㎡
建築面積　1,056.97㎡
延床面積　7,384.91㎡
構造・規模　鉄骨ヘーベル造　地上7階建
戸　　数　112戸
エレベーター　6人用—2基
工　　期　昭和45年7月15日→昭和46年3月27日
定　員　30名
申　込　往復はがきに限ります。はがきには1枚に1名限りとし，氏名・勤務先名および所在地・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入の上1月24日までに事業課へ。ただし定員を超過したときは抽せんにて決定し，ご通知いたします。

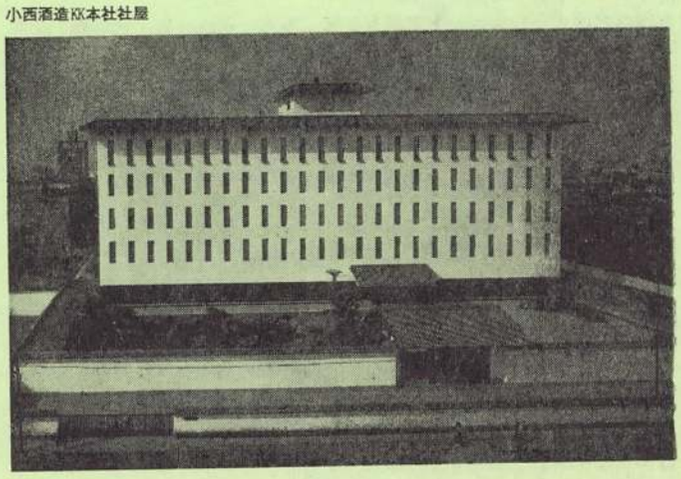
◀ナショナルの住宅設備機器工場とショウルームの見学会

日　時　2月19日（金）13.40（集合）→16.30（解散）
〔参考〕自由行動（運賃は各自負担 京阪電車淀屋橋より往復160円）
13.09 淀屋橋発普通電車乗車→「門真」下車
集合場所　京阪電車門真駅出口前・目標会旗
見学場所　門真市大字門真800〔電話06-909-1131（大代表）〕
松下電器産業株式会社厨房器事業部の工場とショウルーム
見学順序　13.40　門真駅発徒歩15分→事業部へ
14.00 →事業部にて説明をきく→工場とショウルームの見学
→質疑応答
16.30 事業部にて解散の予定
松下電器産業株式会社では早くから新時代の台所づくりを目指して電化台所セット，電子レンジ，食器洗い機，ガス調理器具など，かず多くの独創的な設備機器を開発，日本の台所の改善に貢献されています。工場では厨房機器などの流れ作業での製作状況や，ショウルームでは，今日プレハブ集合住宅に大量採用されつつあるユニットキッチンをはじめ，立体的に展示された住宅設備機器の数々を見学します。
定　員　50名
申　込　往復はがきに限ります。はがきは1枚に1名限りとし，氏名・勤務先名および所在地・役職・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入の上2月5日までに事業課へ。ただし定員を超過したときは抽せんにて決定し，ご通知いたします。この見学会は大林組のご斡旋と松下電器産業のご厚意によって催すことになりました。ついては同業の方はお申込をうけてもご遠慮願うことがありますからあらかじめご了承下さい。

◀清酒白雪の新社屋と四季醸造工場の見学会

日　時　2月27日（土）13.20（集合）→16.30（解散）
〔参考〕自由行動（運賃は各自負担 … 阪急電車大阪より往復120円）
往　12.52　阪急梅田発神戸線普通，塚口乗換→13.17伊丹着
復　17.00　阪急伊丹発塚口乗換→17.25神戸線普通，梅田着
集合場所　阪急電車伊丹線終点伊丹駅2階改札口附近・目標会旗
見学場所　伊丹市伊丹中之町408 小西酒造株式会社新社屋
〔電話 0727-72-5121（大代表）〕
伊丹市伊丹字外崎181-2 小西酒造㈱四季醸造工場富士山3号
見学順序　13.30 新社屋正門前着→新社屋→富士山3号→富士山2号屋上ホールへ。このホールでは小西酒造株式会社のご挨拶を承り，しぼりたての清酒のご馳走になりながら，竹中工務店の作業所長小原弘充氏の「小西家の由来について」興味あるお話を伺うことにしております。ここで 16.30 解散の予定です。
新社屋の建築概要
設計・施工　株式会社　竹中工務店（設計担当　高橋則夫氏）
敷地面積　4,462.38㎡
建築面積　1,832.32㎡（廻廊部分鉄筋コンクリート造379.20㎡）
延床面積　7,822.74㎡
構造・規模　鉄骨鉄筋コンクリート造・地下2階・地上5階・塔屋2階
工　　期　昭和43年12月20日→昭和46年10月2日
定　員　50名
申　込　往復はがきに限ります。はがきは1枚に1名限りとし，氏名勤務先名および所在地・役職・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入の上2月14日までに事業課へただし定員を超過したときは抽せんにて決定し，ご通知いたします。この見学会については毎度のように竹中工務店のご斡旋により，小西酒造株式会社のご厚意とご歓待をうけて催すことになりました。ついては酒造業の方は申込をうけても参加をご遠慮願うことがありますからあらかじめご了承おき下さい。

小西酒造KK本社社屋



▶若い会員の集い
『都市と公園と人間と』座談会

都市と広場的空間について：都市におけるオープンスペース。なかでも広場（square）およびダウンタウンのモール（ショッピングウオール）における造園的処理、水、植物、遊び場などのあつかい方、古い倉庫などの改造によるショッピングセンター、市街地改造による住宅の前庭などの例と、アメリカのカリフォルニヤ州、サンフランシスコ、フレスノ、サクラメントなどの例をスライドで紹介する。

日　時　1月28日(木)18.00～20.00
会　場　本会集会室(大阪市東区北浜３－37　近畿建築会館４階)
ゲスト　宮崎研一氏（大阪市海外研究員として44年10月～45年８月まで欧米を視察。大阪市公園部勤務）
司　会　上田稔、佐藤泰
申　込　往復はがきに限ります。はがきは１枚に１名限りとし、氏名・勤務先名・所在地・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入の上、１月20日までに事業課へ願います。但し定員30名を超過したときは抽せんで決定し、ご通知いたします。

謹賀新年　昭和46年元旦　（50音順）

阿部　暢
東洋土建株式会社　取締役社長
大阪市東住吉区田辺東ノ町６丁目33　電話06(692)1331～5
自宅・大阪市東住吉区田辺本町３丁目188　電話06(621)7982

青柳不折
株式会社　岡本組　取締役社長
大阪市西成区玉出本通４丁目１番地　電話06(651)7775
自宅・大阪市西成区玉出本通５丁目87　電話06(661)3370

浅井貞治
株式会社　双星社竹腰建築事務所　代表取締役
大阪市北区堂島中２丁目37　電話 06(341)6671
自宅・芦屋市東山町213　ローズハイツ芦屋406号
電話0797(31)2339

青木益次
株式会社　青木建設　取締役社長
大阪市大淀区大淀町南1丁目5番地　電話03（458)5851
自宅・神奈川県逗子市山の根１－３－19
電話0468(71)2882

青山正義
株式会社　二葉建築設計事務所大阪事務所　取締役大阪事務所所長
大阪市西区江戸堀１の108 近畿物産ビル
電話06（443)0598
自宅・京都市右京区大原野上里勝山町14－６
電話075(922)8082

淺沼猪之吉
株式会社　淺沼組　取締役社長
大阪市天王寺区東高津町8番地の1　電話 06(762)0251
自宅・奈良市学園南1丁目7番15号　電話0742(45)0681

青島憲輔
青島邦士
合資会社　青島設計室　所長
名古屋市中村区米屋町２埼玉銀行ビル　電話052(582)7171大代
青島憲輔・名古屋市西区枇杷島通り2-35　電話052(531)1915
青島邦士・愛知県愛知郡東郷町大字春木字北1-654　電話052(801)6205

赤崎尚信
赤崎建築事務所　所長
大阪市西区立売堀北通１の90　第三富士ビル
電話 06(541)7625代
自宅・西宮市田代町９－４－503　電話0798(67)7129

浅野真澄
株式会社　浅野建築設計事務所　代表取締役
大阪市天王寺区城南寺町９の27
電話06(768)0201代・(761)7870
自宅・大阪市住吉区南住吉町2丁目103番地　電話06(691)2449

青盛繁男
青盛建材株式会社　取締役社長
広島市鉄砲町５番１６号　電話0822(21)2281
自宅・広島市翠町１５０７の１０　電話0822(51)6730

秋田喜代治
秋田建築事務所　代表取締役
大阪市西区江戸堀２丁目47　電話06(443)4961
自宅・大阪府守口市竹町４番－１　電話06(991)4322

淺海正雄
淺海電気株式会社　取締役社長
大阪市北区老松町１丁目22　電話06(362)8701～8

謹賀新年　昭和46年元旦　(50音順)

東　秀保

株式会社 東建築設計事務所 代表取締役
大阪市北区天神橋筋3の68 三海ビル
電話06(358)5598・3497
自宅・寝屋川市成田東町15の25 電話0720(31)3986

井上福藏

株式会社 井上組 代表取締役
大阪市都島区網島町6番25号
電話06(351)0530・(352)4031～4
自宅・東大阪市東石切町6丁目4番4号 電話0729(81)2526

伊藤權治郎

株式会社 伊藤組 取締役社長
彦根市安清東町95番地 電話 07492(2)3141代
自宅・彦根市本町2丁目1番9号 電話 07492(2)0025

姉川正男

東光電気工事株式会社大阪支社 取締役大阪支社長
大阪市東区高麗橋5丁目28番地 電話06(202)0325～9
自宅・吹田市藤白台4の30の12 電話068(72)3214

井上達明

井上達明建築事務所 所長
大阪市西淀川区竹島町3の24 電話06(473)1069
06(471)4871
自宅・大阪市西淀川区竹島町3の31 電話06(471)4871
06(473)1069

伊藤三郎

大栄電気株式会社大阪支店 常務取締役大阪支店長
大阪市西区京町堀2の35 電話06(443)0631代

網野栄

株式会社 研文社 代表取締役
大阪市北区堂山町66 電話06(361)2091代

井関章

株式会社 藤田組 取締役広島支店長
広島市国泰寺町2の3の23 電話0822(41)4131代

飯田精次郎

共同設計株式会社 取締役社長
大阪市北区富田町9 電話 06(364)5836
自宅・豊中市本町2丁目56 電話068(52)5775

荒木芳邦

株式会社 荒木造園設計事務所 代表取締役
池田市鉢塚2丁目8番21号 電話0727(61)8874代
自宅・池田市鉢塚2丁目9番8号 電話0727(61)8874代

井原巖

井原築炉工業株式会社 取締役社長
大阪市大淀区天神橋筋9の8の1 電話06(372)3328
自宅・芦屋市東芦屋町5の1 電話0797(22)0270

五十嵐昇

(資)三共建築設計事務所 所長
名古屋市中区下前津町126 電話052(321)9591代
自宅・愛知県東海市名和町 名和住宅5－203
電話0560(63)1068

井手正雄

社団法人 日本建築協会京都支部 支部長
京都市中京区押小路通柳馬場東入橘町645 京都建設会館
電話075(211)2857
自宅・京都市中京区麩屋町通二条南入 電話075(231)1492

伊丹久吉

株式会社 藤木工務店 取締役副社長
大阪市東区両替町1の13 電話06(942)1461代

生島道春

日積工務株式会社 代表取締役
大阪市南区大宝寺町東之丁20番地 宇野ビル
電話06(251)3195

井上淨夫

株式会社 井上淨夫商店 代表取締役
大阪市西区江戸堀1の101 電話 06(441)8531
自宅・西宮市甲子園三番町9の5 電話0798(41)4661

伊東正也

株式会社 伊東建築設計事務所 代表取締役
大阪市浪速区幸町通2丁目6番地 清光ビル
電話06(562)4343代・4344
自宅・西宮市松生町129番地の2 電話0798(22)3598

生田重政

日本建設株式会社 取締役社長
大阪市東区安土町4丁目5番地 電話06(261)7591～6
自宅・芦屋市朝日ケ丘町258番地の2 電話0797(23)0657

井上正一

名古屋建築設計事務所 所長
名古屋市中村区椿町4の28 国鉄会館内 電話052(571)1271代
052(551)2025直通
自宅・名古屋市千種区下方町4の30 電話052(711)9400

伊藤喜三郎

株式会社伊藤喜三郎建築研究所 取締役社長
東京都中央区銀座7丁目9番17号 銀座ヤマトビル10階
電話03(571)6166～9
自宅・東京都品川区東五反田3の16の55 電話03(441)5437

池田昭

株式会社 池田宮彦設計事務所 代表取締役
大阪市南区瓦屋町三番丁68 オートセンタービル2階
電話06(761)0360
自宅・堺市東上野芝町2丁321 電話0722(52)7753

謹賀新年

昭和46年元旦

(50音順)

石井 蔀

東洋基礎工業株式会社大阪営業所 取締役営業所長
大阪市西区京町堀1丁目156 中谷ビル 電話06(441)6678～9
自宅・大阪府豊中市新千里北町3丁目1番地
新千里北町第三団地C40の204 電話068(72)3050

石川 寛三
石川 宏

石川建築事務所
大阪市天王寺区茶臼山111 電話06(779)9491～2
自宅・兵庫県宝塚市切畑長尾山2の317 電話0727(59)2963

石川 良興

日本冷熱工産株式会社 代表取締役社長
大阪市西区土佐堀通1丁目16番地 電話068(52)3941
自宅・豊中市蛍ケ池東町4丁目7番12号
電話06(443)3661～9

石田 秀宏

株式会社 松田平田坂本設計事務所 大阪出張所長
大阪市北区堂島上3の10 電話06(344)7821
自宅・東京都世田谷区桜ケ丘2の8の6の202 電話03(429)5074

磯道 秀夫

太平建設株式会社 代表取締役
愛媛県松山市味酒町2丁目13番地17
電話0899(21)2023

泉 治郎一

株式会社 熊谷組大阪支店 専務取締役大阪支店長
大阪市西区西道頓堀通2丁目1番地 電話06(538)1841

泉沢 哲史

株式会社 泉沢建築設計事務所 代表取締役
大阪市東区瓦町5－42 新瓦町ビル
電話06(231)2064～5
自宅・豊中市東豊中4－2－14 電話068(55)5865

一宮 能和

日泉化学工業株式会社 常務取締役
大阪市西区土佐堀通1丁目27番地
タケウチビル5階 電話 06(443)2261
自宅・神戸市灘区篠原南町2丁目3番24号 電話078(87)3479

市川 繁雄

日本管工業株式会社 取締役社長
京都市南区西九条豊田町20 電話075(681)5101～5
自宅・京都市左京区下鴨芝本町37 電話075(781)0289

稲葉 重郎

建財設計工務株式会社 取締役社長
大阪市北区芝田町97 電話06(372)5097
自宅・八尾市山本町南5－13 電話0729(22)3587

16 **稲山 嘉寛**

社団法人鋼材倶楽部 理事長
東京都中央区日本橋茅場町3－16 鉄鋼会館
電話03(669)4811大代

今西 壽雄

株式会社 今西組 取締役社長
大阪市天王寺区上本町7丁目2番地の1 上六ビル
電話 06(772)1251
自宅・大阪府高石市羽衣2丁目4番1号 電話0722(61)1179

取締役会長 **今村 騰**
取締役社長 **立石 行男**

中央電気工業株式会社
大阪市北区梅ケ枝町56 電話06(312)8881

今元 康彦

近畿電気工事株式会社 取締役副社長
大阪市北区南扇町11番地 電話 06(312)1281
自宅・豊中市北桜塚4丁目5番5号 電話068(52)5887

岩崎 甚太郎

社団法人 日本建築協会 参与
大阪市東区北浜3丁目37 電話06(231)9648代
自宅・兵庫県川西市花屋敷1丁目32の11
電話0727(59)9317

指宿 真智雄

株式会社 建築デザイン1級建築士事務所 代表取締役
大阪市東区南本町4-47イトウビル 電話06(252)4905代
自宅・京都市左京区八瀬野瀬町54 電話075(781)6573

今井 正隆

有限会社 三和建築事務所 代表取締役
大阪市旭区北清水町13番地 電話06(951)1791
自宅・大阪府枚方市香里ケ丘1丁目22番地
電話0720(54)4630

今西 茂雄

株式会社 今西建築デザインルーム 代表取締役
大阪市西区北堀江通2丁目47番地 電話06(541)3051～2
自宅・大阪市西区北堀江通2丁目47番地 電話06(541)3053

岩崎 徹

株式会社 岩崎建築設計事務所 代表取締役
本社・奈良市法蓮立花町1046 電話0742(22)2284
奈良事務所・奈良市大森町農協会館4階 電話0742(23)1231代
自宅・奈良市学園町北1丁目 電話0742(45)1513

岩崎 弘

株式会社教育施設研究所大阪事務所 取締役所長
大阪市西区立売堀北通2の27 電話 06(531)0913
大信ビル2階3階 06(541)7301
自宅・奈良市法蓮立花町1046 電話0742(22)2283

岩崎 善雄

恒和化学工業株式会社 取締役社長
東京都大田区大森北5丁目8-11号 電話03(763)0211大代
自宅・東京都大田区山王2の30-10 電話03(772)2651

謹賀新年　昭和46年元旦　（50音順）

岩本　博行

岩本　義心

野村建設工業株式会社　取締役社長
大阪市東区高麗橋2丁目9番地　電話06(202)4791
自宅・大阪府八尾市山本町4丁目5番7号 電話0729(22)2908

上田　良治

U．A 建築事務所　代表取締役
大阪市東区谷町5丁目30 新野村ビル　電話06(768)2941～2

植田　泰弘

株式会社 日本住宅タイムス社　代表取締役
大阪市東区北浜2丁目84　電話06(231)1441～3

上蓑　義一

共立建設株式会社 大阪支店　取締役支店長
大阪市東区谷町5丁目30番地　電話06(761)0112
自宅・池田市天神1丁目6－3　平安マンション31号
電話0727(61)1455

上村　一

株式会社 一級建築士事務所京都建築事務所　代表取締役
京都市中京区三条柳馬場東入中之町10　電話075(211)0562
075(231)5681
自宅・西宮市五月ヶ丘3番5号　電話0798(34)4333

内田　成之

須賀工業株式会社
大阪市西区土佐堀通1－14

浦野　三男

株式会社　浦野設計事務所　取締役社長
名古屋市西区山田町上小田井字中浦1254の5
電話 052（502）1991代
自宅・名古屋市西区山田町上小田井字中浦1254の5
電話 052 (502) 4501

浦辺　鎮太郎

株式会社 浦辺建築事務所　代表取締役
大阪市北区梅田八番地 新阪急ビル　電話06(341)1727
自宅・兵庫県西宮市甲東園1丁目7の8
電話0798(51)0389

江川　好巳

株式会社 山下寿郎設計事務所大阪支社　支社長
大阪市東区北浜5丁目11番地　電話06(231)4217・7321
自宅・芦屋市山手町16　電話0797 (22) 9269

榎　栄

東峰美術建築研究所
大阪府大東市赤井1丁目325の6　電話0720(72)1850
自宅・大阪府大東市赤井1丁目325の6　電話0720(72)1850

小川卯一郎

日本電設工業株式会社大阪営業部　取締役大阪営業部長
大阪市大淀区豊崎西通1丁目20番9号
電話06(372)3531代

小川　正

株式会社　竹中工務店 常務取締役
大阪市東区本町4の27　電話06(252)1201

小川　実

大阪建築設計監理事業協同組合　理事長
大阪市西区土佐堀通5丁目58　電話06(448)3329
ヤマタマビル
自宅・大阪市港区市岡1丁目1番26号　電話06(573)5831代

小河吉之助

株式会社 小河建築設計事務所　代表取締役所長
大阪市南区瓦屋町4番丁8　電話06(761)6957代
自宅・寝屋川市東香里園町18－14　電話0720(32)5166

尾亀清四郎

株式会社　三晃空調　会長
大阪市北区富田町16　電話06（363)1371
自宅・枚方市岡山手町15の4　電話0720(41)3427

置塩　光

神戸市生田区京町70 松岡ビル　電話078(39)3515
自宅・神戸市東灘区御影町上ノ山1661の6
電話078(85)4681

大井弘治郎

株式会社　大井建築設計事務所　代表取締役
大阪市西区京町堀1丁目76　福岡ビル
電話06(444)4521～2
自宅・箕面市百楽荘4丁目4－11　電話 0727 (21) 4113

大澤幸平

大幸建設株式会社　取締役社長
大阪市東区今橋5丁目2番地　電話 06(203)0065代
自宅・豊中市玉井町1丁目8番18号　電話068 (52) 3237

大下繁樹

日成建設株式会社　取締役社長
広島市東白島町17の4　電話0822(28)0281

大下順三郎

平和建設株式会社　代表取締役社長
大阪市城東区関目町1丁目40番地　電話06(939)4741～5代
自宅・大阪市旭区新森小路中3の93　電話06(952)1240

謹賀新年　昭和46年元旦　(50音順)

大林芳郎
株式会社　大林組　取締役社長
大阪市東区京橋3丁目75番地　電話 06(941)0861
自宅・神戸市東灘区御影町御影字上の山1682の1
電話078 (85) 2501

大森久司
近畿電気工事株式会社　取締役社長
大阪市北区南扇町11番地　電話 06(312)1281
自宅・奈良市今辻子町12　電話0742(22)2390

大山昭典
セメダイン株式会社大阪支店　支店長
大阪市南区大宝寺町東之丁41　電話06(251)3555
自宅・大阪市住吉区長居町東7丁目26
電話06(691)9002

岡澤勇
岡澤建築設計事務所
大阪事務所・大阪市北区梅ケ枝町146 梅ケ枝ビル2階
電話06(362)6083
自宅・大阪府茨木市大字清水433
電話0726(43)5230・8953

岡田金次郎
株式会社久米建築事務所大阪事務所　取締役所長
大阪市北区堂島中1－23 堂島中町ビル
電話06(344)2096

岡田正昭
河内石材工業株式会社　代表取締役
大東市灰塚6丁目3番22号　電話 06 (788) 7761
自宅・枚方市大字春日

岡橋作太郎
株式会社日建設計　取締役副社長
大阪市東区横堀2丁目38　電話06 (203)2361
自宅・芦屋市打出春日町156の1　電話0797(22)4500

岡本行善
株式会社昭和設計事務所 取締役社長
大阪市西区西長堀北通1丁目8番地 四ツ橋ビル
電話06(532)0415
自宅・芦屋市朝日ケ丘町103番地　電話0797(31)3201

岡本全男
篤組建設株式会社　代表取締役社長
大阪市天王寺区東高津町14－5　電話06(768)1515～7
電話06(762)1753～4
自宅・大阪市西成区玉出本通1-37　電話06(661)3317

岡本美男
株式会社巴商会　常務取締役大阪支店長
大阪市北区堂島上2－38　電話06(344)1441大代
自宅・宝塚市南口1－4－18　電話0797(86)2909

奥村嘉正
株式会社奥村重兵衛商店　社長
大阪市北区木幡町60番地　電話06(364)4131代
自宅・西宮市南郷町14－34　電話0798(23)2669

折井隆博
松井建設株式会社大阪支店　支店長
大阪市北区堂島北町20　電話06(344)4135
自宅・大阪市東淀川区西宮原町3－35　電話06(393)0853

海上靜一
株式会社 海上靜一建築事務所　代表取締役
大阪市東区博労町2丁目41番地 中博ビル4F
電話06(271)1149・(261)4428～9
自宅・大阪府堺市日置荘西町13番地2　電話 0722 (85) 2120

梶本秀尾
八千代電設工業株式会社　取締役社長
大阪市東区森之宮東之町392　電話 06(941)6531代
自宅・堺市大美野107の4　電話 0722 (37) 2548

嘉納伝三
三宝電機株式会社　取締役社長
大阪市北区絹笠町50　電話 06(364)1471
自宅・芦屋市岩園町184の2　電話0797(22)2191

金光五郎
万年スレート株式会社　代表取締役
大阪市西成区千本通7丁目11番地 電話06(661)8181代

亀井晃治
一級建築士事務所
株式会社 A·R·I建築事務所　代表取締役所長
大阪市南区谷町8丁目8の2 久寿野木ビル
電話06 (768)1405
自宅・奈良市六条緑町1537　電話0742(45)2995

川岸繁夫
株式会社川岸窯業商店　代表取締役
大阪市西区靭本町2丁目98番地　電話06(532)0461～4
自宅・池田市天神1丁目10－10　電話0727(61)8598

川口喜代枝
株式会社 篠田川口建築事務所　代表取締役
名古屋市東区富士塚町3丁目2番地　電話052(962)7581代
自宅・名古屋市千種区稲舟通2丁目7番地　電話052(751)2613

川崎敬三
株式会社近畿建設　代表取締役
大阪市西区靱本町4丁目103番地　電話06(532)0081～5
自宅・大阪市浪速区新川2丁目666　電話06(632)7369

鍛治延男
株式会社桂建築設計事務所　代表取締役
大阪市北区樋之上町3番地　電話06(364)0446
大阪市東住吉区矢田矢田部町中通1-5 長居東4-14
電話06(692)0865

謹賀新年　昭和46年元旦　(50音順)

川田　祐三

川田株式会社 代表取締役
大阪市港区波除3丁目7番7号　電話06(583)1017～1020
自宅・大阪市港区波除3丁目12番20号
電話06(583)2492

辛木　貞夫

東海興業株式会社（大阪駐在）常任顧問
大阪市北区梅田町27 サンケイビル　電話 06(343)0451
自宅・芦屋市宮川町1の20　電話0797(22)0328

所長 工藤　雅三
次長 工藤　建夫
工藤雅三建築事務所
大阪市此花区四貫島大通2丁目12　電話06(461)0043
06(461)4198
自宅・大阪市此花区四貫島大通2丁目12　電話06(461)4393
06(461)9293

川谷　勇

川谷建築設計事務所 所長
京都市左京区一乗寺清水町15　電話075(781)1148代
自宅・京都市左京区一乗寺清水町15　電話075(781)1148代

柄谷吉太郎

株式会社 柄谷工務店 取締役社長
尼崎市玄番南之町4番地　電話06(411)1451
自宅・西宮市甲子園浦風町9の14　電話0798(41)0700

熊澤　六朗

平和建設株式会社 常務取締役
大阪市城東区関目町1丁目40番地　電話06(939)4741代
自宅・吹田市内本町3丁目23番8号　電話06(381)0451

川廷　誠治郎

神鋼建材工業株式会社 取締役社長
尼崎市西向島町77番地　電話06(411)1301代

神﨑　吾明

株式会社 神崎組 取締役社長
姫路市北条口86の3　電話0792(23)2021代
自宅・姫路市北条口62　電話0792(23)0210

栗林　一馬

栗林建築士事務所
和歌山市和歌浦鶴立嶋527　電話0734(44)3623

川中　正道

三協アルミニウム工業株式会社大阪支店 取締役大阪支店長
大阪市西区靱1丁目123番地　近畿富山会館ビル
電話06(443)9601～7
自宅・豊中市上野7丁目64－5　電話068(53)5915

神田　正平

株式会社 日本シャッター製作所 代表取締役
大阪市東淀川区田川通6の38　電話06(301)3656
自宅・神戸市東灘区住吉町赤塚山1871
電話078(85)0248

栗山　和三

㈱シエル石油大阪発売所 アスファルト製品販売部長
大阪市東淀川区西中島町2－76　電話06(303)7131
自宅・西宮市枝川町1－144－304　電話0798(48)9428

河井　覺弘

株式会社 河井建築事務所 代表取締役
本社・大阪市北区牛丸町65 小林商事ビル
電話06(372)8404代
分室・奈良市登美ヶ丘4丁目　電話0742(45)4378

木下　國男

株式会社 内外写真 取締役社長
大阪市北区堂島北町16番地　電話06(361)9055大代
自宅・豊中市北桜塚3丁目9番15号　電話068(53)0892

桑田　正造

桑田硝子株式会社 取締役社長
神戸市生田区中町通3の5　電話078(34)4741
自宅・神戸市長田区五位ノ池町3の3
電話078(62)3807

河津喜之助

河津装飾株式会社 代表取締役
大阪市北区堂島上1の24　電話06(341)1351
自宅・豊中市服部本町1丁目10　電話068(62)6865

木村　謹次

株式会社 木村工務所 取締役社長
大阪市南区南炭屋町38　電話06(271)5678
自宅・大阪市東住吉区平野元町7の14
電話06(791)0834

小坂　忠勝

株式会社 安井建築設計事務所名古屋事務所 常務取締役所長
名古屋市中区錦3の24の17 日生ビル　電話052(961)1861
自宅・名古屋市瑞穂区岳見町4の20の2　電話052(831)4459

河村　幸一

中国電気工事株式会社大阪支社 取締役大阪支社長
大阪市北区東堀川町10　電話06(362)8651
自宅・高槻市本町5の17　電話0726(75)3378

清田　文永

株式会社 梓建築事務所 代表取締役社長
東京都千代田区永田町2丁目14番2号
山王グランドビル5階　電話03(580)4411代

小泉　善重

株式会社 栄和設計事務所 取締役社長
大阪市福島区堂島浜通4丁目14　電話06(452)1651～3
自宅・大阪府羽曳野市高鷲7丁目3番11号　電話0729(55)4416

謹賀新年　昭和46年元旦　(50音順)

代表取締役社長 小泉　昇
取締役技術部長 石田満裔
株式会社 大建エンジニアーズ
大阪市西区江戸堀1丁目52番地 堀田ビル4階
電話06(441)1366代

小林　三甫朗
小林住宅産業株式会社 代表取締役社長
大阪市東区南久宝寺町5－18 電話06(251)8371
自宅・箕面市栗生間谷2219 電話0727(29)2521

近藤　春男
龍建設工業株式会社 取締役社長
大阪市城東区古市南通5丁目5番地 電話06(931)5331～4
自宅・大阪府枚方市香里園山之手町14番8号
電話0720(31)1372

小坂井　正夫
株式会社 小坂井組 代表取締役
大阪市北区太融寺町56 電話06(311)9331代
自宅・大阪市北区太融寺町58 電話06(311)4664

小林　得志
株式会社 小林得志建築事務所 代表取締役
大阪市北区堂島北町20番地 電話06(341)5658～9
自宅・西宮市丸橋町6の16 電話 0798 (66) 2394

雑賀　孝夫
株式会社 雑賀建築設計事務所 代表取締役
和歌山市西汀丁1番地 電話0734(31)1371代
自宅・和歌山市小松原通5丁目1番地 電話0734(23)5888

小崎　修
株式会社 ミラノ工務店 取締役会長
京都市中京区夷川通河原町東入鉾田町310
電話075(231)0177
自宅・京都市左京区下鴨北園町63番地 電話075(781)0676

小松　英二
東海興業株式会社大阪支店 専務取締役大阪支店長
大阪市北区梅田町27 サンケイビル 電話06(343)0451

佐久間逸治
株式会社 佐久間逸治建築設計事務所 代表取締役
大阪市阿倍野区松崎町3丁目14の18 電話06(623)0691
自宅・大阪市阿倍野区共立通2丁目1番3号
電話06(651)4754

小杉　茂治
シャープ株式会社機器営業本部企画部 企画部長
大阪市阿倍野区長池町22番22号 電話 06(621)1221
自宅・大阪府羽曳野市野々上5丁目6の7 電話0729(54)4488

小向　正雄
株式会社 小向商会 代表取締役社長
和歌山市小松原通3の1 電話0734(24)6141
自宅・和歌山市大泉寺丁6 電話0734(22)7771

佐藤　音松
株式会社 今西組 取締役会長
大阪市天王寺区上本町7丁目2番地の1 上六ビル内
電話06(772)1251
自宅・芦屋市六麓荘町97番地 電話0797(22)2226

小中村　繁次郎
富士建設機工株式会社 代表取締役
京都市南区東九条河西町27番地
電話075(691)0791～2・8224

高武主計
コータケ建築設計事務所 所長
大阪市西区江戸堀5丁目155 新山越ビル2階
電話06(448) 2408
自宅・大阪市西区北堀江御池通り4の20 電話06(531)2812

佐野正一
株式会社 安井建築設計事務所 代表取締役社長
大阪市東区島町2丁目7番地 電話06(943)1371大代
自宅・西宮市雲井町4の9 電話0798 (22) 1569

小西　岬
株式会社 田中小西建築事務所 取締役社長
大阪市西区阿波座南通2の60 電話 06(532)4051代
自宅・大阪市東住吉区平野西脇町373の4 電話 06(701)0297

河内義就
有限会社 河内義就設計事務所 代表取締役
広島市上幟町2番37号 電話0822(28)2271

佐野春吉
森井電業株式会社 大阪支店 専務取締役
大阪市北区常安町16番地 電話06(443)8381～6
自宅・尼崎市東園田町3丁目85番地の11
電話06(491)9402

小林　清
株式会社 新住宅社 代表取締役
大阪市北区常安町17番地 電話06(444)4677
自宅・大阪市阿倍野区北畠3丁目1番7号 電話06(651)1594

鴻池藤一
株式会社 鴻池組 取締役社長
大阪市東区北久宝寺町4丁目27番地 電話 06(252)3100大代
自宅・京都市北区平野鳥居前町86 電話075(461)1526

斉藤健一
島藤建設工業株式会社大阪支店 常務取締役支店長
大阪市北区茶屋町31番地2 電話 06(372)6001代
自宅・兵庫県西宮市安井町5の20 マンションN5-6
電話0798(23)1940

謹賀新年　昭和46年元旦　(50音順)

斎藤　博

株式会社　三晃空調　取締役社長
大阪市北区富田町16　電話06(363)1371
自宅・箕面市百楽3－4－2　電話0727(21)2341

塩路寅雄

株式会社塩路建築事務所　代表取締役副所長
大阪市南区塩町通り3の14　芦池ビル　電話06(251)3231
自宅・堺市中百舌鳥町7の1183　宮路池団地3－102
電話0722(86)9229

庄野　勝

不動建設株式会社　取締役社長
大阪市東区平野町5丁目30番地　電話06(201)1121代

坂内幾男

株式会社　坂内建築設計事務所　所長
大阪市西淀川区野里東3丁目13
電話06(472)0631代～3

繁田　実

繁田建築事務所　所長
大阪市西区靱1丁目144　イデビル　電話06(441)8537
自宅・大阪市東住吉区田辺本町1丁目42　電話06(741)4155

白石登喜男

株式会社　藤木工務店　常任顧問
大阪市東区両替町1丁目13番地　電話06(942)1461
自宅・大阪市住吉区墨江中1の68　電話06(671)3792

阪口重一

阪口建設株式会社　取締役社長
大阪市東区京橋3の68　北浜ビル2号館
電話06(941)8441～5

品川二三男

株式会社　品川建築事務所　代表取締役所長
福井市順化1丁目1番19号　電話0776(22)6683
自宅・福井市田原2丁目28番5号　電話0776(23)3552

城口庸平

株式会社　大阪城口研究所　取締役社長
大阪市北区高垣町1番地　電話06(372)7151代
自宅・西宮市相生町6番40号　電話0798(33)1013

笹川　基

株式会社　笹川組　取締役社長
滋賀県大津市打出浜13番15号　電話0775(23)2314代
自宅・滋賀県大津市西ノ庄5番4号　電話0775(24)5145

篠原太郎

株式会社なにわ建築設計事務所　代表取締役
大阪市西区南堀江通2の48　電話06(531)4428
自宅・箕面市箕面5－7－6　電話0727(21)3561

須賀　孝

須賀工業株式会社　取締役社長
大阪市西区土佐堀通1丁目14　電話06(441)5171代

四方靖郎

四方設計工務株式会社1級建築士事務所
京都市伏見区深草開屋敷町32　電話075(641)6324
自宅・京都市伏見区深草芳永町666の28　電話075(641)3080

渋谷幸雄

渋谷金属産業株式会社　取締役社長
大阪市南区鍛冶屋町52　電話06(211)7333
自宅・八尾市二俣2528の7　電話0729(22)8644

菅谷知巳

大阪電気暖房株式会社　取締役社長
大阪市西区江戸堀1丁目60番地
電話06(441)8231大代

志賀信男

志賀設計株式会社　代表取締役
福岡市塩屋町1丁目21番地　電話092(82)5631～4
自宅・福岡市田島友泉亭942の21　電話092(87)6110

島田勢喜

西松建設株式会社　大阪建築支店　取締役支店長
大阪市東区釣鐘町2丁目41番地　電話06(942)1131代
自宅・豊中市桜塚本通4－29－5　電話068(54)5540

取締役社長　**杉村正三郎**
専務取締役　**柏岡十三介**
阪急電気工事株式会社
大阪市東淀川区十三西之町3丁目34番地　電話06(302)0231～5

志多熊吉

株式会社　志多組　代表取締役
宮崎市高千穂通1丁目4番30号　電話0985(24)3151

霜出邑二

株式会社鴻池組九州支店　取締役九州支店長
福岡市大名1丁目14の45　電話092(75)7237

隅田正美

第一工業株式会社　大阪支店　取締役支店長
大阪市北区富田町30番地　電話06(364)6661

謹賀新年　昭和46年元旦　(50音順)

瀬戸本典治
三建設備工業株式会社大阪支店　支店長
大阪市都島区都島本通4丁目10番30号　電話 06(922)6251代
自宅・宝塚市御殿山2丁目19の1　電話0797(86)1437

田中幸三郎
田中建設株式会社　取締役社長
大阪市天王寺区北河堀町54　電話06(771)2391代
自宅・大阪市阿倍野区阪南町5-9-24　電話06(622)0494

高田伊三郎
昭和アルミニウム株式会社　取締役社長
堺市海山町6丁224番地　電話0722(33)1181

錢高輝之
株式会社　錢高組　取締役社長
大阪市西区阿波座上通3丁目2番地　電話06(531)6431大代
(大阪西郵便局私書箱47号)

田中政二
大島應用化学工業株式会社　取締役社長
東大阪市新庄1114番地　電話06(782)4171代
06(782)6734
自宅・大阪市城東区野江東ノ町4の99　電話06(931)3506

高橋浅一
五洋建設株式会社大阪支店　常務取締役支店長
大阪市北区梅田町47　新阪神ビル7階
電話06(345)0631～5
自宅・西宮市大畑町9－11　電話0798(67)5168

仙田四郎
関西煖房工業株式会社　取締役社長
大阪市住吉区万代東6の3　電話06(672)1281大代
自宅・堺市大美野76の6　電話0722(37)6513

田中実
富士電業株式会社　取締役社長
大阪市西区北堀江上通1丁目65番地
電話06(541)0564代～7

高橋慶夫
株式会社　大阪建築事務所　取締役社長
大阪市西区京町堀2の75　電話06(441)9351
自宅・大阪市東淀川区相川中通2丁目2の4　電話06(328)0935

副島榮八
株式会社高村電機製作所　取締役社長
本社・大阪市北区河内町2丁目28番地
電話06(358)6351代～5
工場・大阪府八尾市佐堂町3丁目3番12号
電話　0729(99)0151代

田渕誠也
株式会社　田渕建築設計事務所　代表取締役
和歌山市下町19番地　電話0734(31)0261～2
自宅・和歌山市下町19番地　電話0734(31)0261～2

竹腰健造
株式会社　双星社竹腰建築事務所　代表取締役
大阪市北区堂島中2丁目37番　電話06(341)6671代
自宅・西宮市松園町7番22号　電話0798(34)2650

社長 **田谷清三郎**
副社長 **宇田長未**
清光商事株式会社
大阪市西区西道頓堀通3丁目4番地　電話06(541)1661代

田本栄一
高砂熱学工業株式会社　大阪支店　取締役支店長
大阪市北区梅田8番地 新阪急ビル　電話06(345)4521
自宅・大阪府摂津市正雀本町2－11－28
電話06(381)0734

竹原永一郎
株式会社伊東建築設計事務所　取締役
大阪市浪速区幸町2丁目6番地 清光ビル
電話06(562)4343代
自宅・豊中市蛍池西町1丁目1－4　電話068(55)0230

館林熊司
株式会社タテバヤシ商店　代表取締役
京都市南区西九条大国町37　電話075(681)7221
自宅・京都市南区西九条大国町37　電話075(681)7227

高須洪一郎
株式会社　朝日工業社　取締役社長
大阪市東淀川区加島町357番地　電話06(302)2271
自宅・西宮市甲子園町3番8号　電話0798(41)0494

谷幸一
浅野スレート株式会社　大阪支店　取締役支店長
大阪市大淀区中津浜通3丁目11の1　電話06(372)5351
自宅・豊中市曽根西町4－12－1　電話068(53)3147

田中清眞
太洋組株式会社　代表取締役
大阪市北区梅田町47　新阪神ビル　電話06(344)2791代
自宅・兵庫県芦屋市西山町50番地　電話0797(22)0249

高杉善久
株式会社大成鉄工所　代表取締役
枚方市大字出口383番地　電話0720(31)7001代～8
自宅・枚方市翠香園町16番35号　電話0720(41)0361～2

橘泰治
共栄パーライト販売株式会社　代表取締役
大阪市東区森之宮西の町594番地　電話06(941)9243代
自宅・堺市若松台2丁目26の3　電話0722(91)2267

謹賀新年　昭和46年元旦　(50音順)

辰村直治
株式会社 辰村組大阪支店 取締役支店長
大阪市西区西長堀南通り1丁目5番地 四ツ橋グリーンビル
電話06 (538) 0691
自宅・高槻市大字三島江308 電話0726 (75) 5249

辻本豊
辻本豊設計事務所 所長
和歌山市東長町中の丁12－3 電話0734(24)6346
自宅・和歌山市東長町中の丁12－3 電話0734(24)6347

時山龍太郎
時山設計事務所 所長
大阪市北区曽根崎上2丁目21番地 美都ビル 電話06(361)6248
自宅・大阪市東淀川区三国本町2の127 電話06(393)9557

丹司定治
アサヒ衛陶株式会社 取締役社長
大阪市住吉区上住吉町1 電話06(673)6001
自宅・大阪市住吉区上住吉町404 電話06(671)2531

恒成一訓
合名会社 つねなりすたじお 代表者
大阪市東区北浜3の40 電話06(231)0141・7781

友田俊夫
友田工業株式会社 代表取締役
大阪市都島区都島中通3丁目3番6号 電話06(921)0331
自宅・大阪府北河内郡交野町私部2851
電話0720(91)5085

知見義夫
株式会社 斎藤省三商店大阪店 取締役支店長
大阪市西区土佐堀通1丁目1番地 大同ビル6階
電話06(443)3361代

津村芳仁
オリエンタルメタル製造株式会社 取締役社長
尼崎市昭和南通り3丁目26番地 電話06(412)5131

内藤一真
株式会社 竹内建築事務所 代表取締役
大阪市南区長堀橋筋2丁目35の1 日亜ビル 電話06(211)2706
自宅・大阪市阿倍野区王子町4丁目1番8の303号
電話06(623)7385

地頭政人
小俣シャッター工業株式会社大阪支店 取締役支店長
大阪市北区若松町30番地 電話06(364)4825・9004・9016

鉄川與八郎
株式会社 鉄川工務店 代表取締役
長崎市扇町12－7 電話0958(44)0171
自宅・長崎市樺島町77 電話0958(22)2401

内藤正克
株式会社 内藤建築設計事務所 代表取締役社長
兵庫県小野市上本町240の4小野ビル 電話07946(2)4757代
自宅・兵庫県小野市久保木町1063 電話07946(2)4668

千原大五郎
株式会社 大阪建築事務所 常務取締役
東京都港区赤坂1の1の14 溜池東急ビル 電話03(583)8169代
自宅・神奈川県藤沢市鵠沼松ケ岡1の15の25 電話0466(23)3124

寺嶋末男
日米パーテイション株式会社 常務取締役営業部長
大阪市西区本田2番町38 辰巳ビル
電話06(581)1131代

中井惣一郎
株式会社 中井總組 代表取締役社長
尼崎市常光寺元町1－3 電話06(481)5461代
自宅・尼崎市東園田町9－17 電話06(491)1386

千原弘治
日本化成株式会社大阪営業所 開発部長
大阪市北区末広町17 ニュー大成ビル6F 電話06(312)6694代
自宅・堺市鳳北町6の325 電話0722(62)5834

土居一雄
社団法人 大阪建築設計協会 常務理事
大阪市西区土佐堀通5丁目58 ヤマタマビル
電話06(448)4110・3329
自宅・大阪市西区千代崎町2丁目24の2 電話06(582)2570

中出俊郎
株式会社 竹中工務店 神戸営業所 所長
神戸市生田区江戸町92番 電話078(39)7531

塚本猛次
株式会社 日建設計 取締役社長
大阪市東区横堀2丁目38番地 電話06(203)2361
自宅・宝塚市清荒神2丁目6番27号 電話0797(87)1940

東畑謙三
株式会社 東畑建築事務所 代表取締役社長
大阪市東区伏見町5丁目19 電話06(202)0391
自宅・神戸市東灘区住吉町縄手下1680 電話078(85)5043

中川匠
中川匠建築設計事務所
大阪市北区浪花町38 新興ビル 電話06(371)3651
自宅・宝塚市米谷石田18 電話0797(86)2391

謹賀新年　昭和46年元旦　（50音順）

中川真佐吉
アポロ印刷株式会社　代表取締役社長
大阪市東区北新町2丁目7　電話06(942)2951～5
自宅・東大阪市森河内本通3丁目17　電話06(781)7995

中村豊
中村建築設計事務所　所長
大阪市北区梅ヶ枝町114　関西ビル　電話06(362)1767・9697
自宅・京都市下京区七条通東堀川西入八百屋町12
電話075(371)2755

成田辰美
日刊建設通信関西支社　常務取締役　関西支社長
大阪市西区京町堀1の68　電話06(444)4451

中川道夫
日研工業株式会社　代表取締役
大阪市北区大工町50　電話06(352)3035代
自宅・高槻市日吉台2番丁3－11　電話0726(82)5923

中田亮吉
株式会社　日本総合建築事務所　取締役社長
東京都渋谷区神南1の12の16　電話03(463)5020代
自宅・東京都大田区山王1の29の3　電話03(771)2408

西嶋徳太郎
株式会社　大阪建築事務所　専務取締役
大阪市西区京町堀2の75　電話06(441)9351
自宅・大阪府箕面市桜ヶ丘3の11の35　電話0727(21)2432

中島正和
株式会社中島建築事務所　取締役社長
西宮市甲子園口5丁目1の5　電話0798(61)1587代
自宅・芦屋市平田町7の1　電話0797(22)2866

理事長 **中村文夫**
所長 **坂静雄**
財団法人　日本建築総合試験所
本所・大阪府吹田市藤白台5の125　電話068(72)0391
大淀分室・大阪市大淀区長柄西通2の35　電話06(351)7217

根津耕一郎
株式会社根津建築事務所　所長
大阪市東区平野町2の10 平和ビル　電話06(231)1632
自宅・宝塚市川面6丁目19番10号　電話0797(86)7862

中澤誠一郎
株式会社　中澤建築事務所　代表取締役
大阪市北区富田町38 高橋ビル北5号館(新日清ビル)
電話06(363)3881
自宅・守口市滝井元町3の27　電話06(991)1848

永井賢城
株式会社　久米建築事務所　取締役社長
東京都港区西麻布1丁目13番11号　電話03(403)0251大代
自宅・藤沢市鵠沼海岸2丁目8の26　電話0466(36)7706

野崎謙三
株式会社　山下寿郎設計事務所　取締役社長
東京都中央区八丁堀2－7－1　大石ビル
電話03(552)8311代
自宅・東京都文京区本駒込1-10-10　電話03(941)8747

中西正儀
佐藤工業株式会社名古屋支店　取締役支店長
名古屋市中区錦1丁目13番24号　電話052(231)7281代

永田鼎三
大阪電気暖房株式会社　相談役
大阪市西区江戸堀1の60　電話06(441)8231
自宅・豊中市上野6丁目27　電話068(55)3710

萩正勝
株式会社萩建築設計事務所　代表取締役
東京都目黒区青葉台2－20－14　電話03(719)1734代

中野順次郎
株式会社中野建築事務所　代表取締役
大阪市北区堂島上2丁目39　電話06(341)3561
自宅・豊中市曽根西町3丁目9番11号
電話068(52)4145

長井誕
理研鋼機株式会社大阪支店　支店長
大阪市東区高麗橋5丁目45番地 興銀ビル別館8階
電話06(202)7745代
自宅・宝塚市切畑長尾山2－1185　電話0727(59)8910

畑典治
フクビ化学工業株式会社大阪営業所　取締役所長
大阪市南区長堀橋筋1の1　電話06(271)8531

中原茂
株式会社 中原茂建築事務所 代表取締役
大阪市西区靱本町3丁目90番地　岡崎橋ビル
電話06(445)0039

長屋齊
株式会社　朝日建築事務所　代表取締役所長
大阪市東区横堀3丁目30番地 京音ビル
電話06(202)6408
自宅・吹田市青山台3丁目19の1　電話068(31)5781

橋本正二
鹿島建設株式会社大阪支店　取締役支店長
大阪市東区瓦町5－71　電話06(203)3381大代

謹賀新年　昭和46年元旦　(50音順)

長谷川　幸雄
株式会社桜井建築設備研究所大阪事務所　取締役所長
大阪市西区靭本町1－50　第2富士ビル
電話06(443)7891
自宅・京都府乙訓郡向日町鶏冠井荒内35－26
電話075(922)6379

伴　秀雄
株式会社西原衛生工業所大阪店　取締役会長
大阪市大淀区中津南通4丁目11番地　電話06(458)3531

廣野悦二
日亜金属興業株式会社　取締役社長
大阪市北区木幡町82番地　電話06(364)2771
自宅・芦屋市岩園町14番21号　電話0797(22)9101

浜口幹三郎
株式会社　淺沼組　専務取締役
大阪市天王寺区東高津町8の1　電話06(762)0251
自宅・奈良市南登美ケ丘3336の7　電話0742(44)3237

伴野貞三
ともいき会　代表
守口市豊秀町2丁目67　電話06(992)5496
自宅・守口市豊秀町2丁目67　電話06(992)5496

取締役社長 **福田博臣**
専務取締役 **山本義樹**
西日本建設業保証株式会社
大阪市東区上町5番地　電話06(762)5701代

原正太郎
アスニュー工業株式会社　取締役社長
大阪市東淀川区西中島町1丁目125番地
電話06(301)9081

日名命雄
建築コンサルタント事務所 関西　所長
大阪市東区安土町2の12　トヤマビル
電話06(271)4103
自宅・豊中市旭ケ丘9番64の1　電話068(56)0200

福田朝生
株式会社双星社竹腰建築事務所　代表取締役
大阪市北区堂島中2丁目37番　電話06(341)6671代
自宅・西宮市甲子園砂田町2番8号　電話0798(48)0989

原精一
甲南建設工業株式会社　代表取締役
大阪市東淀川区十三西之町4丁目3番地5　電話06(302)1551代
自宅・西宮市名次町12番9号　電話0798(22)1504

樋口茂
株式会社樋口鐵工所　取締役社長
大阪府大東市太子田22番地の1　電話0720(71)1781代
自宅・大阪府大東市諸福2丁目2番9号
電話0720(72)3306

福田好雄
社団法人　日本サッシ協会関西支部　関西支部長
大阪市浪速区敷津町3の20　建団連会館
電話06(632)6171

原田重信
原田セメント化工株式会社
大統商事株式会社　代表取締役
泉州生コンクリート工業株式会社
大阪市此花区朝日橋通2丁目13番地　電話06(462)1212代
自宅・尼崎市塚口町3丁目41　電話06(421)4518

久田良吉
株式会社 東洋建築設計事務所　代表取締役
大阪市天王寺区上本町6丁目3の26 阿倍ビル内
電話06(768)2029・2020
自宅・八尾市山本町南4丁目73番地　電話0729(22)3095

福中定三郎
社団法人　日本建築協会　常務理事
大阪市東区北浜3の37　電話06(231)9648
自宅・枚方市香里園町26の68　電話0720(31)0549

原田守蔵
原田今商事株式会社　代表取締役
大阪市西区西長堀南通3の8　電話06(541)7455直通・代
第2鶴崎ビル　06(541)7251交換・代
自宅・大阪市天王寺区生玉寺町6番地の2　電話06(771)9792

平田作太郎
株式会社平田タイル　代表取締役社長
大阪市西区阿波座中通1の5　電話06(532)1231
自宅・京都市下京区綾小路大宮東入丸屋町548
電話075(801)1806

福永薫
株式会社　福永建築設計事務所　代表取締役
大阪市南区順慶町通4の61　電話06(251)3102・5189
自宅・大阪市南区順慶町通4の61　電話06(251)3102・5189

林唯夫
株式会社 昭和設計事務所　代表取締役
大阪市西区西長堀北通1丁目8番地 四ツ橋ビル
電話06(532)0415
自宅・吹田市青山台3丁目41－11　電話068(72)3608

広谷嘉秋
中建築設計事務所　代表社員
名古屋市中区西瓦町19 広瀬ビル　電話052(262)4411
自宅・名古屋市千種区月ケ丘2丁目2の83　電話052(711)8010

福西清左衛門
株式会社福西工務店　社長
堺市浜寺石津町西4丁185－3　電話0722(41)1465
自宅・堺市浜寺石津町西4丁185-3　電話0722(41)2918

謹賀新年　昭和46年元旦　（50音順）

福　賴　圭　藏

株式会社　新興建材工業所　取締役社長
大阪市西区南堀江通6の39　電話06(541)5757代
自宅・大阪市住吉区住吉町242の22　電話06(673)5120

古　屋　才　兵　衛

日新工業株式会社大阪支店 取締役支店長
大阪市東淀川区瑞光通4丁目30番地の2
電話06(329)7737代
自宅・和歌山市西小二里1丁目3番地12号　電話0734(44)5037

本　澤　平八郎

日東建設株式会社　大阪支店　取締役支店長
大阪市北区末広町12番地　新末広ビル
電話06(351)0623代
自宅・東大阪市友井418　電話06(721)9930

藤　井　榮

株式会社　藤井工業所　取締役社長
大津市本宮2の2の9　電話0775(23)0119代
自宅・京都市左京区松ケ崎泉川町23　電話075(781)5333

星　廣　文

平和建設株式会社　常務取締役
大阪市城東区関目町1の40　電話06(939)4741～5代
自宅・門真市城垣町12の16　電話0720(81)0667

本　庄　清　一

株式会社　三晃空調　常務取締役営業本部長
東京都千代田区神田小川町2－1 桧ビル4F　電話03(292)7751代
大阪市北区富田町16　電話06(363)1371代
自宅・東京都杉並区久我山3丁目35－15 久我山ハイム413号 電話03(333)8843
自宅・箕面市桜ケ丘3丁目6－11　電話0727(21)2655

藤　井　象　一

藤井建設株式会社　専務取締役
大阪市東区備後町1丁目22　電話06(231)5731
自宅・神戸市生田区江戸町98の1　電話078(33)7523

星　野　健　児

日生不動産株式会社　代表取締役社長
大阪市東区本町4丁目1　電話06(262)2841

本　田　史　郎

本田工業株式会社　代表取締役
大阪市北区芝田町65　電話06(372)0371代
自宅・京都市東山区山科御陵平林町2番地
電話075(581)2217

藤　木　鐵　三

株式会社　藤木工務店　取締役社長
大阪市東区両替町1の13　電話06(942)1461代

布　袋　國　雄

東西建築サービス株式会社　取締役社長
大阪市東区横堀2丁目48番地　電話06(202)3626代
自宅・和歌山市新堀南の丁2－6－1　電話0734(22)9382

前　野　慶太郎

株式会社あめりか屋　社長
大阪市北区常安町17番地　電話06(444)1501代
自宅・芦屋市翠ケ丘町4番18号　電話0797(22)2005

藤　田　邦　昭

株式会社　都市問題・経営研究所　所長
大阪市北区太融寺町98の5　阪急東ビル
電話06(312)3198・5089

堀　田　雅　邦

新日本空調株式会社　大阪支店　支店長
大阪市北区堂島浜通り1丁目25番地の1
電話06(344)6031代
自宅・尼崎市七松町2－13－4　電話06(417)3613

前　原　明　治

株式会社前原設計事務所　取締役社長
岡山市富田町2丁目7－4　電話0862(24)1400
自宅・岡山市富田町2丁目7－4　電話0862(23)5340

藤　村　清　一

株式会社　日新建築設計事務所　代表取締役
大阪市北区壺屋町1丁目66番地　電話06(352)6161
自宅・奈良市中山町937番地の37　電話0742(44)0201

堀　啓　一

有限会社堀啓一建築設計事務所 取締役社長
山口県萩市大字川島338番地　電話08382(2)1547
自宅・山口県萩市大字川島338番地　電話08382(2)4674

萬　喜　清三郎

バンポー工業株式会社　代表取締役
大阪市住吉区墨江中6丁目37　電話06(691)1081代

藤　本　庄之助

株式会社　工盛社　代表取締役
大阪市城東区西鴫野6丁目43　電話06(961)4460
06(962)1288
自宅・大阪市城東区西鴫野6丁目43

堀　元　也

神戸材料株式会社　社長
兵庫県土木用コンクリートブロック協会　会長
神戸市葺合区熊内町2丁目88　電話078(23)1421代
自宅・神戸市長田区花山町1丁目79　電話078(23)8350

松　井　秀　一

亀井株式会社　取締役社長
大阪市東区南久宝寺町4丁目47　電話06(251)1353

謹賀新年　昭和46年元旦　(50音順)

松岡晃一郎

アイエム換気工業株式会社　代表取締役
大阪市浪速区芦原町1183　電話06(561)3901～3
自宅・堺市車之町東1丁2番9号　電話0722(38)2582

三上富三

株式会社 汎美建築設計事務所　代表取締役
京都市中京区御池通堺町西入御所八幡町225
電話075(231)4638・6472
大阪事務所・大阪市東区横堀2 横二ビル
電話06(231)0804・5418

宮後健

株式会社　宮後建築事務所　代表取締役
大阪市天王寺区上汐町6の35　電話06(772)0166
自宅・大阪市東住吉区山坂町1の5　電話06(622)5130

松田昌平
松田順吉

株式会社　松田設計事務所　代表取締役
福岡市綱場町2番1号 明治屋ビル　電話092(27)7441
自宅・福岡市今泉1丁目16番5号　電話092(74)2497

三好幸男

第一建設工業株式会社　取締役社長
大阪市東区今橋1－2　電話06(203)2931
自宅・箕面市桜ケ丘3－11－31　電話0727(21)2634

向井武

株式会社向井工務店　代表取締役
大阪市福島区江成町81　電話06(462)8281
自宅・高槻市西之川原1丁目1267　電話0726(84)0586

松丸哲也

豊國建設株式会社　代表取締役社長
大阪市北区天満橋筋4－30　電話06(353)1001代
自宅・西宮市甲子園口北町20－21　電話0798(67)2787

三輪泰司

株式会社　地域計画・建築研究所　代表取締役所長
京都市左京区下鴨上川原町69
(市電植物園前　富士ビル内)　電話075(711)2161代
自宅・京都市伏見区桃山与五郎町1の4　電話075(601)3962

村石秋吉

浪速合板株式会社　取締役社長
大阪市浪速区幸町3丁目2番地の1　電話06(561)2201代
自宅・芦屋市岩園町10番16の401号
電話0797(31)2643

松村雄吉

式会社　松村組　取締役社長
大阪市北区空心町1の70　電話06(353)1131

水野喜一郎

水野建設株式会社　取締役社長
本社・京都市下京区西七条市部町77番地　電話075(312)0431代
支社・大阪市北区鶴野町72番地 水野ビル　電話06(372)7761

村上二郎

サンエス石膏株式会社　取締役社長
大阪市北区堂島北町20 藤田ビル　電話06(344)6526
自宅・大阪市東住吉区田辺西ノ町7－30
電話06(691)9494

松本儀八

株式会社三木組　相談役
大阪市東淀川区十三元今里北通2の54
電話06(302)1451代
自宅・豊中市蛍池中町4の65　電話068(52)3448

道旗慶俊

昭和工業株式会社　代表取締役
枚方市招堤大阪府中小企業団地　電話0720(56)2681
自宅・寝屋川市成田町18－22　電話0720(31)3959

村川一雄

株式会社 パンデックス・ジャパン　代表取締役
本社・東京都中央区八丁堀2の27の10
東京建物東八重洲ビル　電話03(552)6954
関西営業所・大阪市北区伊勢町19の2
高橋ビル北2号館　電話06(312)5765

松本六郎

松本金物株式会社　取締役社長
大阪市天王寺区上綿屋町6　電話06(779)1581大代

南長吉

斎久工業株式会社 大阪支店　代表取締役支店長
大阪市北区常安町11番地　電話06(443)5041

村田鞆二

明研化学工業株式会社　代表取締役
明石市中谷町888番地　電話078(913)3456代
自宅：神戸市垂水区塩屋町西の田164
電話078(751)4186

丸山信

株式会社　丸山建築事務所　代表取締役
東京都港区北青山3丁目5番25号　電話03(401)2287・6703
自宅・東京都港区南青山3の11の1　電話03(401)3328

宮飼克二

社団法人　日本建築協会兵庫支部　支部長
神戸市生田区下山手通5丁目23　兵庫建設会館内
電話078(35)2800
自宅・明石市人丸町2の47　電話078(911)2298

村本豊嗣

村本建設株式会社　代表取締役社長
奈良県北葛城郡広陵町大字安部547番地 電話0745(52)6021
自宅・奈良県北葛城郡広陵町大字安部547番地
電話0745(52)6240

謹賀新年　昭和46年元旦　(50音順)

室谷山水
室谷商事株式会社　取締役社長
神戸市生田区北長狭通4丁目1 英和ビル　電話078(33)0881
自宅・神戸市生田区山本通4丁目108の37　電話078(22)5050

山尾勇
内外アスベスト株式会社大阪支店　取締役支店長
大阪市都島区善源寺2－3－14　電話06(922)1371代
自宅・大阪市天王寺区上汐町6－18 メゾン夕陽ケ丘302号　電話06(772)7010

山田恒治
株式会社山田工務店　取締役社長
神戸市葺合区八雲通1丁目4番地　電話078(22)1013
自宅・神戸市兵庫区山田町上谷上字古々山29　電話078(581)2055

望月光夫
永和工業株式会社　専務取締役
大阪市生野区巽矢柄町128　電話06(751)1271

山口吾郎
不二建設株式会社　取締役社長
大阪市西区阿波座上通4丁目8番地　電話06(541)5534代
自宅・宝塚市切畑字長尾山2の788　電話0727(59)2018

常務取締役関西駐在
山田豊
取締役支店長
高木政夫
大日本土木株式会社　大阪支店

盛道雄
株式会社盛工務店　代表取締役
大阪市旭区赤川町2丁目8番地　電話06(921)3471代
自宅・宝塚市清荒神4丁目14の18　電話0797(86)2431

山口由美
神東塗料株式会社　取締役社長
尼崎市南塚口町6丁目10番73号　電話06(429)6261
自宅・大阪府箕面市百楽荘3丁目4番18号　電話0727(22)2522

山中茂一
栄興建築株式会社　取締役社長
大阪市大淀区中津浜通2－66電話06(671)5056代
自宅・大阪市東住吉区西鷹合丁3丁目21号　電話06(691)8771

安田誠一
安田レール株式会社　取締役会長
大阪市南区末吉橋通1丁目17　電話06(251)7091

山崎晃一
田島応用化工株式会社　大阪営業所　所長
大阪市西区京町堀1－74　電話06(441)5951

山本進一郎
日鐵エコン株式会社大阪支店　取締役支店長
大阪市東区平野町5丁目40番地　電話06(203)5371
自宅・吹田市垂水町1丁目5番28号 豊津マンション内

八十島健二
株式会社竹中工務店
大阪市東区本町4丁目27　電話06(252)1201
自宅・西宮市甲子園2番町5の30　電話0798(41)0598

山崎敏明
辰巳興業株式会社　取締役社長
神戸市生田区栄町通2丁目21番地　電話078(32)0655代
自宅・西宮市五月ケ丘5の7　電話0798(26)2763

山本徳三
株式会社山本工務店　代表取締役
大阪市南区鰻谷中之町14　電話06(271)4680・8666・8788・6106
自宅・大阪市東住吉区山坂町1丁目10番地　電話06(622)1871

藪本芳一
藪本建築士事務所
和歌山市東長町10丁目13　電話0734(22)9930
自宅・和歌山市東長町10丁目13　電話0734(22)9930

山下密男
合同特許建材工業株式会社　代表取締役
大阪市東住吉区駒川町3の54　電話06(702)7814代
自宅・大阪市東住吉区田辺東之町3の193　電話06(621)9086

山本博三
朝陽電気株式会社　代表取締役
大阪市北区中之島3の3 朝日ビル内　電話06(448)1361
自宅・吹田市藤白台4丁目23番8号　電話068(72)9087

大和正信
株式会社　大和建築事務所　取締役社長
大阪市西区京町堀2丁目173　電話06(441)0741
自宅・大阪市東住吉区平野野堂町367　電話06(709)3928

山田新治郎
株式会社　山田建築事務所　代表取締役
大阪市北区万才町43 浪速ビル　電話06(312)0937代
自宅・摂津市千里丘5丁目9番21号　電話06(388)0119

山本禎彌
山本窯業化工株式会社　代表取締役
大阪府摂津市別府365　電話06(381)9131～4
自宅・大阪府吹田市南409の7　電話06(381)5171

謹賀新年

昭和46年元旦

（50音順）

柳町　政之助

柳町研究所
東京都品川区荏原7－4－2　電話03(781)0758

若林　繁吉

二葉屋装備工業株式会社　代表取締役
大阪市大淀区本庄川崎町2丁目6番地
電話06(371)3321～3・3630
自宅・京都市東山区清水2丁目232番地　電話075(561)6283

湯浅　武夫

湯浅建築設計事務所　所長
大阪市西区阿波座上通4の1　電話 06(541)7704
自宅・堺市浅香山町3丁10　電話0722(32)8714

鷲尾　健三

大阪大学工学部建築工学教室

吉嶺　一徳

吉嶺汽罐工業株式会社　取締役社長
大阪市東区安土町4丁目10番地 ホースビル
電話06(271)8731
自宅・神戸市東灘区本山町岡本字梅ノ谷5番地の2
電話078(41)7774

和田　眞一

株式会社東和組　代表取締役
大阪市北区梅ヶ枝町175　電話06(363)4051
自宅・芦屋市公光町3番8　電話0797(22)3282

吉村　幾蔵

株式会社　間組大阪支店　常務取締役支店長
大阪市東区横堀2丁目70　電話06(203)2821
自宅・東京都北区西ケ丘1の2の13番地　電話03(900)0601
（大阪市西成区橘通4-1 花園寮）　(06(661)4601)

和田　達也

株式会社　和田組　取締役社長
大阪市北区高垣町61番地　電話06(313)2021
自宅・芦屋市西山町52　電話0797(22)2860

吉村　英男

日本セメントイトン事業本部大阪支店　支店長
大阪市北区曽根崎中1－52 梅田セントラルビル
電話06(311)5231代
自宅・枚方市東香里元町14－12　電話0720(54)0478

渡辺　勇

株式会社　間組名古屋支店　建築部長
名古屋市中区錦2丁目4の16　電話052(201)7511代
自宅・名古屋市千種区神丘町2の48の3　電話052 (701) 4203

吉田　廣助

株式会社ナニワ商会　代表取締役
大阪市天王寺区烏ケ辻町61　電話06(771)9124～8
自宅・大阪市天王寺区烏ケ辻町60　電話06(771)9123

渡辺　忠

東洋シャッター株式会社　取締役会長
大阪市東区谷町5丁目30番地 新野村ビル
電話06(762)5861
自宅・豊中市緑丘3丁目21番8号　電話068(56)0988

取締役会長 吉田信武
取締役社長 佐治誠次

株式会社吉田建築事務所
大阪市西区北堀江上通3の22　電話06(538)2991代

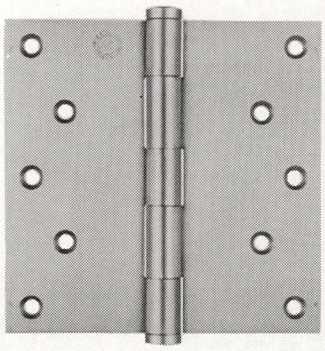
渡辺　道輝

渡邊建築事務所　代表取締役
大阪市東区今橋2丁目21番地 藤浪ビル
電話06(231)1696
自宅・芦屋市岩園町21－13　電話0797(22)2266

Art の製品には……

●ドアーを大切にしハウスキーパーの役目をはたす

アート ST-84（18－8ステンレス） ドアーヒンジ RAシステム



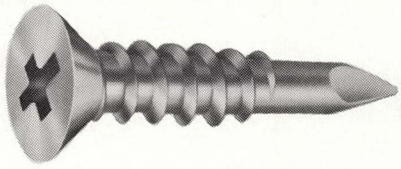
●仕上はサテン仕上です
●ＲＡシステム（90°抜け芯装置付）です
●高精度を誇り、耐蝕性・耐熱性にすぐれ錆びたり変色したりする事はありません
●18－8ステンレス、木ネジ付きです

寸法（㎜） 全長	横巾	板厚（㎜）	木ネジ穴の数	木ネジの太さ及び長さ φ ㎜	梱包数量（枚）
89	89	2.5	6	4.1×25	100
102	102	2.8	8	4.1×25	100
127	102	3.0	10	4.5×32	60
127	127	3.0	10	4.5×32	60

包装・２枚木ネジ付紙函入

●丁番の取付けが簡単、作業能率の向上！

木ネジの革命 スパイラー



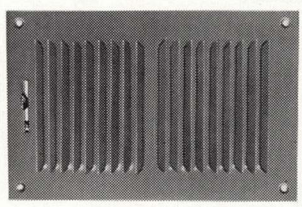
●錐でガイド（下穴）を設ける必要がない。
●全ネジ式ですから密着が良く振動のために抜けてくるようなことはない。
●釘状の部分で木部へ安定した嵌合が出来るのでドライバーの**横滑り**がなく製品を傷めずに固定出来る。
●**表面硬化**をしてあるためにネジ山の破損が少なく**反復作用**によく耐えます。
※〝アート〟のヒンジの中級品以上（ＤＲ-844. ＮＲ-64. ＳＴ-84. ＳＴ-ＳＬ-84-1）には**スパイラー**が附属されています。

●最新型ウォールレジスターセット

EWレジスター ●米国ＦＨＡ規格品

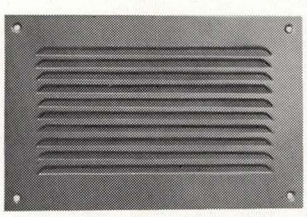
●自然換気により室内の空気はいつも爽やか。
●室内冷暖房の保温調節が容易。
●シャッター120°迄自在調節止め付。
●錆の発生、変色がなく湿度の高い所、バスルーム等にも安心して使用出来る。
●スッキリとしたデザイン中間色の落ちついた色調。
●風雨の晒す場所でも雨の吹込む心配がない。
●ソフトシートにて取付けの際のガタつきがなく、完全密着取付け施工が出来る。

レジスター No.55－R



取付部分切込み寸法 ㎜（吋） 縦	横	表面板寸法（㎜） 縦	横
150（6″）	260（10″）	195	295
150（6″）	310（12″）	195	345
150（6″）	360（14″）	195	395

グリル No.55－G 防虫網付



取付部分切込み寸法 ㎜（吋） 縦	横	表面板寸法（㎜） 縦	横
150（6″）	260（10″）	195	295
150（6″）	310（12″）	195	345
150（6″）	360（14″）	195	395

※鉄筋住宅のお部屋の換気、冷暖房装置の通風口には理想的な吸入、排気のレジスター、グリルをセットして使用ください。

●JIS規格表示許可工場 住宅公団・建設省指定メーカー
永和工業株式会社

本社 大阪市生野区巽矢柄町１２８ TEL大阪(751) 1271～5
工場 東大阪市布市町５０ TEL枚岡(81) ５５６６
東京出張所 東京都千代田区外神田3-6-12 TEL東京(253) 0317～8



倉敷レイヨン中央研究所

●特許建築用内装・外装化粧材
砂粒状陶磁器の吹付

セラスキン

●建造物の内外部に!!
粉状陶磁器の吹付

セラコート

●粗粒状陶磁器の吹付

セラカット

セラスキンとは陶磁器の皮（CERAMIC SKIN）と云う意味で砂粒状の有色陶磁器と結合剤とを混合、液状としたもので、これをスプレー（コンプレッサー使用）ガンにて建造物の内・外、壁面、天井etc に吹付け、防水性と装飾を目的とする建材です。

特　徴

- ●色　彩　高熱焼成（1250℃－1350℃）にて発色した陶磁器を主材料にして顔料、色素を使用しない為雨風、太陽光線による色彩の変化は起りません。
- ●防水性　通気性、防水皮膜を形成します。
- ●耐薬品性　弱酸、弱アルカリに対しては変化を起しません。
- ●耐寒性　－20℃に４時間冷凍しても亀裂その他の異常は認めません。
- ●下　地　コンクリート打放し、モルタル、ベニヤ板、和壁、ブロック、スレート、テックス類etc.
  鉄類の場合は錆止塗料を塗って下さい。

山本窯業化工株式会社

本社・工場／大阪府摂津市別府３６５　☎(06) 381－9131－5
東京営業所／東京都千代田区麹町３－６（藤井第２ビル）　☎(03) 265－8888－9
名古屋営業所／名古屋市中区栄３－２３－１４（山市ビル）　☎(052)262－6774－5
福岡営業所／福岡市博多駅前４－３－１４（菅原ビル）　☎(092) 43－６９４０
広島営業所／広島市中広町２－２０－９（みのるビル）　☎(0822)91－６２００
仙台出張所／仙台市上杉２－４－４６（森林会館ビル）　☎(0222)22－１２９９

法令コーナー

41

日本建築協会法規委員会

質疑などの投稿をお待ちしております

法令の改正について

あけましておめでとうございます。
日頃は何かと、建築基準法行政につきまして、御協力を頂き、誠に有難く篤く御礼申上げます。今年は、建築士の皆さんにとって、重大な年であります。お解りでしょうか？　建築士制度が生きるか死ぬかは、今後の皆様の努力と実績次第です。

Ⅰ．最近の都市計画決定及び変更

1．用途地域の変更（但し旧法）
　S．45．8．17　告示施行
　S．46．1　　審議会付議予定
2．防火地域の変更（但し旧法）
　S．46．1　　審議会付議予定
3．容積地区の決定
　S．44．6．8　施行
　（S．44．4．9　告示）
4．風致地区の変更
　S．45．6．14　施行
　風致地区条例――S．44．6．14　施行
5．臨港地区の変更
　S．45．3．30　告示施行
6．公園の変更
　S．45．8．20　告示施行
7．市街化区域の決定
　S．45．6．20　告示施行
8．高度利用地区の決定
　（S．46年度中予定）
9．新法による用途地域の指定はいつになるか不明です。3年以内に指定すべき義務があります。改正法の住居地域は旧法の住居地域とはその規制事項において異なる点に御注意下さい。すなわち、改正法の地域は旧法の同名地域の制限と異なることをお間違いないようにして下さい。

Ⅱ．確認申請書の処理をめぐる諸問題について

ア）S．45．6．29　建設省住指発第295号で各行政庁主務部長あて通達があった。
イ）これについて各団体（三会および設計協会）へ意見を求めた。（大阪市の例）
ウ）S．45．10　設計協会よりの要望書あり。
エ）S．45．10．23　士会よりの要望書あり。
オ）S．45．11．2　府下特定行政庁が、三会合同法規委員会より換問され、事情を述べた。
カ）S．45．11．4　近畿ブロック会議で不適合通知の処理について協議。
近畿ブロック会議として正式実施日をS．46．1．1と決議。かつ省令改正についての要望書（主事と建築士の責任を、設計と工事について明確にするよう、施行規則の改正を望むの主旨）を作成。（本省へ持参ズミ。皆様からの要望書コピーもつけて）
キ）S．45．10．30．不適合通知の処理要領（案）完成（大阪市の例）
ク）精神訓話……不適合通知処理についての通達は「ダメな建築士」「ずぼらな建築士」をたしなめるためのもの、やがては建築士の権限の拡大を計る実績を造るためのものであることをご承知下さい。
①下記のものについては、不適合通知を出すときはよく考えましょう。
・誰が考えてもむつかしいこと（読みとりにくいこと）
・誰が考えても解らないこと。
・行政庁が定めること（例法第42条第2項の道路）
出しさえすればあとは役所まかせ。役所のいう通り訂正すれば、確認がおりて、金になる。これではいくら人があっても足りない。こんなことは建築士でなくともできる。訂正がでるのは恥ですぞ。
行政担当者の経験が不足で、指導力に欠けてる（？）との苦言もあるが、今、建築主事またはその委任を受けた吏員になり手がありません。建築主事の試験を逃げる人が多くなっています。資格が無い方が、無事一生を楽に送れるのです。
②三会合同法規委員会で出た不適合通知をめぐるご意見の中から主なものをとってみますと次のとおりになるでしょう。
・下見をやめるな――目下検討中。下見はすれど審査せずでやるかも知れません。（各行政庁で異なる。）
・下見をやめるなら、事前相談をチャンとやってくれ――事前相談ということは白紙相談でなく、設計図書を充分チェックされ、どうしても解らないことを聞いて下さることである。確認の予約につながらぬと理解してほしい。
・不適合通知の理由に、全部を網羅せよ――これは困ります。ケアレスミスでも出せとの本省見解を士会の方が東京で聞かれております。
・通知先は委任状を持っている人へ出せぬか？――出せるそうです。「ずぼらな建築士」「ダメな建築士」の場合は、直接建築主へ通知しますぞ。
・「チェックカード」はけしからんとの御意見もあり、また公開せよとの御意見もありました。――結構です。上司の許可を得て公開しましょう。しかし、公開することは、チト恥かしい。

Ⅲ．法改正について（概要）

1．執行体制の整備および違反建築物対策の推進等

1）執行体制（25万以上の都市は義務。それ以下でも限定特定行政庁の制度あり）、2）違反是正措置（監視員制度の新設・違反者の処分）、3）図書の閲覧

2．建築物の敷地・構造および建築設備に関する基準の整備

1）耐火・簡耐建築物（法27条の用途の拡大）、2）換気設備基準の整備と義務づけ、3）共同住宅等の界壁の遮音義務、4）非常用昇降機の新設、5）排煙・照明・進入口の設置義務（強化拡大あり）とその基準の整備、6）内装制限の拡大、7）建築材料の品質（安全・防火・衛生の上から基準を設けている）

3．都市計画区域内の建築物の敷地・構造および建築設備に関する基準の整備

1）用途地域　（従前の4つの用途地域、2つの専用地区を8つの用途地域に改めた。）、2）建ぺい率制限　（空地地区廃止）、3）容積制（現行の高さ制限にかえて容積制限を一般的にかけることとした。なお現行の容積地区は廃止した。）4）斜線制限等　①、第1および第2住居専用地域に北側斜線を設けた。②、第一種住居専用地域での絶対高さを10mに制限した。③、第一種住居専用地域での外壁の後退距離を規定した。5）道路位置指定基準（道の線形・構造等に関する基準を設けることとした。）

4．その他

1）施行日　S．46．1．1　施行。2）経過措置（用途地域に関する都市計画の決定および告示は、施行日から3年以内に行なわねばならない。この告示の日までは、これらの都市計画に関する従前の規定が適用される。

Ⅳ．政令改正について（要綱案）

1．総則関係

1．建築監視員（法第9条の2）
2．建築確認申請書手数料

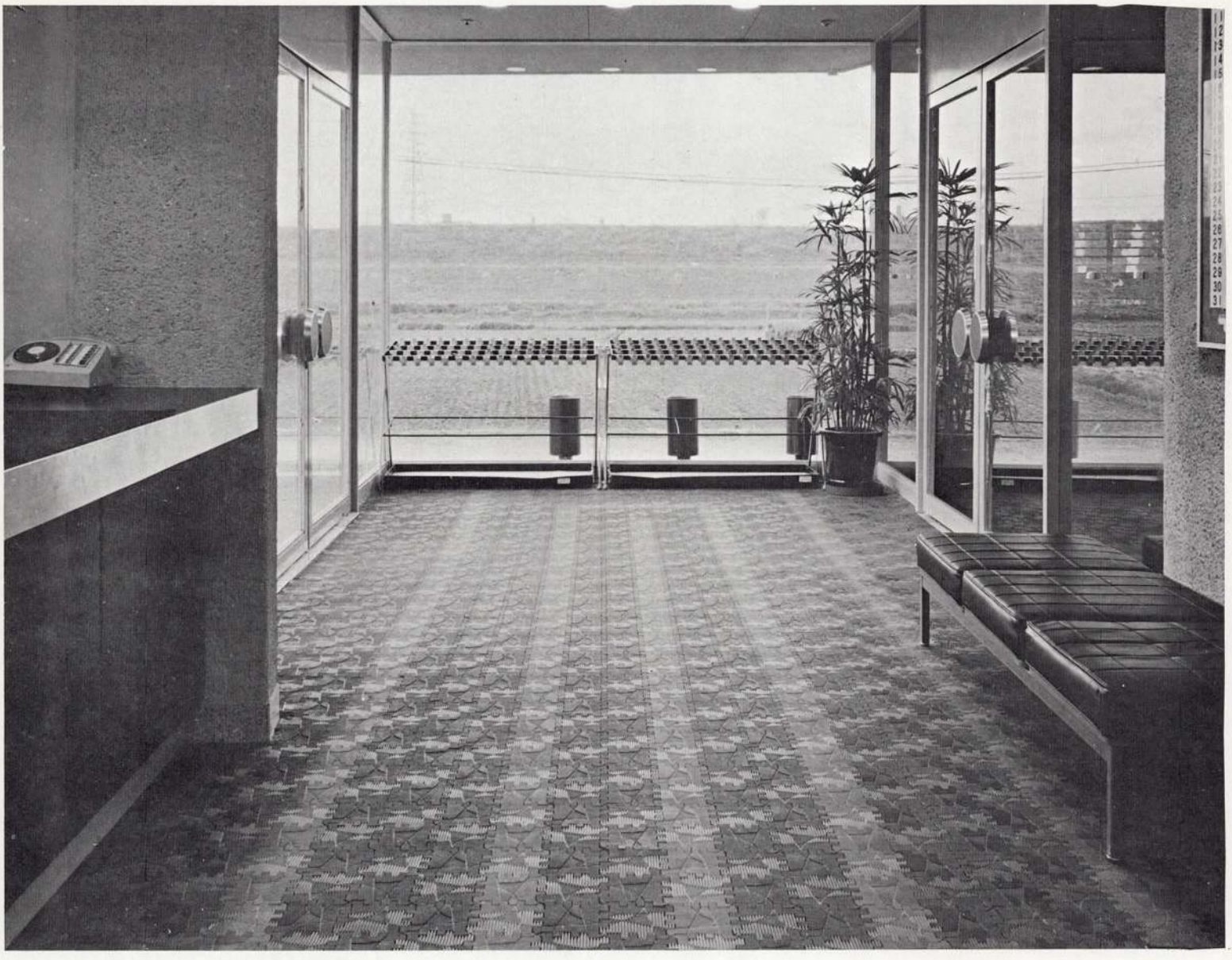
2．建築物の敷地構造および建築設備に関する基準

1．居室の採光および換気に関する基準の整備（法28条）
2．長屋または共同住宅の遮音に関する基準の整備
3．昇降機に関する基準の整備（法第36条）
4．排煙設備に関する基準の整備（法第35条）
5．非常用の照明装置（法第35条）
6．非常用の進入口（法第35条）
7．内装の制限に関する基準の整備（法第35条）
8．建築材料の品質に関する基準の整備（法第37条）
9．耐火建築物または簡易耐火建築物に関する基準の整備（法別表第1）
10．構造強度に関する基準の整備
11．給水、排水、その他の配管設備に関する基準の整備
12．その他の規定の整備（防火区画・非常口の錠・遊戯施設、その他）

3．都市計画区域内の建築物の敷地・構造および建築設備に関する基準

4．雑則（道に関する基準。特例によっておかれる市町村の建築主事の特例）

（大阪市建築局建築部審査課長　竹口 信夫）

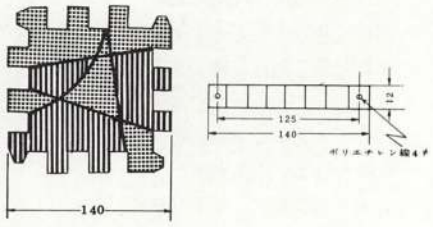


各種玄関マット設計製作　ミヅシマ

ウルトラインマット

（ウルトラセン）

〈詳細図〉



〈規格色〉赤・白・緑・鼠・青

玄関に
ハイセンスを！

マットは
トップメーカーの
ミヅシマ製品を
お選び下さい

ウルトラインマット試験表

- **耐摩耗試験**－摩耗減量 0.0035グラム
  試験条件　テーバー摩耗試験機 荷重 500グラム
  回転速度 57r.p.m.1000回転
- **熱収縮試験(膨張)**
  40℃±1℃3時間変化なし－5℃3時間 縦(－0.10%) 横(－0.17%)
- **耐薬品試験**　浸漬条件30℃×31日間重量変化率
  3% H_2SO_4(≦0.1%)10% NA_0H(≦0.1%)
  植物油(白絞油)(5.2%)(30℃×5日間)
- **耐水試験**　浸漬条件23℃×24時間0.07%

ミヅシマ

おそうじ百貨

ミヅシマ工業株式会社

営業本部 / 大阪市西区北堀江上通一丁目20　TEL (531) 7571～4
本社工場 / 京都市南区久世築山町 380の2　TEL (921) 6361～3

〈営業所〉
東　京／TEL (667) 8844(代)
名古屋／TEL (911) 4306～7
京都第1／TEL (221) 5363・0214
京都第2／TEL (312) 6051
大　阪／TEL (531) 7571～4
福　岡／TEL (27) 2331(代)
北九州／TEL (57) 3579

読者の頁

投稿をおまちしております。掲載の分には規定の稿料を差上げます。

□「自然と人間」その雑感

最近のマスコミにおける自然保護の声の高まりは著しい。その表現方法は千差万別であるが、ともかくこの人間が生存するための基盤である自然を守ろうということであるらしい。新聞の投書欄をみても、自然保護を訴える類のものは、絶えずお眼にかかるところである。しかしそれらを読んでいると、自然というものに対して幾分の混乱があるし、またその訴えも郷愁的発想によるものが多いようである。そこに矛盾もあると思われるが、ここでは自然というものとそれに係わる人間とについて少し考えてみたい。

人間が自然を生存基盤として発達過程をたどってきたことは詳述するまでもないが、その過程の中で人間はどのようにして今日見られる環境状態に至ったのであろうか。生物系統の枝分かれを待つまでもなく、意識的行動物体となった時以来、人間はその行動の源を他の生物に対する優越意識の誇示現象として生じさせてきた。そのことは人間の劣等感の発生とも関係してくるのであるが、ともかくその根底には、自然との対決・征服を設置し行動してきた。自然との調和を教えた東洋思想においてもその基本はなんら変わりはなかった。そして結果として確かに巨大な建物は連なり、道路・橋がはりめぐらされ、食物も割合豊かに供給されている。何百万、何千万年の間の人間の莫大なエネルギーは、そのことにほぼ消費され、その成果を謳歌し、享受した。しかし一連の生物の秩序体系の環の1つにすぎない人間が、自然をコントロールしているのだと考えだしたことは、まさにカリカチュア以外の何物でもなかったのである。突き進んできた誇るべきこの社会も、今日見られる環境に至り人類の存亡にまで関係を持ちはじめた。尊厳に満ちたホモ・サピエンスもさすがに現状について真剣に考え、いったい何をなすべきかを模索しはじめた。そして公害キャンペーンの一環として、自然保護が欠くべからざるものとして、人々の脳間に入り込み、多方向からのその声は、ひとつの共鳴現象さえ起こしているのである。

ところでこの自然とはいったい何なのであろうか。マスコミに載っているものから得られた感じでは、自然とはある量以上に樹木の存在する森林やそれと関係した湖沼、川、さらには海岸線沿いなどであるらしい。とくに森林－それは人間の活動領域と一致する－がその保護すべき自然としてとらえられている。森林は人間の生存にかかわるところである故、自然≒森林となってもおかしくない。しかし残念なことという表現が適当かどうかは別にして、日本には、この自然(Nature)がほとんどないのである。本来、自然というのは、地上の樹木や下草から、地中の微生物に至るまで、ひとつの厳然たる生物の秩序体系によって構成された生態社会なのである。このようなところでは、林縁の下草を刈り取っただけでも、林内照度、通風、水分が変化して、その秩序体系がまったく別のものになる。まして意識体である人間が、そこを徘徊することは自然の存続から考えるととても許されないことなのである。ところが、現実的には、この森林の存続はまったく人間の判断に委ねられている。人間の個体数が増し、その行動範囲、規模が拡大すれば、当然森林との抵触が激しくなり、その共存は人間の生存にとって不都合にならない状態でのみ許されるのである。つまり、そこに何がひそみ、どんな危険があるか分からない森林が、人間の活動領域近くにあれば、その森林をある程度伐採し、下草も刈り取ってその中に道をつけ安全であるようにする。このような形になってはじめて森林の存在が許されるのである。この現象は、どんなに自然の保護を訴え、それを態度で示そうとする人でも、自己の存在に関係してれば同じように行動するのである。もっとも現在は、所有形態などで、もっと複雑になっている。これは必然的なことであるのだが、このように一連の秩序の破壊は森林の構成を単相化し、きわめて不安定な弱いものにしてしまう。一見同じように豊かな緑、そこを流れる清い水は、まったく自然と呼ぶにふさわしいように思えるが、その実体はNatureとはほど遠くなっており、いわば自然の素材を用いた人工物なのである。緑の集団の残存物なのである。ここに問題が存在する。地に満ちた人間の前に、それと抵触しない自然の領域が存続しえないのは自明のことなのである。が、それが積重なって、今では緑の存在そのものにまで関係しはじめている。日本においては自然美を、観る人の前方200～500m(遠景の場合は$10^{0\sim1}$km のオーダー)の、いわば1枚の絵ハガキとして平面的に視覚的にとらえてきたことや、社有林の残存、その外にもちろん気候的な要素も含めて、緑の存続を長く伸ばしてきたのであるが、今や日本でもそれが危うくなりかけている。どんなに高邁なことを思索し、精密な物を創り上げるホモ・サピエンスと言えども、下図に示す実に簡単なプロセスから1歩といえどもはみ出すことができないのである。



このプロセスにおいて、希なる例外があるが、全体としてこのとおりなのである。

このように考えてくると、緑の存在さえ危うくなりかけている状態において、人類の先はまことに暗いものと考えざるをえない。そしてこれからいったいどの方向に進んでいくのであろうか。法律を作り、快適な社会を創ってきたはずの人間であるが、その個体コントロールをホモ・サピエンスそのものによっているこの社会において、その救う道は唯一つしかないのである。それは人間が自然の秩序の1つの環にすぎないことを認識し、自然の加護を受けることである。新しい食料源、エネルギー、社会を求めることは、今ではナンセンスなことである。もはや緑の存在までが云々されているこの現実に対して、今さら人間の尊厳を奏でることもないであろう。

(M.M)

□ 明治建築土木史年表・関西篇（その44）（自明治11年11月7日～至11月8日）□

明　治

11年11月7日　区画改正に伴う東京最初の各区予算表報じらる。多いのは神田区（現千代田区の約半分)。6,597円6銭3厘。少ないのは四ッ谷区（現新宿区の一部)。3,286円63銭3厘。予算の内容は、「区長。書記。雇。筆者。小使。臨時。同雇等の給料。庁舎借上代。備品買上。修繕料。諸用紙。筆。墨。炭。薪。燈油。蠟燭。印判。印肉。煎茶。宿直弁当。区吏急用車賃。郵便切手。諸雑費等」とある。

〃　〃　〃　近年ずっと棉が豊作だった故か、今年は雨が続いて不作なのに別に高騰もしなかったが、4、5日前から高目になり、「攝州坂上々品の實綿」（坂上は地名？）1本が5円50銭～6円までで、去年と違って、売気配はよいとある。

11年11月8日　西郷。桐野等。西南戦争の賊将を京都東山へ、「巨大美麗に」祠らうと、京、大坂の有志奔走して寄附を集めていた。

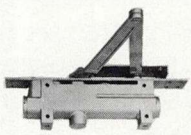
〃　〃　〃　陸軍本病院の軍医達が、月給の1割を積立てて会計掛へ預け、不時の疾病。罷免等に備へるという。我国企業内預金制度の元祖？

〃　〃　〃　大津、西京間の鉄道工事は、期限 590日。その間に出来なければ請負額の2分を減じ、逆に早く出来れば18,000円の賞金が貰えるので、藤田組は目下人夫を増員。督令中だという。

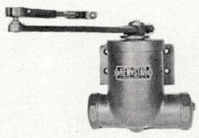
(東京都北区神谷2ノ22ノ13　須藤欣二)

NEW★STAR

NEW★STAR



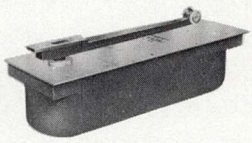
ドアチェック 60シリーズ



ドアチェック 70シリーズ



ドアチェック 80シリーズ



フロアヒンジ

その他
ラバトリヒンジ
ピポットヒンジ
ドアハンドル

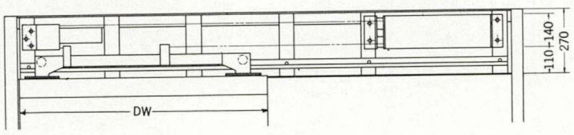


✳ 品質・性能ともに定評ある

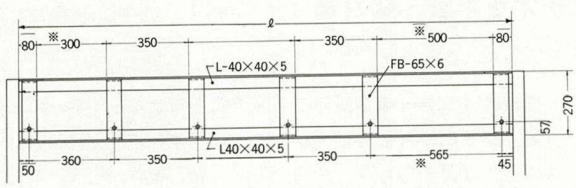
●スイング式・スライド式

ニュースタードアオペレータ

片引き戸内観図



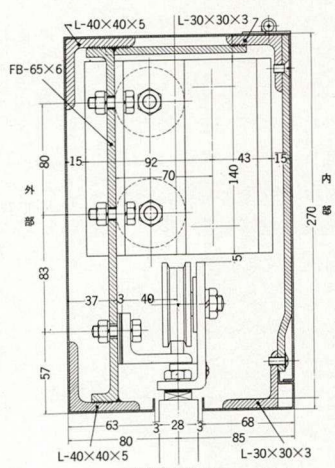
エンジン及ドア関係要領



レール取付板例図

※印寸法は守って下さい。
※印寸法NSL-4の場合は$\frac{535}{600}$に変更されます。

上枠断面懸吊要領



※斜線部は客先工事分

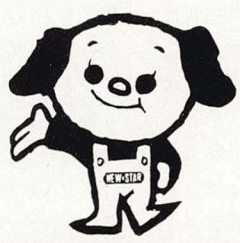
■ニュースタースライド式ドアオペレーターの特徴

●油圧の長所と電気式の利点とを組合せた新製品です。●油圧装置がついているために閉る速度が「ゆるく」「なめらか」です。●バルブの調整で閉る速度が自由に変えられます。●閉る手前で一旦止って、その后ゆるく閉ります。●停電の場合、すぐに手で軽く開閉が出来ます。●価格が安く、別途工事がほとんどない。●取付工事、保守が非常に簡単です。

NEW★STAR 50 創業 周年

日本ドアーチエック製造株式會社

本社工場 大阪市生野区巽矢柄町222 電話(06)(758)1251(代)
東京支店 東京都千代田区神田小川町2—12(信愛ビル) 電話(03)(293)4831～5
札幌出張所 札幌市月寒中央通り月寒314—1 電話(0122)(86)8255～6
仙台出張所 仙台市北6番丁18 7 電話(0222)(34)6049
名古屋出張所 名古屋市北区浪打町2—80—2 電話(052)(981)7531～3
広島出張所 広島県安佐郡佐東町緑井205 電話(08287)(7)1611
福岡出張所 福岡市天神4丁目4番24 電話(092)(74)2372・3312



□公害の追究は、科学技術者の責務なり

阪神高速道路公団前調査役
加藤雄三郎

1. 前書き

最近5・6ヵ月ばかりの間、新聞紙面には、公害、環境汚染の記事がはんらんしている。ここへきて、公害事件がいっぺんに爆発した感じがするが、昨今政府はやっと、従来のバラバラな公害行政を一元化するということで、公害対策本部を内閣に設置して、総理自ら本部長となり、これが解決に当たらんとしているところである。

現在までに判明した公害の例を揚げると次の通りである。

（イ）亜硫酸ガスの関連による公害
（ロ）カドミウムの関連による公害
（ハ）一酸化炭素の関連による公害
（ニ）窒素酸化物の関連による公害
（ホ）鉛化合物の関連による公害
（ヘ）有機水銀性化合物の関連による公害
（ト）二酸化窒素や炭化水素の化合物であるベンゼン、トルエンによる公害
（チ）光化学スモッグによる公害
（リ）車輛による交通騒音・振動・粉じんの公害
（ヌ）その他工場の未処理廃液の有毒悪臭による公害
（ル）テレビ電波障害・日照権妨害による公害
（オ）医薬品・食糧品による公害等

2. 公害の発生原因について

公害の発生原因は、これを端的に申せば、学生のゲバルトと共に高度経済成長－G・N・P第二位－の結果である。

まず第一に、この高度成長は、経済第一主義によって行なわれてきた。経済さえ繁栄すれば、すべての問題－経済問題のみならず社会問題も－が解決され得るとの誤れる確信が政府の高度成長の基礎観念となっていたことは、否定し得ない事実である。そして注目されねばならないことは、これはまさに戦時中の精神主義に対する反動としての物質主義への偏向だったということである。

わが国の精神第一主義は言うまでもなく戦前からのものであったが、第二次世界大戦において、わが国は世界最大の経済力を持つアメリカと戦うことになったので、敗戦の色が濃厚になればなる程、物質よりも精神を優位に置くことが強調された。しかし見事にこの精神一辺倒主義は物量の下に屈せざるを得なかったので、敗戦によりわが国は、社会構造が一変したのみならず、国民の精神構造も一変した。

しかし、政府の経済政策は、物心両面を配慮することを忘れて、もっぱら所得倍増主義的経済第一主義を事としたので、ここに高度成長下における人間喪失が起こらざるを得なかったのである。

このような物質主義は、わが国企業の海外進出の面においても遺憾なく発揮されたので、一時は世界各国を敬服させたわが国企業の輸出等、海外経済活動も今日では、「エコノミック・アニマル」とさげすまれるようになってしまった。

また、精神構造の欠陥は特に青年層に、世界観・人生観の欠除ないしは価値観の分裂をもたらして、いわゆる断絶の時代を生んだ。これは一方では社会的連帯観・倫理の喪失をきたし社会の秩序混乱をもたらし、他方、正常な労使間の関係確立を拒否する原因となっている。60年代までは、戦後の反動期だったとしても、70年代は経済政策に精神のカンヌキを入れて物心両面の繁栄を実現しなければならない。もう一度言う。「公害の発生は高度成長－G・N・P第二位－の必然の結果である。」と。

3. 「曲り角にきた」都市計画と公害について

公害問題は、欧米では既に数10年前から盛んに論議されており各国とも都市計画立案の都度、検討されているが、実施面ではやはりわが国と同じく公害問題に苦しんでいるようである。都市計画の大きな目的は、都市の経済的・社会的な活動が安全に能率よく行なえるように健康で快適な町づくりをすることにある。すなわち住居地域・商業地域・工業地域・準工業地域に大別し、これに見合う交通網（道路・河川・軌道）・上下水道・工業用水道・大小公園等を合理的に配置・運営することにより成り立つのである。以上のことは、都市計画理論のイロハのイの字に当たることで誰でも知っている事であるが、実施面ではこのことが仲々実行できないのが各都市の現状である。例えば大阪市の御堂筋を例に取ると、この道の幅は現在45米であるが、計画当時の立案者は 100米幅を主張したのであるが、当時の市会および都市計画審議会の圧力で現在の道幅となったのである。もしかりに「難波－大阪新駅」間が 100米道路で両側に緑樹が茂っていると想像するとこんな愉快なことはないが、これが現在交通公害の原因となっている。

第二番目に工場公害をあげると、工場はその規模・種類等により工業地域か準工業地域に入るのであるが、限られた面積の工業地帯に計画量をオーバーした工場群が密集している現状である。例えば 100個の工場が入る面積に 130個の工場が入っているとすると、30個分の工場がはみ出していることになり、これが公害の発生の限界点をこえたことになるのである。すなわち空気・水等の浄化限界を越える分の工場を取り除かねば公害を防止することができない。

最近よく「曲り角にきた」都市計画ということを聞くのであるが、如何に立派な都市計画を計画しても、その行政の府・県・市が計画量を越えた処置を行なうと、現在のような公害が発生するのである。

第三番目に土地買収難について、都市計画・都市改造・都市再開発・「ディベロッパー」等々いずれも土地を必要とするがこれが仲々簡単に入手できない現状である。その第一の理由は、わが国では資本主義国家のもとでの土地の私有制であるので買収が早くできない。この点イギリス・フランス・オランダ・スェーデン等では、土地は王領で市民が永代借地していて、私有制ではないので都市計画改造が非常に早くやり安いのである。ちなみにわが国でも昔は天領・幕府領であったが、明治維新に大部分私有制に切り替えられたことはまことに残念なことである。資本主義国家における都市は資本と、土地の私的所有および利潤追求と不可分の関係で発展してきた。封建制度のもとにおける都市は封建君主のための都市であった。君主にとっては合理的公共性を持った都市であっても、本来の意味では「公共的」ではなかった。ちょうどこれと同じように資本主義国家の都市は資本の目的に奉仕する形で造られていることは事実である。

ここで私達が考えなければならないことは、資本主義国家都市または、封建主義国家都市が何であろうと、真の「民主主義国家都市」＝「人間尊重主義都市」を実現しなければならないことである。

4. 最近のN・H・Kの日本の代表的企業 100社の社長に対する公害アンケート調査を紹介すると

(1) 現在の公害問題をどう思うか。
（イ）止むを得ない……15社
（ロ）止むを得ないが損害補償せよ……35社
（ハ）まず公害を先に防除せよ……34社
（ニ）どうしてよいか分からない……16社

(2) 公害対策の姿勢について
（イ）現状で十分だと思う……36社
（ロ）現状でまあまあだ……44社
（ハ）現状では不十分だ……15社
（ニ）どうしてよいか分からない……5社

(3) 利潤優先か公害問題処理か
（イ）利潤優先する……9社
（ロ）利潤減少してもよい……71社
（ハ）分からない……20社

(4) 公害の企業責任と公害対策費の分担について
（イ）企業者単独で負担する……8社
（ロ）国が全部負担すべきだ……10社
（ハ）国・地方自治体・企業者の三者で分担すべきだ……82社
（ニ）分からない……0社

(5) 公害行政について現状でよいか
（イ）厚生省・通産省・建設省・運輸省等の公害指導を統一せよ……90社
（ロ）国・地方自治体の規制が不十分……85社
（ハ）国と地方自治体の行政を統一せよ…15社
（ニ）国より地方自治体の方に権限を移譲せよ…62社
（ホ）適確な行政対策・減税・国の補助必要…40社

(6) 公害罪の新設、企業の無過失責任原則について
（イ）賛　　成……20社
（ロ）反　　対……80社

以上が日本の代表的な企業 100社の社長の意見であるが、このままでは日本列島は公害列島になってしまう。

5. 公害に対する理念と姿勢について

人々が快適な生活を営むためには、何が必要か、人は誰でも、衣・食・住・環境・レジャーの快適を求めるであろう。ところがこの5つの要求はどれも公害処理に関連があり、住・環境だけを切り離して解決することはできない。すなわち端的に申せば、公害処理は物価の上昇を招き、労働者・サラリーマン・株主等の収入の

いかなる苛酷な条件にも耐えて
このすばらしい特性が
建築を守ります

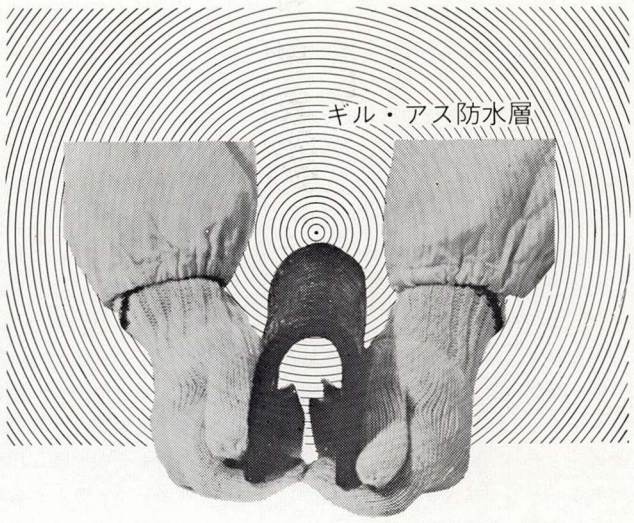
特許

強力ギルソイド・アスタイト防水

※新アスタイトの開発に成功—4種類から2種類へ—
※建築構造の多様化に即応した特殊防水仕様の採用
※建築物の大型化に備えた歩行用及び室内、地下防水仕様の強化
※強力ギルソイドー主材料として特に重点的に改良
※ベースルーフィングの採用—欧米に比べて湿気の多い我が国独自な配慮
※ギルボード採用によるインシュレーション仕様の確立



折曲げ試験に耐えきれず
に破断した一般防水層



折曲げ試験ですばらしい
柔軟性を示すギル・アス防水層

責任施工組合員名簿（西アス会員）

S．44.5 現在

近畿地方
㈱久保商店
㈱木下謹三商店
㈱井上浄夫商店
㈱大和商会
高山工業㈱大阪営業所
内外工業株式会社
旭化建工業株式会社
日本瀝青工業㈱大阪支店
石井建材株式会社
㈱中出商会
千代田建材株式会社
㈱タテバヤシ商会
田島応用化工㈱大阪営業所

東海地区
岡田建材株式会社
㈱名建商会
高橋建材店
日東物産株式会社
日東物産㈱岐阜営業所
太田建材株式会社

北陸地区
北川瀝青工業株式会社
北川瀝青工業㈱富山出張所
北川瀝青工業㈱福井出張所
㈱小島工務店

中国・四国地区
青盛建材株式会社
青盛建材㈱岡山営業所
㈲小野甚商店
㈱浜原豊商店
㈱浜原豊商店防府営業所
古市断熱工業株式会社
正和商事株式会社

九州地区
青盛建材㈱福岡営業所
高稲工業株式会社
高稲工業㈱北九州営業所
石素産業株式会社
高稲工業㈱大分出張所
高稲工業㈱熊本出張所

東日本アスファルト事業協同組合
西日本アスファルト事業協同組合

東　京・千代田区岩本町3の11の13田島応用内　TEL代表（866）6101
大　阪・大阪市西区京町堀1の74　TEL代表（441）5951
札　幌・TEL（231）8261　福　岡・TEL（28）4012
仙　台・TEL（22）6413　広　島・TEL（21）0266
名古屋・TEL（571）6361

低下を来たすことは当然である。すなわち公害防止設備費が商品の「コスト」に加味されて商品が高くなり全体として物価が上昇することは経済原則の通りである。

そこで、公害防止のための資金を誰が負担すればよいのかという問題であるが、これは国・地方自治体・企業者のいずれが単独で負担、または分担するにしても、国民としては全く同じようなことになる。すなわち税金として負担するか、物価高で負担するかの違いである。われわれ国民としては企業者に負担して貰うのが一番好ましいが、なにぶん日本の産業経済界ではまだ各企業者の自己資本率が大変低く、(欧米では50%位、日本では20%位) その80%は銀行からの借入金・社債等で運営しているので現在非常に危険な経済成長を遂げているにすぎない。

だからといって、このままで公害を放置しておくことは世論が許さない。わが国の公害は、もはや経済成長と同じ次元で論ずべき問題ではない。ことは人命にかかわる問題だ。成長も福祉も、という段階でもない。これ以上高度成長を続けても、国民の健康がむしばまれ、国民生活環境が破壊されれば、何のための成長かということになる。やはり、人間尊重・国民生活優先のために、ある程度経済成長を犠牲にしても、公害防止に全力をあげるべきではなかろうか。

公害防止の最大の責任はなんといっても、企業者にあるが国の責務も大きい。企業者に社会的責務を果させ、地方自治体や国民の協力がなければ十分な効果をあげることはできない。そこで、国や地方自治体が中心となって適切な公害行政を急速に行なうべき時期ではなかろうか。

そこで、具体的な例としては、公害防止のための設備改善費の捻出については、

○公害保険の新設
○公害債券の新設
○改善費に対する税の減免
○公害税の新設
○公害防止事業団の低利融資
○公害補償の確立
○公害に伴う医療機関の整備
○公害被害者の今後の救済方法の有り方

等の運用および事務処理の簡素化により企業者に対して親切に指導すべき時期ではなかろうか。

6. 公害対策費の概算について

ある有名な銀行の調査結果によると次の通りである。現在までの会社の総工場設備概算額は約15兆円と称せられ、その工場設備から出る公害対策費が約4兆円（産業公害対策費が 2.2兆円、地域暖房費が 0.6兆円、自動車排気ガス其の他 1.2兆円）と言われている。この4兆円という金は、ちょうど昭和44年度のG・N・P60兆円の$\frac{1}{15}$に当ること、また一方国税庁の発表予定によれば、会社の交際費が45年度には約1兆円のよし、また会社の広告宣伝費、国家財政の面からいうと食管会計費等があるが、これらは「ムダ」な費用であり、現在のわが国企業を全体としてみると、一方ではこのような大きな「ムダ」があるように思う。この「ムダ」をこそ今までの「外部不経済」つまり「ムダ」と考えられた公害対策費に回すことができたらその対策もかなり進歩するであろう。今、仮にこの「ムダ」の費用が約5兆円であるとすれば、その2割の1兆円の毎年の節約によって4ヵ年で公害を完全に防止できることになるのだが如何なものであろう。

7. 公害の追究は科学技術者の責務なり

(イ) 科学技術者の良心

科学技術者は常に新しい文明をつくる先駆者の光栄をになうが、文明の破壊者という汚名を免れないのも科学技術者である。問われるのは科学技術者の良心「モラル」の問題である。科学技術者は常に自分が担当している研究なり、製作しているものが、人類社会に対して如何に貢献しているや否やを自覚することが大切である。軍事兵器研究者が常に新しい攻撃兵器を発明すれば、直ちに防御兵器を考えるように、工場建設に際しては、生産設備・機械プラント設計の場合、如何なる公害が発生するかまたその歩留りは、いくらかということが予め分かっているのであるから、その発生原因を追求して公害を最少限度に食い止めるよう、最大の努力をすべきであり、頭の固い経営者に対しても人道上、歩留りの高い判断力（モラル上の）を持たせるよう啓蒙すべき責務がある。

とくにわれわれが心配していることは、人体をむしばむ鉛・水銀・カドミウム・B・H・C等が長く人体に蓄積されていくということで、それらの毒物が一世から二世、三世へと伝わるということである。生物・人類を滅ぼすのは何も核戦争だけではないということを銘記すべきである。

(ロ) 公害防除研究について

最近の新聞紙上によれば、公害防除産業会社の株が急上昇しているようであるが、これらの会社の研究部門の方々や国・公立の研究所の方々にも下記の調査研究をお願い致したい。

○重油脱硫装置
○排気ガス脱硫装置
○集じん・排気ガス浄化装置
○電気自動車（乾電池用）、超高煙突設計
○水質汚濁防止ろ過装置
○油水分離、排水処理装置
○水質処理剤
○下水・し尿処理、ゴミ焼却装置
○塩化ビニール材の廃棄物の無毒化焼却器等

最後に一言しておきたいことは、公害問題はすべて企業責任だということでなしに、国・地方自治体・国民・企業の四者が一体となって、この世界的な公害問題の処理に邁進すべき時期であるということである。

□労働者にたいするアピール　－われわれの公害綱領－

青空とみどりを取り返し、府民の生命とくらしを守る　大阪大集会

現代日本の公害は、いまや怪物となった。公害を怪物にさせたのは、政府や自治体が適切な法律や条令をつくらず、加害者を放任し野党や労働組合がたち上らず日和見だったからである。公害をうみだしている工場生産現場を具体的にチェックする、みるべき職場闘争はなかった。

過去10年間4.5倍の高度成長をとげた日本経済は、このテンポではこれからの10年で3～4倍になろう。いまでも国土のひろさにくらべ工場の密度は、日本はアメリカの10倍というから公害対策をおこたるなら日本列島はとおからず「死の国」となる。いわゆる公害、とりわけ産業公害は犯罪である。だから当然「公害罪」として企業責任は告発されなければならない。企業の公害対策に国民の税金をつかってはならず、国や自治体の公害対策費は企業からさらに税金をとりたててあてるべきである。公害を口実にもうけをたくらむ加害企業などはとうぜん糾弾バクロするべきである。

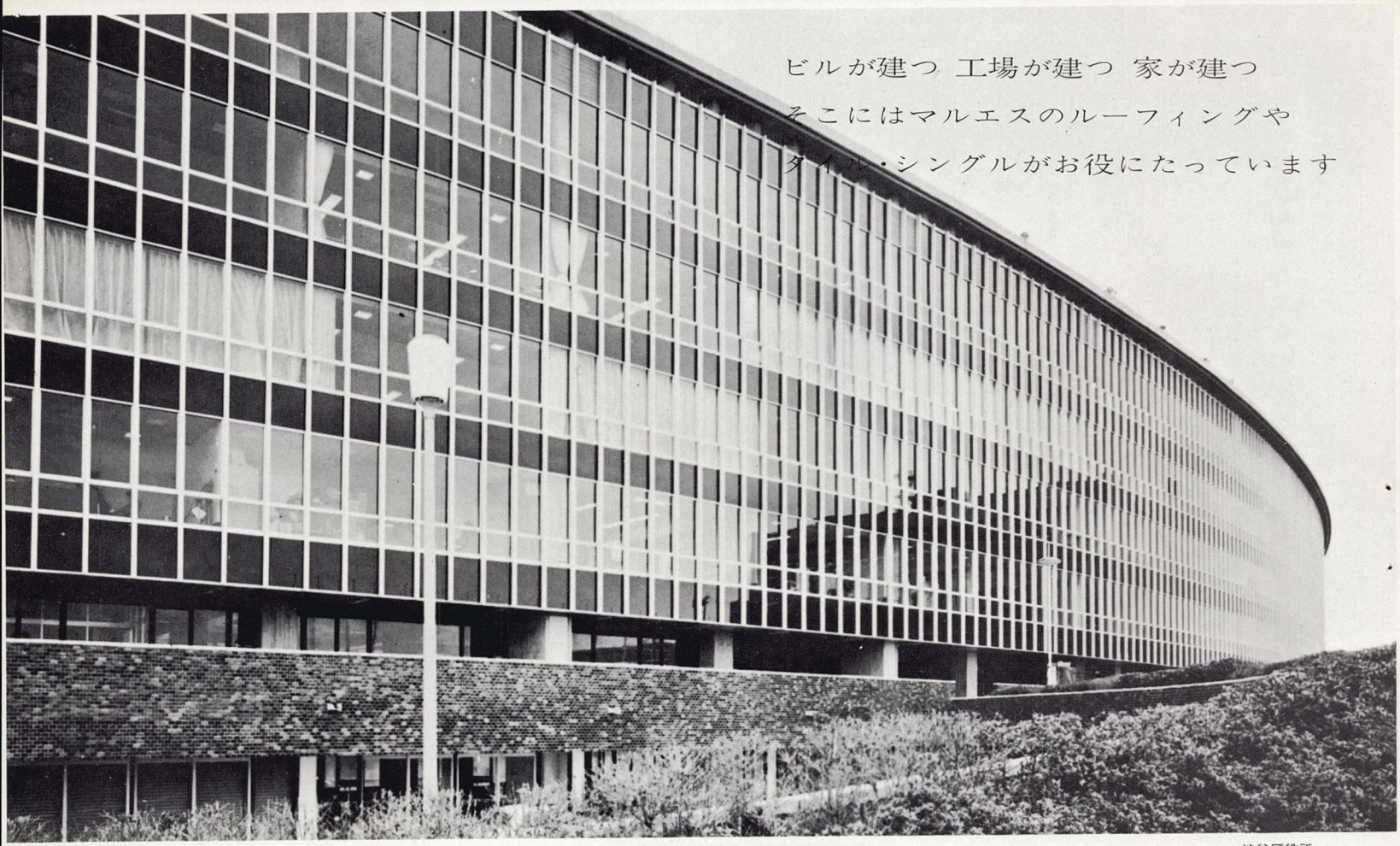
加害企業といっしょになっている政府の「1億総責任論」にだまされてはならない。労働者こそ職場で労働災害、産業公害をあび、地域にかえってまた産業公害、都市公害をうけ三重の公害をうける最大の犠牲者である。このことをあきらかにし、企業の責任を追求しなければ国民から労働組合は企業に加担する加害者とされる。労働者の公害追放へのとりくみの中心は職場におけるたたかいである。労働災害や職業病絶滅など生命と健康、安全をめざす職場環境、労働条件の改善のたたかいがそれである。これからのたたかいは、労働組合の自発的な職場点検、調査による具体的改善要求として経営者にだし、労働組合は団体交渉をつうじて解決をせまる。団交で解決しなければストライキで対抗するのは当然である。公害問題の解決は労使の協議によるあまいはなしあいで解決するとはおもえない。労組がこのようなかんがえにたつならそれは資本の免罪に手をかすことになるだろう。公害では特に経営責任を団交で追究する専門知識が不足している。また職場の安全衛生についても専門知識が不足しているし、日常的に点検監視するためにも高い知識を必要とする。労働者のなかから専門知識をもつ指導者を安全大学で育成し、全職場に配置し、安全センターを労学共同体制でつよめもりたてなければならない。われわれ労働者は、みずからの生命を守り、人間をとりかえすために公害絶滅をめざす。まず職場からたたかいをはじめ、おなじ災害に苦しむ住民とも共同する。現代日本の公害は、重税や高物価、高い負担をおしつけるだけで世界にたちおくれている社会保障制度などとともに、資本主義経済の落し子である。これらは人のしあわせより資本の利益を優先させる政府、独占資本主義に根源がある。だからその解決は、当面は具体的改善をつみあげつつ、所詮「資本の利益より国民の生命」を優先させるたたかいに発展しないかぎり、労働者の任務は果せない。

現代日本の公害をふくむ「生命とくらしを守る運動」を反独占のたたかいとよぶ。だからなによりも大切なことは、まず最大の被災者である労働者が、なん人も異論のない「生命の尊厳」の問題で、いきがかりにこだわらず団結しよう。

先進的な階級である労働者が総結集し、国民とともに政府、地方自治体、独占資本にせまってこそ、生命やくらしの保証ができる。生存権の侵害から生命をまもり、健康な生活環境をつくるため、労働者の総結集とたたかいへの参加をよびかける。われわれもまたそのために、ねばり強く誠実に努力することをちかう。

1970年11月29日

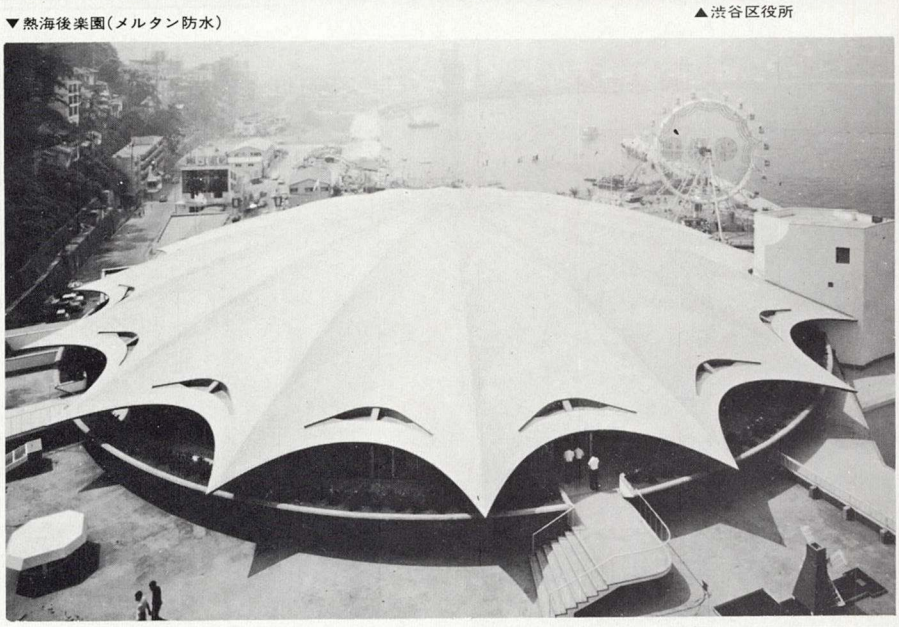
日本労働組合総評議会　大阪地方評議会



ビルが建つ 工場が建つ 家が建つ
そこにはマルエスのルーフィングや
タイル・シングルがお役にたっています

▲渋谷区役所

▼熱海後楽園（メルタン防水）



- ウエルドルーフィング
- SPウエルドルーフィング
- SPビニロンルーフィング
- NS防水（ネオプレン＋ハイパロン）
- NPシート2号（EPT＋ブチル）
- マルエスBPシングル



▲裁判所書記官研修所（NS防水）

マルエス 日新

日新工業株式会社

本　社：東京都足立区千住東2－21－28　TEL (03) 882－2424
大阪支店：大阪市東淀川区瑞光通4－30－2　TEL (06) 329－7737
営業所：札　幌・山　形・東　京・名古屋・広　島・九　州

建築と社会
ニュース

ニュース原稿をお送りください。

■日本建築家協会第1回大会

日本建築家協会は、さる11月13日、14日の2日間、京都市福祉会館で日本建築家協会第1回大会を開いた。はじめての試みで、会員連帯の手がかりをみつけ、それを協会の運動の指針とし、また職能団体として存在、意見を表明する機会を得ることを目的に催された。大会参加者は本部 107名、関西52名、東海29名、九州13名、計207名であった。

大会は「プロフェッション」を統一テーマに、さらにそれが、「職能」「行政」「教育」「公害」の4つのテーマに分けられ討議され、総括も行なわれた。そして大会宣言が採決された。その間、RIBA、AIA、USSRのそれぞれの会長からのメッセージも報告された。

大会終了後京都岡崎つる家で懇親宴会を開催、出席者160余名を数え、関西支部会員坂内幾男氏の司会で終始なごやかに歓談、9時盛会裡に宴をとじた。

14日の見学会には、京都御所コース参加者37名、住友有芳園西館コース62名、何れもバスで赴き正午まで参観、後散会した。

なおゴルフ競技には20名が参加、城陽CCで10時スタート、18ホールSPで開始され、終日妙技が展開され無事終了した。

大会宣言

日本建築家協会第1回大会に参集したわれわれ会員は、1970年代において、われわれ建築家の職能が果すべき役割を追求すべく、建築家と職能・行政・教育・公害等とのかかわりについて討議し、次のように確認した。

1. 建築家の職能の背景であり国民の社会的要求の反映であるべき行政が、その法体系全般を含めて甚だ不満足な状態にあること。
   したがって、われわれは、社会的要求を十分に反映する建築行政のあり方を、建築法制審議会設置等の提案を通じて追求することが必要である。
1. 次代の建築家を育成すべき教育が、いまだに技術中心に偏し、人間的側面の欠落において極めて憂慮すべき情況にあること。
   それに対し、われわれは、建築家とは何かということを再び問いかえし、その土にたって今後の教育のあり方について積極的に提案していくべきである。
3. 生命を守るという観点においてようやく関心のたかまった公害問題では、良好な環境を創出すべきわれわれ建築家が、しばしば結果において加害者的役割を果してしまっていること。
   それに対して、その根底にある現代文明の深い病根を認識した上で、建築家の役割の可能性について検証をくり返しながら業務を行なうことが絶対に必要である。
4. 一方、その根底において、われわれの職能が、国民的基盤を欠いて社会的定着を見ず、まだ確立されていない情況にあることが最も重要な一点であり、これに対し、当面とりかからなければならないこととして建築設計監理業務法並びに建築設計監理法人の問題をまずわれわれのものとし、その推進を対社会的にはかっていくことから始めるべきである。

われわれは、これらの討議と確認の上にたって現代の諸情況の責任をいたずらに他に転嫁するのみではなく、1人1人が高度の自律性を持つと同時に、豊かな生活環境を目指す社会的要求に応えるべき職能団体としての役割を自覚し、建築家の職能確立にむけて積極的に行動することをここに宣言する。

1970年11月13日

日本建築家協会　第1回京都大会

■第11回関西都市住宅会議開催

第11回関西都市住宅会議(大阪建設業協会、大阪市街地再開発促進協議会、大阪住宅建設促進協議会、社団法人大阪府建築士会、社団法人日本建築協会、社団法人日本建築材料協会、日本建築家協会関西支部、日本建築学会近畿支部主催、朝日新聞社後援)が10月20日(金)の午後1時から5時まで、朝日生命ホールにて行なわれた。

テーマは「地価安定策を探る」講師は

芝川　敦氏（住友信託銀行不動産部長）

城　宏明氏（建設省計画局宅地政策課長補佐）

浜崎則雄氏（朝日新聞大阪本社論説副主幹）

早川和男氏（建設省建築研究所住宅計画研究室長）

三村浩史氏（京都大学助教授）の5氏。

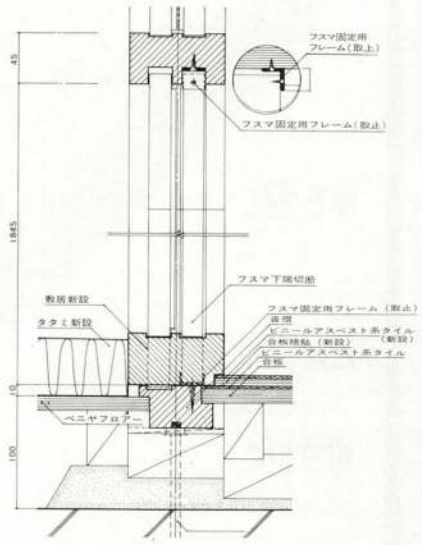
内容は、最近、住宅建設を阻害する大きな要因となっている、地価問題について、建設省の立場、民間不動産のディベロッパーの立場、評論家の立場、学界の立場とそれぞれの立場から、つっこんで検討し、今後の方向を探ろうとしたものであった。上記のエキスパートの方によるパネルディスカッションと質疑応答が行なわれた。参加者約200 名で熱心に聴講された。



■万博外人用宿舎を住宅に転用

日本住宅公団は万博協会の依頼を受け、各パビリオンに勤務する外人用宿舎として新千里東町団地（1DK338戸、2DK148戸、3DK 392戸)、および千里竹見台高層団地（1DK 224戸、2DK 218戸）を提供した。新千里東町団地については計画当初より、万博期間中は外人用宿舎として使用し、万博終了後は公団賃貸住宅に改修するよう計画されていたので、万博終了後計画通り賃貸住宅として使用出来るように改修の手が加えられた。その内容については表において紹介する。千里竹見台高層団地については建設途中において依頼があり、その時点ではすでに変更が不可能であったので、そのままで外人用宿舎にされていた。

万博協会がカーペット、ベッドを設置しただけなのでこの団地の場合は内装の補修程度である。



台所・居室・引違戸廻り詳細

No.	項　　目	公団賃貸住宅	新千里東町団地外人用宿舎	備　　考	公団賃貸住宅にする為の改修内容
1	就寝室	畳、一部ベニヤフロアー	ベニヤフロアー	万博協会がカーペット、ベッドを設置した	畳、一部ベニヤフロアー
2	押　入	中　棚	中棚ナシ ハンガーパイプ	洋服ダンスとしての機能を持たせた但し扉はフスマ	ハンガーパイプを取止めて中棚新設
3	フスマ（就寝室とDKの間仕切）	引違い	一部固定（固定パーティションとして使用）	ランマ部分は引違い	引違い、フスマの高さ調整
4	敷　居（就寝室とDKの間仕切部分）	2本引	沓摺のみ取付	項目No.3の関係で引違い溝1本入れ	沓摺の上に2本引の敷居新設
5	浴室及洗面所	風呂釜はBF釜 洗面所は給湯ナシ	風呂釜はBF釜 浴槽、洗面所は給湯方式		風呂釜はBF釜 浴槽、洗面所は給湯方式

すぐれた居住性を創造する

軽量気泡コンクリート

シポレックス

SIPOREX



軽量

比重0.5

コンクリート¼の重量

断熱

コンクリートの10倍の断熱性

耐火

法定耐火材料

ダイキン工業(株)滋賀工場
設計　株式会社　日建設計
施工　(株)大林組、鹿島建設(株)
　　(株)竹中工務店　　JV
使用場所　ヤネ・カベ

◆シポレックスは工場、住宅から超高層ビルまであらゆる建物の屋根・床・壁・間仕切・耐火被覆に使用されますが次の建物には特に最適です。

1　工期短縮を要するすべての建物
2　空調を要する工場・倉庫事務所住宅等
3　鉄骨大張間の工場・体育館等
4　軽量化を要する高層建築物・軟弱地盤の建物
5　鉄骨耐火構造の建物

シポレックス販売株式会社

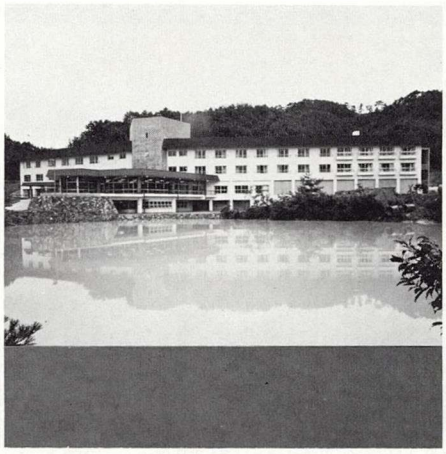
本社・東京支店　東京都千代田区神田司町２－６(平沼ビル)
　　電話　東　京　(256)代表３　４　５　１
大　阪　支　店　大阪市西区立売堀北通１－90(第三富士ビル)
　　電話　大　阪　(538)代表０　５　２　１
名古屋支店　名古屋市中村区広小路西通３－２(大商ビル)
　　電話　名古屋　(581)代表７　４　２　１

□ 写真と概要をどしどしお送りください。
凡例：a．所在地　b．建築面積　c．延面積　d．構造規模　e．工　期



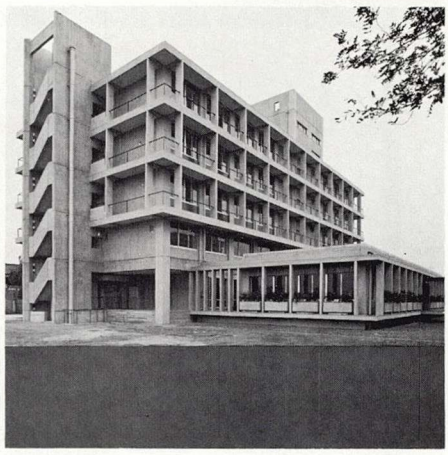
613．大阪府立勤労者憩の家(みのお山荘)

設計：KK 久米建築事務所
施工：三　井　建　設　KK
a．大阪府箕面市箕面４
b．1,551.62m²
c．2,804,61m²
d．RC造、B１、２F
e．昭和44年６月～昭和45年７月



614．尼崎市立〝高原ロッヂ〟

設計：山下寿郎設計事務所
施工：阪　神　土　木　KK
a．兵庫県川辺郡猪名川町笹尾
b．1,231.62m²
c．3,602.07m²
d．RC造、B１、３F
e．昭和44年11月～昭和45年８月



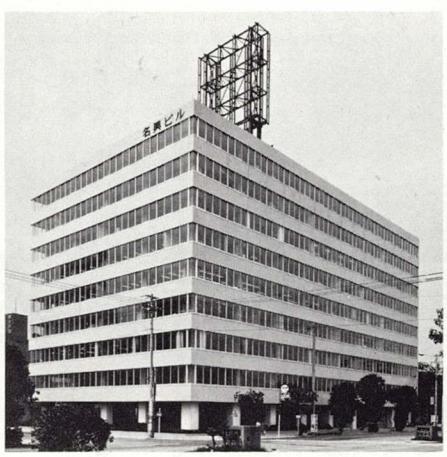
615．大阪府科学教育センター

設計：大阪府建築部、KK泉設計事務所
施工：大　日　本　土　木　KK
a．大阪市住吉区苅田町４丁目
b．955m²
c．4,586m²
d．RC造、B１、５F
e．昭和44年６月～昭和45年８月



616．四　国　新　聞　社

設計：KK凡建築設計事務所
施工：KK　大　林　組
a．香川県高松市中野15の１
b．1,027.83m²
c．8,443.13m²
d．RC造、B１、８F、PH２
e．昭和44年６月～昭和45年９月



617．名　興　ビ　ル

設計：KK 日本設計事務所
施工：KK　大　林　組
a．名古屋市中区錦１－17－13
b．1,563.15m²
c．16,660.87m²
d．SRC造、B２、９F、PH２
e．昭和44年３月～昭和45年７月



618．大一新淀機械ＫＫ本社屋

設計：KK 昭和設計事務所
施工：KK　鴻　池　組
a．大阪市西淀川区御幣島中2-37-2
b．362m²
c．1,531m²
d．RC造、４F、PH１
e．昭和44年10月～昭和45年６月



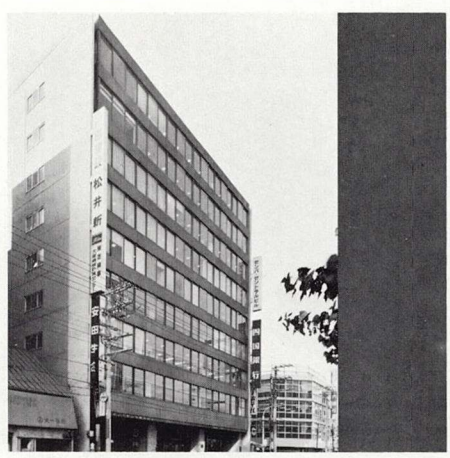
619．プリンセス・カイウラニ・タワーホテル

設計：Rochring Onodera & Kinder, Inc. KK 大林組協同
施工：KK　大　林　組
a．U.S.Aハワイ州ホノルル市
c．42,024m²
d．RC造、B１、28F
e．昭和43年１月～昭和45年11月



620．竹　内　小　児　科　医　院

設計：松浦構造設計事務所
施工：北　村　工　務　店
a．神戸市灘区八幡町2丁目1の29
b．89.84m²
c．245.89m²
d．RC造、３F、PH１
e．昭和45年３月～昭和45年９月



621．センバセントラルビル

設計：山下寿郎設計事務所
施工：戸　田　建　設　KK
a．大阪市東区本町３丁目25
b．1,245.40m²
c．14,058.26m²
d．地下部分RC造
地上階S造、B２、９F
e．昭和42年12月～昭和44年８月



新時代の建築をリードする!!

ダイケンサッシのDR-60

レディーメード・アルミサッシ

■耐風圧強度　風圧200㎏/㎡の大型台風にもビクともしません。

■気密性　すぐれた気密性を持ち、遮音暖冷房負荷にも好結果をもたらします。

■割安の低価格　枠見込70㎜にまさるとも劣らない高性能を持ち、しかもお値段がグーンと低いお買い得サッシです。

JIS表示許可工場／KJA認定工場

ダイケンサッシ株式会社

■本社・工場　堺市松屋町1-6　TEL.0722(38)1141大代表



クラスメート

68　〔京都大学　昭和17年入学〕

われら、戦中派の中の戦中派、あたかも太平洋戦争の発生から終末迄の、あの異常な歴史的斜面の上で〈建築〉にひたむきな情熱を燃やした仲間である。われらが〈真素木会〉は世上よくある、卒業に当っての同期を意味するものではない。今からすれば少々アナクロじみてはいるが、当時の状況下で新日本の建築めざす建築学徒の同志的結束を求める、いわばかの〈楯の会〉の如きものであった。その同志的結束も、その後の四半世紀の間にウタカタの如く、むしろ他の同期会の現状などとはウラハラに、文字通り〈有名無実〉なものに転落してしまった。卒業後のこの長い年月の間にやった会合は何とただの一回きり。たまたま他から与えられた今回のチャンスが第二回目の集まりとはなった。もとより背景としてのあの狂瀾怒濤の時代にふさわしく、さなきだに数少いわが真素木会のメンバーのその後の動勢はサンタンたる荒れよう。戦死一、病死二、事故死一、行方不明一、といった有様で、残るわずかな人数が更に東西に大きく二分され今日集まった関西勢はオール出席で僅かに六名。しかもその中まともに卒業したもの半数で、富家君と向井君は軍に召集されて一年おくれ、石原君は病気で二年おくれるといったていたらく。

それでもともかく、こうして集まると、やはり昔の同志的気分がそこはかとなく甦えって来てお互いたのもしい気分になるのは妙なものだ。中年太りか、カンロクか何か知らないが、ちょっと見たらどこのオッサンかいなと間違うような面がまえ。自分の顔に責任を持たねばならぬ年頃とはなったが、みんなそれぞれようやってる。まじめで秀才肌の**石田君**は大竹中の番頭として、〈脱建築的〉な大事業に打込んでいる反面で、今なお構造学においても秀れた業績をあげつゝあるし、これもまたまじめで秀才肌だった**石原君**は、今や本邦屈指の環境工学の権威——風の神様——として〈人間的〉にもグンと巾をまし、夜の世界でも昼に劣らぬ実力を身につけたもよう。学生時代〈指導者〉として自他共に許した**富家君**は、今や関西の建築界では誰知らぬものもない顔役。技術者にはめずらしい器量人だが、意外に繊細な趣味をもつ芸術家でもあり、人情の機微に通じた粋人である事は有名。ヨコハマで有名な中村順平先生からフランス仕込のボザール式建築教育を叩きこまれた**浜田君**は誠実勤直の人、従兄にあたる恩師森田慶一教授との血の連りとは別に、建築におけるフランス的エスプリの上でも一脈相通ずるところのあるゼントルマン。その彼の酒豪としての半面は知る人ぞ知るである。**真鍋君**はここでは唯一人の社長さん。学生時代から竹を割ったような爽やかな気性と鋭い頭脳の直言居士。今も昔のまゝのイキのよさだが、大棚橋先生の片腕として、設計と施工の両面で、学問と経験の蓄積をフルに活用して行く点で将来の大を期待される逸材である。元来がフリー・アーキテクト志望だった**向井君**は戦死だけはまぬがれたが、戦傷で建築的人生コースのレールを乗り違え、最も不得手で柄にもないセンセ稼業をやりながら河内の陋屋でヒニクの嘆をかこっている。

（向井記）

左より（敬称略）
向井　正也
（神戸大学）
石田　　正
（竹中工務店）
真鍋　恒憲
（日新ビルダーズ）
富家　宏泰
（富家建築事務所）
石原　正雄
（京都工芸繊維大学）
浜田　重朗
（小笠原・浜田建築事務所）

京都・鴨川の川原にて　昭和45年11月29日



日進式ボード下地天井
日進式遮音パーティション

軽量・強度・耐火・耐震・遮音・合理的施工法

天井・間仕切・アルミニウムのことなら 何でも ご相談下さい

株式会社 奥村重兵衛商店

大阪市北区木幡町60　電話大　阪 (364)4131
福岡市住吉松月町293　電話福　岡 (29)0459
東京都太田区南馬込4－1－18　電話東　京 (772)7856
名古屋市中村区志摩町4の7　電話名古屋 (551)3013

眼 けんちくのめ・けんちくのめ・けんちくのめ・けんちくのめ
眼
眼
眼

福田朝生
KK双星社竹腰建築事務所代表取締役
堯天義久
神戸大学教授・工博
宮脇和正
大阪府建築部長
安田誠一
安田レールKK会長

眼 けんちくのめ・けんちくのめ・けんちくのめ・けんちくのめ
眼
眼
眼

〔一月号より六月号まで上記四氏で担当〕

●建築確認士

昨年来建築基準法の改正が行なわれ引続き政令、規則等の改正へと作業が進められている。一方では建築確認事務の省力化を目ざして、不適合部分の処理についてなかなか厳しい通達が出され、各都道府県や特定行政庁でも今年から漸次実施に移される様子で、建築士にとっては甚だ不本意ながら多難な年になりそうである。

建築基準法は法律ではないという議論もあるそうだが、それはともかくとしてこのように複雑な、理解しにくい法律が現に施行されている以上、原則論ばかりを唱えていては第一業務が停滞するばかりで三文の得にもなりそうにない。

そこで建築確認申請を業とする建築確認士という制度をつくってはどうか。どんな建物もこの確認士の資格のある人の手を経なければお役所でも受け付けないということにして置けば、お役所の事務の省力化にもなるだろうし、建築士にとっても煩さな手間が省けて、本来のもっと大切な仕事にエネルギーを費やすことができるのではないだろうか。被害者である建築士のみなさんの賛同を得たいと思います。

（F）

●ベストセラー「建築の眼」？

「建築と社会」に「建築の眼」の欄が設けられてから、かれこれ5年以上は経っているように思う。建築界の各方面の人達が自由なテーマで分担執筆してきた。建築関係の小コラムとしてユニークなものであろう。建築各方面をシッタゲキレイした文あり、寸言人の肺腑を刺す苦言を呈したものあり、創意工夫、抱負、希望を述べたものあり、それは建築の各分野に渉り多種多様である。なかには、小生のごとき駄文もあり、また言葉のたらぬ短文の宿命か、文章の意味が不明瞭であったり、主張が誤解されたりして、時には「建築の斜眼」とか「建築のあき眼くら」とかの酷評をうけたこともなきにしもあらずだった。が、いずれにしても時代の建築家の抱いている思想の片鱗と志向するところが伺われようというものである。

そこで提案あり。10年毎位で小冊子「建築の眼」の出版はいかが？ 10年で執筆者は80人、短文は480篇に及ぶ。そのうちの珠玉のごとき輝きをもつ短文をえらび、系統的に配し少々の解説とイラストを添えれば、建築関係者、学生はもちろん一般の興味をそそるに充分の小冊子となり得てベストセラーになることうけあいである。少なくとも、このコラムの年代的総括の好小冊子とはなろう。

（G）

●親しみ

詩人立原道造が建築学科に学んでいたことは、ずっと以前、堀辰雄を読んでいるうちに知った。夭折したこの詩人のことは、そのいくつかの詩と堀辰雄の書いたものを通じて僅かに知っているだけである。名簿を見ると、職場で知った二三の先輩・Tさん、SさんそしてKさんが同期の人である。このことは先輩の方々には殊更話したことはないが、この事だけで私はひそかに先輩の方々に親しみを感じているのである。

もう大学に学ぶ以前に詩人になっていたこの人が、建築を学んだということは、私にとって何故か心の安らぎを覚えさせるのである。最近といっても、もう一昨年だが出版された立原道造全集を見ると、この人は夥しい手紙を書いている。若さが、結果から言えば短命さが、一生懸命そうさせたのであろうが、見開きの写真とともに、人なつっこさを感じさせる。この冬は炬燵の中で、この全集でもゆっくり読んで見たいものである。

詩集のはじめの方に《魚の話》というのがある。深海の魚が死んで空の星になった話である。私の俳句なぞその引合に出すのは、誠におこがましいが許していただいて

凍て池に立ちいて魚の話しせり

（M）

●年頭の辞

1971年亥年の新年を迎えまして、おめでとうございます。

70年代の幕開けは万国博で、日本は名実ともに世界の日本になり、大阪は一躍世界の大阪になりました。正にPRの年でした。

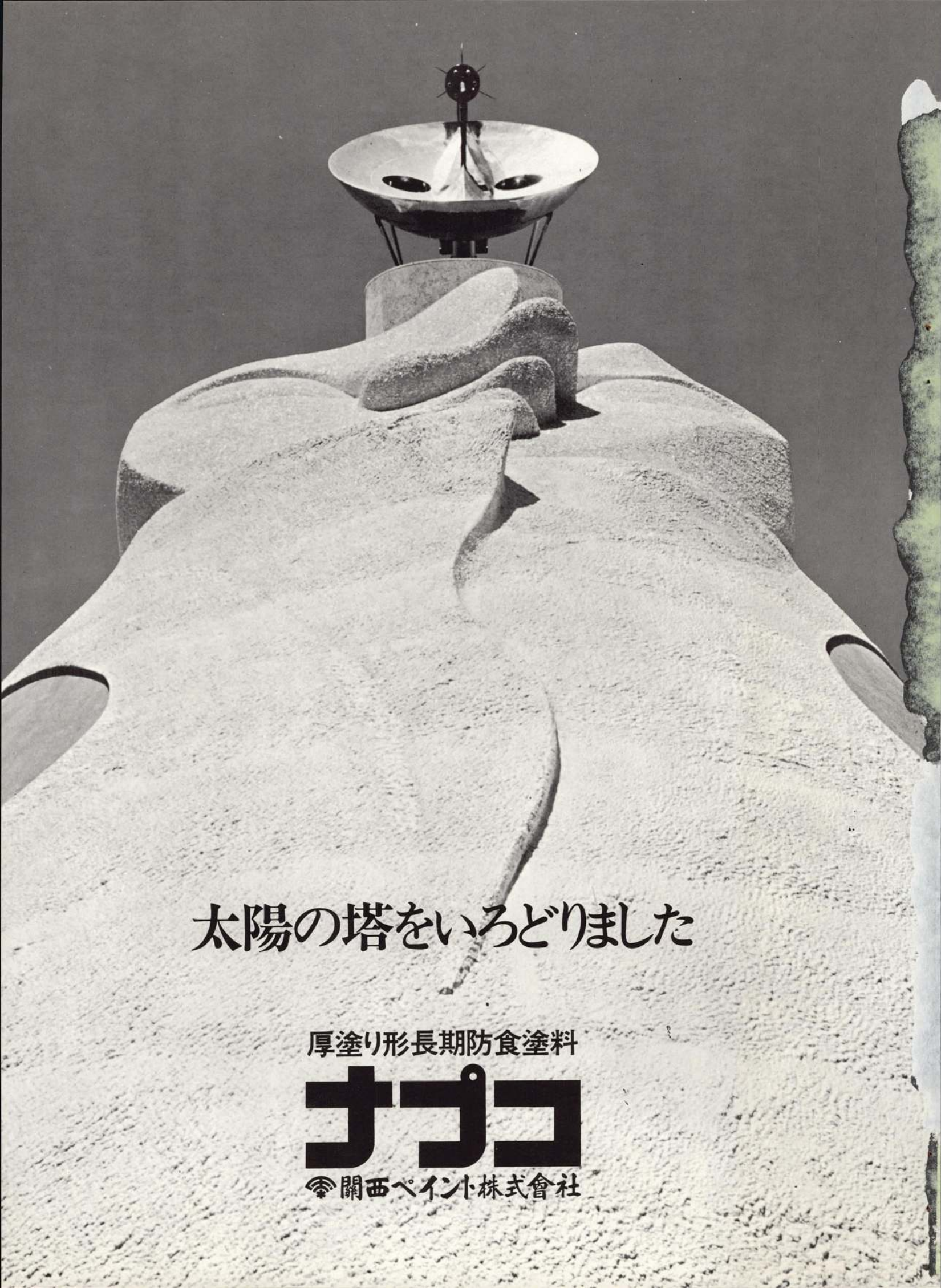
71年は、実行の年、根性の年でありたいと思います。どんなよい企画をしても、どんなよいアイデアでも、実行力がなかったら、宝の持ちぐされです。私自身なかなか実行が伴いませんが、よい事は実行する根性を持ちたいと思います。

近年プラント輸出で、日本の建設業も海外へ進出し始めていますが、この好機を逸せず、建設に、建築に、日本の技術を世界に広めていただきたいと思います。

和を貴ぶ日本人・誠実な日本人・努力の日本人・親切な日本人・感謝の日本人

誇りある日本人として、喜びのある建設を、喜びのある建築を。信用は積み重ねです。永遠に栄える日本を念願いたしまして、年頭の辞といたします。

（Y）



太陽の塔をいろどりました

厚塗り形長期防食塗料

ナプコ

関西ペイント株式會社

建築と社会

The Architectural Association of Japan

住宅—60年代の総括と
70年代の展望

1971年 Vol. 52 1

年頭のことば ……東畑 謙三… 1
昭和45年度中に竣工した新建築…… 2
本年の抱負 ……日本建築協会常設委員会… 24
会告 会員の受章・実務に直結した建築工事説明会（第一回）「住宅のユニットシステム」について・会員名簿発行遅延についてお詫び・ニチモ甲子園第6コーポラス新築工事の見学会・ナショナルの住宅設備機器工場とショウルームの見学会・清酒白雪の新社屋と四季醸造工場の見学会・若い会員の集い …… 29
法令コーナー41. 法令解説 法令改正について……大阪市建築部審査課長 竹口 信夫… 49
読者の頁 「自然と人間」その雑感（M）・公害の追求は科学技術者の責務なり（加藤雄三郎）・労働者に対するアピール…… 51
建築と社会ニュース 日本建築家協会第一回大会・第11回関西都市住宅会議開催・万博外人用宿舎を住宅に転用…… 57
スケッチブック 最近竣工した新建築9点（№613〜621）…… 59
クラスメート68. 京大 昭和17年入学…… 61
（富家宏泰・石原正雄・向井正也・浜田重朗ほか2名）
建築の眼 担当：福田朝生（建築確認士）堯天義久（ベストセラー「建築の眼」？）宮脇和正（親しみ）安田誠一（年頭の辞）…… 63
海外写真 ソ連の街と人1……写真と文 松井 昭光… 67
コンクール 第16回工高生デザインコンクール入選作（設計課題 セカンドハウス）…… 68

特集 ＝ 住宅—60年代の総括と70年代の展望

住まいの本質……西沢 文隆… 72
住宅設計の基本……東 孝光… 73
「合理」より「非合理」へ ……山崎 泰孝… 74
住宅コンペの動向……馬場 璋造… 75
住宅産業……東方 洋雄… 76
70年代の住宅生産……石原仲次郎… 77
小施工のルポ—大工組織の変化……大垣 直明… 78
マンションの展望とビラシリース……石田 鑑三… 79
70年代の住宅と宅地……田谷 武… 80
住まいの総合開発組織……加藤 善也… 81
需要者と住宅選択……三谷真喜子… 82
コンピューターを利用した住宅相談……石村 勇二… 83
「求めよさらば開かれん」「求めよされど開かれん」……田中 恒子… 84
70年代へのリーダーシップ……塚本 正司… 85
都市政策の「松・竹・梅」—住みよい住宅と生活環境の値ぶみ—……三村 浩史… 86
住宅はもう建築ではない……村松貞次郎… 87
住宅—60年代の総括と70年代の展望……室崎 益輝… 88
60年代を代表する独立住宅平面図

戦後の建築運動史6 V 社会と建築のつながり(1)……N A C… 89
技術の頁 101. 構造部門 これからのテント構造……磯野 義人… 93
日本万国博跡地開発計画 13. ……TEAM BARK… 96
月報 日本建築協会月間の動き（昭和45年11月分）…… 99

編集人 松井 昭光
印刷 昭和46年1月20日
発行 昭和46年1月25日
発行人 福中 定三郎
発行所 (社)日本建築協会
大阪市東区北浜3—37
電 大阪231—9648
振替口座 大阪39975
印刷者 網野 栄
印刷所 (株)研文社
大阪市北区堂山町66
電 大阪361—2091
売価 1部 300円・送料共

表紙デザイン：表紙デザイン小委員会 & 山元清重

KENTIKU TO SHAKAI No.1 Vol. 52, January 1971

(Architecture and Society)

A Journal of "The Architectural Association of Japan"

Cover design: K. Yamamoto

Editor: *Akimitsu Matsui*
Publisher: *Teisaburo Fukunaka*
Published by
The Architectural Association of Japan.
37, 3-chome, Kitahama, Higashi-ku, Osaka, Japan.
Price: *single copy price ¥300*

CONTENTS

New Year's wording	1	by *Kenzo Tohata*
New Buildings completed in 1970	2	
This Year's Aspiration by the Standing Committees of The Architectural Association of Japan	24	
Column for Laws & Ordinances about Architecture	49	
Column for Readers	51	
News for Architecture and Society	57	
Column of New Buildings	59	
Class-mates	61	
Essayes ("Kentiku no Me")	63	by *Asao Fukuda, Yoshihisa Gyoten, Kazumasa Miyawaki, & Seiichi Yasuda*
Photograph: Town and people of U.S.S.R	67	Photo: *Akimitsu Matsui*
Accepted plan of Technical High School Student's Design Competition	68	
SPECIAL FEATURES ON RESIDENCE–SUMMARY OF 60'S AND OBSERVATION TO THE '70'S		
Substance of a Residence	72	by *Fumitaka Nishizawa*
Fundamental of Housing Design	73	by *Takamitsu Azuma*
From "Rationality" to "Unrationality"	74	by *Yasutaka Yamazaki*
Trend of Housing Design Competition	75	by *Shozo Baba*
Housing Industry	76	by *Yoshio Higashikata*
Housing Production in the '70.	77	by *Nakaziro Ishihara*
Report on Small Scale Construction and Changes on Carpenter's Organization	78	by *Naoaki Oogaki*
Observation of Mansion and Villa Series	79	by *Kanzo Ishida*
Housing and Land in the 70's	80	by *Takeshi Taya*
Integrated Development Form of Housing	81	by *Yoshiya Kato*
Consumer and Housing Selection	82	by *Makiko Mitani*
Housing Consultation Utilizing Computer	83	by *Yuji Ishimura*
"Search will Lead to Success" "Search, however will not Lead to Success"	84	by *Tsuneko Tanaka*
Leadership to the 70's	85	by *Masashi Tsukamoto*
"Menu" of Urban Policy-Better Living and Valuation of City Environment	86	by *Hiroshi Mimura*
Housing is no longer a Architecture	87	by *Teijiro Muramatsu*
Residence-Summary of '60's and Observation to the '70's	88	by *Masuteru Murozaki*
Representative Housing Plan of the 60's		
History of Postwar Architects and Engineers Movement —6—	89	by *NAC*
COLUMN OF ENGINEERING		
101. Tent Structure in the Future	93	by *Yoshito Isono*
Redevelopment of Expo '70 Site (13)	96	by *TEAM BARK*
BULLETIN	29, 99	

海外写真

写真と文
松井昭光

ソ連の街と人

1

キエフはよい都だ。モスクワやレニングラードとくらべると、色でいえば、全体としてオレンジの感じがする。そのオレンジ色の明るさのなかにあって、なお、こういう丘陵を何年かかかって、石造りの見事な構成にまとめあげてきたのはしぶいというほかはない。カッフェ・グロートとは洞窟喫茶ともいうべきもの。開店前の一コマである。



第16回工高生デザインコンクール入選作品

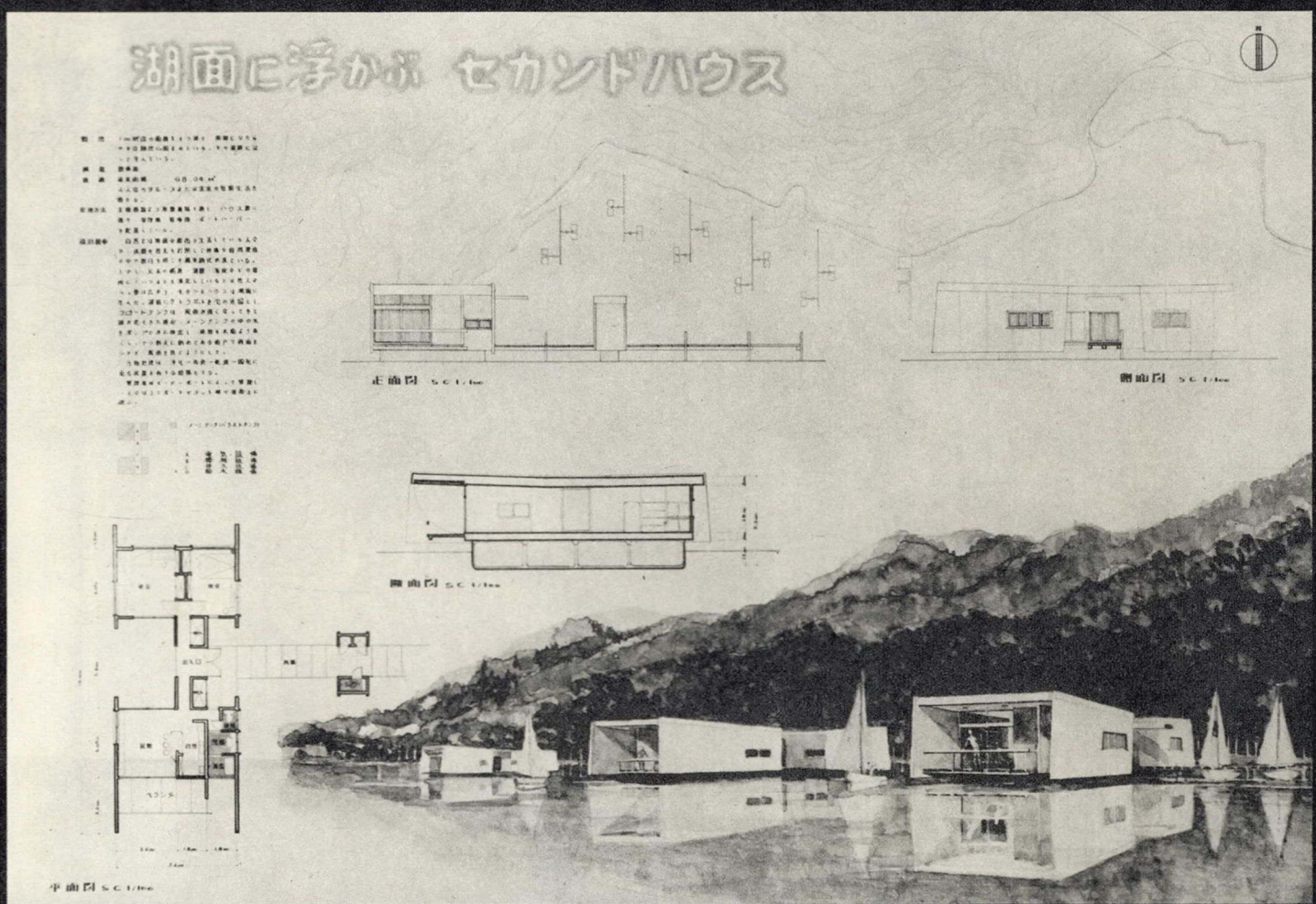
設計課題：セカンドハウス
主　　催：日本建築協会

総評

「建築の設計は住宅にはじまり住宅に終る」というようなことがいわれる。まことに現在を先取りしてきた近代の建築の巨匠達は、ほとんどが若い年代で「住宅建築家」とよばれてきた人達であった。住宅の設計には所謂デザインやエンジニヤリングの技術的な問題だけでなく、設計者の生活態度や人柄や哲学がにじみでてくる。人間を大切にする気持が、こまごましたディテールに至るまでの細心の努力を換起するのである。
現代の巨大都市の再開発・再構成を考えてみても、そこにできる住宅像は「人間性の回復」をめざすこれからの生活を完全に充足するとは思われない。したがって余暇空間としての「セカンド・ハウス」がテーマになりうるのである。この点コンペの全作品を通じてテーマの追及が不足しているように思われた。ただし入選された作品はさすがに作者の生活イメージが感じられるもので、特に最優秀作品にその感が強い。無理に気取った、みてくれのファーサードほど嫌気なものはない。　（上林博雄）

審査経過

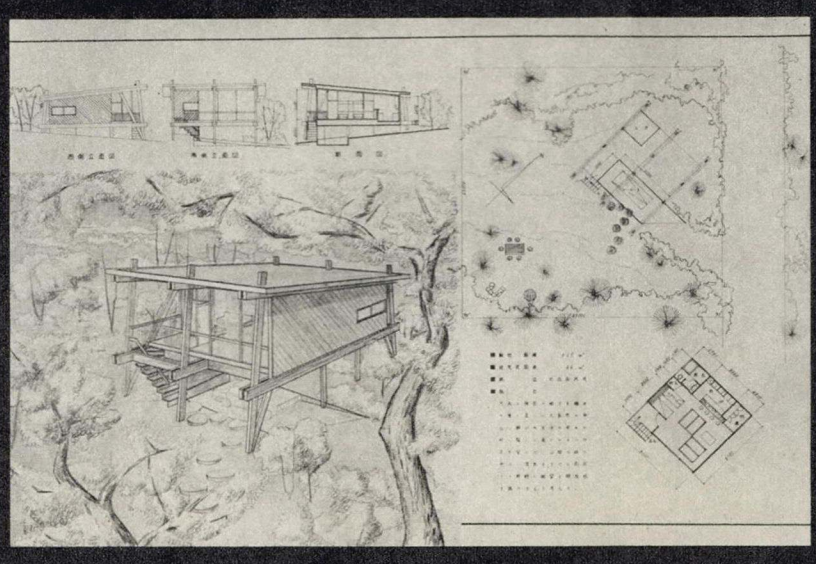
応募作品の内募集規定不適合作品27点を除外した106点を審査対象作品とした。１次審査は審査員１人当り10点前後の支持投票により作品数33点を選んだ。33点の内、得票１の作品について審議し、第２次審査対象作品は22点となった。第２次審査は審査員１人当り５点前後（３～７点）の支持投票をおこない、15点を選んだ。以后５次に亘る支持投票、討議を経て入選作品10点を決定した。10点の内全審査員一致で最優秀作品を決定した。
（審査会は、昭和45年10月19日に開催、上林審査委員長外８審査員が出席した。応募校20校、応募作品133点）



最優秀作品　西田清志

神奈川県立神奈川工業高等学校３年

図面構成と製図手法の優秀なことは当初から審査員全員の支持を受けた作品である。建物および管理面について細部までよく配慮された真面目な態度がうかがえる。ただ湖上という設定に問題があり、類似プランを見掛けることが気になる。



入選作品　山城明已

大阪府立西野田工業高等学校３年

一応水準に達した作品ではあるが、平面計画上の工夫が足りない。また、構造上基礎・柱の処理に無理があることは、建物の耐久度に対する考慮がないといえる。

設 計 要 項

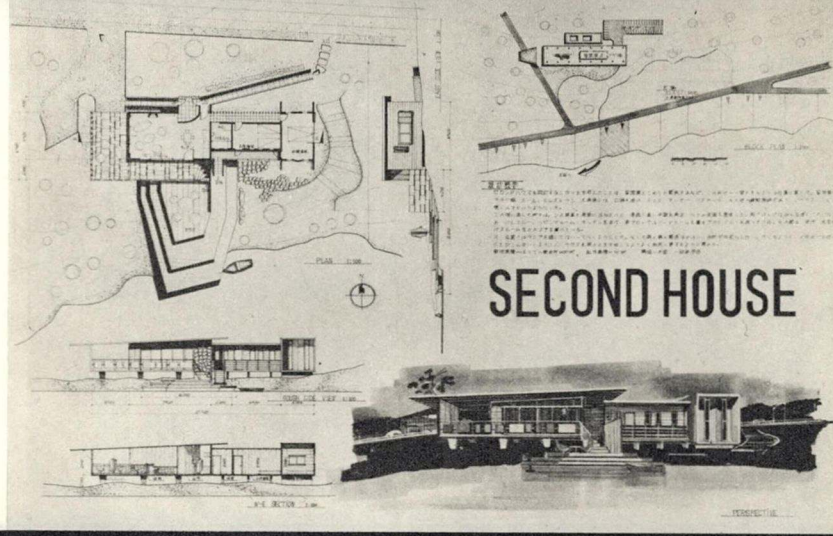
1．**敷地**：高原・海浜・湖畔のなだらかな地域に自然景観を生かして整地された，一戸当り一区画600m² 程度の敷地を想定する。これらのハウス数10戸が一区域を構成し，規制された方式によって管理されている。

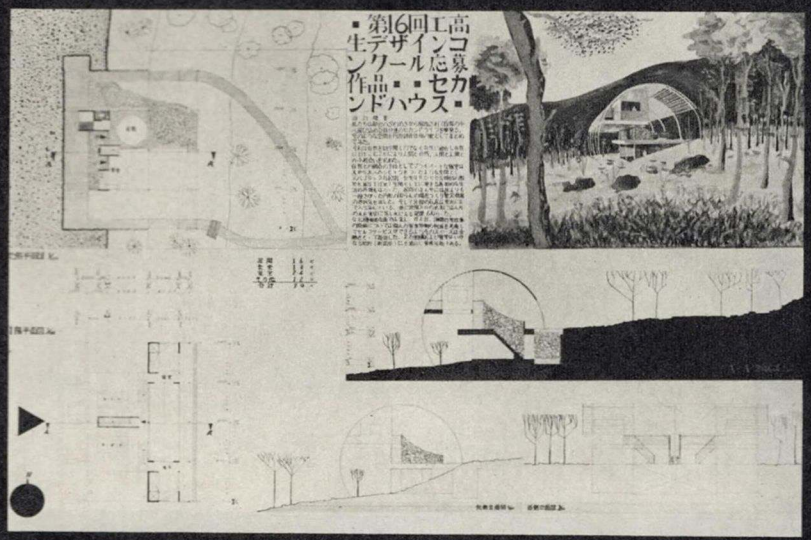
2．**構造**：木造または鉄骨造

3．**規模**：延床面積50～70m²（但し，カーポート，渡り廊下などを設ける場合はそれらの面積を含めなくてよい）
4人位のグループまたは家族が短期生活を過すことができること。

4．**各室**：セカンドハウスとして快適な平面構成を自由に考えてよい。

5．**その他**：(a) 敷地は用途地域等の規制は受けていないものとする。
(b) 区域内道路上には駐車しない規制があるものとする。
(c) 区域は，使用時の設備関係および使用していない時の保守等すべて集中管理される。





入選作品　小山哲男

兵庫県立兵庫工業高等学校３年

ハウス群の管理面にも配慮され、実際に使えるプランである。ただ立面にセカンドハウスでない要素があるのは気になる。

入選作品　大野栄二

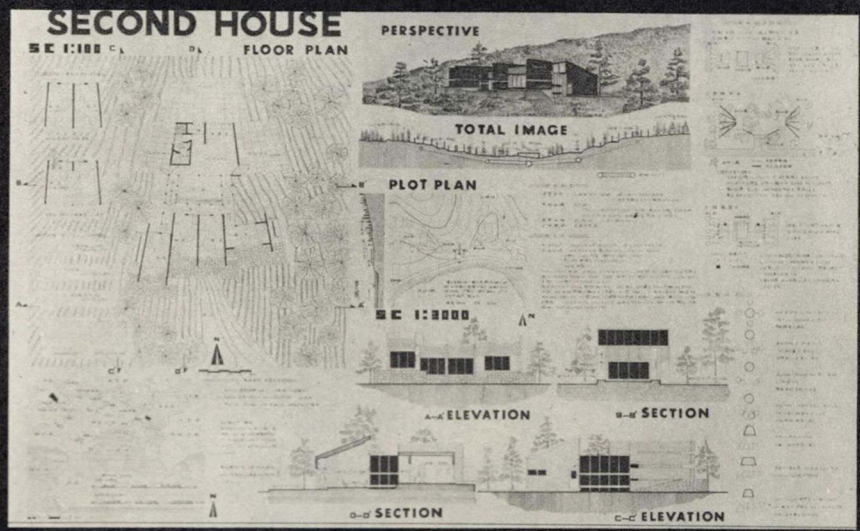
静岡県立島田工業高等学校２年

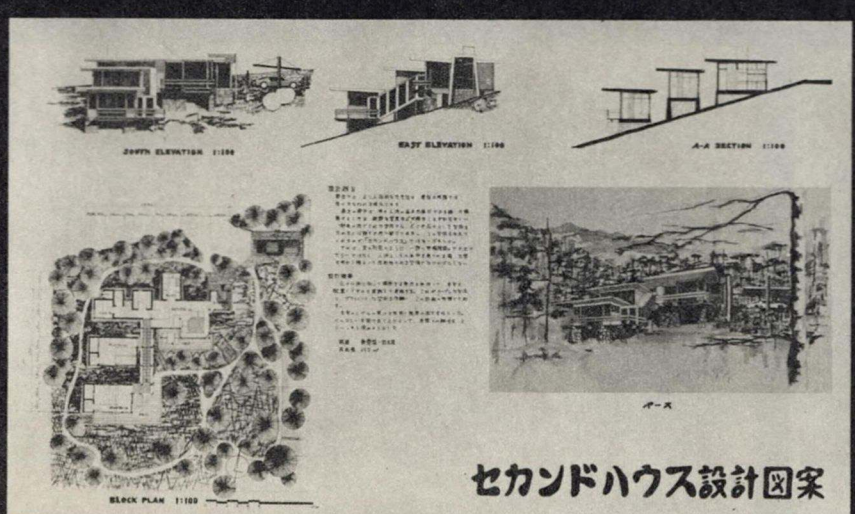
夢があり、楽しい作品で、アイディアにとるものがあるが、構造など計画に無理がある。

入選作品　角田正樹

神奈川県立神奈川工業高等学校３年

計画性もありよく努力されたことがうかがえるが、テクニックに斬新さがなく、透視図の不出来が惜しまれる。突出した目隠しが目ざわりである、よく見掛けるプランで類似した作品が多い。

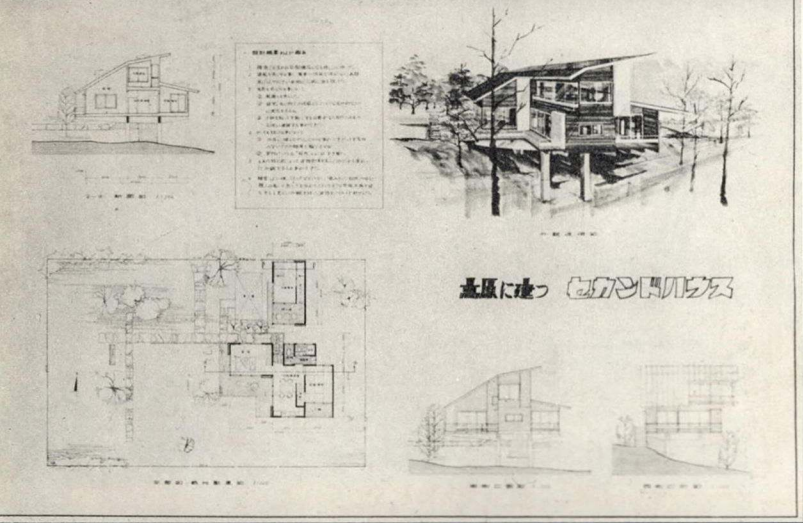




入選作品　藤田　馨

群馬県立前橋工業高等学校２年

図面はよい出来で、特に透視図がすぐれている。ただし断面がまずい。折角想定した傾斜地が生かされていない。各棟の配置は視界がさまたげられ図面上ではうまくいったように見えるが、実際にはコセコセした建物になる。70m²程度に対する平面計画として適当でない。



入選作品　川路俊二

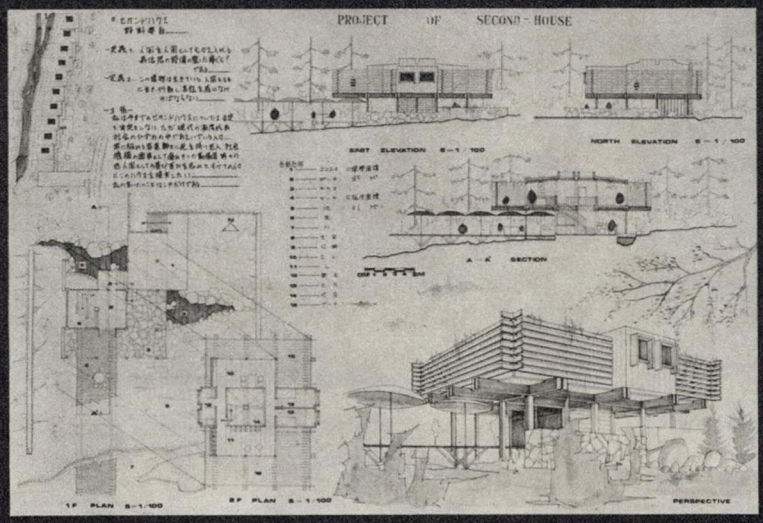
鹿児島県立薩南工業高等学校３年

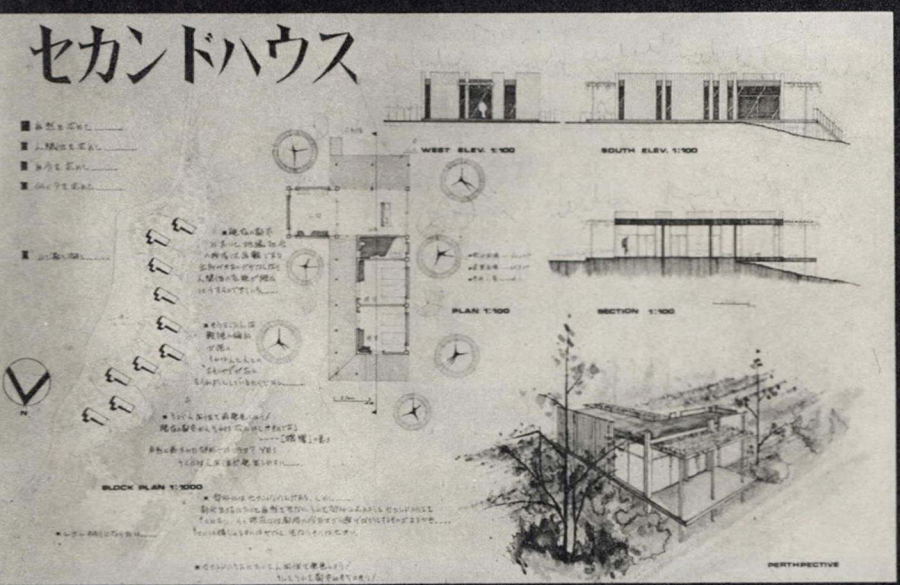
パンフレットの絵のような感じで一般受けはするが平凡である。デザインのためのデザインをしすぎた感じ、募集要項の意図には適合しない。図示法に誤りがある。

入選作品　坂巻英史

東京都立墨田工業高等学校３年

製図の技術はすぐれている。木造、コンクリート造の特色が混り合ってよい作品であるが、自然の中でルーバーで囲まれ、居間からの視界のないのは問題である。床のすのこのあきが広すぎるなど細部にも注意を払うべきだ。





入選作品（合作）
吉永隆行、梁川辰男

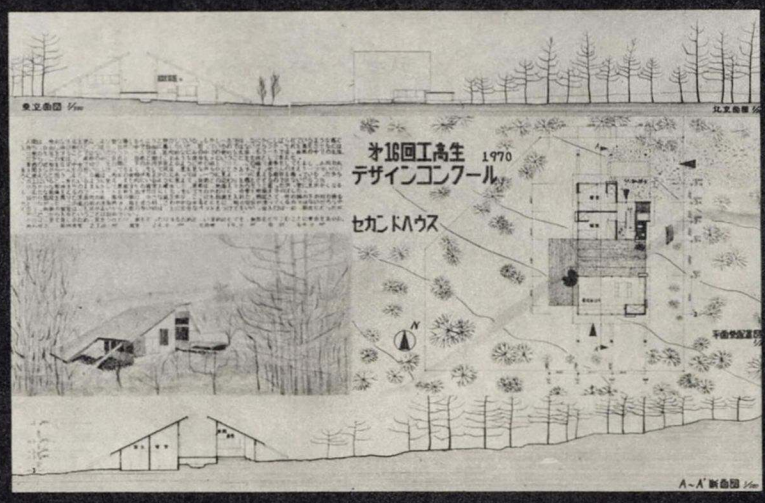
東京都立墨田工業高等学校３年

単純明快な平面でよくまとまっている。建物管理の問題、パネルのプレハブ的説明が不足、床面積が規定を超えているのはいけない。

入選作品　村田明博

静岡県立島田工業高等学校２年

オープンスペースがポイントであるのに折角設けたデッキが生きていない。いっそ屋根をつないだ方がよい。空間利用、寝室の床仕上げなどに考えが足りない。図面の表現力が弱い。



住宅——
60年代の総括と70年代の展望

●60年代から70年代へ，住宅設計，住宅建設，住宅需要など「住宅」に関する分野で，住宅生産の工業化，住宅産業の伸長，住宅作家の功罪等々さまざまな新らしい問題が提起されています。

●こうしたなかで，新らしい住宅のありかた，住宅問題の解決をめざし，各分野，各領域——住宅計画，住宅設計，住宅行政，住宅経営，住宅生産など——でさまざまな努力がなされています。

●そこで，それぞれの分野から積極的な発言をいただき，少しでも60年代を総括し，70年代への展望をみる上の参考となることができればと思います。

●下記のエキスパートの方々からのご意見をいただきましたので，こたつにでもあたりながらお読みいただければ幸いです。

西沢　文隆／東　　孝光／山崎　泰孝／馬場　璋造

東方　洋雄／石原仲次郎／大垣　直明／石田　鑑三

田谷　　武／加藤　善也／三谷真喜子／石村　勇二

田中　恒子／塚本　正司／三村　浩史／村松貞次郎

●この各界の貴重なご意見とあわせて，60年代の代表的独立住宅の平面図を下段に集録しました。この住宅平面図は，1960年～1969年の「新建築」誌のアンケートのなかから，ピックアップして再録させてもらったものであり，この10年間の住宅計画のひとつのドキュメントとしてみていただきたいと思います。

住まいの本質

西沢文隆

住まいは人間の生活の容器であることには変りはない。人間の生活内容が変貌しつつある。ＣＩＡＭ時代には人間の生活を社会活動と個人生活に截然と二分することができた。工場やオフィスは仕事の場，家庭は再生の場といった具合で，至極優雅なことであった。

機械の発達は，人間を筋肉労働から解放したが，体で仕事をすることによって，物の真髄に肉迫するという貴重な機会を喪失してしまった。コンピューターの発明は機械的な精神活動からも人間を解放する。人間はプログラミングと結果のチェックだけをやればよい。情報の渦の中でその能力だけを育てうるためには，人間の生活は大転換を強いられることになる。仕事場と家庭の領域の区別は不分明なものとなって消え去り，至るところが仕事の場であり，再生の場であり，蓄積の場であり，思考の場であるという状態が実現しつつある。用便しながら考え，食事しながら発想し，話しながら，歩きながら考える。――そのような状態で，住まいとは果して何を意味するのだろうか？

人は遊牧民のように仕事を追って移動し，あるときは家族を伴ない，あるときは単身で出かける。家族構成の変化，家族制度の崩壊，人間個人の激変，個性の変質。すべてのものが変転きわまりない状態を未来と考える。現状をそのまま押し進めればそのようになっていくかも知れないということと，果してそれが人間の未来にとって好ましいことかどうか，そのまま流れていってよいかどうかということとは別の話である。

生々流転という言葉がある。この世は仮の宿という考えがある。事象を移動性の中にとらえるのはこの立場であろう。仏教ではこれを宇宙の回転とみてそれを明かに認識することを諦観という。しかし流転する彼方に永遠の変らぬ仏世界を見ているから安心していられるのである。

人間の本質にも両面がある。変る部分と変らぬ部分である。変らぬ部分も現象的には変る。変るからこそ変らないのだという逆説的言い回しが成立する。『伝統の継承』を問題にするとき，伝統を墨守すれば伝統は亡びる。伝統を現代に再組織してこそ伝統が生きつづけ継承されることを知っている。変りながら変らぬ芯のごときもの，それを人間の本質と考えたい。

これからの人間生活は移動と定着の間を振動するであろうが，定着（？）の中にこそ人間の本質があり，住まいの本質があるのではないかと私は考える。私自身も現在，運命に翻弄されながら東京―大阪間で浮遊生活をつづけており，東京ではホテル，大阪では家庭という形で定着したホーム・ルームを持っている。ホテルでは土がなく，家庭の方は土に固着していて，植物と対話することができる。植物を通しての自然との対話は私にとって欠かすことのできないものである。

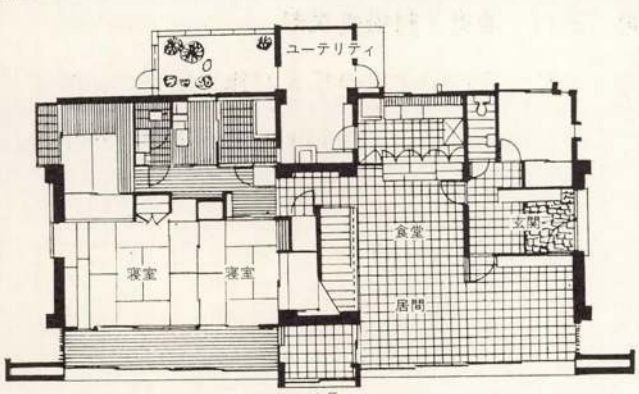
自然から完全に遊離した人間は野に行って自然に接しても，果して自然との対話ができるだろうか。幼児期を山野に過ごし，自然と対談しつづけた人間は別として，生まれおちたときから自然と切り離された人間にとって大変むつかしい問題のように思われる。地球が動植物細菌，鉱物，天然現象を含めた閉鎖空間の中で，太陽のエネルギーのみを⊕されながらバランスを保っていることを考えると，都市に住む人も，ウィークエンド・ハウスという虚構から離れて，住まいの中に自然をいかにうまく導入するかを考えぬ限り，たとえ公害問題と真剣にとり組むにしても非常に空疎なことになり終るのではないかと懸念される。

最後に住宅の Prefab. の問題に少し触れておこう。茶谷正洋氏のいうように Prefab. と Mass pro. とは目的が全く異なる。Prefab. は質を向上させるのが目的であり，Mass pro. は Cost down が目的である。現在住宅産業なるものが志しているのは Mass pro. であって，Prefab ではない。

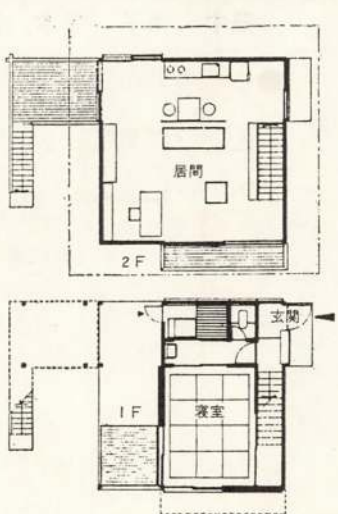
私はマキャベリストではないが，コンピューターがいかに発達しても，すべてが使う人間にはなれない。使われる人も存在する。住宅産業家の志ざすものはそれらの人々のための住居のようである。そこではムスタング程度の Variation さえあればかなりの満足度がかなえられる。そこには建築家の入り込む余地はほとんどない。よし入り込んで質の向上を目指してみても，その努力に相当する結果ははね返ってこない。極限の住宅の中では空間がほとんど存在し得ないからである。それは部屋の大小，Space の大小を云々しているのではない。一般的にいえば極限の空間こそ建築家にとっておもしろい問題なのだが，志す意味が全く違っているからである。ただいまは人口が過度に急激に都市集中を行なっているために，Mass pro. も成立しうる可能性はある。しかしやがて，真の Prefab. へ移行しない限り，これら住宅産業はつぶれてしまうだろう。これからの人間の欲するものは真の人間性であり，個性であるからである。

集合住宅と独立住宅とを問わず（独立住宅はなくなってしまうべきだとは考えていない。ごく限られた人しか所有できなくなるであろうが，本当に好ましいのは，土地を持った独立住宅であることに変りはない。）それぞれが空地（空が見え，緑を育てうる場所），家族構成，個性の変化に応じて改変自在な住居こそ望ましいと考えている。夜鷹のように，箱の住居をひっさげて転々と移動していく人間の生活など一顧の価値も感じない。私の考える住まいの本質から程遠いものだからである。

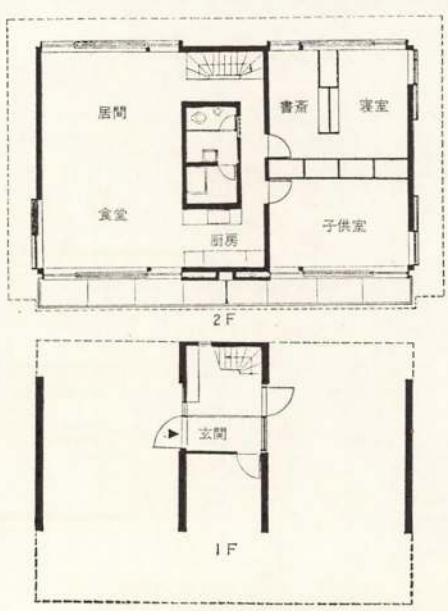
（にしざわ　ふみたか　坂倉建築研究所　代表取締役）



山の手に建つ家／佐藤秀工務店／新建築／6001



狛江の家／篠原一男／新建築／6004



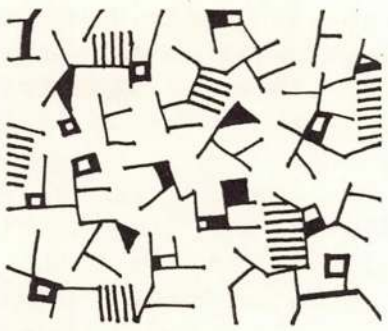
ケーススタディハウス #3／増沢　洵／新建築／6004

60年代の代表的独立住宅平面図

図中の記入は
タイトル／設計者／雑誌名／掲載年月
の順です。
縮尺は，特別に記載のある分を除いて，すべて
1/250 です。

住宅設計の基本

東　孝光



カット　島村　昇

今日の住宅問題の基盤として，家族像と住意識の変化の問題が，まず確認されなければならない。

戦後の個人の人格尊重が，大家族制度を崩壊させ，核家族への移行を生んだ。急激な経済成長による職場社会の強化，とり残された主婦や老人の問題，世代間の断絶現象などが，それに続いて今日に至っている。

具体的には，住宅における個室への欲求増大，居間食堂などのリビングスペースの性格変化などが，それと表裏一体をなして現われている。社会からの防波堤としての住宅が分解し，個室以外の住機能を，社会的な環境のなかへ分散させてゆく傾向に，われわれは注目しなければならない。喫茶店やスナックに集まる若ものたち，レジャーを求めて激しく移動する家族づれを考えると，労働の再生産の場としての住宅の意味が後退し，社会生活全体のなかで，働き，遊び，いこうという度合いが強くなっていることがわかる。住宅のなかだけが，家族の生活ではなく，コミュニティとしての全体がないと，住生活が完成されないのである。

一方，国の政策の大きな喰いちがいが，はっきりしてきた。その一つは，対象のズレである。低所得者層に優先されるべき公共の集合住宅が，中以上の所得者層に与えられ，後者が望んでいる一戸建住宅は，もっと高収入でなければ獲得できないのが現状である。そこで，恵まれない木造アパートに住む人々はもちろんのこと，あらゆる階層の人々に，潜在的な住宅への不満と，仮住まいの意識が行きわたって，いつまでも消え去らない。一億総住宅難時代とでもいうべきか。「豊かな社会へ」のかけ声も，この不満を，所得の増大へとふり向けさせて，経済発展へのポテンシャリティに利用しようというものではないだろうか。

真に，あらゆる人々の住宅を，仮住まいたらしめているものは何か。それは，住環境全体を，コミュニティとして完全なものにしてゆく方策がとられずに，ただ住宅の量だけの供給のみに進んでいるからである。ここにも，第2の大きなズレがある。

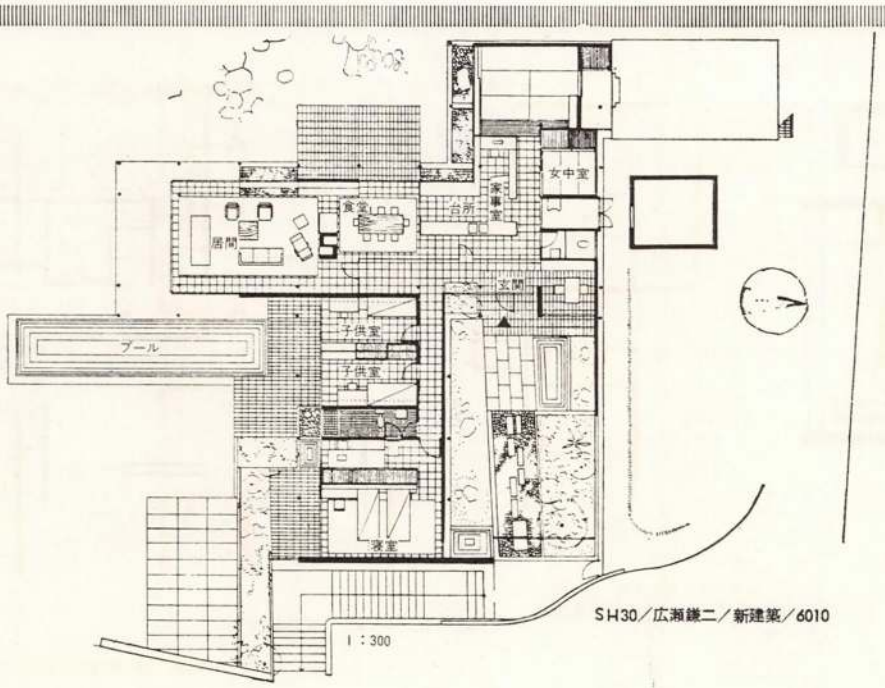
住宅産業を育成し，その生産を工業化して，安価で大量の高性能住宅を量産することが，一番の急務であることを承知のうえで，あえてコミュニティの問題を出すのは，それが政策や産業だけでは解決できない，息の長い努力を必要とするからであり，またいかにすべての人々に住宅がゆきわたろうとも，それが解決されていない限り，やはり仮住い意識が消え去らず，幸福な人間環境とはならないからである。

建築家が，一部の人達の独立住宅を，作家的な立場でいかに美しくデザインしようとも，それが上述のような仮住まいからの脱出の目標として輝やく限り，大きな罪悪といわねばならない。しかし，それは，「住む」ということの意味を，つきつめて対話のできる，個人との接触の一つのチャンスでもある。またその対話の場で，コミュニティを形成するために個人が努力しなければならない問題，いや，コミュニティを考えなければ個人が成立しないという認識が，住宅に結実するならば，それは一般の人々の指標の一つとしても役立つであろう。

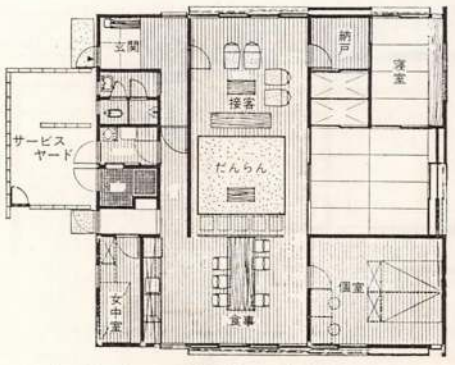
さらに，そのように日常の作業のなかから，私たち建築家が，住居をつなげてコミュニティへと拡大してゆくシステムを抽出することも大切である。これまで，私たちは，専門家として一般の人々に住宅のみならず，ビルや都市を上から押しつけることに過ぎていたのではないか。むしろ現実に生活する人々の間に知識を提供し，それらの人々自身が，真に求めているものは何かに気付かせ，それを改めてシステム化し組織してゆくことが重要である。公害問題での市民運動などは，そのことの大切さを私たちに如実に教えてくれているではないか。

以上が，建築家としての私の置かれた立場からの，住宅に関する60年代から70年代への総括と展望，そして決意である。

（あづま　たかみつ　建築家　東孝光建築研究所）



SH30／広瀬鎌二／新建築／6010



λハウス／RIA建築綜合研究所／新建築／6012

「合理」より「非合理」へ

山崎泰孝

産業革命以来の合理主義精神は，資本主義の発達とともにすべての人々の人間性をむしばみ，チャップリンのモダンタイムスよろしく，人々はすべてを分業化し，専門化させるうちに，いつのまにか資本に奉仕するかたわな羊の群れと化してしまった。生活の合理化が進むにつれて，本来もっとも人間らしい非合理なはずの住宅空間まで狭義の機能，ただ物質的要求のみを満足させる住むための機械と化してしまった。少なくとも，人々はそんな生活をすることが正しいこと，現代的な生活であると思い込んでしまったようである。その上，時には合理的であることはなによりも経済的であることであるかのように考えられることもあった。そこでは，本来人間としての生活にもっとも必要な非合理性，個性は否定され，画一的で無駄のない住宅のみが生産された。これは，当然，政府の数量的政策には好都合であり，企業の量的生産機能にも一致していた。

しかし，今になってこんな世の流れの中で，建築家は何をしたのか。彼らのほとんどは迷える小羊と同様，合理主義の虜となって，いかに生活からうるおいを取り除くかのために努力してきたように思える。とにもかくにも，この量的な蓄積は，60年代に入って人々を質の問題に向けていった。

2DKの公団住宅で窒息状態になった人々は，野に山に出かけて行って自然を破壊し，いわゆるマスレジャー時代を育てていった。一方，建築家たちは，デザイナーの本分を発揮して，合理的な住宅にものとしてのデザインを加えていった。庇をデザインし，窓の周囲にデコレーションよろしくアールを付け，仕上材料は無秩序に都市空間をゴミ捨て場としていった。せいぜい一部の建築家がこの付加的デザインに対し，外国雑誌のまねごととはいえ，空間そのもの，建物そのものを全体的に造形するようになってきたようである。

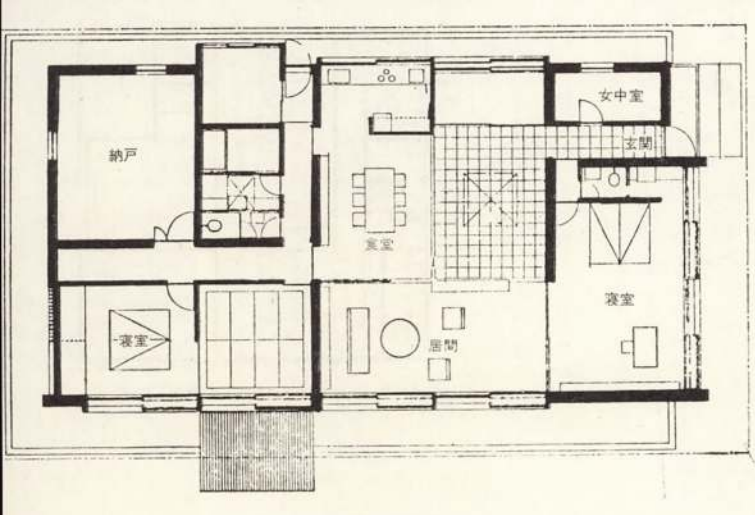
こうして，70年代に入って，万博というお祭り騒ぎも終って，もはやごまかすことができなくなった今，この量的な蓄積の結果として，従来の体制による矛盾がつぎつぎと明るみになってきた。いろいろな公害問題，交通地獄，自然破壊，大学問題 etc……。いずれもわれわれの生活環境として解決しなければならない身近かな問題である。私は，こんな問題を真に解決するには合理主義精神のもとにできあがった，分業化の現在の社会機構を根本的に変えていかなければならないと思っている。そして，今できることは，それぞれを横につないで一つの Project ごとに総合的な判断をくだせるチームを作ることだと思う。もはや，合理的生活よりも，非合理の生活が必要なのである。第一機能的に整理され，画一的な量産住宅よりも，複合化され，遊びのある個性的空間が必要なのである。分業よりも総合化が，物質よりもイメージが，デザインよりも思想が必要な時代である。

幸福は，個人個人によって異なり，その場は広がり，時間によって刻々と変化する。生活そのものが変わってきている。したがって，住宅もまた，大きく変わらなければならない。ある人は車の中が住宅であり，またある人はホテルの一室が，またある人は仕事場が……，そして，またある人はそれらすべてが彼の住宅とならなければならない。われわれにとって，ベッドと流しのある住宅とは一体何を意味するだろうか。ある人にとって，それは単に睡眠をとる場であり，他の人にとっては子供を育てる場であり，妻という女性をしまっておくおりであり，sex の場であり，遊び場であり，物置であり……，単に日本国民であるという登録の場としての意味しか持たない人もいるだろう。こんな多様な「住宅」を十把ひとからげに2DKだ，3DKなどと片付けてしまうのは，あまりにも「人間」をばかにした考えだといわなければならない。建築家の中には住宅設計をコンピューターにかけるなどという考えもあるようだが，これも上記同様，資本主義の「人間」を「生産のための動物」としてしか考えない認識と大差ないだろう。

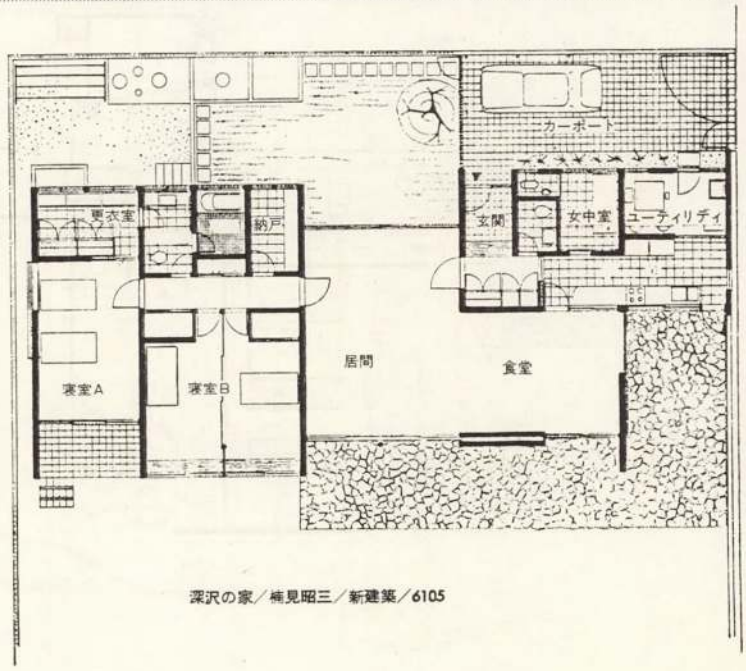
建築家がもし住宅設計について何かできるとすれば，それは，この合理主義にまどわされて自分を失った人間を再開発することである。人間と人間の触れ合いの中でまた，彼の設計行為を通じてできてくる物・空間をぶつけることによって，それを実行していかねばならない。

一方，建築家が社会的にも真の建築家だろうと思えば，われわれの生活を固定化し，画一化しようとするすべての政策・法律・企業行為に対して，世論を挑発し，運動を起こさなければならないだろう。

（やまざき　やすたか　山崎泰孝環境計画研究所）



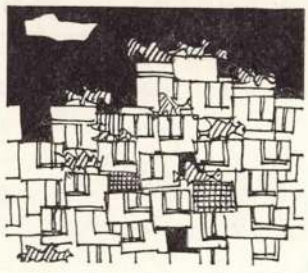
茅ケ崎の家／篠原一男／新建築／6101



深沢の家／梅見昭三／新建築／6105

住宅コンペの動向

馬場璋造



最近における住宅コンペの特徴として，まず過去におけるプランニング＋造型のデザインから，システム＋空間のデザインへの移行を指摘することができる。こうしたアプローチのものはまだ未熟なものが多く，この点ややもすると応募側と審査側の意識のズレが見られるが，住宅のデザインが根本的に変わる徴候として，第一に記すべきものと思われる。

次に今回のテーマに関して重要と思われることは，将来への変化を正確に感知し，それを具体的なアイディアとして提示しているものにどういうものがあるかということにあると考えられる。そうした意味においては次のふたつが，住宅コンペに期待される問題であるといえる。

ひとつは，住居の高密化およびプレハブ化に対する技術的アプローチであり，もうひとつは，現代の「住」への本質的問いかけの姿勢である。

まず住居の高密化についてコンペに見られる傾向は，高層高密と低層高密のふたつがあり，前者は主に，エネルギや情報のための基幹施設を内臓した人工土地，インフラストラクチュアあるいはメガストラクチュアと呼ばれる骨格的なものを都市内に設定し，各個の居室はカプセルあるいはそれに類するもので必要に応じて増減や取替えのできるシステムを提案しているものである。後者は，不整なプランの連続などにより感覚的にも機能的にも人間性の回復された社会形態を求めたものと，工業生産化との対応により大量供給の配置システムを考えようという傾向のものである。またこれらのいずれにおいても，日本で現実にはまったく失敗しているといえるコミュニティの確立のために，空間的，心理的，視覚的なあらゆる技術を駆使して，あきらめず立向かおうとしているのが注目される。

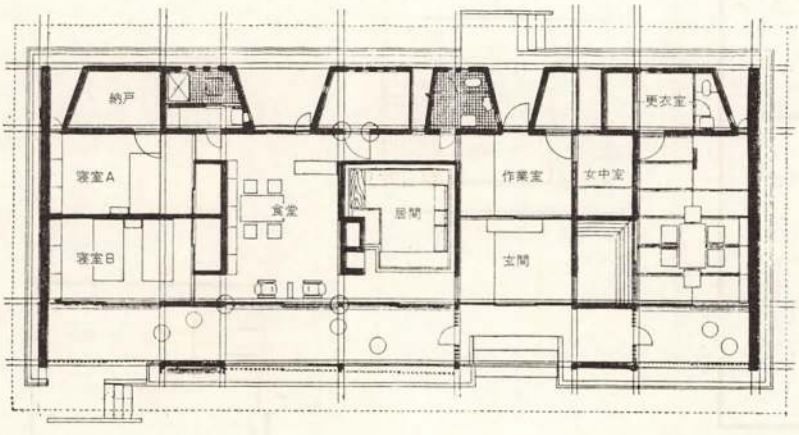
こうしたアイディアのなかには，往々にして現在から将来への推移の考察を欠いた突飛なデザインや，アイディアとしても技術としても袋小路に入り込んでしまったデザインを見ることがあるが，全体として未来を予知し将来を先取りしようとしている感覚は無視できない。また高密住居の計画としては，どうしても土地が私有制でないことが前提となっており，これは現状からのアプローチではほとんど考えることはできないが，高密化が実際に進めば，現実の方が何らかのかたちで当面しなければならない問題であるといえよう。

プレハブ化については，部材の工場生産化とともにシステム・プロダクトとしてプレハブに目が向けられはじめたのは好ましいことであるが，これは現実にも進行している問題だけに，コンペの次元においてより優れたアイディアや技術が提案されるのはむずかしい状況になってきている。また技術的要素のみに走って，建築家がプレハブでなさなければならない本質の問題を忘れてしまっているものが多く，この辺がこれからのコンペにおいての問題点と考えられる。

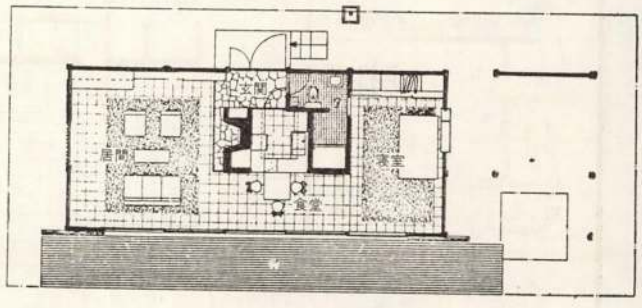
現代の「住」に対する本質的問いかけの問題は，プレハブでの問題とからんで，家族構成・住様式の変革を受けて戦後確立されたかに見えた居間中心の住宅のあり方についての反省をふまえて，現在から将来における住様式を再検討しなければならない時機にさしかかっているという状況に対応したものである。

そしてこの問題は断片的には，家族制の崩壊，逆に家族制の強化，個室のカプセル化と集合空間のあり方などといった面のなかにいくつかの提案を見ることができるが，まだそのすう勢は決まったものとはなっていない。しかし建築家と一般社会との間の住宅デザインにおけるプロフェッショナル・ギャップが喪失している現在，新しい目標設定が行なわれなければならず，コンペにおいてこの問題が問いかけられていくことは，今後ますます必要であるといえよう。

（ばば　しょうぞう　新建築編集長）



秋田の家／長島充正／新建築／6110



RIBI邸／坂倉建築研究所／新建築／6110

住宅産業

東　方　洋　雄

わが国の住宅ストック数は2,700万戸あって3.8人当り1戸。これはアメリカの4,000万戸，ソビエトの5,000万戸と比べると1戸につき1.8人も少ない数字で，ストック量は十分といえる。ところが63年の調査では，2,040万戸のうち1,430万戸は戦前および50年以前に建設されたもので，すでにライフスパンの切れたものであった。現在でもかりに4,000万戸のうち約40%が新しく建設されねばならないとすると，1戸当り5人弱となって，世帯の細分化，核家族へ移行する70年では，ストック量不足ということになろう。

住宅需要についてみれば，66年から70年が670万戸，71年から76年で950万戸，71年から85年の15年間でも2,030万戸の需要予測がなされている。

一方プレハブ住宅のここ数年の伸びはゆるやかではあるが，確実にアップしている。65年が2.42%，66年3.62%，67年3.75%，68年4.60%，69年6.0%，70年は少しプレハブ住宅より量産化率は低いけれども工場生産住宅と呼ばれるものが13%，つまり190万戸総建設戸数中24.5万戸になるだろうといわれている。

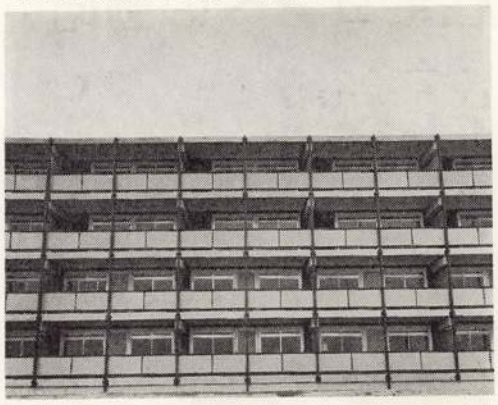
ストック量は寿命のきている老朽住宅も含めての総計だから，当然ストック量十二分にも拘わらず，今後15年間は年平均130万戸の需要があることになる。これをさばくには世界の傾向にしたがえば，マスプロとコストダウンをはかる以外に方法はない。アメリカでは，モビールホームの1平方フィート単価8ドルから一般独立住宅の14ドルが住宅の大半を占めるわけで，坪単価になおすと10.4万円から18万円まで。わが国の住宅と比較するとずい分安い。その理由はモビールホームを研究すればわかることだが，工場生産化・機械化・現場の省力化・ユニット化・標準化および量産に負うところが大きいからである。

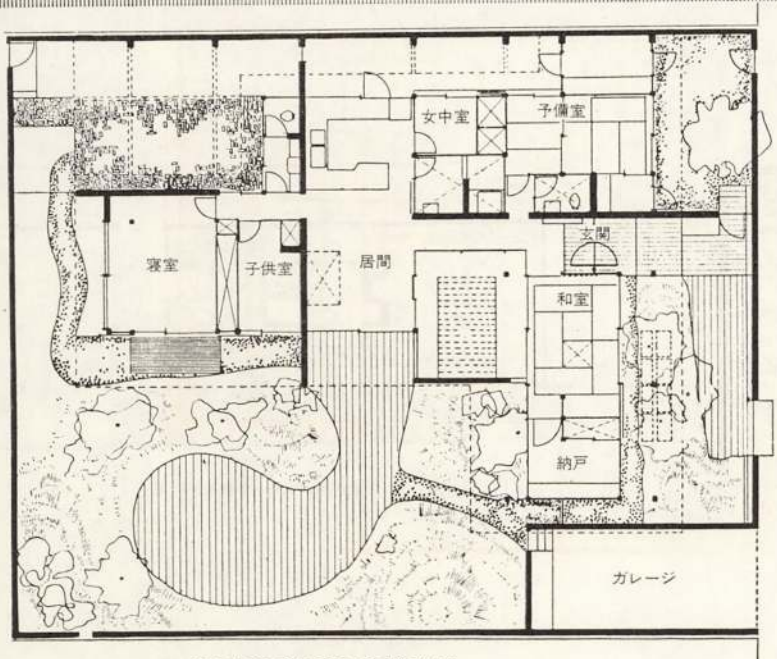
住宅をさらに建築だけに限らず土地を含めて考えると，アメリカよりも日本は手の届かない価格になる。とても収入3年分では入手できない。68年度の勤労者世帯年収は平均162万円だから3年分は486万円である。わが国では土地50%住宅50%が平均とすれば，坪6万円の土地が約40坪で240万円，残金は250万円で家を建てねばならない。その家は16坪（坪単価15万円として），52㎡の大きさがやっとである。これではとても住めない。一方アメリカの平均年収は1万ドルから2万ドルといわれているので2万ドルから4万ドルの土地付き住宅が年収2年分で購入できる。アメリカの土地は20%住宅が80%というのが一般的な構成比率なので，家だけについてみれば576万円から1,152万円かけることができる。前述した1平方フィート14ドルの普通平均価格の住宅では100㎡から200㎡の広さの住宅が可能となる。さらにアメリカのこの住宅には給湯・暖房・車庫なども含んだ性能・機能ともに優れている。内田元享氏の論文にもあるようにアメリカに追い越し追い抜く住宅の生産・建設には画一化・部品化・量産化によるコストダウン化をとげる以外に手がないように思われる。

新建築10月の茶谷氏のＳＮＳＵ見学記とハウジング10月号のいずみしんや氏のＳＮＳＵ見学記ほど面白い読物は最近になかった。建築10月号の大野勝彦氏のＳＮＳＵ感想文も加えると三者三様の見方が全く違った発想で興味深い。都市住宅4月号の黒川紀章氏とぼくの対談，ハウジング12月号のグッドリビングショー特集中のたまきよしと氏のユニット化論，古くは新建築の領域闘争特集シリーズおよび69年度の中央公論現代建築家12人シリーズなどは70年代の住宅産業の企画・計画（設計建築家とは決していいたくないが）をになうある意味での主役のりんかくを予測している。

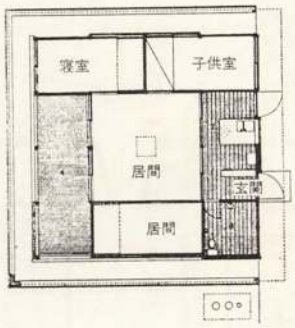
表1を見ていただきたい。70年以降わが国のベスト5中で住宅関連産業が1社，2社と入ってこないとはだれにも断言はできないのである。60年にはすでにアメリカのテレビや電化製品より安い量産化・コストダウン化を実現した企業が2社もあった。アメリカより高性能な住宅をつくる日本の企業が10年前の経験から70年代には電化製品を包みこむその器である住宅の量産化・コストダウン化を実現する実績と可能性をもっているのである。糸→鉄→重電→家電→車と進んだ60年代から70年代は住宅がベスト5を占めるとすれば，過去ベスト5に入っていた企業かあるいは全く新しい企業集団なのだろうか？。

SNSUの外観—NSUを使った中高層住宅

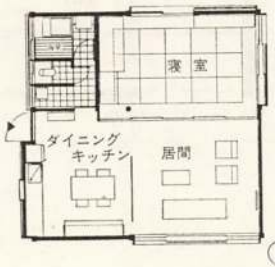




K氏邸／坂倉建築研究所／新建築／6201



佐竹さんの家／東京工業大学清家研究室／新建築／6201



からかさの家／篠原一男／新建築／6210

表1　日本のベスト5企業　○印住宅産業およびそのプランナーのでそうなところ

	1950	'55	'60	'65	'69	70年代
1	東洋紡	八　幡	八　幡	○三　菱	新日鉄	
2	八　幡	富　士	○日　立	○日　立	○三　菱	
3	富　士	日本鋼管	富　士	八　幡	○トヨタ	
4	日本鋼管	日本石油	○東　芝	○トヨタ	○日　産	
5	鐘　紡	○日　立	○松　下	富　士	○日　立 (5432億) ○住宅公団 (5000億)	
備考	糸へん	金へん	重　電	家　電	車	住宅企業が2～3入りそうに思われる

いずれにしても，70年代は世界で最も優れた世界のどこででも使用に耐える世界型の住宅が必ず誕生する。それを企画計画する職種は，建築家なのか，工業デザイナーなのか，エンジニアーなのか，それとも現在では存在しない未知の教育を受けたプロパーなのか，これもまた大変興味のある問題といえよう。とにかく70年代は期待のもてる10年といえよう。

（ひがしかた　よしお　ナショナル住宅建材KK　NSU事業部長・京都芸大講師）

70年代の住宅生産

石　原　仲次郎

日本において住宅生産の工業化という問題が大きく取り上げられ始めたのは，昭和30年代後半であったと思いますが，昭和30年代後半は日本経済の急激な上昇期であり，その影響を受けて地価および住宅建設費も急激に上昇しています。

こうした問題に対処することと，住宅需要の増大という面から，住宅の工場生産による大量生産化が考え始められ，昭和40年代になると，住宅，住宅部品の工場生産から現場施工までの一貫した工業化がさけばれ，その集大成が昭和43年5月に建設省住宅局で作成されました「住宅生産工業化の長期構想（第一次案）―住宅産業のあり方―」でありましょう。

このように住宅生産の工業化が住宅産業の今後の大きな課題であります。住宅生産の工業化は，従来公営，公団などの住宅建設分野では相当な成果が挙げられていますが，民間企業による住宅生産工業化は漸くその糸口をつかんだという段階ではないでしょうか。

民間企業サイドによる住宅生産の工業化の方向は，現状では下記の三つに分けられます。

1.　コンクリート系（中高層主体）……コントラクター主体
2.　木質，鉄骨系（1戸建主体）……大手プレファブメーカー主体
3.　新住宅開発系（中高層及1戸建）……第2次産業グループ群

コンクリート系は従来の現場施工方式を工場生産化することを目的としているもので，建設業のＰＣａ板がこれにあてはまります。

木質系，鉄骨系の量産住宅も，工場生産化への過程はコンクリート系と本質的な違いはありませんが，生産要素の性格と当初から住宅専業が多かったという面から大量生産手法ではコンクリート系よりも進んでおり，月産数千戸の能力を持つ工場も出現しています。

新住宅開発系は，住宅に対する思想においても生産技術においても従来の住宅とは断絶した新しい次元での住宅であり，第2次産業の中でも最も業務のシステム化が進んだ鉄鋼，電機，化学などの企業群が中心となって技術開発が進んでいます。

住宅生産工業化の分野は大きく分けて以上の三つになりますが，1，2についてはすでに工場生産体制もかなりの段階に達しており，近未来的に見た場合プレファブ住宅分野では絶対的な位置を保有し得るでしょう。しかしながらもう少し目を先に向け"未来住宅"として住宅をとらえた場合，新しい分野で技術開発され大量生産化される住宅は，従来の不動産としての住宅ではなく，自動車，テレビ，クーラーと同様な「一般耐久消費材」としての住宅でしょう。

現在この分野で最も技術開発が進んでいるのは，3の新住宅開発系ですが，1，2の企業群の中からもこの分野へ研究開発を開始した企業が見られますが，こうした現状からも1970年代の住宅の主流は徹底的に工業製品化され量産化された耐久消費材としての住宅でありましょう。

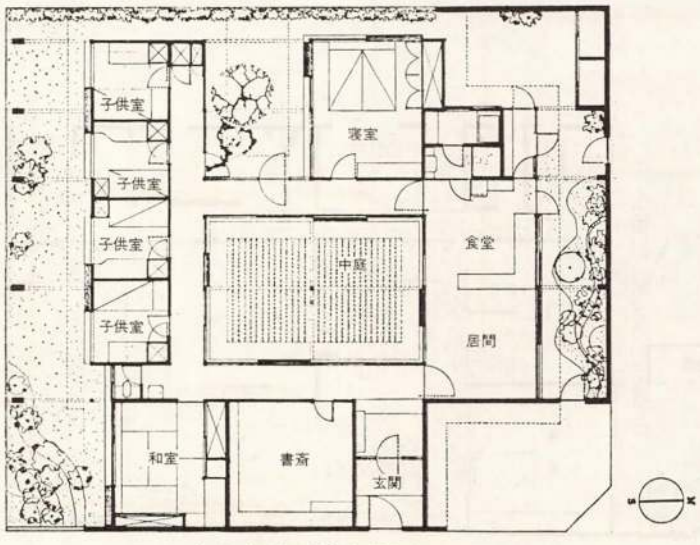
1960年代の住宅生産の主流は建築産業でありましたが，1970年代においても建築産業が住宅生産の主流としての位置を保持するためには，建築産業の後進性を排し，近代的企業経営の基盤を早急に確立し，生産方式も労働集約的生産方式から資本集約的生産方式への移行が必要であり，また市場開発においても大規模な販売網と結びつくことにより，自ら需要を開拓し，自力的，能動的産業活動が必要でありましょう。

当社におけるＩＣＳ住宅シリーズの現状は，1のコンクリート系ＰＣａ工法でありますが，1970年代の新しい住宅としてさらに発展していくつもりでおります。

（いしはら　なかじろう　KK竹中工務店　住宅事業本部副本部長）



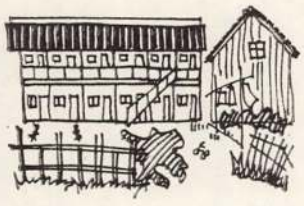
○氏邸／連合設計社市谷建築事務所／新建築／6203



正面のない家／坂倉建築研究所／新建築／6210

小施工のルポ—大工組織の変化

大垣直明



戦前・戦後を通じて，わが国の住宅生産は，零細な手工業的な大工による注文生産によって担われてきた。大工による住宅生産は，大工親方と4～5名（多い場合でも10名までの）常傭の大工職人とその他の職種との地縁的結合によって，零細ながら連続して需要を獲得し，わが国の住宅の大半を生産してきたのである。

しかし，1960年代に入って，それは急激に変化してきた。高度経済成長政策による人口の都市集中は，大工の生産基盤を根こそぎ崩壊させようとしている。第1に，人口の都市集中は住宅需要・宅地需要を急増させ，地価高騰の利ざやを得んと大資本が住宅経営・生産にのり出してきたこと。これは，大規模な宅地開発，建売住宅生産となってあらわれ，大工の需要を直接食うとともに，大工組織を下請業者に変えつつある。第2に，伝統的な木造技術に変わって，新しい機械，建材が住宅生産に導入されたこと。これは，プレハブ住宅のごとく外から大工の需要を食ったり，新建材のごとく，内部から大工の技術を侵している。第3に，他産業に若手労働力を奪われた結果，大工技術の後継者は底をついている。第4に需要構造の変化があげられる。これは，人口の都市集中や世帯分離に伴って，従来の「大工と施主」という地縁関係は崩壊し，大工の「つて」を知らない需要者や既成品の住宅を好む需要者が増大しているなどの点である。

以上のように，住宅が近代的資本主義的商品として変質するに伴って，大工の生産は，組織的にも技術的にも変化を余儀なくされるに至ったのである。

その中で，その組織を維持できずに，建売住宅供給業者やプレハブ住宅メーカーの下請として，単なる技能労働者に落ちていった大工も少なくない。組織を維持できている大工組織でも，材料の大半が新建材に変わったり，自ら建売住宅の経営を行なったり，後継者が居なくて細々と仕事をしていたり，変化しつつ存続しているのである。

大工の親方が口をそろえていう。「最近のお施主さんは水くさくなった。昔のように，金をいくら使ってもええから立派な家を作ってくれというお施主さんは少なくなり，少しでも安いものを作れという。これでは，いくらいい腕をもっていても，宝のもちぐされや」

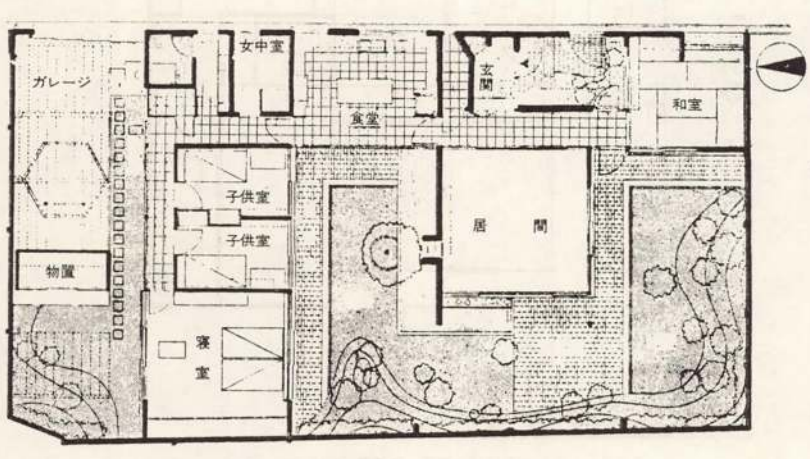
また「職人気質そのものも変ってきた。わしらの若い時代には，夜遅くなっても仕事が残っておれば，仕上げるまでやったものだが，最近の若いもんは，車にのってやってきて夕方5時になったら，サッサと帰りよる。」需要者の住居観が変わったり，職人そのものもサラリーマン化されてきたのは時の流れかもしれない。

大工親方の建売住宅やプレハブ住宅への評価は悪い。あんなもの住宅ではないと批判しながらも，大資本の力の前に，大工（小生産）が流されていることを知っている。近い将来，大資本によって，小生産は駆逐されるであろうことを予知しながらも，当面仕事がつながっているのでわり合楽観的に構えている。この点が，大工の閉鎖性・保守性の弱さである。大工が協同して，大規模生産を行なおうとする試みも幾例かあるが，一般的にいって，大工は，大資本の攻勢の前に無力に呑みこまれようとしている。

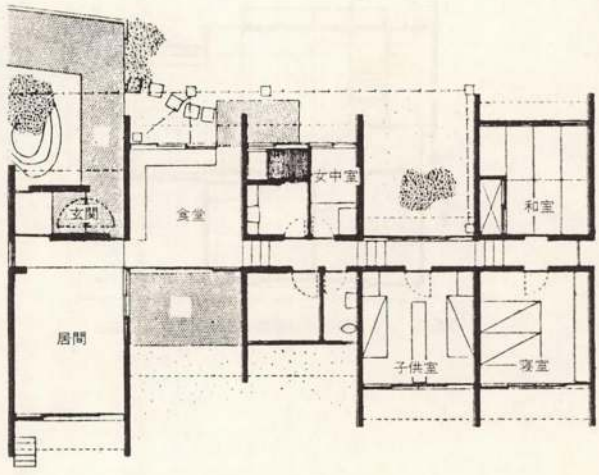
大工はどこへ行くのか？

1960年代が大工組織（小生産）の崩壊過程であるとするなら，1970年代はその再編過程であるだろう。機械化・プレハブ化が一層進展する中で，大半の大工が単なる技能労働者化していくことが事実であるとしても，そのことによって，わが国の住宅問題が量的にも質的にも解決するなら，大工も納得するかもしれない。しかし，今その保障はどこにあるのだろうか？

（おおがき　なおあき　京都大学大学院生）



正面のない家・H氏邸／坂倉建築研究所／新建築／6210



ユニットプランの住宅／坂倉建築研究所／新建築／6306

マンションの展望とビラシリーズ

石田鑑三

1960年代が住宅産業の量の時代であったとすれば，1970年代は質の時代ではなかろうか。もちろん量の確保は絶対的に必要なことである。60年代に経験した各企業家が，それぞれ長期的に見たマンションの建設計画，それは量と質とをいかに両立させるかが重要な問題となることであろう。量の問題では，プレハブ化の技術の開発が一段と脚光をあびることとなろう。量の拡大での重要なことは第一に価格であり質の問題である。

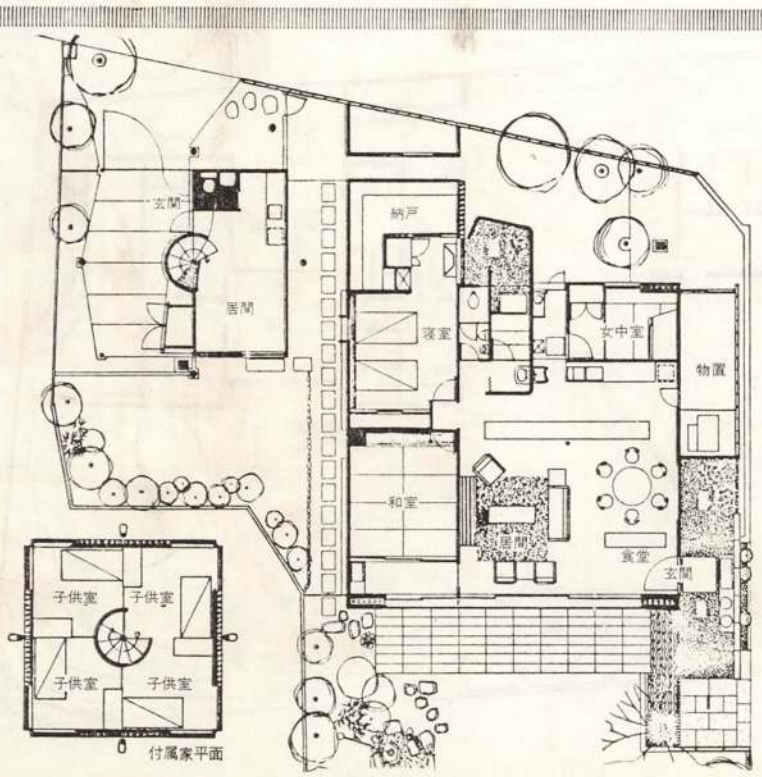
現在の状況からして建築コストダウンの可能性は，土地価格の上昇で相殺されそうであり，またローンの取扱いに大きく左右されることも見逃せない。国および公共団体の生産戸数に限度がある限りこの問題を民間企業が自らの研究開発と合理化および政治的解決を計らなければ，わが国の住宅事情は好転せず，それから起こる各種の悪影響が出ることは明らかである。他方，マンションの高級化を望む需要家の要望に答えることも重要である。質の向上には第一に企画設計が最重要であり，第二に予算の裏付けと管理，第三に建築資材，設備機械の質の向上と施工技術が重要な要素となることを明記しなければならない。現在当社が進めている「ビラシリーズ」は，高級な集合住宅の理想を追求しているシリーズで，70年代初期の目的としているものである。因みにその概要を設明すると，

名称「ビラ・ビアンカ」テーマ「永久に変らぬ価値」規模地下2階地上7階。世帯数40。店舗1。エレベーター1基。完全なセントラル方式。ボイラー。ターボ冷凍機各スペヤー持ち。温度調整。公害防止焼却炉等。完成1964年。名称「ビラ・ローザ」テーマ「土とコンクリートの調和」規模地下1階地上10階。世帯数19。エレベーター2基。各戸セントラル方式。各戸独立。一部1フロアー一世帯。完成1969年。名称「ビラ・セレーナ」テーマ「広い庭園に囲まれた邸宅」規模地下1階地上7階。世帯数25。エレベーター2基。各戸セントラル方式。斜線を利用したユニークなデザイン。一部1フロアー1世帯。完成1971年。名称「ビラ・グローリヤ」テーマ「環境を配慮した独立住宅」規模地下1階地上10階。一部店舗。世帯数25。エレベーター2基。各戸セントラル方式。理想的な独立型式。完成1972年。「ビラ・エックス」（名称未決定）テーマ「欧米人を対象にしたマンションのあり方」規模地下1階地上7階。世帯数15。目下設計中。完成1972年。以上の「ビラシリーズ」はすべて，東京都渋谷区神宮前に建設され，各棟との距離が50米から200米位のところにある。需要家としては，建築に精通された中堅以上の層を対象としており，また，世帯数もできるだけ少ない建物にしている点も特色で，10世帯に1台のエレベーターの利用を理想としている。世帯数が少ないということは，販売面で需要家の質を選択でき，それが完成後，各居住者に対し居住性の質の向上につながるからである。「作品としてのマンション」ビラシリーズの条件とは，当社は次のように考えている。

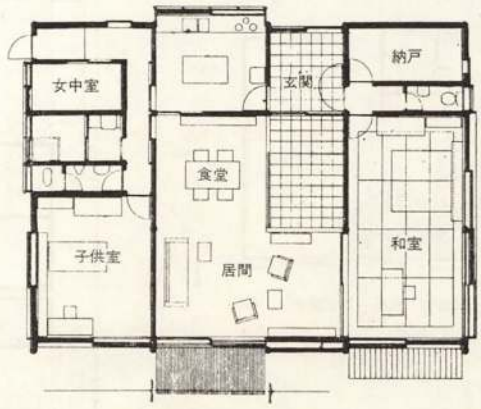
1. 基本計画で，各戸が独立性を保つこと。これは，隣りの居住者と離れることにより独立性を保ち騒音をなくし，ホテルの感じと異なるようにする。
2. 外観に思い切った特色を出す。この問題は設計上きわめて高度な技術を要し，基本プランの充分な検討と使用材質の選定，充分な予算が伴ってユニークな設計が完了するものである。
3. 緑を各戸に取り入れる。テラスを利用して，緑の確保に努める。ビラシリーズでは1年中庭で植木を楽しみまた外部から見ても，都心の緑を維持することに努めている。構造，防水など建築費が多額になるが，失われつつある都心の緑と，生活の潤いが得られる。
4. 設備計画に充分配慮する。躯体その物は50年以上の耐用年数があるが，内蔵される配管，配線などの設備の耐用年数を考慮し，施工段階で建設省標準仕様書を採用する。
5. 音の問題と使用材質の高級化。外部よりまた上下，隣りよりの音の処理，設備より発生する音の処理の問題につき研究が進み，基本計画と使用機器や資材の選定により解決する。また外国品国産品など，製品のテスト分析を行ない，高級品の採用を行なう。
6. 見えがくれ部分に充分な予算をとる。
7. 建築工程の管理を適確に実行するなどである。高級化が進めば進むほど，需要家の期待は大きく，その期待に答えるという強い信念がなくてはならないと思う。

以上70年代のマンションと，ビラシリーズについて，簡単に意見を述べる次第である。

（いしだ　かんぞう　興和商事㈱社長）



付属家平面



大屋根の家／篠原一男／新建築／6404

◀阿佐ケ谷の家／右野　治／新建築／6308

70年代の住宅と宅地

田谷　武



住宅問題は土地問題と言い換えてもよく，宅地開発に永年の経験と実績があるものの立場から1970年代の住宅展望を述べてみたい。

住宅産業は70年代のリーディングインダストリーといわれ，民間住宅投資が昭和60年までの20年間に120兆円にのぼると予測されるため，保有土地の有効利用あるいは地価高騰によるキャピタルゲインを求めて，大小さまざま種々の企業が宅地開発・住宅産業に進出し，ニューエントリが激増してきている。経済発展に伴う都市への人口集中と夫婦中心主義による世帯の細分化などにより根強い住宅需要がある以上，いわば当然である。今後，都市人口の社会増が鈍化しても，現在でも住宅難世帯に3倍する住宅不満世帯があり，ベビーブーム時出生者の結婚適齢期突入を考慮すると，需要の増加傾向は60年代より強まると思われる。これら需要者の住宅要求は年齢層，所得層によって多様であり，住宅価格，生活環境，交通利便性などの関係から分譲か賃貸か，1戸建かマンションかなどの選択が決まってくるが，住宅地の環境水準などは供給者側の態度に左右される面がより大きく，かつ直接的である。それだけにディベロッパーの社会的責任は重大である。

ここで電鉄系ディベロッパーの開発態度をふりかえることは，70年代の業者のあり方を探究するうえでも有意である。最近の住宅ブームまでは住宅地開発をリードしてきたものは，電鉄会社の不動産部または電鉄系の不動産会社であったといってよい。電鉄会社は沿線を開発培養して電車に乗ってもらうことを目的とし，健康なイメージをもつ街づくり・都市づくりを行なってきた。これが引いては会社の会社的信用の増大となるからであったが，そこに自ら責任感を醸成する理由があったといえる。

ところが，電鉄系ディベロッパーが国の低運賃政策のしわよせを受けている間に，住宅需要の拡大に即応して沿線に新規業者が乱入し，最近の怒濤時代を迎えたのである。これはそれなりに社会的要求を満足させるものであるが，優良な住宅地供給・保全の保証がないだけに社会的責任の自覚がますます要求されるのである。この間において，業者間競争の激化は好むと好まざるとに拘らず，業界の整理・再編成を促進しよう。最近20年間の住宅建設における民間セクターのシェアーは常に6割強を占め，昭和50年目標の第2次住宅建設5カ年計画の成否も民間の自力建設にかかるところが大きく，それだけに市町村の開発分担金制度などの規制強化ばかりでなく，公共投資を充実させるとともに優良なディベロッパーに対しては低利融資，土地収用権の付与などを通じて奨励育成をすることが望まれる。

次に宅地開発の今後の方向については，これをつきつめれば土地の有限性から国土の効率的利用を，国民に対しては健康生活を約束することにつきよう。その方策の理念型は，生活環境のよいニュータウンの建設と職住近接になる既成市街地の再開発である。ちなみに，最近再開発の一環である都心マンションが売れ残っていると伝えられるが，分譲価格からの圧迫もあって供給過剰となった一時的現象であって，マンション需要そのものが下降傾向にあるわけではない。

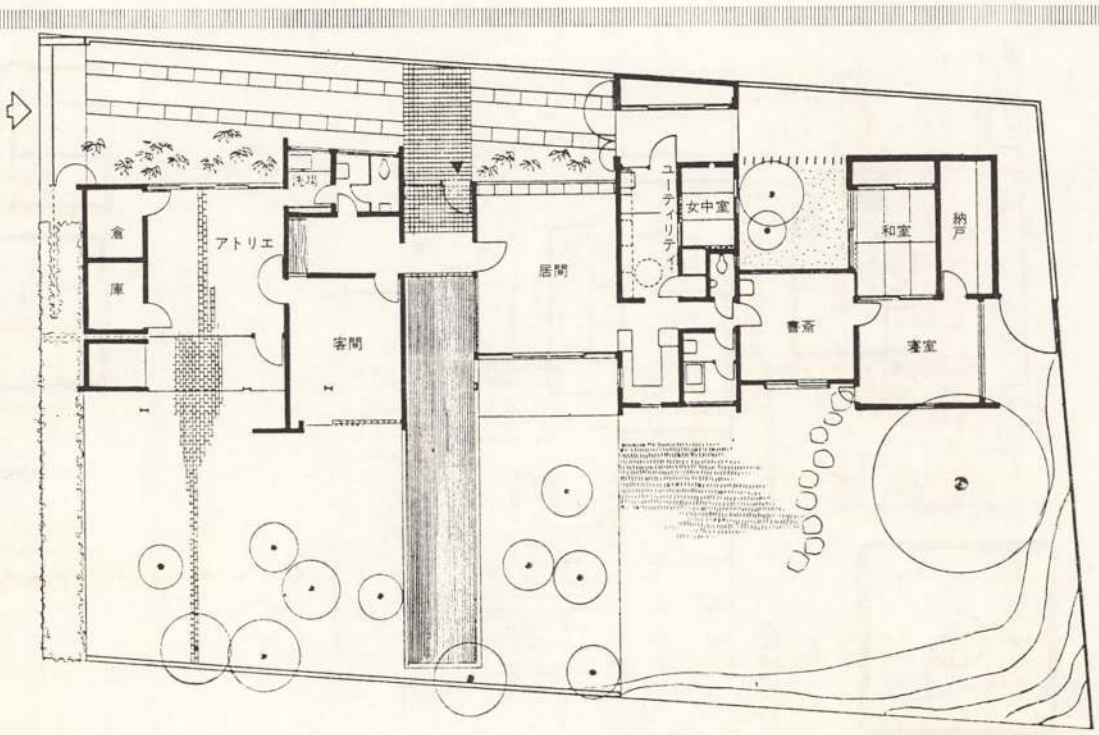
住宅問題を根本的に解決するには，戦前に私鉄が線路を敷設し沿線開発をした方式にかえれという意見がある。高速鉄道があれば都心から1時間以内のところに緑と太陽の大規模住宅開発適地はいくらでもあるし，都市計画法による市街化区域だけでも面積的には充分に増加人口を吸収しうる。市街地が再開発され平均階層が3階となるだけで現在に倍する人が居住できる。したがって開発適地は市街地の内外に充分あるのであるから，問題はディベロッパーに対する誘導政策の適否にかかるといってよい。

最後に，住宅の流通機構の整備が70年代後半に大きくクローズアップされてくると思われる。住宅ストックに目をうばわれてきた住宅難時代が済んで，1世帯1住宅1人1部屋の原則が満足されてくれば，次に所得水準の向上，家族構成の変化に応じた住み替え需要が増加してくるのは当然であるし，住宅の耐久消費財化の進行に伴ってこの傾向が助長され，したがって住宅あっせん仲介業が脚光を浴びてこよう。現行の不動産取引センターの業務が株式市場のように全国的，一般的に行なわれるようになることが地価安定につながる近道であり，そのためには地価公示，鑑定評価の徹底など重点的な政策が望まれる。

（たや　たけし　近鉄不動産KK企画部長）



土間の家／篠原一男／新建築／6404



沢田画伯の家／清家　清／新建築／6501▶

住まいの総合開発組織

加藤善也





わが国の住宅事情に対する要求は，都市およびその周辺において非常に大きなものがある。その要求はむしろ国民的な願望であるとさえいえる。国の施策においても，46年度からはじまる住宅建設第3次5カ年計画は，その量において950万戸を示し，目的達成のためには年間150～200万戸のペースで住宅の建設が行なわれようとしている。これは日本人の優れた英知と勤勉さをもってしても大変な仕事である。だが最近の住宅建設の実績からすると計画に示される量的な目的達成はおそらく可能であろう。しかしそれで問題が解決されたわけではない。それは日本人の生活に対する向上心は，質的な要求度（住宅の大きさ，性能，立地条件，住環境）を増々大きくするからである。すなわち良質なローコスト住宅の大量供給がなされて，はじめて住宅事情が解決されたといえよう。そこに住宅のハードウエアに参加するものの目標があり挑戦がなされると考える。

"良質なローコスト住宅の大量供給"そこには多くの要求が含まれている。これらの要求を満たすためには，住宅生産技術の革新と，住宅産業におけるシステム化の確立が絶対的な条件である。そこで技術革新とシステム化をその基調としてわれわれがこれまでなしてきたこと，またこれからなすべきことについて述べてみたい。

われわれは過去10年間，60年代を基盤として木質パネル接着工法による住宅の工業化と取り組み，開発に努力を傾けてきた。これは在来の木造建築構法および軸組構造から脱却し，部材として工場生産した木質パネルを大量供給し，現場で接着剤で組立てることにより一体化したモノコック構造を形成する新しい構法であった。これをフリーサイズのプレハブ住宅と名づけ，一見矛盾するプレハブの工業化率とプランおよびバリエーションの自由性を尊重し，これを解決してきたつもりでいる。そしてさらに，この構法を発展させ大型パネルによるボックス化，ユニット化へと進んできた。これがローコスト住宅として38年に発売した"ミサワホームコア"であり，万博における"ミサワホームヘリコ"の試行であった。

工場生産住宅の使命は，それ自体の価格を引き下げ，新しい需要の創造にある。われわれは特定ユーザーの高級住宅も生産するが，一般大衆の住宅をつくる企業を最大の目標としている。そして住宅生産におけるコストダウンの可能性を技術開発に最も大きく期待し得るものと考える。それは過去10年間の自からの体験から学び得たものとして，またこれからの10年間への指標として考えていかなければならない問題でもある。70年代という年は技術開発がいっそう速まる年と思われる。新しい分野がつぎつぎと開発され，生活をいっそう楽しくしてくれるはずである。こうした新しい開発の可能性は，個人的なスペシャリストの仕事や小規模なグループ活動では行ない得ない域にきていると考えられる。

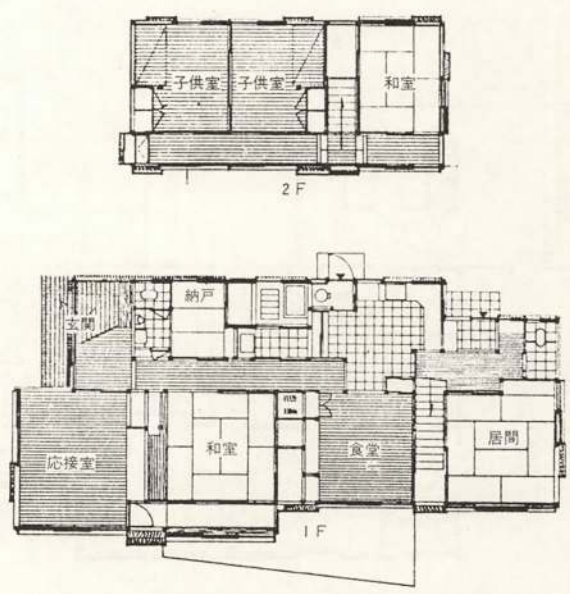
われわれは現在一つの大きな技術開発目標を設定して仕事を進めている。それは70年代の終りまでに住宅コストを在来工法に比較して½の価格で大量供給することである。そのためには，技術の組織化，システム化が大前提にならなければならない。総合研究所のシステムとして技術開発部門，生産開発部門，市場開発部門を設定して30ほどのプロジェクトテーマを消化しなければならないと考えている。

新しい時代の設計開発業務は組織的に形成される多くのスタッフによる充分な基礎の上に立ってのものであろう。建築分野以外を含めた総合研究システムが，新しい時代の開発能力といえる。70年代は大型の技術コンサルタント会社の出現，ゼネコン研究所の活躍，さらに建築界以外からの建築界への進出が目立つことになると思われる。

（かとう　よしや　ミサワホーム㈱　総合研究所技術開発部長）



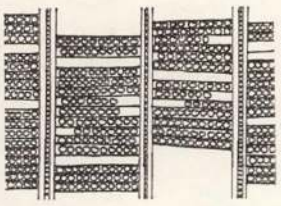
すまい／藤木忠善／新建築／6501



西生田のすまい／大熊喜英／新建築／6501

需要者と住宅選択

三　谷　真喜子



最近の住宅需要をみると，人口の増加，核家族化，都市集中化，所得水準の上昇，生活内容の多様化，老朽住宅の建替えなどにより，規模の拡大，質の向上，構造変化，と住宅需要は潜在化し，その中でもけん著なのは量より質への住宅需要の変化であると思われる。

その膨大な住宅の潜在需要を顕在化，集約化しようと，商社，百貨店などの一般企業，電鉄，生保，証券などの大企業の住宅産業への進出は，最近めざましい。とくに他企業との提携強化，あるいは，系列ならびに累系列企業との協力といった形で経営が進められているようである。

急に伸びてきたこれらの住宅産業への手，さまざまな組織から，バラバラに供給される宅地・住宅，需要者の中には，経済的に住宅を持つ余裕ができてきたというよりも，賃貸住宅の高家賃，狭さなどの不満の解決法として，マイホーム主義への便乗，住宅ブームにのせられ各種住宅雑誌の写真にみせられ，一気に住宅所有という方向に動き，借金をし，住宅ローンも実行するなど，非常に無理して，目の前にだされる供給物を，十分な選択もなく買う，いや買わされているといった感じがする人が少なくないように思える。

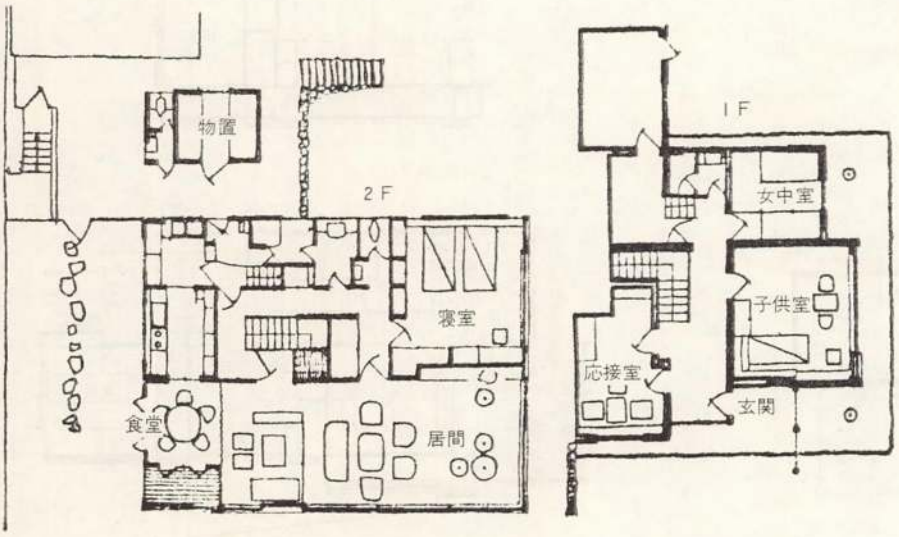
千里の場合，分譲する宅地の応募数130区画に対し応募総数１万4,000件，最高1,200倍と，「宝くじみたいなものですな」と，冗談がいわれるほどなのである。もちろん，この数，すべてが需要者だとはいえない。倍率が高いために，サクラが多く，より倍率が高くなっている。それを計算に入れてみても，分譲代金一括払い，10年間譲渡禁止，２年以内に住宅建設と，需要者にとっては，かなりきびしい譲渡条件からみると，やはり驚くに足る数である。ニュータウンという特殊性に対する魅力からか，事業主体が，半公的機関という信頼からか，投機の対象になっているのか，といろいろと理由はあげられるが，申し込み者の年令層，職業から見，また，契約をしながら話しを聞いていると，民間よりも安い，ということで，先程述べたような理由から，借金に四苦八苦，無理して買っている人がやはり多いようである。十分な選択がなされていないという点では，契約時に，「申し込む時に番号だけ書いただけで，今日初めて見てきたのですが，いい宅地で良かったですわ」とか，「こんな宅地とは思いませんでした」とか，中には建売住宅を買うのに，「住宅，もう建ってるのですか，これから工事にかかると思ってましたわ」などと，宅地もみず，譲渡条件もよくみず，とにかく申し込んで，当選したのだといって，１千万円もの買いものをしている人がかなりいるのに驚かされる。「公的機関がしていることだから安心しているのです」という人があるが，あまりにも選択性のない買い方である。

ニュータウン内の建築指導にあたっていると，十分な選択もなく購入したことから起ると思われる，隣接地主とのトラブルや，借金をして，無理して住宅を手に入れているため，住宅に対して，異常なほどに執着を持ち，住み良い住宅，環境創りというのにゆとりがなく，かたくなに自分の住宅に対する主張を持ち，自ら住みにくい環境を創りあげているような場合が多い。

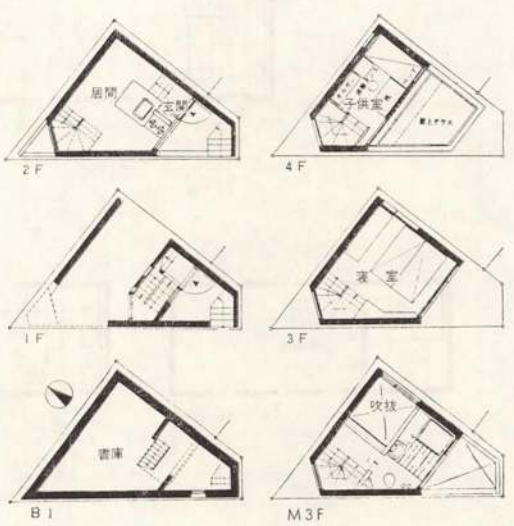
住宅ブームにのってただ住宅を手に入れるというのではなく，住宅は自らが住む所であるから，もっと吟味・選択して住宅を買う習慣をつけなければいけないように思う。また実際，住宅を買ったり，宅地を買って，住宅を建てるのに相談相手もなく手探ぐりで探している人が多い。住宅供給する側も，需要者が吟味・選択して購入できる体制を，たとえば，住宅センターなどを設け，半公的機関が住宅供給情報を集約して，需要者に提供し，さまざまな相談に応じ，業者の紹介もしたりするといったシステムをとれるようにしていくべきだと思う。

と同時，住宅を購入しても，その返済に長年あたり，毎日を四苦八苦している人を見，またこれからの生活様式の変化を考えると，賃貸住宅の問題も，改めて考えみなおすべき問題があるのではなかろうか。

（みたに　まきこ　千里開発センター）



芦屋のS邸／村野・森建築事務所／新建築／6501



塔状住宅／東　孝光／都市住宅／6706

コンピューターを利用した住宅相談

石村勇二



コンピューターを使って住宅相談をやるとすれば，現時点では，建主の好みをインプットしてその人にもっともふさわしい設計者を選ぶというのが最良の方法だと思う。しかし，この名案も実は住宅専門の設計者不足ということから実現不可能なのだが，たとえ十分の数の設計者をそろえることができてたとしても，こうした仕事はおそらくことわられるのがおちではないかという気もする。建築設計界が，一部の高級住宅をのぞいて住宅設計を放棄したいきさつは，主としてその採算性にあるのだが，いっぽう，建築家のセンスを理解しない一般大衆は相手にしたくないという一種のプライドがそこに働いていたことも無視できないと思う。

こうした建築家の高姿勢とは裏腹に，戦後の住宅需要は鰻登りに上昇し，現在では年間160万戸といわれる住宅建設のうちのその約半分が一戸建住宅といわれている。一戸建住宅となると，必ず何らかの形で設計という行為は不可欠であるが，建築家という専門家にみはなされた一般大衆は，少なくとも間取り設計だけは自分でやらなければならないことになる。現在の住宅ジャーナリズムの隆盛も，実はこうした多くの住宅需要者の住宅に対する知識なりアドバイスを求める姿を反映しているものだと見なければならないだろう。大衆が建築家の高尚なセンスを理解しないという危惧にはかなり思いすごしな面がある。近頃よくいわれる文化の大衆化現象という点からみても，大衆はむしろスペシャリストとしての芸術家のセンスを求めているといってよいと思う。

卑近な例としてファション界を例にとってみても，プレタポルテという形で芸術家の作品が大衆のなかに浸透しつつある。しかし現在の建築家のセンスが直ちに大衆化に結びつくと考えるのは早計である。服装には必ずしも生活と関係がなくてもよいが，住宅は生活そのものの器である。センスと生活が結びつかないことには「住宅のプレタポルテ」は成立しないわけだ。

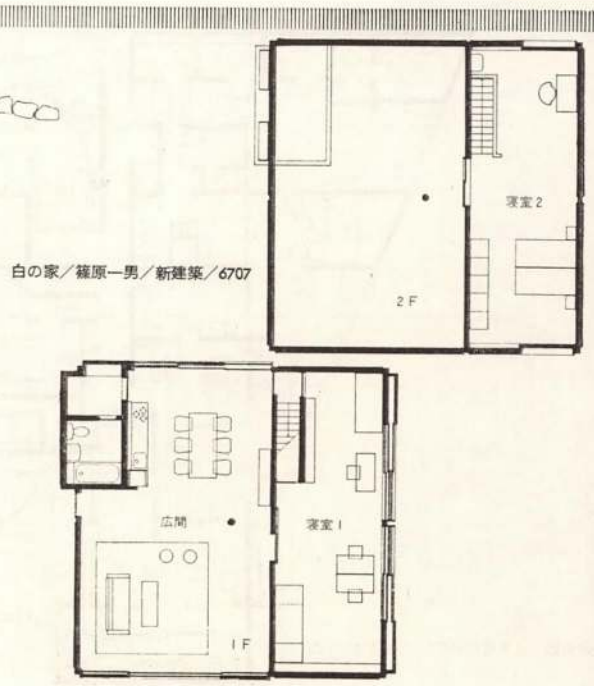
ある人が建築家に設計をたのんだ場合，建築家は単にそのセンスと技術の専門家としてではなく，生活そのものに対する見識を期待している面がある。その見識は，それが特定の個人の住宅である限りにおいては，いかに個性的なものであってもよいが，それが不特定多数の人たちを対象とすることになると，どうしても客観性が必要になる。しかし，よく考えてみると，現在建築家のもっている知識は，通風，採光，動線といった主として「物」をつくる技術であって，生活そのものと密着した技術は皆無にひとしい。したがって，建築家のもっている見識というのは，その建築家の人生体験より割り出されたものにすぎないのである。こうした意味から住宅は，若い人にはできないといわれているわけなのだが，それはともかくとして，こうした体験を集積し，しかも広く社会学・心理学・家政学といった分野の協力を得て，住宅生活と間取りあるいは空間との関係を明らかにしなければならないと思う。こうした基礎的な資料の蓄積ができてはじめて，住宅相談も広く大衆の利用できるものとなるであろうし，この種の資料によって，住宅相談をコンピューターにのせることも可能となるはずである。

はじめにちょっとふれたように，年間80万戸という一戸建の住宅建設に対して，すべて住宅相談をおこなうとすれば，どれくらい多くの建築家が必要かは十分想像がつくと思う。ましてや，経験をつんだ老練な住宅専門の建築家をそろえるとなるとそれが不可能なことはいうまでもない。こうしたことから，高速大量処理というコンピューターの利点を生かした「住宅の間取り設計」という住宅相談も意義があると思う。

（いしむら　ゆうじ　ＲＩＡ建築綜合研究所）



八幡野の週末の家／吉村順三／新建築／6507



白の家／篠原一男／新建築／6707

「求めよさらば開かれん」「求めよされど開かれん」

田中恒子

1971年1月1日，この5年間の努力をふりかえって，X氏はつくづくと考えこむ。

子供はどんどん成長するし，年老いた両親もそろそろひきとらねばならない。いつまでもこんな狭い木造アパート暮しもしていられない。食うや食わずでもマイホームのために貯金をした。あらゆる借金の算段もした。でも情知らずなことに，地価は天井知らずに上昇し，建築費も高騰する一方である。100坪の夢も50坪になり，20坪になり，今や15坪にならんとしている。なんとかしなくてはと，「マイホームへの道・100の実例」を買って読む。しかし，そこに出ている実例は，どうもみんなうまくいきすぎているような気がして，わが身をふりかえると一層いらだってくる。次の日，「マイホーム獲得必勝法」を買う。その次の日，「マイホーム獲得作戦」を買う。狭いアパートに，マイホーム獲得法のあの手この手を教えてくれる手引書だけがあふれる。

「そうだ，自分1人で考えているからいけないのだ」あせる気持をおさえて，○×住宅相談所にとびこむ。相談員氏のにこやかな顔をみて，いらいらした気持も少し落着く。「どのぐらいの規模をお望みですか？ご家族は何人ですか？どのような趣味をお持ちでしょうか？場所はどちらの方面をお望みでしょうか？……」X氏はいそいそと条件を述べた。相談員氏はいろいろとメーカーのパンフレットをならべ熱心に勧めてくれる。「ところでご予算は？」「○○○万円です」「ごじょうだんでしょう。そんな予算では10坪の家も無理ですよ。すこしは本でも読んで勉強してからこられたらどうですか」

しょんぼりと肩をおとして家路につくX氏の横を，会社の同僚のY氏が足ばやにとおりすぎようとする。「いやY君じゃないか，いやに急いでるね」「ああ，これからアルバイトだよ，最近小さいけれど家を買ったんだ。毎月○万円づつ返済していかなければならないんだ。家内も内職に忙しくてね。おかげでここのところ二人とも体の調子が悪くて……。いや全く，何をしてるかわからん状態だよ」

「二人が愛し合っていれば四帖半の民間アパート暮しも楽しいはず」とは，かって某国の某首相が国会でした発言だけれど，一度も一室の民間木造アパート暮しをしたことのない人にこんなありがたい言葉をいただいてもいっこうにピンとこないのは，長年の民間アパート暮しのひがみというものか。

「黄金の60年代は物質の豊かさを求めました。70年代は精神の豊かさを求めます」とは新聞の広告文だけれど，その60年代に建設された住宅の過半数を占めたのが，一室ないし二室の民間木造アパートだったとは，60年代の豊かさの底の浅さを示すものではなかろうか。

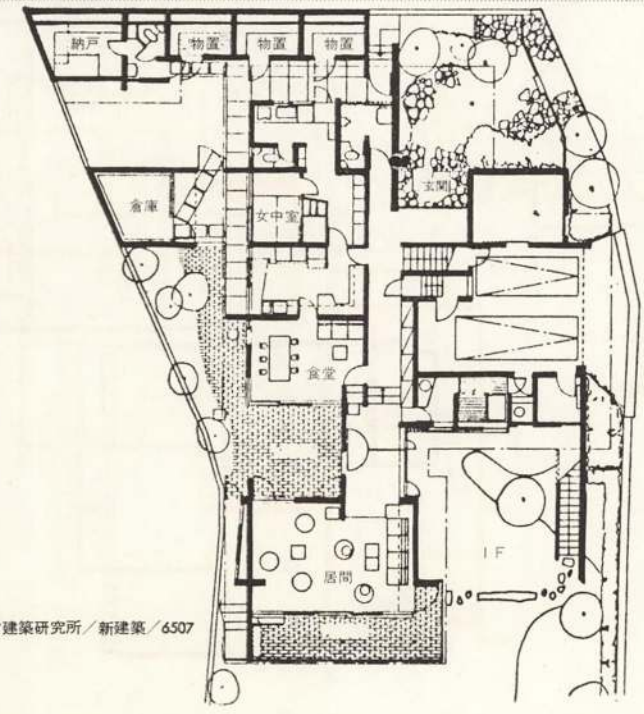
これら民間アパートにやむなく沈澱してゆく多くの勤労者階層に，あの手この手の住宅金融をもうけて，マイホームの夢をいやがうえにもあおりたてたのは，この60年代の後半にあらわれた現象である。そして多くの勤労者はその夢の中にまきこまれ，マイホームを得た人はローンの返済においたてられ，マイホームを得ることのできなかった人は，つきることのない焦燥感の中にとりのこされる。

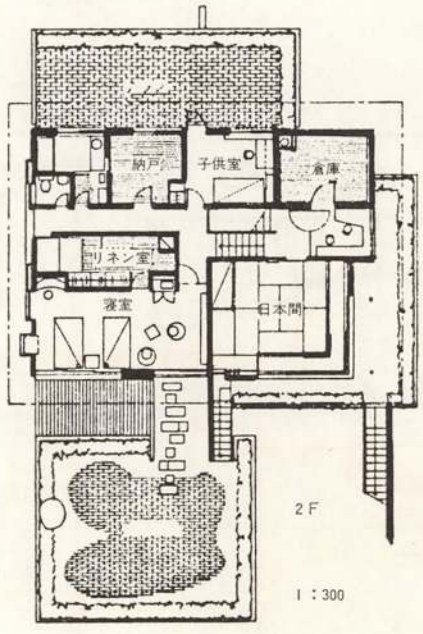
どうして住宅の問題では個々の人がこんな苦しい思いをしなければならないのだろうか。戦後，政府が一貫してとってきた住宅政策は，「各人が自らの責任において住宅を建設せよ」ということであった。けれどどんなに努力してみても遠距離化する住宅立地，高騰する地価などに対してどうして個人的な力で対応することができるだろうか。

政府のとる住宅政策は，いいかえるならば「（自らの資力で）求めよさらば（資力あるもののみ）開かれん」といっているわけだけれど，現実は「求めよされど開かれん」である。これに対して住宅に苦しむ人々は，政府の責任において全ての国民に安心できる住宅を確保する住宅政策の立案を強くせまるとき，真に（全ての人は）「求めよさらば（全ての人に）開かれん」ということになるだろう。

1960年代に個々の世帯が汗水ながしてマイホームを追い求めた努力を，住宅に対する政府の責任を明らかにし，低廉な住宅の大量建設を「求めて」いく努力として使うとき，1970年代における，国民の半数を占める勤労者階層にとっての住宅の展望がうまれてくるだろう。

（たなか　つねこ　京都大学建築学教室文部技官）



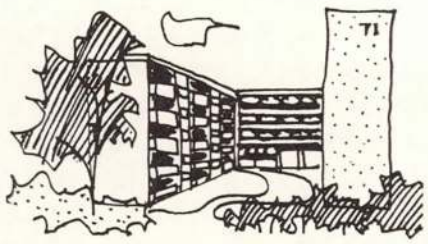


○氏邸／坂倉建築研究所／新建築／6507

1：300

70年代へのリーダーシップ

塚 本 正 司



'60年代を通じ,そして'70年代の転換期にかけて,ジャーナリズムによる住宅論議もしくは告発シリーズものが盛んであった。大規模団地やニュータウンが続々と登場し,いわゆる団地族が定着するにおよんで,その階層的均一性や個人主義的指向,利便施設の不完全さを問題にしたコミュニティ不在論。寸づまりの間取や禁止文句の多い公団住宅はその槍玉の先峰であった。また,上下水道も不備で日照も不充分,ひとたび水や火が出れば大災害——式の高密分譲住宅地や木賃アパート批判。そして,交通機関もスーパーマーケットの食料品も住宅も何かも○○(鉄道)資本一色,生活のすべてがレールに乗せられているといった系列資本型批判。それに今もっとも多いのが住宅産業解説シリーズである。その間に持家政策論議やドーナツ現象,家賃問題,職住近接論,マンション・ブームなどがあった。

戦後から今日(昭和20年度～45年度)までに建設された住宅戸数は,民間自力建設1,134万戸,公団を始め公営・公庫など公的資金による建設戸数628万戸,合計1,762万戸であるが,そのうち1960年代(昭和36年度～45年度)において1,071万戸(うち公的資金によるもの405万戸)が建設された。いわゆる住宅5カ年計画(昭和41年度～45年度)の目標達成数は670万戸であった。

この先'70年代前半の見込数を新5カ年計画(昭和46年度～50年度)のとおり950万戸(公的資金によるもの380万戸)とし,後半も同程度とすると,2,000万戸が建設・供給されることになる。

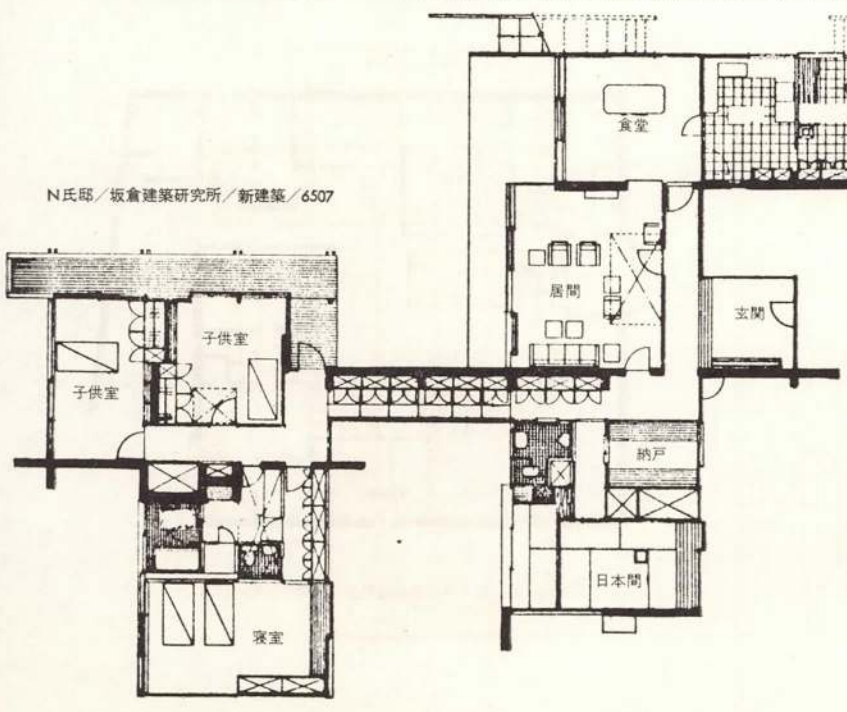
住宅公団は1970年で1955年7月に創立以来,15周年を迎え,'69年度までに住宅建設戸数(賃貸+分譲)618千戸,賃貸住宅管理戸数315千戸に達し,'70年度においては81千戸の住宅建設と17.6千haの宅地および関連造成事業を行なっている。

ところで,この二つの事実,実数として膨大な建設投資と実感とのギャップはどう釈明すべきであろうか。それは"生の生産場"であるはずの住宅や住宅環境が経済合理主義に追随させられている姿ともいえ,この「資本の論理」でゆく限り,たとえ'70年代に2,000万戸の住宅を建設・供給するとしても解消できない質のものであるように思われる。

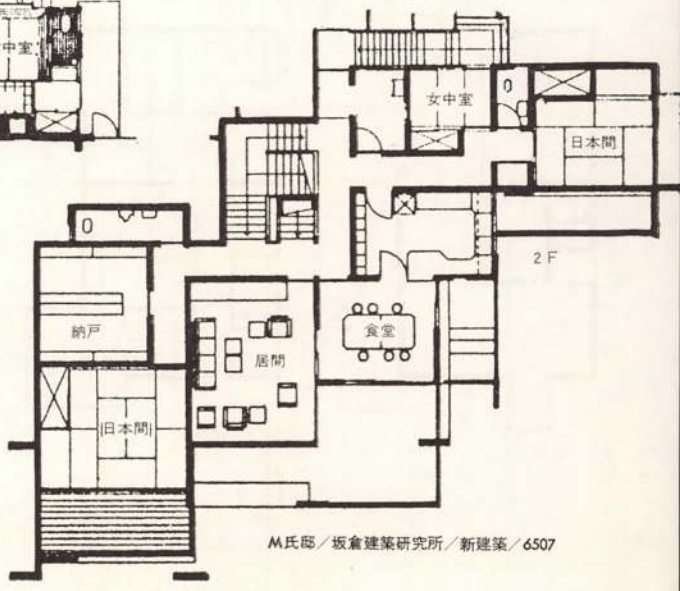
'70年代において衆議のごとく住宅産業が量産体制を確立して住宅供給のイニシャチブを取るとしても,諸施設や生活環境全体との連関を失った単に商品としての住戸の供給だけでは真に住宅問題の解決たりえないことまでは告発シリーズも告発していない。

公的立場としての住宅開発主体はこの意味でとくに,計画・設計・工法上の思想や技術,そして事業遂行組織が住宅問題の担うべきシェアと役割立場を明らかにする大きな変革に迫られていると思う。DK理論と就寝分離論が規定であったユニットは,今後の生活様式や都市立地(とくに高層化の問題)に量産システムを伴いながら対応してゆかねばならないし,地価や工費の値上りがもろに家賃の高騰となる現行の原価主義の是非。また公団ではすでに住宅変更制度や空家募集から最近の通勤区分募集など種々な試みがあるが,家族の成長や住み替え需要(空家発生率は年平均10%を超える)に流動的に対応する総体的な管理体系の必要性。そして,生活共同利便施設,環境基盤施設(上下水道・道路・屋外園地など)を始めとして関連公共施設の附帯事業化と資金的裏付をどこまで拡大し,きめ細かくするかということ,とくに都市住宅再開発としての面開発市街地住宅は既成都市部に最も不足する公共施設(公園・図書館など)を附帯させて真の都市再開発となる展望が必要である。

(つかもと まさし 日本住宅公団大阪支所)



N氏邸／坂倉建築研究所／新建築／6507



M氏邸／坂倉建築研究所／新建築／6507

都市政策の「松・竹・梅」
—住みよい住宅と生活環境の値ぶみ

三村浩史

〈都市のねだん〉

まむし（うなぎ）丼のメニューには，松・竹・梅の段階があって，内味と値段が対応している。松なら小さな一片がのっているだけであるし，梅ならご飯の中ほどにふくよかなもう一片が入っていて値打ちがある。

都市政策のメニューはどうか考えてみると，まず，値段と内味の対応があまりはっきりしていない。したがって，予算は松でもスローガンは梅のメニューでまかりとおることが多い。

70年代は，都市政策の時代であるといわれる。新都市計画法，建築基準法，再開発法，その他の都市計画・開発事業の制度が改変強化されて，いまや動きはじめている。そこで問題となるのは，そうした制度が，国民の住宅や生活環境をどこまで向上させるかである。そして，基本的に大切なことは，そのために，経済の異常な成長や軍事化に用いている財源や資金をどれだけ，住宅や生活環境整備のためにふり向けるかというお金の配分の問題である。

《ひとつの試算》

いまかりに，70年代の10年間に供給する住宅を1,000万戸とする。

この数字は，これからの人口移動，世帯の細分化，老朽住宅や60年代につくられた木賃アパートや文化住宅を建てかえるために必要最小限の戸数といえよう。

これをせめて，西ヨーロッパの現状程度の水準の住宅と居住地で供給するといったいどれくらいかかるだろうか簡単な算術をしてみよう。

住宅1戸当りの面積を80㎡とし，建設単価を6万円/㎡とすると，1,000万戸で48兆円である。地下鉄・学校・公園・下水道などの今日のニュータウンレベルの都市施設をもった宅地整備費は，1戸当りグロスで200㎡として，単価は，3万円/㎡とすると，60兆円。合わせて，建設コストは108兆円である。これには，用地取得費が入っていないから2～3万円/㎡とすれば，さらに40～60兆円が必要となる。つまり，1,000万戸のまともな住宅と居住地を整備するための総コストは，150～170兆円オーダーである（金利はふくまない）という見当がつけられる。これくらい投下すれば，木賃アパートや文化住宅，さらに近年登場した「中層文化住宅」なる零細マンションの新規建設を防止し，生活環境はいまのニュータウン並みのものにすることができるだろう。つまり，梅とはいかないまでも，将来の国民の生活水準として竹と梅の中間くらいのメニューである。

〈住宅，生活環境投資を倍増したとしても〉

ところで，現実はどうであろうか。70年初頭の年間の住宅および生活環境投資はせいぜい4兆円である。また，70年代の中間時点としての昭和50年をめざす新経済社会発展計画によると，これが7兆円程度まで名目的には伸びることになっている。これを平均値とみてみると，10年間で70兆円である。これは，先の梅と竹の中間レベルのメニューの½以下にすぎない。かりに，½としても，どこまで，住宅と生活環境を改善できるだろうか。かりに，80兆円を総額として，戸数1,000万戸をたてるとすれば，住宅の面積は40㎡という2DKレベルにとどまるか，設備や構造の質のめだった改善がほとんどみられないかということになり，宅地整備では，文化住宅なみの過密状態になるかあるいは，せいぜい街路，排水路，小公園などは整えられるとしても，下水道やさまざまな生活施設の充実とはほどとおい状態になろう。もちろん，これらはあくまでも，平均値的算術であるから，梅レベルの居住地もつくられるかわり，より多くの松レベル—ほぼ現状のスプロールが抑制される程度—の居住地はさらに多く形成されることになる。

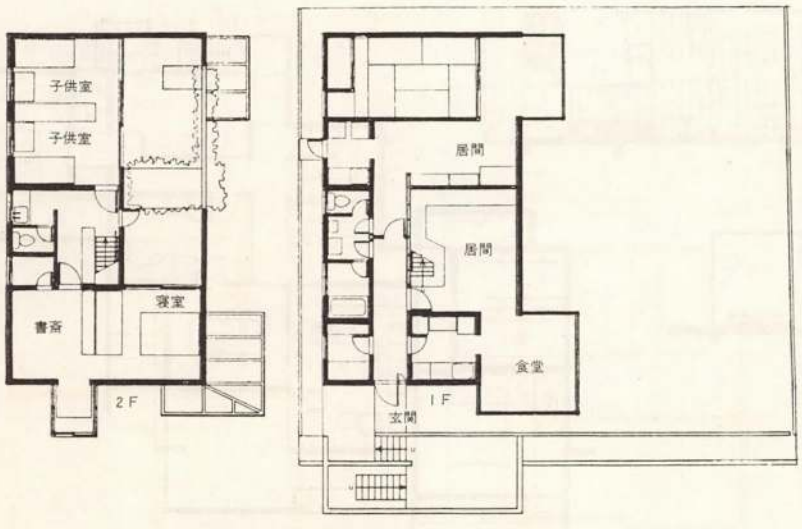
GNP世界第2位の日本国民にふさわしい住宅と居住宅として10年後にはせいぜい西ヨーロッパなみと期待しても，この状態では，梅メニューはむしろ荒唐無稽のプランにしかすぎないのが現実である。

コンピューター時代に，たよりない筆算では申しわけなく，できれば算定精度を上げてみたいが，今のところは残念ながら精度の必要性にまで達していないといってもよい。

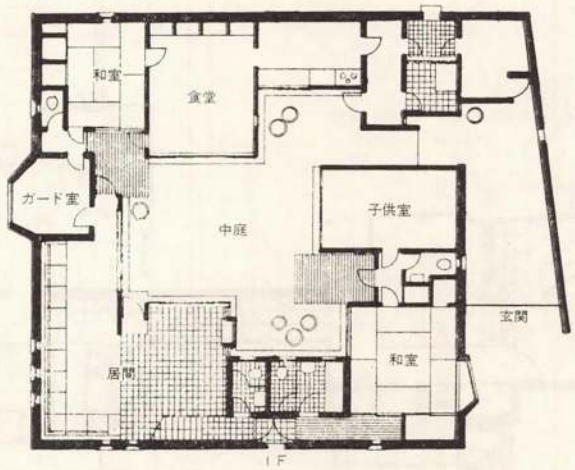
〈大切なストック〉

すくなくとも，こういうスケッチからいえることは，

1) 住宅，生活環境の改善は，ぼう大な努力のつみ重ねでのみ達成される。もともと富国強兵から高度成長のプロセスでこの側面を放置してきてストックの貧困なわが国の都市の場合，いまかりに住宅・生活環境投資を倍増しても70年代に，現在の西ヨーロッパの水準にも達し得



石亀邸／鈴木　恂／都市住宅／6805



団らんの家／RIA建築綜合研究所／都市住宅／6908

ないことは明らかである。

2) 都市生活の健康と便利，快適性をととのえるためには住宅以上の投資を宅地，都市施設整備に注ぐ必要があるとこである。にもかかわらず，新経済社会発展計画では，昭和50年までの国の公共投資55兆円のうち，住宅生活環境に対する配分はこのようにストックの貧困さにもかかわらず大きく見積ってもせいぜい10兆円にすぎない。のこる大半は産業および産業基盤投資に集中される。これが「公共投資の効率化」である。他方で，住宅・生活環境などの住民にとって身近かな環境整備は，民間資金の導入，民間ディベロッパーの活用のもとで，住民の「受益者負担」に課せられる。

70年代の都市政策はこの二つの経済的特徴の上に推しすすめられようとしている。

70年代の住宅と都市生活の展望は，梅のメニューにつられて砂を噛むことのないように，こうした現政策条件をとらえながら考えてゆきたいものである。

（みむら　ひろし　京都大学助教授）

住宅はもう建築ではない

村　松　貞次郎

まず「住宅—60年代の総括」ということで想い浮ぶのは，1958年度の建設統計に見られた年間着工建築の建築費における木造と非木造の交替（もちろん非木造のそれが木造をはじめてオーバーしたこと），1963年度に見られた延面積における交替である。日本も歴史始まって以来はじめて，木造建築国の看板をおろさざるを得なくなった。建築の歴史の上で，まことの画期的な時代をわれわれは自分の生きている間に迎えたわけである。

もちろんこれは住宅そのものの現象ではなく，むしろ住宅は建設投資全体の中では，依然として木造分野の大宗を占めているわけだが，それすら徐々に危くなっていることは，木材資源の心細い見とおしや，それに対抗する新建材（非木質系の）の急速な成長をバランスにかけただけでも一目瞭然というものだろう。

そうして1963年には建築投資全体の中で，住宅関係のそれが，非住宅を初めて上回って以来今日までその座を譲っていない。住宅産業論は，こうした傾向を背景に育ってきていることは周知のとおりである。また，いろいろの政治的・経済的立場から，住宅産業を自動車産業の次の時代のリーディング・インダストリーとして育てあげようという意向も各方面に強くあるように思える。各種の審議会や委員会の答申とか報告が，てんでバラバラに，こんなに雑然とひしめいているのも珍らしい現象である。システム好きの方々の仕事としては，まずそこからシステム化を図ったらどうです，と皮肉の一つも言いたくなるほどである。

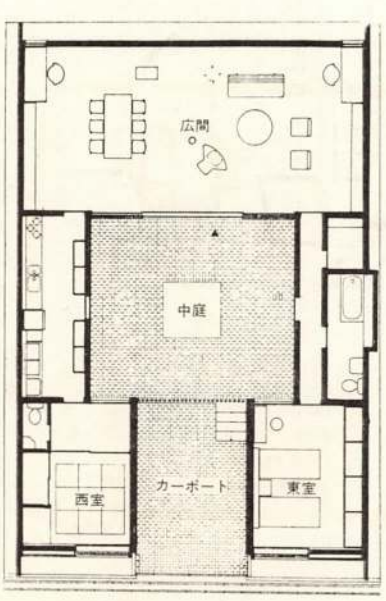
それはともかく，私はこの数多い住宅産業論や各種の答申・報告のほとんどすべてが，もっとも肝心な問題を避けているので，それらを頭から信用していない。他人を愚弄するのもいい加減にしろ，と言いたい。それは言うまでもなく土地（宅地）問題である。この根本的な問題にメスを入れない住宅産業論など，まさに砂上の楼閣だろう。理想的な宅地が手に入れば，私は住宅などいらない。天幕生活でも結構だ。

便利な場所のマンション（そういう場所にはマンションしか建たない）は高嶺の花，やりくり算段すればどうやら入居（入手）可能な住宅は絶望的な場所，という庶民にとって住宅産業論の実態は果して何なのだろう。口うら合わせ，寄ってたかって俺を馬鹿にしてると憤慨しても無理はないと私は思う。問題は住宅なんてものじゃないですよ，という気持だから建築家○○先生設計の住宅とか，新進作家××氏の意慾的な住宅が"叫んで"いても，ただ虚ろに空しいだけである。そんなものが欲しいんじゃないんだ。住宅はもう完全に建築学からも設計からも，デザインからも脱け出たところにいってしまっている。ヘドロの海には，もう魚はいない。それが証拠に，こんなに住宅産業論がやかましくなっているのに，まともな住宅論が一つも現われていないではないか。住宅はもう"建築"ではなくなったようだ。

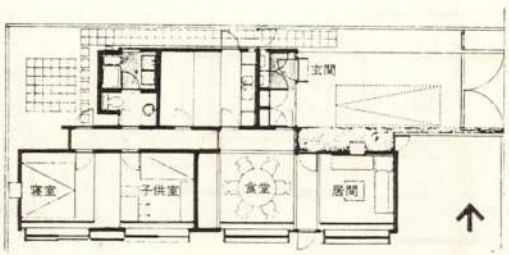
では住宅とは何か，というところから1970年代への展望がひらける。それはまぎれもなくこれからのもっとも重要な社会対策であって，福祉などという生やさしいものではないが，同時にまた政策（国策）上の大きな賭けの対象でもあろう。何とかして住宅を，何とかして今より良いものを，他人より良いものを，といったドロドロの怨念の中に分断され，相互干渉によって起爆力を失っている民衆の"人間的要求"の圧力をまともに受けることになるからである。今日の住宅問題は，問題としてこねまわされている限りでは，まことに便利な，巧妙な社会的緩衝剤である。建築家もそこに棲息することができる。

「住宅——1970年代への展望」は，建築家そのものの自らの進路の決定の上に，はじめてひらけるものではないだろうか。決定のできぬ以上は，やはり何となく"住宅問題"をこねまわして日を送ることになろう。

（むらまつ　ていじろう　東京大学助教授）

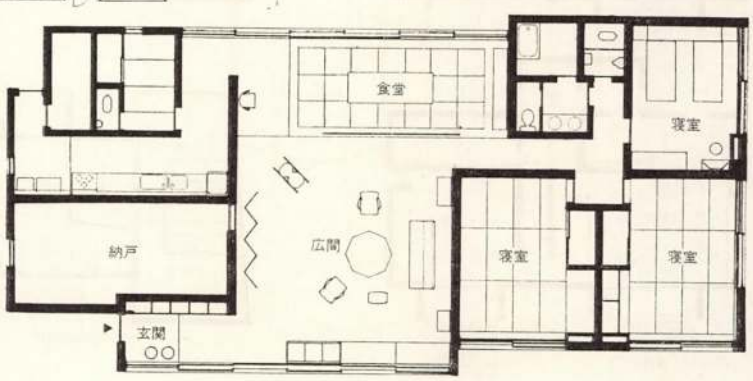


山城さんの家／篠原一男／都市住宅／6807



◀自邸／穂積信夫／都市住宅／6808

▼鈴庄さんの家／篠原一男／都市住宅／6807



住宅―60年代の総括と70年代の展望

■60年代から70年代へ――住宅の流動化状況

60年代，それは住宅の流動化状況をつくりだした。
都市集中・都市化の進展は住宅需要を急増させることによって需要の流動化をひきおこした。
生活革新・消費革命は住宅機能と要求の多様化をひきおこし，住宅の分解と社会化の流動化をひきおこした。
技術革新とそれにともなう住宅の量産化・工業化の急速な進行は，設計におけるかたちからシステムへの流動化をひきおこすとともに，生産機構・供給機構を解体・再編するという流動化をひきおこしている。
こうした流動化は一方では住宅政策，他方では住宅難に苦しむ国民の声を背景にして，複雑で多様な現象として展開している。
一戸建から高層アパートへ，個人住宅からマンションへ，大規模団地開発から市街地開発へ，かたちからシステムへ，フロー対策からストック対策へ，住宅作家からコンピューターによる設計へ……など。
さまざまな現象が併存し，競合しあいながら，より良い，より安い住宅を求めて展開をしている。
70年代はこうした流動化現象をどのように再編をしだれが主体的に再編をしそのなかで長年の永久の課題である住宅問題をいかに解決しうるかを，明確にとわれる年代として登場してきている。

■70年代の方向1――都市化と量産化への対応

70年代の課題はなによりも現在進行しつつある都市化と量産化にいかに対応するかである。都市化と量産化を積極的に受けとるものとするならば，そのシステムのなかに住民の「すこしでも安く，すこしでも豊かな，すこしでも便利で安全な」小空間への要求をいかに充足せしめるかである。
住宅の品質向上，多様性の確保，コストダウン，大量供給の可能性を，一方ではこの都市化が，また量産化がわれわれに用意をしている時代の流れのなかにみることである。そのなかで公共賃貸住宅がそのリーダシップをとりうるのか，市販個人住宅がリーダシップをとりうるのか，その解答は一つに住宅の要求に答える住宅対策にかかっており，その一つは量産化・標準化のなかに，いかに人間の個性・回復をはかりうるかにあろう。
いずれにしても，資本・営利追求のエゴイズムが都市化と量産化への対応の前面にでている限り，その課題の解決はありえないことを肝にめいずる必要があるが……。

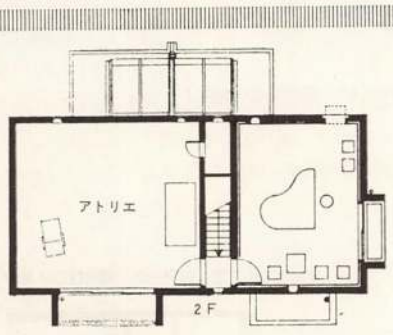
■70年代の方向2――住民主体の供給システムの創造

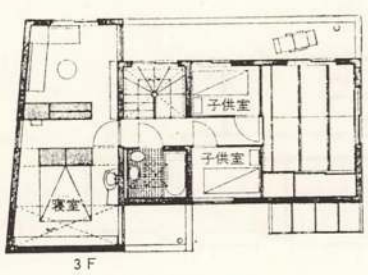
供給機構の再編のなかで住宅を，都市を上から押しつけるのではなく住民の声をいかにとりいれ，住民の力をいかにとりいれた供給システム・設計システムを構築しうるかは，住民自身が自からのすみ方はみずからで創りだし，住民の住宅問題を解決していくうえで，住宅管理の新しい方式をつくりだしていくうえできわめて重要に課題となっている。70年代は住民が自から参加することによって住宅の新しい展望をきりひらくことにこそ活路があるからである。

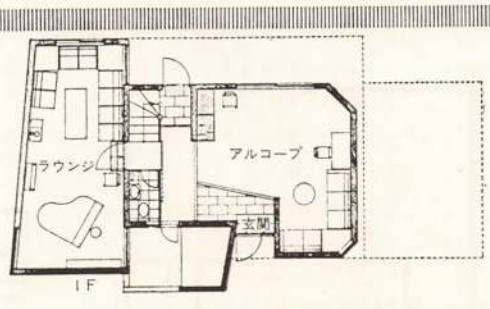
■なによりも政策の重視を

住宅の問題は建築の問題以前に，なによりも政策の問題であり，社会対策の問題である。
量産化によって安い住宅がかりにつくられたとしても，地価はその倍も3倍も高騰しているであろう。
民間自力建設の依存度が増せば増すほど，住民の声は供給のシステムから遠のくであろう。
またマンションは高嶺の花，せいぜい老朽木造アパートの一室にすむしかない現実は，もはや建築家や住宅家の手をはなれた政策の問題であろう。
それゆえに，建築や住宅にたずさわるものがそれぞれセクショナリズムをすて，住民のなかに深く入ることによって，政策を合わせた総合的な対策にのりだすならば，70年の展望はわずかでもひらかれるだろうし，出発点はそこにしかない。
なによりも住宅問題の互いの解決が住宅にたずさわる多くの人の手によってもたらされることを信じて。

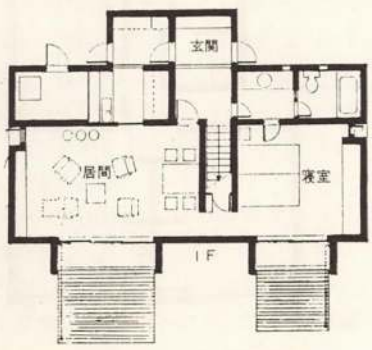
（室崎　幹事）

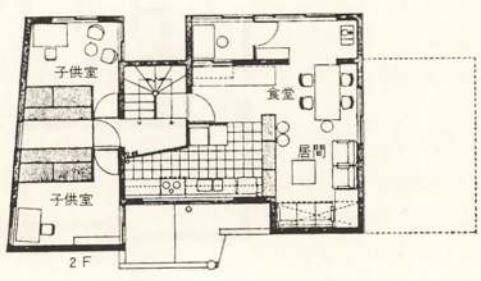






自邸／岡田新一／都市住宅／6908





北村邸／山下和正／都市住宅／6809

アンケート中より，以下の2作を，ページ数の都合でかつあいいたしました。
65年度　Y氏邸　　坂倉準三建築研究所
67年度　Kさんの家　　〃
担当編集幹事：太田隆信，田中恒子，塚本正司
橋本健治，三谷真喜子，室崎益輝
森　薫（五十音順）

戦後の建築運動史

関西における25年の歩み

NAC建築運動史部会

6

V　社会と建築のつながり —1—

V—1　民族遺産の保存

民族遺産を守ることは，ひとり建築家だけの関心事ではないのはもちろんである。政治家も経済人も，美術家も歴史家，郷土史家も，およそ日本文化を愛する人々のつねに心掛けなければならない問題である。しかしながら，それらの人々の善意や当事者の個人的な行動だけでは守られないことは，歴史がしめしている。やはり，専門家も含めて多くの人々の結集と運動，ならびにその保存計画の科学的裏付けが必要であろう。

NAUO時代に，法隆寺問題に関係して，早くから民族遺産に関する論争と集団としての行動を起していたことは，すでに第Ⅰ章で簡単にふれたところであるけれど，いまいちど，歴史的な運動として，その間の事情を記録にとどめておきたい。

1949年1月の法隆寺金堂焼失からはじまった民族遺産論争は，その後，2月3日に「**第一次法隆寺金堂災害調査団**」が，「日本文化を守る会」が中心となり，それに民主々義擁護同盟，日本民主々義文化連盟大阪府協議会，NAUOの諸団体に属する画家・歴史家・建築家・科学者・批評家・学生ら約40名で編成されて調査されるほど発展した。この調査に，建築家として，滝沢真弓，飯田精次郎ら4名が参加した。調査に先立ち，当時の参議員議員，谷口善太郎が新日本文学会会員として出席し，国会でこの法隆寺問題を追求するとあいさつされた。調査団は財政班，工事班，建築班，美術班の四班に分けて調査された。つづいて「**第二次法隆寺現状調査団**」として，同年8月20日，「日本文化を守る会」，「民主々義科学者協会」，NAUOのメンバー8名が現地調査し，9月8日に同調査報告を発表した（資料V—1参照）。そこでは，法隆寺保存機構と国宝保存法の欠点を指摘し，当時の大岡実所長，浅野清技師追放に反対し，有能な学者・技術者陣容で保存工事を整えるよう，運動を訴えていた。

これと前後して，9月3日と10月22日の2回にわたって，第1回法隆寺講演会，第2回法隆寺講演会を行なっている。「新資料による法隆寺再建非再建の問題」（浅野清），「法隆寺壁画の近代性」（望月信成）などのテーマで聴衆に感銘を与えた。参加者は，第1回が94名，第2回が62名で，上記参加団体会員のほか，天平会，史趾美術同好会のメンバーがかなり参会されたもので，熱のもり上った講演会であったといえる。

このように，NAUOとして，他の民主団体，美術団体とともに，民族遺産を守る運動の第一号として，この法隆寺問題にとりくんだことは記録されるべき活動として評価されてよかろう。

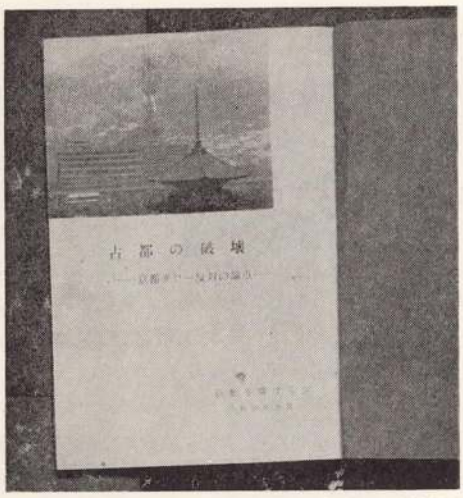
NAU本部でも，この法隆寺問題がとりあげられ，1949年度スローガンのひとつである「**文化遺産を大衆の手で破壊からまもろう！**」という運動を展開した。その後，朝鮮戦争など通じて，日本の植民地化が大衆の間で論議され，現実に社会的文化もそのような方向に進行するなかで，民族遺産である日本の国宝が海外にもちだされる風潮が生じた。これに対しても，51年6月，NAU本部総会では「**日本の国宝は日本人とともに**」というスローガンをだして，国宝を守る活動を示したのであった。

さらに，くだって，1960年代になると，それまでとちがった民族遺産の破壊と闘わなければならない事態に突入していった。すなわち，「都市化」「地域開発」の波が既成都市といわず，農耕・丘陵地帯にもおよび，「高度成長」の影響をうけて，歴史上，かつてない速さと規模をもって，国土は更改されはじめたのである。もちろん，住みよい環境をつくることは，建築家・技術者の任務である以上，国土の更改はさけえないけれど，それが無計画に，かつ資本の論理のおもむくままに無方策になされるならば，その当然の結果として，埋蔵古文化財，建造物その他の貴重な民族遺産が破壊されてしまうことになる。こうした事実は，1960年代当初から，各地域でおきてきた。関西では，とくに，平城京趾が近鉄車庫建設計画で，難波宮趾が総合庁舎建設で，また奈良公園が県庁建設問題で具体的にあらわれた。

そこで，NACとしては，「都市問題」に関心をもち，国土の荒廃に反対し，民族遺産を守る立場から，これらの文化財，埋蔵物の集団地域の保存方法・制度の確立を要望するとともに，さしずめ，当面の問題として，平城京趾の保全，難波宮趾の保全などにつき，西山会員の提案によって，第3回総会（1962年11月23日）で討議した。そして，この総会の決議にもとづき，「**平城京趾，難波宮趾を守り，奈良公園の環境破壊に反対する**」声明（資料V—2参照）を，62年12月1日大阪府庁で新聞記者会見で発表した。このことは，朝日新聞などでもとりあげられたが，さらに12月の例会では，とくに難波宮趾の問題などについて，考古学者，関係者も含めて「都市開発と民族遺産」というテーマで討論したりしたものであった。

埋蔵文化財も含めて民族遺産をどう保存していくかは，その都市化時代には，きわめてむつかしい問題である。「開発と破壊」という矛盾は端的にこの問題に示されている。NACが経験し，またあとでのべる労住研での活動のなかで経験した（西山古墳問題）ことは，建築家・技術者の単なる保存マスタープランだけでは，どうにもならないということであった。埋蔵文化財の等級づけと価値の問題，国の買上げ，財政上の問題の裏付けができぬ間は，単なる文化財保護法だけでは，守りきれない。実はそれだけでも不充分なのである。地域の住民運動と各種専門家の結束と，自治体，国へ働きかけが何より必要とされなければならないであろう。さらに，**文化遺産の保存管理・修景システム**が確立せねばならないことには，本当の民族遺産を守る道すじにはならないであろうことを，強く痛感させられた。

さらに，64年になると，京都駅前に「京都タワー」の建設の是非をめぐって，大きな論争がおきた。131mにおよぶ京都タワーの建設について，京都在住の文化人や，京都を愛する外国人らで，京都の美観を害するということで工事反対の声があがったが，かんじんの建築家の間では，京都在住の心ある建築家をのぞいては，必ずしも当初は反対の声は多数とはいえなかった。工作物という名目でだされたタワー建設の確認申請の事実を知りながら，「パリには，エッフェル塔もあるではないか。京都のエッフェル塔だ」という建築学者の声におされがちで沈もくをまもる建築家もいた。そういうなかで，京都の文化人たちが反対の声をあげ，次第に心ある建築家も反対の意見をだしはじめたわけだが，NACとしては，一方的な論調をそのままうのみにせずに，京都で例会を開いて充分討議した上で，64年8月「**京都タワーについての声明書**」（資料V—



京都タワー反対の声明を集録している「古都の破壊―京都タワー反対の論点―」の扉
京都を愛する会発行

3参照）を関係各方面に発送し，当事者の反省をうながした。

このNACの声明書にもあるように，「正しい観光とは，決して安直な塔上からの見物ではなく，観光者が古都の文化遺産に心からふれることであり，と同時に130万現京都市民の生活を合理的にとけこませること」である。また京都市全域の開発と保存のマスタープランが確定されたうえでの必然的な一部都心地区における高層化と，「京都タワー」とはまったく異質なものなのである。「京都を愛する会」では「**京都の破壊――京都タワー反対の論点――**」という小冊子をつくって，各界文化人の反対意見や声明をのせている。

かつてNAUKが「非戦災感謝記念塔」反対声明をだして運動を成功させたが，今回は，このように京都を愛する多くの文化人や心ある建築家たちの反対にもかかわらず，結果的には，現実に京都駅前に建ってしまった。文化都市・京都にとって，それは本当に誇りなのであろうか。観光資本に屈した姿の表現であり，古都の破壊につながる道程ではなかろうか。

V―2　労住研，事務所連絡会，労福研

(1)　労働者住宅問題研究会（労住研）

NACが設立された1960年ごろ，内外で労働者住宅に対する関心がたかまっていた。戦後すでに15年を経ていたにもかかわらず，政府の住宅に対する無責任な政策は，庶民の住宅難をますます激しくしていた。また，ILO＝国際労働機構では，57年に「労働者住宅」を議題として取りあげることを決め，61年の第45回総会には勧告が採択されることとなっていた。

こうした事情を背景に，NACの内部には，労働者住宅問題にとりくもうとする気運があったのである。たまたま，61年1月に**日本労働者住宅協会（労住協）**兵庫県支部から，東加古川団地の建設企画の依頼がNACにもちこまれた。労住協というのは，58年労働者自らが住宅建設を行なうために，労働金庫の資金援助のもとに設立され，すでに発足以来3年間に，全国各地で1,870戸の住宅の建設が進められていた。兵庫労住協でも，すでに明石，豊岡，相生などに89戸を建設していたが，61年以降の建設地として，18,450坪の土地を買収して，600戸の住宅団地を建設する計画がたてられ，すでに60年暮に第1回建設委員会がもたれていたのである。

1月28日，上村一，松井昭光，早川和男，三村浩史，蓮仏亨らNAC有志は，現地視察のあと相談して，労働者住宅の問題を系統的に追求するため，NACの専門部の活動をさらに発展させた別途の組織をつくり，そこでこの問題に取り組もうということになった。こうして2月1日発足したのが**労働者住宅問題研究会（労住研）**である。労住研は，「労働者の立場から，住宅ならびに都市建設に関する諸問題を研究し，働く人たちのための都市，住宅の発展につくすを目的」（会則―資料V―4参照）とし，同じく会則でその事業の第1に，「財団法人日本労働者住宅協会の建設企画への協力，その調査研究ならびに計画立案」があげられていた。そして，労住研は，NACの全面的な協力のもとに活動がすすめられた。

その後，作業は進められ，5月にはレポート「**加古川労働者住宅団地第1次建設計画案**」として建設委員会に提出され，さらに6月にかけて第2次，第3次マスタープランがえがかれていった。

この東加古川団地より少しおくれて，2月には，労住協京都府支部から，城陽団地の企画がもちこまれた。京都労住協でも，59年度より建設を進めていたが，久世郡城陽町に3万坪の宅地造成を行なって300戸の住宅団地をつくることとなり，この企画が労住研にもちこまれたのである。4月には，京都府・市，城陽町，労組，労働金庫に学識経験者をまじえて建設委員会が発足した。労住研には，このころになると以前のメンバーに加えて，飯田精次郎，森脇久嘉，湯川利和などが参加していた。

8月には，京都で合宿するなど，共同討議をつみかさねながら，マスタープランをねりあげていった。この間の特筆すべきことは，敷地内に発見された西山古墳の問題であった。5月の連休を利用してこのあたりの古墳を調査していた同志社大**学考**古学研究室は，城陽団地内に前方後円墳1基と円墳7基を発見し，気づかないままとりこわされようとしていることを知って，さっそく西山古墳保存対策委員会をつくって，京都労金に要望書を手渡した。その後，新聞に報道されるなど大きな話題となり，いろいろな経過をへながら，労金がうける損害を国家がどの程度補償しうるかという問題に移っていった。労住研としても，労金，対策委員会を含めて，西山古墳に関する懇談会を開くなど，マスタープランにこの問題を盛り込む努力をしていった。すなわち，マスタープラン原案（7案）の検討をへてつくられた第1次案では，西山古墳を残し，その周辺を緑地公園とする構想であったように，文化財保存に注意を払った。その後，この古墳は文部省の方で調査発掘ということになったので，やむなくその一部は宅地化せざるをえなかった。労住研としては，そのマスタープラン作成までが責任分担であったとはいえ，工事中に西山古墳がブルドーザで破壊される事態にいたったことは，まことに残念なことである。あらためて，埋蔵文化財保護の管理システムがあいまいであり，はっきりしていない現実を痛切にあじわわされたのであった。

こうして，年末には，「**城陽団地建設計画リポート1962**」としてまとめられた（写真）。その後，労住研は主要メンバーの移動などがあって，しだいに活動を停止してしまった。

労住研は，労住協の住宅団地の計画に参加することによって，労働者住宅運動のひとつの推進力となったといえよう。しかし，労住協を中心とした労働者住宅運動は，住宅問題の解決を「持家獲得運動」に解消し，これまでの政府の無責任な住宅政策を転換させるという基本的な運動体としての問題よりも，個人的，事業的な問題に埋没してしまう傾向

城陽団地建設計画レポート



を生んだ。安くて住みよい公共賃貸住宅を大量に建設させるという，勤労者の住宅問題の基本線にメスを入れることにならなかった点は，労住協の住宅運動の大きな限界であったのではなかろうか。

(2) 新建事務所連絡会

この新建事務所連絡会は，NAUO時代からの会員で，従前から設計事務所を経営していた会員や，独立して新らしく事務所を経営するにいたった会員らでNACの誕生前後につくられはじめたものである。正式に発足したのは，1961年4月である。この事務所連絡会には，7～10事務所が参加しているが，ときには俗称を「事務懇」と呼びあっている。特別の会則もないが，お互いの設計事務所が協力しあって，企画，経営，設計料，所員教育，設計体制，労働条件等々の問題について，事務所経営者の立場から意見交換しあう会であり，かなりユニークな存在である。当初は標準設計図面の資料配付，所員教育，中小企業協同化問題などについて討議した。また，あとでのべる労福研で，協同設計など行なったり，あるいは，共同レクリエーションとして，夏などに所員で見学会などを行なっている。60年8月には，各事務所の所員60名が六甲山上で一晩をたのしく過ごしたり，62年5月には，香里団地と京都会館見学と懇親の会を行なったりした。NACの賛助会員として財政上で大きな支えになった。

(3) 労働者福祉施設研究所（労福研）

1962年2月，大阪労働福祉センターの企画依頼がNACにもちこまれた。この企画自身は途中で流れたが，さらに3月には，尼崎市民共済住宅の実施設計依頼があって，すでにのべたように労住研をつくって労働者住宅の計画にタッチしてきたNACでは，さらに拡大して，労働者福祉施設の計画，設計などを通じて，労働者福祉運動の一翼をになっていこうとする動きが，事務所連絡会のメンバーを中心にでてきた。これは財団法人「労働者福祉施設研究所（労福研）」を設立しようとする動きとして発展していった。

労福研定款案（1962年3月30日付）によれば，「この研究所は，労働者の福祉問題ならびに福祉施設の実状に関する調査研究を行ない，併せて施設の計画，設計を行ない，もってわが国労働者福祉運動の発展と学術の振興に寄与することを目的」としていた。これは，建築運動の課題を具体的な福祉施設の建築設計という社会的なつながりのなかで，社会的な責任をもつ常設的な組織（労福研）でうけとめ，さらに，労働者，市民とむすびつきながら労働者福祉施設のありかたを深めていこうとするものであった。設立趣意書案（資料V—5参照）もつくられた。そして，飯田，上村，坂内幾男，能勢善樹，鍛治延男，東尾研一，松井，今西茂雄，田代正尚といったメンバーによって労福研準備理事会が構成された。それぞれのメンバーの事務所が出資金をだし，常務理事を置いて，3月に労福研は事実上活動しだしたのである。

一方，労福研準備会は具体的に設計活動に取り組んでいった。基本設計はメンバーの共同で行なわれ，実施設計はいずれかの事務所で実施された。大阪労働金庫本部仮事務所は，6月から設計され，8月に着工した。大阪労金堺支店は，8月に設計着手された。

また，労福研設立準備もしだいにすすみ，9月15日には労福研創立総会がおこなわれ，10月には一級建築事務所の登録をして正式に発足することになった。当初，財団法人とするべく，弁護士にも相談し，努力が払われたが，類似団体があってこれは実現せず，任意団体として出発することになったのである。

NACは，その綱領で，「建築を社会の発展とつながりのなかでただしくつかもう」とし，建築家としての「社会とのつながり」の追求および「国民の平和と幸福のための建築創造」の追求を大きな課題としてきた。とくに，労働者のための建築の設計を通じて労働者と連帯していくことは，こうした課題を深める絶好の機会であった。労福研は，このNACの課題を，ただ単に理論や議論だけにとどめず，具体的に実践化するものとして大きな意味をもつものであった。

また，NACのような建築運動組織自体が，「実施設計」といった金銭のともなう現実的活動を直接行なうのは，必ずしも適切ではない。したがって，こうした設計活動を別組織とし，さらに結果的には成功しなかったとはいえ法人格をとろうとした努力は，建築運動の社会化という面を発展させたものとして評価しうるであろう。

さて，創立後も労福研は，尼崎市民共済住宅（富松団地）の設計などをつづけていったが，しだいに困難な問題につきあたらざるをえなかった。運動の社会化は，逆にいえば，社会の矛盾に直接さらされることを意味する。人件費など毎月の経常費をまかなうなど，財政上の問題をかかえることになった。これは，一方で労福研の目的である労働者福祉施設に関する研究を深めることを困難にし，一方で出資事務所の負担をしだいに重いものにしていった。63年春ごろには，労福研は実質上の活動を停止せざるをえなかった。

建築運動の社会化は，ことほどさように簡単なものではない。労福研のうごきは，設計活動を通じて建築運動の社会化をはかるうえで意欲的な活動であったとはいえ，当時の社会情勢を考えれば，それを持続的に高めていく点で困難な課題であったかも知れない。今後とも建築運動の社会化は追求しなければならないことはいうまでもないが，これまでの教訓を深く学びながら，自治体の民主化との関係なども含めて，創造的な活動形態を追求していくことが要求されよう。

資料　V—1

第二次法隆寺現状調査団調査報告

去る8月20日，日本文化を守る会，民科，新建では第二次法隆寺調査団として7名の調査員を派遣した。

1. 調査目的

法隆寺金堂焼失後の現状調査

1. 金堂焼失後の法隆寺防火対策の進行状況と今年度予算の使途
2. 大岡実所長，浅野清技師，追放に至る内情
3. 大岡，浅野両氏無き工事状況
4. 法隆寺保存機構と国宝保存法の欠点

2. 調査概況

1. 金堂焼失後の法隆寺防火対策の進行状況と今年度予算の使途（具体的な数字は省略）

金堂焼失直後，防火対策費として，国家より500万円支出され此れを以って避雷針，消火栓，ポンプ，火災警報器が略完全に整備され，更に夜警と交番制で二名置く様になった。今年度予算3000万円は，今年度塔，金堂工事に必要な材料費，人件費等を十分に補し得る様である。尚人件費中，保存会議費が多額を占めている。注目すべき点は従来研究の為に再建工事以外の発掘，調査等の為に多くの日数を徒労に費し，余分な費用を使ったとする乾所長の言は，法隆寺側の買弁的な言であり，明らかに前所長大岡実氏，技官浅野清等の科学的良心的調査を非難したものとみられる。

2. 大岡実所長，浅野清技師追放に至る内情

a．浅野氏博物館転任の為昨年11月法隆寺国宝保存工事事務所内の機構が変更され所長大岡実。博物館技官兼法隆寺主任技師浅野清。庶務主任古西武彦となり従来浅野氏が庶務主任を兼ねていたのが分離した。

b．去る7月9日大岡，浅野，古西三氏は電気座布団メーカー井上渉氏と共に電気座布団失火として起訴された。これにより大岡，浅野両氏は法隆寺及博物館より追放されたが，庶務主任古西氏は猶現職の儘法隆寺に止まり金堂主任の重職にある。

c．浅野氏在職中，古西氏等は浅野氏の研究を主体とする良心的な復興工事に不満をもち「工事をおくらすことは，研究の為であり，金堂焼失の間接の影響を与えた。」とゆう見地より寺側，寺大工，奈良博物館のある人達と結びついていた。

d．寺大工は聖霊院修理の時，浅野氏等によってその非組織的である為除外された怨をもっていた。

3. 大岡，浅野両氏無き工事状況

a．両氏起訴後法隆寺工事事務所長代理兼技師長として乾氏が補された。

b．この為両氏は法隆寺と全く無関係になり，反大岡，浅野派としての乾，古西氏の存在は大岡，浅野両氏の研究分野を全く奪ってしまった。

c．浅野氏は当時塔，金堂の「10分の1」大復元模型を作成中で模型を通じて氏の綿密な復元研究を更に確実なものとして創建当初の正しい文化遺物を把握しようとしていた。又浅野氏は未だ残された塔，金堂，基壇の研究等を計画し，その成果が注目されていたのである。然し今やその計画は水泡に期しようとしている。

d．先づ金堂主任古西氏は「研究の為に多くの時間をさく事は許されない。一日も早く工事以前の姿に再建する事が我々の任務であり，復元とか研究とかはこの次である。」とゆう様な寺の代弁的言葉を我々に与えた。

e．先程乾所長が塔婆，空洞に関し次の様な説を発表した。「塔の空洞は塔建立の折心柱を掘立にして施工し後に引上げた為に出来たもので心柱下部腐敗の為ではない。」と，しかし同塔主任杢氏は（氏は浅野氏の実質的後継者であろう。）実測の結果や技術的な研究よりその説を否定しており，我々の調査団に与えた詳しい説明よりみても，杢氏の説に賛同出来るのである。これに就いて浅野氏は「乾説には何としても解せぬ点が多いが，尚研究すべき点もある。」と深長な態度で話した。ところが，乾氏はこの問題の空洞を砂でうめてしまい心柱起工式を急いでいるのは何かの意図あるものとせねばならない。

〔この事は8月22日，23日に開かれた保存協議会で問題

になり再び砂を取除き調査する事になった〕

f．この様に大岡，浅野両氏を失った法隆寺は時代錯誤的な工事担当者によって多くの貴重な発見可能の分野を失ひつつある事は見逃す事は出来ない。

g．法隆寺の偉大なる研究成果を残した浅野清氏に対し，その生活の保証すら与えていない。

4. 法隆寺保存機構と国宝保存法の欠点

a．保存機構は複雑であってしかも責任の所在が明らかでないが，文部次官が最高の責任者である事は略明らかにされている。

b．法隆寺は工事中その管理権が文部省に移されているとは言へ永続的に寺の私有物である限り管長の絶対権がある。

c．塔心礎中にある舎利容器及び海賦蜜琉璃は塔建立年代を知る有力な資料であるのに管長の権限で信仰の対称として発掘し発表する事が出来ない。金堂内部の代繊も亦同様である。

d．法隆寺保存協議会のメンバーは主として寺側に立つ老学者のいねむり場とされ，去る7月の保存協議会に委員として加った村田治郎博士の進歩的な意見は管長や多数学者と対立するところとなり，8月22，23両日の会議以降に出席する事を文部省より禁ぜられた。

e．目下の国宝保存法によれば寺の私有権を絶対視し且，協議会の学者グループは非民主的な方法で選任される欠点を持つ。且国宝をやたらに多く作る 弊害 もみとめられる。

f．国宝は国民の宝ではなく国家の宝であるとゆう見解を強くする。

国宝保存会
↑
文部大臣→文部次官以下文部事務局
↑ ‖
法隆寺 ← 法隆寺国宝保存事業部 ← 法隆寺国宝保存工事々務所
　　　　　　　　　　　　　　↖壁画模写事業
↑
聖徳太子奉賛会 ← 国宝保存協議会
　　　　　　　　法隆寺壁画保存調査会

3. 結　語

a．法隆寺国宝保存工事々務所は単なる現場事務所の如き観を有し，研究費等1銭も出されず猶且今日迄の研究成果をあげ得た事は過去浅野清氏始め大岡実，服部勝吉，大田博太郎，岸熊吉，大龍正雄等の諸氏の功績の大きさを知るのであるが，今日の最も重要な仕上工事期に大岡，浅野両氏を失ひ，乾，小西等の寺側の代弁者が工事に当る事は甚だ遺憾である。

b．国宝保存法は国民の宝としての国宝保存法として速やかに改正し寺の私有物化を排除して且民主的な選び方で良心的科学的な学者による法隆寺保存協議会をもたねばならない。

c．一私事の信仰の為に補修工事を行ふ事は，ポ宣言に明らかに反するし，国宝の何物かを知らぬやり方である。かかる為の工事であるならば，工事々務所の現況とも併せ考えて直ちに工事を中止する方がよい。

d．我々調査団は次の事を政府関係当局に要求し，広く実情を全国民に訴える。

1. 優秀な国宝は人民の名に於て国家管理とする事
2. 国宝保存法を改正し国宝保存会議委員を各専門学者の中から民主的に選出し，且法隆寺機構を改正する事
3. 法隆寺国宝保存工事々務所内の技術陣を刷新し有能な学者技術者陣容を拡大し整える事
4. 功績の多かった大岡，浅野両氏を起訴したり起訴とゆうのみで追放したりする事は反対であり失火責任の所在を技術者のみになすりつける事に反対する。

—以上—

1949年9月8日

法隆寺現状調査団
日本文化を守る会
民主々義科学者協会（建設技術部会）
新日本建築家集団大阪支部

資料　V—2

平城京趾，難波宮趾を守り，奈良公園の環境破壊に反対する

近年のわが国経済の急速な成長に対応して，都市の発展，地域開発は急速にすすみ，国土は歴史上かってない速さと規模をもって更改されつつある。それは，古い国土の近代的な改造をもたらしているが，その当然の結果として古文化財（埋蔵及び建造物その他の）とそれに必要な環境の更改，破壊をともなっている。一つの国土を改造しながら，すみよい場所としてつくりかえていくということがわれわれの任務である以上，このことはさけ難いが，もし無方策にこれにたち向うならば，民族と人類にとってかけがえのない貴重な遺産をこの世紀に急速に消盡してしまうという結果になりかねない。

こうした事実は，現在平城京趾（近鉄車庫建築問題）難波宮（綜合庁舎建築問題）また奈良公園における県庁建設問題などによって具体的にあらわれている。

このような事態は，過去の遺産の貴重な価値およびこれと調和のある国土の近代化の問題について，深い熱意と関心をもつ建築家にとって重大な問題を提起し，しばしば当事者を甚しいディレンマにおいやっている。しかしこの問題は，建築家個人の良識や行動によって解決されるものではない。

この際とりあげられるべき問題は多岐にわたっているが，その一つとして，最も貴重な第一級の文化財は人類の宝として完全な保存をすること——この際保存とは，そのままのこすことのみを意味するのではなく，広汎な地域環境の変化に対応して積極的にその環境をもふくめて，維持，補修，再建あるいは近代生活に有用な施設，空間として造形活用することをふくむと解さるべきである——を国民の課題として確認すること，第一級につぐ文化財については，それぞれのランキングにしたがって適当な段階的な保存，改造の処置を講ぜられるべきである。

文化財の真価，埋蔵物をもふくめてその集団地域と存続方法の確認，等級づけなどに対しては，広く歴史学者，考古学者，建築家その他専門家の協力にもとずき，積極的な開発の未来像をきずきつつ，国民的な顕彰活動をすすめ，その保存のためには法的その他各種の制度の確立が必要とされよう。

これらの広汎な処置が直ちにとられるようわれわれは提言するが，さしあたり当面の問題として次の点についてつよく要請したい。

1. 平城京趾の保全（さらに広い地域にわたって，国による地域の買上げ，博物館地域をふくめた公園化）
2. 難波宮趾の保全（合同庁舎の建築の中止　同上の処置）

わが国土の急速な都市化に対応し，現在の大都市周辺はもとより，多くの地域で平坦部は殆ど稠密な都市化にさらされており，公園緑地の確保がきわめて不充分な現在，第一級の保存地域はこれをすべてとりあえず緑地公園とし，著しい現状変革を防止することはきわめて有効な対策である。さらに時間をかけて，積極的な地域利用の方法が考えられてよい。

3. 奈良県庁舎の現在の建設計画を中止すること

立地をかえること，それが不可能な場合は設計に再検討を加えること，後者の場合この種の建築は原則的に公開競技と公開討論会によって，国民の支持のもとに進められるような方法を確立すべきである。

以上，新建築家集団第3回総会の決議に基き声明する。

1962年12月1日

新建築家集団（NAC）

資料　V—3

京都タワーについての声明書

私たち新建築家集団は，京都例会（1964年8月1日）における決議にもとづき，京都タワー問題に関して，次の諸点について抗議いたします。

1. 全人類の文化遺産都市，京都の駅頭に「京都」のイメージをはなはだしく損う塔の建設は容認できません。
2. 正しい観光とは，決して安直な塔上からの見物ではなく，観光者が古都の文化遺産に心からふれることであり，と同時に130万現京都市民の生活を合理的にとけこませることであります。京都市全域にわたる開発と保存のマスタープランが確定されたうえでの必然的な一部都心地区における高層化と「京都タワー」とはまったく異質なものであります。
3. さらに，1日30万人に達する京都駅前北側の現在交通量に，塔乗降客を加えることは，京都駅前の交通を窒息させることになり，都市計画的にみて，無定見の一語につきるものであります。
4. 京都には「文化財の愛護」のための市民憲章があります。にもかかわらず，このような塔建設に際して，市民には何ら検討の機会が与えられず，市民の声は完全に無視されました。遺憾であるといわざるを得ません。

以上の諸点について，貴下においてすみやかに善処されるようのぞみます。

1964年8月

新建築家集団（NAC）

資料　V—4

労働者住宅問題研究会（労住研）会則

1. 名　称　本会を労働者住宅問題研究会（略称：労住研）と称する。

英文としては，Institute of Workers' Housing Problem（IWHP）とする。

2. 事務所　事務所を京都市中京区烏丸二条上ル京都建築事務所（電京都㉟5681）内におく。
3. 目　的　労働者の立場から，住宅ならびに都市建設に関する諸問題を研究し，働く人々のための都市，住宅の発展につくすを目的とする。
4. 事　業　上の目的を達成するため，つぎの事業を行なう。
   1) 財団法人日本労働者住宅協会の建設企画への協力，その調査研究ならびに計画立案
   2) 公共団体，その他の依頼による研究ならびに計画立案
   3) 研究成果の発表
   4) その他必要な事業
5. 会　員　原則として，新建築家集団会員の資格を有する者で，本会の目的，事業に協力する者を会員とする。
6. 役　員　本会には，つぎの役員をおく。

   会長　1名　　事務局長　1名
   幹事　若干名　　監　査　1名

   会長は会務を総括する。事務局長は会長をたすけ，一切の事務的処理を行なう。
7. 役員会　月1回又は必要に応じて開き，会の運営に当る。
8. 総　会　年1回開き，役員を選挙する。
9. 会　計　本会の経費は研究依託費，寄附金，その他の収入でまかなう。

付　則　この会則は1961年2月1日より発効する。

（註）数カ月後に，5. 会員の条文は「本会の目的，事業に協力する者で，役員会の承認したものを会員とする」に変更し，また 9. 会計に「会費」を追補し，「10. 会費　年額600円」を追加した。

資料　V—5

労働者福祉施設研究所設立趣意書（案）

世界のうごきはますますはげしいテンポで発展し，科学技術の進歩はとくに最近目をみはるものがあります。こういうめざましい発展を人類全体の幸福のためにふりむけることにすべての力をあわせたいものです。

日本でも「戦后」の様相は全く忘れ去られるほどに産業の伸長をみております。しかし，国民生活はまだまだ欧米のそれと比較してはるかに低い水準にあります。国民生活を向上させるためにはとくに組織された労働者，市民が先頭に立たなければなりません。

消費組合や生活協同組合などわが国における労働者，住民の福祉をまもる運動はきわめて古い歴史をもってはおりますが，諸外国とくに北欧諸国のような盛大な運動とはまだまだ遠く隔った感があります。とくに住宅，病院，託児所などの諸施設について，労働者，市民のあいだに非常に切実な要求がありながら自らの手で組織して諸施設を確保する力にまで結集することがなく見すごされてまいりました。

しかし，たとえば厚生年金等各種の資にもとずく住宅，集会場，病院建設のように，ようやく労働者，市民団体の中に自らの手で諸施設を建設しようというううごきが顕著になってまいりました。一方建設技術者の間からもこのうごきに刺戟されて，建設に協力する組織的な体制がのぞまれるようになっております。

このように労働者，市民が一つ一つは極めて微力であってもひろく結集して大きな建設事業をすすめる条件が現実的になってまいりましたので，各種の社会福祉施設の建設に協力すると同時に，ひろく諸外国の経験にまなび，諸施設のあり方について，技術的な面から労働者，市民大衆に提案していくセンターとして「労働者福祉施設研究所」を設立する次第です。

われわれは戦前からの民主的な建築運動をうけついだ新建築家集団の運動を，現段階の労働者福祉をまもり向上させる運動に深く結びつけ，有識者，技術者が労働者，市民大衆の生活向上，福利増進のために研究し，活動するセンターにしたいと思います。

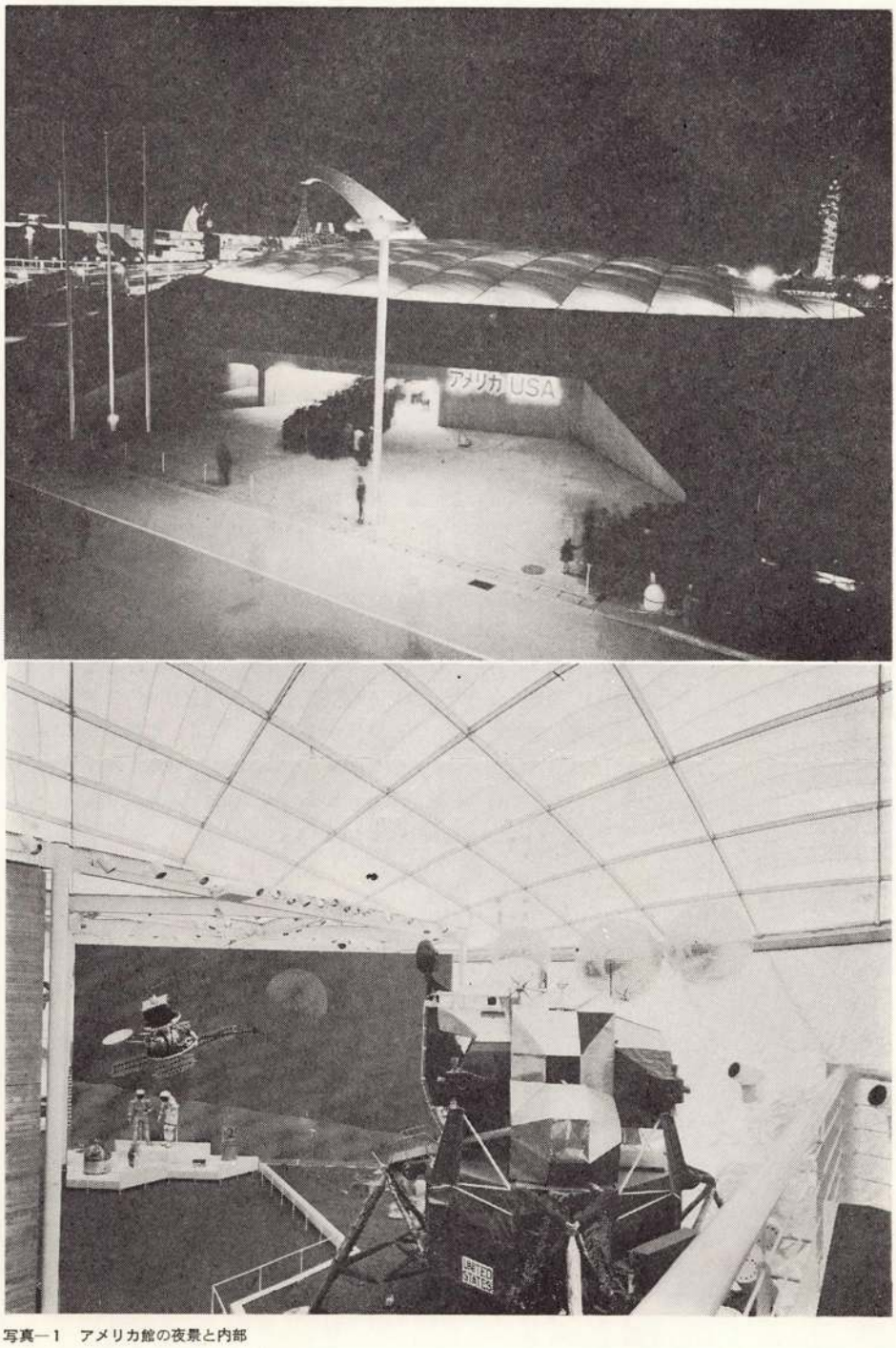
以上の趣旨を御理解の上「労働者福祉施設研究所」の設立のために貴台の御指導，御援助を仰ぎたいと思います。

1962年7月

労働者福祉施設研究所
発起人会

これからのテント構造

磯野義人



写真—1　アメリカ館の夜景と内部

1. 空気およびキャンバスによる建築の出現

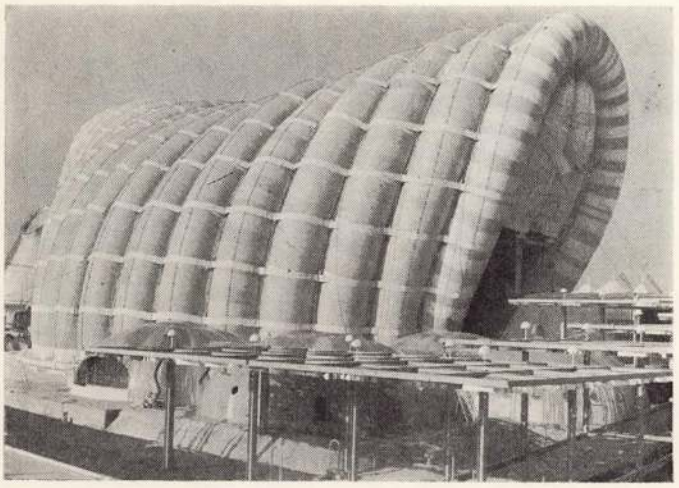
今回の万国博の会場に，私達は多量の空気とそして多量のキャンバスを持ち込んだ。

空気によって支持されるキャンバスの構造は，「空気構造」または「空気膜構造」とも呼ばれ，建築の歴史の中で，おそらく最も新しい位置を占めているであろう。

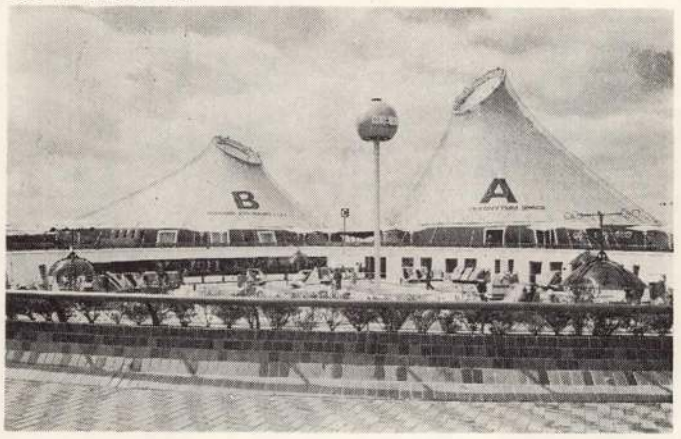
もう一つの，空気によって支持されていないほうのキャンバス構造は，「吊り屋根構造」の流れを汲み，近代の建築の仲間として見られるようになったのは，空気膜構造より多少は早いようではあるが，その源は古く有史以前に溯ることができよう。

前回のモントリオール万国博においては，西ドイツ館の吊り屋根型のテント構造が，そのスケールの大きさと，ダイナミックな曲線ゆえに，世の注目を大きく浴びたものであるが，今回の万国博においては，空気支持によるテント構造がその全盛をきわめた感がある。アメリカ館（写真—1），富士グループ館（写真—2），三井グループ館モニュメント，そしてお祭り広場大屋根と，大小合わせて，独立した構造体だけでも十指を超える。

テント構造の概要と，それがスイス博からモントリオール万国博へ発展してきた足どりを筆者によって手短かにまとめたものが本誌1967年5月号に掲載されているが，それから3年半を経た今日，多くの建築家の方々および技術者のご指導ご協力をいただいての，この発展の早さには，われながら全く驚いている次第である。



写真—2　富士グループ館



写真—3　自動車工業館

2. 万国博におけるテント構造

ではここで，今回の万国博に見られた内外のテント構造のいくつかを，その構造のおもしろさとともに眺めてみることにする。

表—1　空気膜構造によるテント構造

キャンバスを主材料としたもの

構造物名称	大きさ	おもしろさ
アメリカ館	9,500㎡	世界最大の一重膜空気構造（**写真—1**）
富士グループ館	2,000㎡	世界最大の二重膜空気構造（**写真—2**）
三井グループ館モニュメント	高さ50mの塔	世界最高の空気で支えられた塔
電力館別館	450㎡	膜間に負圧を用いた空気膜構造
アメリカン・パーク館	直径23mの$\frac{3}{4}$球	地球を描いた美しい表面
案内所ドーム	直径9mの球	真珠を思わせるような球面の輝き
マッシュ・バルーン	直径30m，20m 15mのキノコ	朝夕に，朝顔のごとく開閉する巨大なキノコ群

ゴムを主材料としたもの

リコー館	直径20mの球	空中に飛ぶ大気球

プラスチック・フィルムを主体としたもの

お祭り広場大屋根	27,600㎡ 243個のユニットより構成	世界最大のプラスチック・フイルムによる空気膜構造
ペプシコーラ館	直径30mの半球鏡	世界最大の空気でふくらまされた鏡

表—2　吊り屋根構造によるテント構造

キャンバスを主材料としたもの

構造物名称	大きさ	おもしろさ
自動車工業館	1,300㎡ 1,600㎡	ワイヤー・ロープ線および膜面縫合線の描く幾何学模様（**写真—3**）
電気通信館	3,800㎡	268個のHPユニットの描く，生物の皮膜を思わせるやわらかさ
サブゲート大屋根 4コ	計 10,000㎡ 4棟	吊り屋根の基本形態をとらえたダイナミックなデザイン
モノレール駅舎 7コ	計 4,000㎡ 7駅	高張力のワイヤートラスによる吊り屋根
ダイダラザウルス駅舎	3,000㎡	屋根吊り上げ部が中空に浮いているダイナミックなテント
エキスポランドスナック屋根	3,000㎡	凹凸曲面の連続する花園に入ったような明るい内部空間
エキスポランド遊技場屋根	3,000㎡	凹凸曲面の連続する海の底を思わせるような青く深い内部空間
電気自動車充電所	2,100㎡	連山のごとくつらなるHP曲面のおもしろさ

3. 建物の屋根の重さの歴史的変遷

建築の流れの中で，実はこのテント構造が，偶然とあらわれてきたものでないことの証しに，ルネ・サルジェによって調べられた次の図を掲げることができよう。（図—1）

アッシリアの石造建築からローマおよびゴシック建築を経て現在に至る過程で，建物の屋根の重さが4トン/㎡から約0.2トン/㎡へと，急激に低下し，近代の建築の方向が結果とはいえ，いかに軽量化を目指しているかがよく解る。

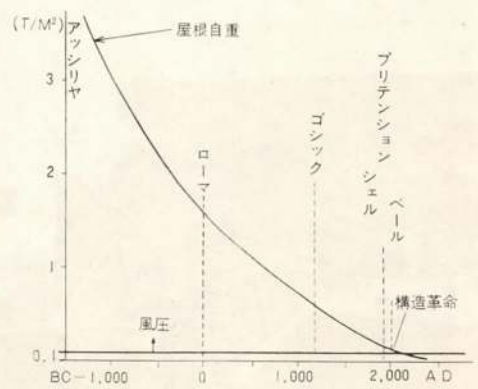
ルネ・サルジェは，この屋根の重さが0.1トン/㎡を割る時を，構造の革命と呼んでいる。

この意味で約10,000㎡の大空間を覆うアメリカ館屋根は，設計風速60m/秒，設計積雪約20㎝でありながら，わずか65トンの屋根総重量であり，単位面積あたり6.5kg/㎡の数値は一瞥に値する。

富士グループ館のそれは，かなりの壁面を構造体の中に含むのと，高圧のビーム状柱より成るための理由から，屋根自重はかなり大きく，単位当り32kg/㎡と，空気膜構造では，これからのものも含め，最大の屋根単位面積当りの自重を持つものに属する。

空気膜構造においては，自重のほとんどが"0"に近い空気を圧縮材に用い，繊維を完全な引張材として最大限の利用をしているから，このような軽い構造が実現するのにほかならない。全く当然のことながら，このような大スパンは，材料の面からみれば細くて強靱な繊維を作る技術のむつかしさゆえ，長い間実現しなかったともいえる。

図—1　各世紀における屋根自重の変遷

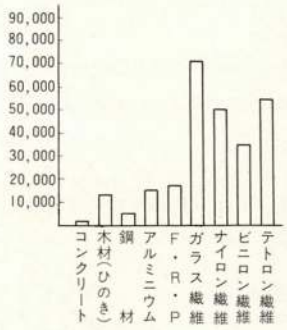


「HANGING ROOFS」IASS シンポジウム
NORTH-HOLLAND PUBLISHING COMPANY-AMSTERDAM, 1963 発行より

4. 巨大スパンの夢

クモの糸は，自然界に存在する繊維のうちで，かなり引張りに強い物性を示す。クモの単糸の直径は3.4～6.8ミクロンであり，その重さが比重1.1とわずかな事を考えると，引張り強さ/重さの比は，とてつもなく大きいものと思われる。強さ/重さの比を，比強度という呼びかたをしている。この比強度に焦点を合わせて，代表的な建築材料と繊維を比べてみたのが図―2である。クモの糸は自身で27kmの長さまで支えることが可能である。

図―2　各種材料の比強度



石井一夫，安宅信行著「建築，膜構造の設計」工業調査会，1969.1.5 発行より

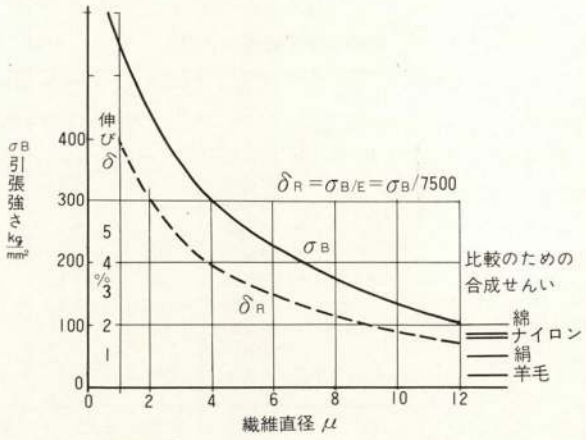
いにしえ，石や土を焼いて建物を作っていた時代(今でもあるが)は，建築材料をほとんど圧縮材として利用していた。

金属が発見され，それが建築の主材料となるに及んで，圧縮材のほかに曲げ材としての利用が行なわれるようになるに至った。

近代になって，金属の一部はロープの形で，純粋な引張材として用いられるようになり，それらを主メンバーとしての巨大架構の試みが，吊り橋および吊り屋根として実現されるに及んだ。

図―3は，いくつかの単繊維の直径と引張強さとの関係を示す。物質がだんだんと細く糸状に作られるに及んで，その強さは断面直径に逆比例して急激に増す。これは金属にもあてはまる。物質が圧縮材や曲げ材としてよりも，引張材として用いることの効用性は，この事からもうなずける。アメリカ館に用いられたガラス繊維は，直径3ミクロンであり，現在生産されているガラス繊維のなかで最細のものである。したがって，引張強さは抜群で，優れた材料性を示す。

図―3　繊維直径とガラスせんい引張り強さの関係

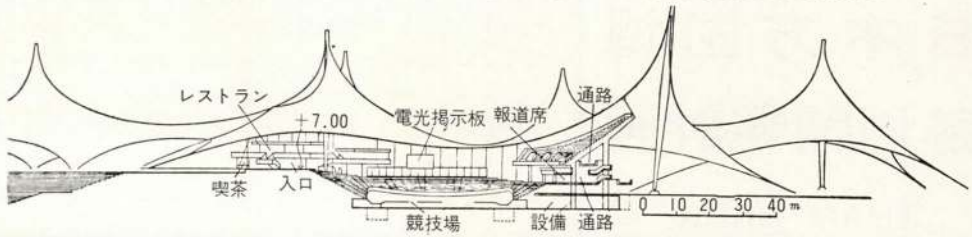


「STRUCTURES, FORM AND MOVEMENT」
REINHOLD PUBLISHING CORPORATION, 1966 発行より

5. プラスチック膜から金属膜へ

テント構造の未来テント構造の未来は，すでに始まっている

図―4　室内競技場断面図（ミュンヘン市）　石井一夫・安宅信行著「建築　膜構造の設計」工業調査会 1969.1.5 発行より





写真―4　室内競技場（ミュンヘン市）

85,000㎡にのぼる大テントの建設が，今，西ドイツのミュンヘン市で進められている。基礎工事はほとんど終り，高さ約90mの鋼柱もすでに立てられ，現在，ワイヤー工事のための仮設デッキが虹の橋のごとく，中空高くそびえている。（**写真**―4および**図**―4）

いくつもの競技場をまたいで張られるこのテント構造は，まったく世界一の名に恥ない。しかし，もう，そこにはキャンバスは使用されない。1967年のモントリオール万国博から5年目の1972年の，このミュンヘン・オリンピック主競技場を覆うテントには，プラスチックの剛い薄膜が，代って登場する。透明アクリル・グラス厚さ約4ミリである。3m×3mのユニットのものが，ワイヤー・ネットの上で順次組み上げられ，止め金具によって，ワイヤーに取りつけられる。

1964年のスイス博で，テント構造が近代の建築の一分野として，はなばなしくクローズ・アップされてから，ここ数年の間にたくましくも成長し，うっかりするとわれわれテント屋のそばを駆け去り，建築工学の中でさらにもう一歩進んだ重要な新しい位置を占めるに違いないような気がする。

まったく10年一昔の感にたえない。目まぐるしく移り変るこの社会にあって，巨大架構の必要性が増大する一方，建築物の使命も年々とその期待年数を減少しつつある今日，これらテント構造の必要性は，もっともっと増すに違いない。そして，従来の伝統的な方法に基づいたテント構造とはまた別な，新しい機能を持ったテント構造が生まれてくるものと思われる。

月での宇宙基地，人工衛星，大気圏再突入グライダー，海に浮かぶコンテナー，そして砂漠のなかの緑の園，人工環境制御された巨大な街等……。テント構造の仲間は大きく拡がっていく。

ナイロン・テトロン・ビニロン繊維，ガラス繊維のみならず，炭素繊維そしてステンレス繊維等，耐熱材料によるテント構造の試みもすでに初められ，未来はすでに始まっている。

合成繊維のみならず，金属繊維そして，プラスチック膜面の縫製接着加工および施工が，われわれテント屋の分野に入るのもそう遠い日のことではないような気がする。

（いその　よしと　太陽工業KK本社技術課）

日本万国博跡地開発計画

TEAM BARK

13

TEAM BARK

プランナー　奥保多聞
　　小北博一
デザイナー　清水正俊
　　山本良介
リサーチャー　木内俊明
　　中東達男
　　中村守保

第4章　建設プログラム

4－3－1　周辺開発状況

日本万国博が閉会して、早や3カ月が経過しつつあり、あの熱狂的な興奮から新しい年を迎えるにあたって、冷静に21世紀の日本をいろいろな立場から考えなおさなければならない。

総理府から広く、建築家を含む学識経験者に諮問されている、21世紀の日本列島に対する未来像等、昭和60年、新全国総合開発計画を、いよいよ具体化するため、各関係官庁を中心とした活発な動きがうかがわれる。

すなわち71年は、70年代のオリエンテーションを決める具体化の年である。

万博の跡地開発の計画も、70年代の日本列島の正しい開発の理念にのっとった上で、着実に大きく進展しなければならない。

新全国総合開発計画の土地利用形態表および地帯別主要指標対全国比に見るごとく、昭和40年の時点でとくにすぐれて社会資本のストックおよび工業出荷額の著しい格差、人口の集中等があり、中央地帯長さ1000km、幅わずか平均30kmの中に見られている。現在の状況は、ますますその傾向が増大しつつあると考えられている。

これにしたがって、各方面から提唱されている日本列島のいままでの姿は、帯状拠点大規模開発であったが、列島を横断する開発の系が考えられなければならない時がきた。

すなわちこれは、近畿圏でいうならば、日本海から太平洋に通ずる、二府四県の一体化したマスタープランが、考えられなければならない。

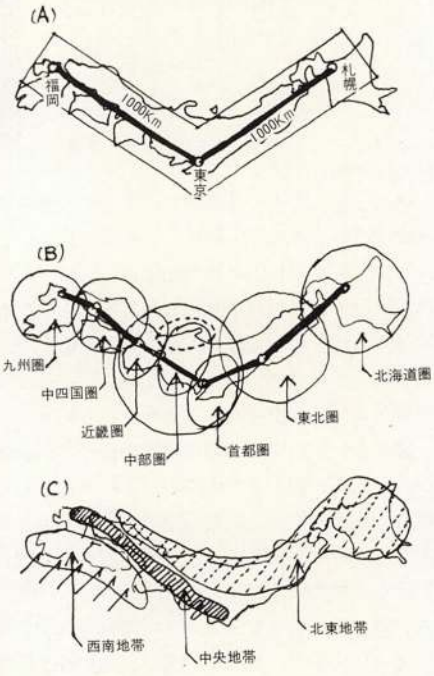
すなわち、真の意味での生活社会開発における、人間性に則った健康的な国土利用計画が、行なわれなければならないと考えられる。とくに、近畿圏では、瀬戸内海地域開発につながる南日本の発展は、瀬戸内海を、流通の系として、一体化した大規模な可能性を、約束されている。それに対処するためにも近畿圏の開発がいそがれてやまない。

さて、そのような背景のもとで大阪市を中心とした大阪地方は、すべての面で新しい都市的展開と変化が見られる。その中の人口問題にしても、大阪府が11月16日に国勢調査の集計概況を発表し、35年から40年にかけて人口増は寝屋川、門真両市をトップに高槻・茨木・吹田など北河内、北摂方面が中心であったが、40年を契機に四条畷・交野・大東・富田林・松原・羽曳野といった各市が大幅な伸びを見せた。すなわち、府の人口は右回りでいままでの北部の伸びを東部が大きく追越したことをあらわしている。

このような傾向は都心における人々の住宅に対する考え方をよくあらわしていると同時に、大阪府の都市的構造が都市中心的構造パターンから環状的機能的構造パターンに変化しつつあると考えられる。この事実は、また、近畿一府四県の大阪府に対するイメージを変化させるものであるし、発展的段階の一過程である。

具体的には、南大阪臨海工業地帯と北大阪千里ニュータウンと泉北ニュータウン、北と南とを結ぶ中央環状線の意味、都心を結ぶ各放射幹線道路の質的変化等、数かぎりない都市的構造変革と改革が行なわなければならないし、行なわれつつあるのが大阪府の現状である。そこで、前章で述べた通り、私達は中央環状鉄道と中央環状道路が持っている機能が大阪府の都市的構造理念上どうしても必要な系であり、大阪府の都市造りにおける大きな要素をしめると考え提案したが、ここで再度確認してやまない。すなわち、中央環状鉄道および中央環状道路の方向性は湾上都市と本州、四国架橋および国際空港、中国縦貫道路、山陽新幹線、東名・名阪高速道路等、あらゆる情報、流通の可能性をひめて日本列島の東と南を結ぶ関節としての役割も大きいと考えられる。また、大阪都心に対する都市公害の緩和ならびに都市経済効率の向上に大きく貢献するものと考えられる。また、このような都市構造的背景での南大阪の土地利用計画と北の万国博覧会跡地開発利用計画は急務と考えられる。

図4－3－1　日本列島の土地利用形態



地帯別主要指標対全国比　　（単位：%）

指標	北東地帯（1）	中央地帯（2）	西南地帯（3）
（全国＝100）			
総面積（昭和40年）	53.8	31.1	15.1
人口（昭和40年）	24.0	63.4	12.6
田畑（昭和40年）	46.7	37.1	16.2
宅地（昭和40年）	28.1	59.2	12.8
林地（昭和41年）	56.1	28.7	15.2
農業粗生産額（昭和40年）	37.7	44.8	17.5
工業出荷（昭和40年）	11.5	83.6	4.9
標高0m～200mの面積（昭和40年）	50.0	32.7	17.3
社会資本ストック（昭和38年）	27.3	61.0	11.7

（注）1．北東地帯とは、北海道、東北、山梨、長野、北陸、鳥取および島根の1道14県からなる区域をいう。
2．中央地帯とは、関東（うち山梨および長野を除く）、東海、近畿、山陽および福岡の1都2府18県からなる区域をいう。
3．西南地帯とは、四国および九州（福岡を除く）の10県からなる区域をいう。

		内容	合計(百万円)	備考
Ⓐ跡地	跡地残存建物	Ⅰ．日本政府館 3,700 2．鉄鋼館 650 3．日本民芸館 200 4．日本庭園 2,100 → ① 展示館 6,650 Ⅰ．その他(電々公社etc) → ② 施設 550 Ⅰ．万博美術館 1,300 2．万博ホール 780 3．迎賓館 220 4．お祭り広場 3,000 5．本部ビル 820 6．塔 750 7．噴水 440 → ⑪ 協会施設 7,400 ①+⑪+⑫=6,650+7,400+550=14,600	Ⓐ	
	残存設備	Ⅰ．冷房プラント 3,200 2．供給処理施設 2,000 3．電力、ガス 3,758 4．焼却場 1,042 → 10,000	10,000 Ⓑ	
	外構	Ⅰ．道路 5,000 2．人工湖 1,450 3．娯楽施設 2,300 → 8,750	8,750 Ⓒ	
	土地造成	1,330万m²	20,000 Ⓓ	
Ⓑ EXPO－CITY	建築	Ⅰ．高密度＋業務・商業・住宅ゾーン 15% 2．中密度＋文化・研究ゾーン 35% 3．中密度＋サービスゾーン 15% 4．低密度＋大学ゾーン 20% 5．低密度ゾーン 15% → 300万m² 12万円/m²	360,000 Ⓔ	
	交通諸装置	Ⅰ．交通施設 20,000 2．モノレール 5,000 3．装置道路 7,000 4．道路 3,000 → 35,000 EXPO－CITY駅・西駅 10km延長 10km延長 ループ2.5km、歩道20km	35,000 Ⓕ	
	都市設備	Ⅰ．空調 30,000 2．電気、ガス 8,000 3．情報通信 10,000 4．供給処理施設 4,000 → 52,000	52,000 Ⓖ	
	外構	Ⅰ．道路（橋）及び植樹計画 5,000 2．土地造成 5,000 → 10,000	10,000 Ⓗ	
	土地代	1,330万m² 330,000 10万円/m²	330,000 Ⓘ	
Ⓒ関連事業	鉄道	Ⅰ．中央環状鉄道 20,000 60km延長	20,000 Ⓙ	
	道路	Ⅰ．中央環状道路 20,000 2．その他関連道路 50,000 → 70,000	70,000 Ⓚ	
	事業計画	Ⅰ．大阪大学 1,500 2．国連大学 1,000 3．シンクタンク 2,500 4．WEO（世界環境機関） 5．その他 → 10,000	10,000 Ⓛ	
Ⓓ運営事業		Ⅰ．直接運営事業 4,000 2．関連事業運営業 6,000 → 10,000	10,000 Ⓜ	
	㋑ 各小計	Ⓐ跡地 A+B+C+D= 52,350 ⒷEXPO－CITY E～I=787,000 Ⓒ関連事業 J～L=100,000 Ⓓ運営事業 M = 10,000		
	㋺ 総合計	Ⓐ跡地 52,350 Ⓑ+Ⓒ+Ⓓ 897,000		

資料

新宿 56ha 31,400(百万円)

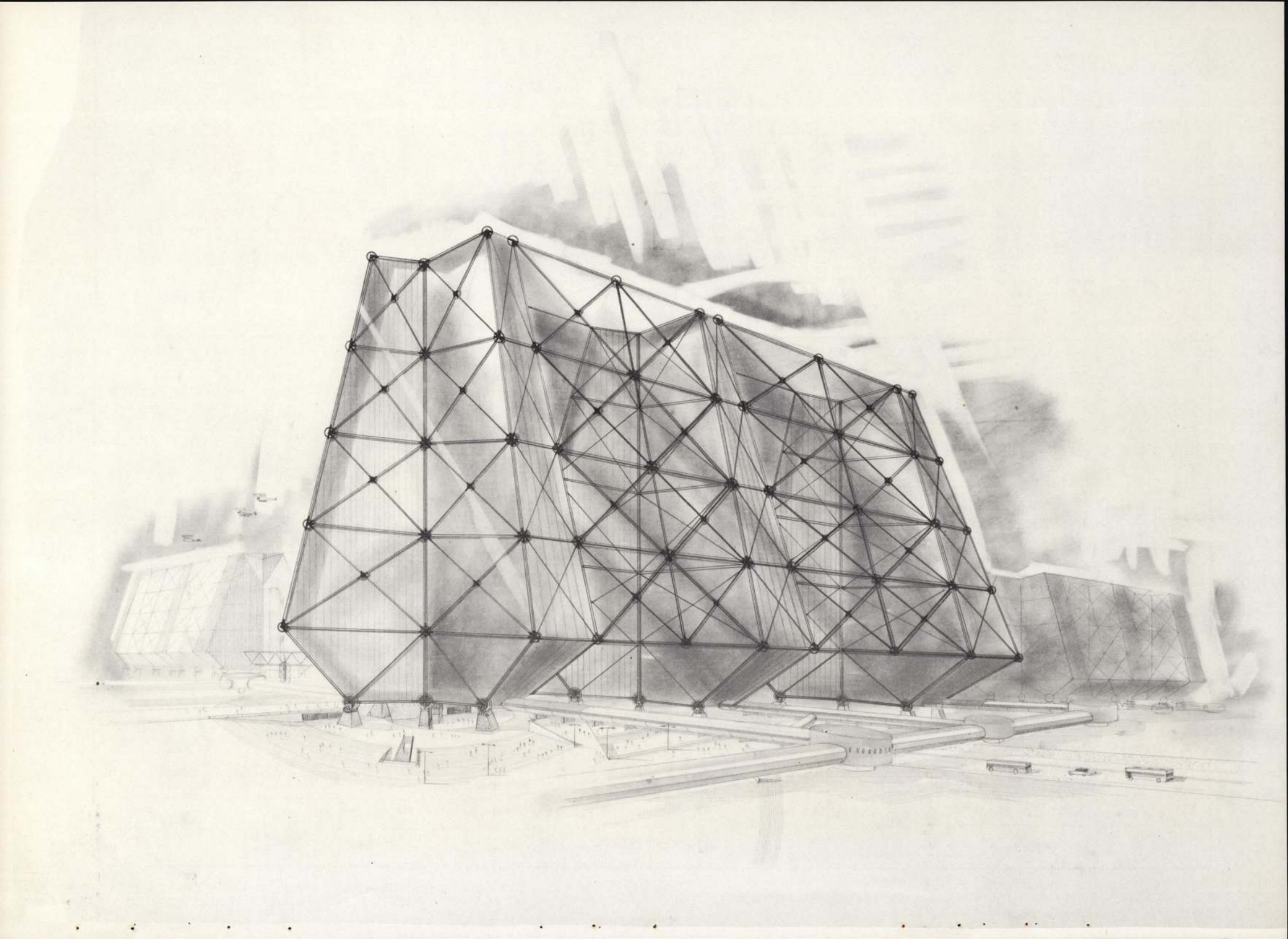
街路	12,600		40%
西口広場	1,900		7%
公園	6,200	31,400	20%
浄水場移設	9,700		30%
事務	1,000		3%

千里ニュータウン 1,160ha 187,000
総建設投資額

用地買収、土地造成、道路、公園、上下水道、学校、近隣施設	59,000	187,000
公団住宅、公営住宅、公社住宅、給与住宅、独立分譲住宅(37,330戸)	90,000	
その他	38,000	

万国博全体資金計画 351ha

建設費	52,364	①基礎施設整備	13,675
		敷地造成(270ha)	2,353
		道路整備	3,280
		人工湖(6.5ha)	1,348
		供給処理施設	1,999
		電力、ガス	3,059
		地域冷房	1,636
		②修景整備	3,747
		緑地整備	1,639
		修景施設	643
		一般照明	1,465
		③シンボルゾーン内施設(10.7ha)	14,417
		④娯楽施設(20.7ha)	2,279
		⑤サービス施設	11,286
		場内輸送サービス	6,415
		駐車場(79ha)	1,656
		EXPOサービス	2,442
		その他	773
		⑥管理施設	3,258
		⑦事務費	2,202
		⑧建造物撤去費	1,500
運営費	29,423	⑨会場管理費	5,730
		⑩事業運営費	7,022
		⑪その他	16,671



日本建築協会 月間の動き

□ 昭和45年11月分 □

理　事　会

26日　4時～5時　於会館集会室
出席者　東畑，塚本正副会長ほか7理事
五十嵐監事
議事(1)事務局職員下期賞与支給の件
(2)12月定例理事会開催日変更の件
(3)忘年懇親会会費変更の件
(4)建設省所管の公益法人連絡協議会加入の件
(5)入退会者承認の件
(6)報告事項

総務会計合同理事会
10日　2時～3時　於会館集会室
出席者　中原，山田各主査
議事　事務局職員給与改定の件

事　業　委　員　会

講演映画会小委員会
4日　6時～7時半　於会館3階会議室
出席者　三品副委員長，佐々木幹事ほか2名
議事(1)本年度講演映画の会アンケート集計について
(2)本年度の企画について

展示会小委員会
5日　6時～7時半　於会館3階会議室
出席者　内野，鈴木両委員
議事(1)第7回（12月～46年1月）展示写真について
(2)第8回（46年2月～3月）展示写真について
(3)第9回以降の企画について

見学会小委員会
5日　6時～7時半　於会館集会室
出席者　山野副委員長，金子幹事ほか4名
議事(1)10月に実施した見学会の報告
(2)プレハブ住宅に関する見学会アンケート集計について
(3)上記集計による本年度内企画について
(4)12月以降の見学会企画について

委員会と委員懇親会
6日　6時～8時半　於関西電力共済会館
出席者　北垣委員長，大橋，窪田，三品
山本各副委員長，佐々木，内野各幹事ほか7名
議事(1)各小委員会の事業報告
(2)12月～46年4月の事業企画について
委員会終了後同所に於て懇親会開催

各種説明会小委員会
17日　6時～7時半　於会館集会室
出席者　近藤副委員長，三宅幹事，岸委員
議事(1)本年度の説明会の具体案について
(2)上記説明会の開催日時について

忘年懇親会小委員会
25日　6時～8時　於会館集会室
出席者　大橋副委員長ほか9名
議事(1)賛助会費，寄贈品の確保について
(2)各分科会の作業内容の決定について
(3)忘年懇親会の実施内容について

若い会員の集い「万博を終って」の座談会
28日　3時半～5時
於千里中央地区センタービル
ゲスト
西部　明郎氏
（建築デザイン一級建築士事務所）
小北　博一氏（双星社竹腰建築事務所）
根津耕一郎氏（根津建築事務所）
司　会
上田　稔氏
（日本万国博協会建築管理課長）
出席者　25名

編　集　委　員　会

表紙デザイン小委員会
4日　正午～1時　於会館集会室
出席者　山元デザイナー，中馬宗武委員
議事　1月号の表紙について

都市エネルギと無公害化ビル特集編集幹事会
5日　正午～2時　於会館集会室
出席者　田中良太郎特別幹事ほか5名
議事　2月号特集「都市エネルギと無公害化ビル」の企画

委　員　会
9日　4時～7時　於会館集会室
出席者　鳥田委員長ほか6名
議事(1)12月号＝山陽・山陰からの報告特集経過報告
(2)1月号＝住宅―60年代の総括と70年代の展望特集報告
(3)2月号＝都市エネルギと無公害化ビル特集幹事会案報告
(4)3月号＝法令特集（仮称）編集幹事会の件
(5)4月号と5月号の企画特集テーマ
(6)シリーズものそのほか

1月号特集幹事会
17日　3時～6時半　於京都大学
出席者　田中特別幹事ほか3名
議事　1月特集「住宅―60年代の総括と70年の展望」の編集

表紙デザイン小委員会
19日　正午～1時半　於会館集会室
出席者　山元デザイナー，中馬宗武委員ほか1
議事　1月号の表紙について

法令特集幹事会
27日　3時～5時　於会館3階会議室
出席者　福田特別幹事ほか2名
議事　1月号特集「建築基準法」の企画

建築データシート編集委員会

幹　事　会
19日　6時～8時　於会館3階会議室
出席者　中原委員長ほか2名
議事(1)委員長候補者について
(2)シートの合本出版企画について
(3)今後の委員会運営について

編集関係者慰労懇親会
21日　5時～8時　於箕面観光ホテル
出席者　坂監修者，中原委員長ほか12名

住　宅　委　員　会

正副委員長打合会
20日　5時半～7時　於会館3階会議室
出席者　岡橋，黒谷，野々村正副委員長
議事(1)小委員会改組のためのアンケート集計報告
(2)各小員会委員の人選について

法　規　委　員　会

三会合同委員会
2日　2時～4時　於科学技術センター
出席者　福田委員長ほか33名
議事　確認申請書不適合の訂正処理について

第16回工高生デザインコンクール表彰式

14日　2時～3時半　於会館集会室
出席者　上林審査委員長，橋本教育委員長ほか5名
清水一の会代表
入選者　10名
入選者に対し賞状，賞牌をまた最優秀作に対し関西建築家懇談会一の会より「一の会賞」を授与した後茶話会を開催した。

見　学　会

光悦寺の茶室見学会
7日　2時～5時
参加者　39名
案内者　工学博士　岡田　孝男氏
（帝塚山学院大学教授）

朝日放送本社と大阪タワー見学会
13日　3時～5時
参加者　21名
設計施工　大成建設株式会社

修学院離宮の拝観
13日　3時～4時
参加者　13名
20日　1時半～3時
参加者　12名

信楽の近江化学陶器(株)のタイル工場その他
見学会
28日　1時40分～5時半
参加者　30名

第2回　日本建築祭

実行委員会正副委員長会議
19日　正午～1時半　於大阪ガスビル食堂
出席者　東畑会長，神谷実行委員長
中原副委員長，山本総務部会委員
議事　第2回日本建築祭収支決算報告について

建築業務基準委員会

住宅小委員会
24日　1時半～4時　於日本建築学会
本会より山根委員，福中事務局長出席

建築8団体会長会

25日　正午～2時
於東京朝日新聞アラスカ
出席者　東畑会長ほか6名
議事　第2回日本建築祭収支決算報告そのほか

関西都市・住宅会議

事務局打合会
20日　11時～1時　於大阪府職員会館
出席者　10名
議事　第11回都市，住宅会議収支決算報告

11月の入会者（敬称略）

〔団体会員　1社〕
近鉄不動産㈱

〔個人会員　17名〕

井上安利	根津耕一郎	牟田神西誠
伊藤勝	萩原佳積	森迫正夫
宇山茂	林健彦	薮内幸雄
柏原史一	東章弘	山下新一
栗栖俊三	前田松和	山本昌子
小林賢三郎	松井昭	
西村武夫	三浦四郎	

〔准会員　4名〕（氏名省略）

求人広告

ナショナル住宅代理店
建築技術者募集

- ●資　格　20才～30才〔見習可〕
- ●給　与　4.5万～10万〔実力に応じて〕
- ●仕事内容　工事監理、設計〔営業関係可〕
  ナショナル本社にて講習会受講

履歴書・身上書・写真・郵送可
持参面接も可

芦屋市若宮町3－12
越智工務店
TEL．0797－31－4161



信用ある技術と伝統の

アスファルト工事 専業大店

株式会社 久保商店

大阪市北区真砂町5番地　電話　大阪364代表 0206～9

室谷

内装資材専門店

室谷商事株式会社

本社　神戸市生田区北長狭通4－1　(英和ビル)
直通電話　神戸 (33) 0881～3
支店　大阪市北区絹笠町50(堂ビル5階 502号室)
直通電話　大阪(364) 2031～4
倉庫　神戸市葺合区八幡通1－5 (電話㉒2923)

OKUYAMA KAKOGYO WATER・PROOF OAM

陸屋根防水には 奥山式 特許 絶縁工法 を

カッパー防水帯

コーパータイト

新工法！
プレノテクト吹付工法

8対2の防水(冷工法)　デラタイト

特許　奥山式熱工法・冷工法綜合防水層

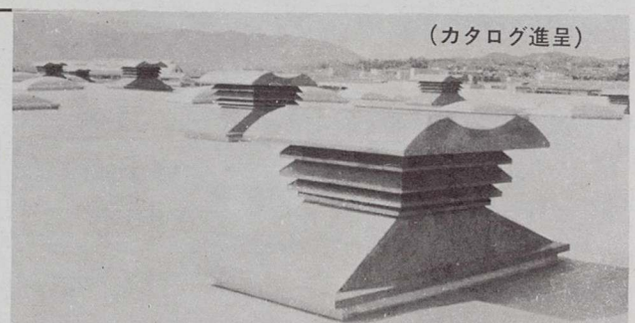
奥山化工業株式會社

本　社	東京都中央区銀座8－4－11	電話(571)2703～4・2370・4064・0264
大阪出張所	大阪市都島区都島中通り2-3-1	電話(921) 2 4 9 7・(922) 7 2 8 0
名古屋出張所	名古屋市南区若草町33	電話(811) 3 6 6 0・3 1 0 4
札幌出張所	札幌市北三条東四丁目	電話(231) 7　5　1　1

特許　岩元式ベンチレーター
(電動式並固定型各種)

岩元式ベンチレーター　A型・B型・固定型
岩元式連塔換気装置（コンチニヤス・ベンチレーター）
新型　換気塔 NSライン　（強制換気扇付）
新型　換気塔 SFスーパー　(特殊装置による風量増幅 換気扇の能力を倍増する)
最新型　採光排気塔(風光)スーパーライン特殊増幅装置付
スカイライト工事・通風ルーパー
スチール及アルミサッシュドアー・各種シャッター製作施工
其の他　曲加工一式

(カタログ進呈)



岩元工業株式会社

大阪市東成区大今里2丁目5番22号
電　話 (981) 0615 ～ 0618

賀　正

1971

設計事務所有志

RIA建築綜合研究所大阪支店

所　長　山　口　文　象
支店長　山　家　啓　助

大阪・大阪市北区太融寺町33　大阪合同ビル 406　電話 312－9154
東京・270－5861　名古屋・262－3941

青田設計事務所

所　長　青　田　豊　吉

姫路市坂田町54（姫路建設会館内）　電話　代表 姫路（24）9012
直通 姫路（22）7126

赤崎建築事務所

所　長　赤　崎　尚　信
次　長　増　田　靖　仁

大阪市西区立売堀北通1－90（第三富士ビル）　電話 541－7625㈹

株式会社 赤松菅野建築設計事務所

代表取締役
大阪事務所長　赤　松　　修

大阪市北区梅ケ枝町123（瑞穂ビル）　電話（364）5651
東　京・横　浜・大　宮・富士ノ宮

株式会社 浅野建築設計事務所

代表取締役　浅　野　真　澄

本　社　大阪市天王寺区城南寺町9－27　電話 768－0201（代）
761－7870
分　室　奈良県北葛城郡香芝町下田256　電話(0745)77－2363

株式会社 東建築設計事務所

代表取締役　東　秀保

大阪市北区天神橋筋３－６８　三海ビル　電話 (358)5598・3497

井上達明建築事務所

所長　井上達明

大阪市西淀川区竹島町３－２４　電話 473－１０６９
471－４８７１

株式会社伊東建築設計事務所

代表取締役　伊東正也

大阪市浪速区幸町通り２－６ 清光ビル　電話(562) ４３４３～４

株式会社 池田宮彦設計事務所

代表取締役 池田　昭　取締役会長 荒川直治

本　社　大阪市南区瓦屋町３番丁68（オートセンタービル）
電話　大阪 (761)0360　(762)0396　(762)5551　内線 351～7
東京事務所　東京都新宿区坂町２８（三広ビル）　電話　東京 (351)８９６２
山陰出張所　松江市西川津町２５７０　電話　松江 (21) ２５４７

石川建築事務所

石川寛三
石川　宏

大阪市天王寺区茶臼山町１１１　電話 06 (779)9491～2
東京都豊島区駒込 1－11－9　電話 03 (946)5431～2

株式会社 泉設計事務所

代表取締役　長谷川元耶
代表取締役　宮川達郎

大阪市南区横堀７－４（新田ビル）電話 251－７６９１(代)

株式会社 泉沢建築設計事務所

代表取締役　泉　沢　哲　史

大阪市東区瓦町5丁目42番地　新瓦町ビル　電話 (231) 2064～5

株式会社 今西建築デザインルーム

代表取締役　今　西　茂　雄

大阪市西区北堀江通2－47　TEL 541－3051～2

株式会社 入江三宅設計事務所

代表取締役　三　宅　　晋

東京都港区芝西久保桜川町28（第10森ビル）　電話 501－0286㈹
大阪市東区本町1－24（ニューホンマチビル）　電話 271－8018

株式会社 浦辺建築事務所

代表取締役　浦　辺　鎮　太　郎

大阪市北区梅田八番地・新阪急ビル　電話 大阪(341) 1727・1680
東京都中央区日本橋室町2の4　電話 東京(279) 4939 (代)

株式会社 栄和設計事務所

取締役社長　小　泉　善　重

本　　社　大阪市福島区堂島浜通4丁目14　TEL大阪 (452) 1651～3
京都事務所　京都市下京区河原町通四条下ル　TEL京都 (351) 3239

株式会社 大阪建築事務所

取締役社長　高　橋　慶　夫

本社並びに支所　大阪市西区京町堀2丁目75　電話　大阪(441)9351㈹
東京支所　東京都港区赤坂1丁目1番14号（溜池東急ビル）　電話　東京(583) 8169
名古屋支所　名古屋市中区丸の内2丁目2番15号（東照ビル）　電話名古屋 (221) 8566
九州支所　北九州市小倉区紺屋町1丁目20-1（丸源ビル）　電話　小倉(52)4285
分　　室　福岡・大分・水島・室蘭

株式会社 小河建築設計事務所

代表取締役　小河吉之助

本　　社　大阪市南区瓦屋町4番丁8番地　電話大阪(761) 6957代表
東京事務所　東京都中央区日本橋両国50番地　(ニッセンビル内)
電話東京(866)9606・2349
分　　室　大阪船場・和歌山

株式会社 海上静一建築事務所

代表取締役　海上静一

本　　社　大阪市東区博労町2－41(中博ビル)　電話　大阪(261)4428～9
三重分室　三重県津市船頭町2044　電話　津(8)9627

コータケ建築設計事務所

所長　高武主計

大阪市西区江戸堀5－155(新山越ビル)　TEL 488－0178・2408

株式会社 小林得志建築事務所

代表取締役　小林得志

大阪市北区堂島北町20　藤田ビル内　電話(341) 5658～9

有限会社 河内義就設計事務所

代表取締役　河内義就

広島市上幟町2番37号　電話 (0822) 28－2271

株式会社 坂倉建築研究所

代表取締役　西澤文隆

東京事務所　東京都港区赤坂9－5－12　TEL03－403－3551
大阪事務所　大阪市西区京町堀2－122　TEL06－443－0021

株式会社桜井建築設備研究所大阪事務所

取締役所長　長谷川幸雄

大阪市西区靱本町1－50（第2富士ビル）　電話06－443－7891㈹
大阪事務所九州支所　福岡市大名1－1－12　電話092－75－3577
本社・東京事務所　東京都新宿区四谷1-4（野原ビル）　電話03－353－4711㈹

株式会社三座建築事務所

代表取締役　徳永正三
専務取締役　富田三樹夫

大阪市北区中之島4－33　〈443〉0051〈代〉受電略号オ、サカ三ザケンチク
東京都中央区日本橋兜町2－38　〈668〉3056〈代〉受電略号ニホンバシ三ザケンチク

株式会社シグマ建築設計事務所

代表取締役
所長　川島春秋
日本建築家協会会員

本社　大阪市南区久左衛門町8・松竹関西支社ビル　06－213－0875（代）
分室　大阪市浪速区西円手町1031・湊町ビル　06－561－1391（代）

株式会社清水和彌設計事務所

代表取締役　清水和彌

大阪市北区万才町43（浪速ビル）　電話　大阪（312）4616・7278（代）

株式会社篠田川口建築事務所
株式会社協同設備事務所

取締役社長　川口喜代枝

名古屋市東区富士塚町3－2
TEL 962－7581（代）
TEL 971－2255（代）

株式会社昭和設計事務所

代表取締役社長　岡本行善
代表取締役専務　林　唯夫

設計・監理

大阪事務所　大阪市西区西長堀北通1－8 四ツ橋ビル　TEL代表 532－0415
姫路事務所　姫路市竪町54番地　滝川ビル　TEL姫路 24－2926
姫路事務所長　河野豊蔵

株式会社 創造建築デザイン事務所

代表取締役　千代忠市

大阪市北区天神橋筋1－44　TEL 351－5414
設計分室　大阪市北区伊勢町8(山崎ビル)　TEL 364－8780
京都連絡所　京都市北区上加茂石壺町17(布袋方)　TEL 701－5636

株式会社 田中小西 建築事務所

取締役社長　小西岬

本社　大阪市西区阿波座南通2－60　電話 (532) 4051大代表
東京事務所　東京都千代田区神田鍛冶町3ノ3(大木ビル内)　電話 (256) 9301代表
名古屋事務所　名古屋市中区丸の内1の8番39号(三信ビル内)　電話 (211) 4035
大津事務所　大津市梅林1丁目4番15号(滋賀県教育会館内)　電話 (22) 5373～4番

株式会社 竹内建築事務所

代表取締役　内藤一真
専務取締役　林茂

大阪市南区長堀橋筋2丁目35の1(日亜ビル)　電話 (211)2706～8番

株式会社 翼建築設計事務所

代表取締役　畠中繁

本社・大阪事務所　大阪市西区靱1-130(布亀ビル)　TEL06-441-2288・9595
京都事務所　京都市下京区五条通室町東入(木村ビル)　TEL075-351-4366

株式会社 東畑建築事務所

代表取締役　東畑謙三

本社　大阪市東区伏見町5丁目19　電話　大阪(06)202-0391
東京事務所　東京都千代田区永田町2(永田町ビル)　電話　東京(03)581-1251
名古屋事務所　名古屋市中村区堀内町2(堀内ビル)　電話名古屋(052)571-8471
九州支所・広畑支所・大分支所

東電設計株式会社

取締役社長　石亀力
専務取締役　富塚卓三

東京都千代田区内幸町2－1－1(飯野ビル)　電話　501－2161(代)
506－2905(代)

名古屋建築設計事務所

所長　井上正一

名古屋市中村区椿町4－28(国鉄会館ビル)　電話 571－1271(大代)
551－2025(直)

株式会社 内藤建築事務所

代表取締役社長　内藤資忠

本　社　京都市左京区田中大堰町189番地　電話 075(781)6196代
事務所・出張所　青森・仙台・東京・神奈川・松本・静岡・名古屋・京都
滋賀・奈良・大阪・広島・山口・四国・福岡・大分・鹿児島

株式会社 中澤建築事務所

代表取締役　中澤誠一郎

大阪市北区富田町38(高橋ビル北5号館)　電話 363－3881(代)

有限会社 中西建築事務所

代表取締役　北野正雄

大阪市北区中之島3－3(朝日ビル)　電話 231－9531

株式会社 日建設計

取締役社長　塚本猛次

大阪市東区横堀2丁目38番地　電話203－2361(大代表)

株式会社 根津建築事務所

代表取締役　根津耕一郎

本　社　大阪市東区平野町2－10(平和ビル)　電話(06)231－1632
東京事務所　東京都渋谷区幡ヶ谷2-7-1(アサヒビル)　電話(03)377－8687

株式会社 彦谷建築設計事務所

彦　谷　邦　一

大阪市東区高麗橋３－３９(柳湖堂ビル)　電話 231－２８１０・７６３４

株式会社 福永建築設計事務所

代表取締役　福　永　　薫
専務取締役　福　永　建　一

大阪市南区順慶町通４ノ６１　電話　大阪 251－3102・5189



株式会社 藤沢建築設計事務所

代表取締役所長　藤　沢　英　雄

本　社　大阪市南区大宝寺町中之丁２９　電話06－271－６６６１
支　所　東京都港区南青山３－１－３３　電話03－402－８６２６
　　大分市都町４－１－８　電話09752－４－７９３

株式会社 宮後建築事務所

代表取締役　宮　後　　健

本　社　大阪市天王寺区上汐町６－３５　電話 772－０１６６・２９０８
分　室　大阪椎寺町・大阪横堀

村野・森建築事務所

村　野　藤　吾
森　　忠　一

大阪市阿倍野区阿倍野筋２－３－８　電話 (622) ０９２６代表
研究所　大阪市南区心斎橋筋１－４３　電話 (253) ０８７５代表
東京事務所　東京都中央区日本橋茅場町２－３　電話 (661) ７１５８



株式会社 安井建築設計事務所

代表取締役社長　佐　野　正　一

本　　社　大阪市東区島町２丁目７番地　電話06(943)1371(大代)
大阪事務所　大阪市東区島町２丁目７番地　電話06(943)1371(大代)
東京事務所　東京都千代田区平河町１丁目１番地　電話03 (261) 5101(代)
名古屋事務所　名古屋市中区錦３丁目２４番(日本生命ビル)　電話052(961) 1861(代)
神戸事務所　神戸市生田区三宮町2丁目18番地(阪神相互ビル)　電話078 (32) 1533(代)

藪本一級建築士事務所

藪　本　芳　一

和歌山市東長町１０－１３　電話 0734－22－９９３０

株式会社 U.A.建築事務所

代表取締役　上　田　良　治
専務取締役　浅　井　潤　一

大阪市東区谷町５－３０(新野村ビル)　電話 768－２９４１～２

株式会社 洋建築事務所

代表取締役　設　楽　貞　三

大阪市北区松ヶ枝町８８(河田ビル)　電話 358－６３７２(代)

横山建築構造設計事務所

所長 工博　横　山　不　学
次長　渡　辺　藤　松

東京都新宿区本塩町８　電話 353－７５６１～２

株式会社 吉田建築事務所

取締役会長　吉　田　信　武
取締役社長　佐　治　誠　次

大阪市西区北堀江上通３－22(久竹ビル)　電話 (538) 2991 代表

渡辺建築事務所

渡　辺　道　輝

〒541　大阪市東区今橋２丁目21番地(藤浪ビル)　電話 (231)１６９６番代

賀　正

1971

造園設計事務所有志

株式会社 荒木造園設計事務所

代表取締役　荒木　芳邦

大阪府池田市鉢塚2丁目8番21号　電話 0727 (61) 8874 (代表)

井上造園設計事務所

井上　卓之

京都市右京区宇多野福王子町54　電話 075 (463) 3377

EDA
ENVIRONMENT
DEVELOPMENT
ASSOCIATION

株式会社 エダ造園・地域計画研究所

代表取締役　吉村元男

東集盛　矢野興　河合至　三田村和雄　糸谷正俊　山本郁子　王櫻芬

本　社　大阪市東区内淡路町2の16　恵口ビル　電話 (942) 4577
東京事務所　東京都渋谷区渋谷4丁目3-17常盤松葵マンション309　電話 (409) 2921
アトリエ　京都市左京区北白川下池田町67　電話 (781) 4418

造園・緑化・遊園運動場器具
株式会社 三芳園

取締役社長　森　俊一

本　社　箕面市新稲705番　電話 0727 (21) 3058番
新営業所　大阪市福島区鷺州本通2丁目38番地　電話 大阪 (458) 4812(代)

阪神造園建設業協同組合

理事長　木原五市

組合員一同

事務所　大阪市北区高垣町86　福田ビル内　電話大阪(313)0975・4010

賀　正

1971

建設業者有志

BULL DOZER

株式会社 **青　木　建　設**

（旧ブルドーザー工事株式会社）

取締役社長　青　木　益　次

本　社　大阪市大淀区大淀町南1の5　TEL 06（458）5851
東京本社　東京都中央区八丁堀2の27番10号（東八重洲ビル）　TEL 03（551）9601
大阪支店　大阪市大淀区大淀町南1の5　TEL 06（458）5851

株式会社 **淺　沼　組**

取締役社長　淺沼猪之吉

本　社
本　店・大阪市天王寺区東高津町8番地の1　電話 代表（762）0251
支　店・東京・名古屋・札幌・仙台・福岡・広島
営業所・秋田・岩手・水戸・千葉・立川・横浜・新潟・北陸・静岡・岐阜・長野
三重・奈良・京都・郡山・和歌山・神戸・岡山・高松・徳島・高知・熊本

株式会社 **新（アタラシ）工　務　所**

取締役社長　新　昭　一

本　店・大阪市北区曽根崎中一丁目四三　電話 代表 大阪（313）1331番
支　店・東京都千代田区猿楽町二丁目一番十四号　電話 代表 東京（291）3741番
営業所・名古屋市中区大須四丁目一番七一号（時計ビル）　電話 名古屋（262）1725番
神戸市灘区倉石通一丁目二　電話 神戸（87）6119番

株式会社 **あめりか屋**

取締役社長　前野慶太郎

本　社　大阪市北区常安町17番地　電話 代表（444）1501番

安藤建設株式会社大阪支店

取締役大阪支店長　村　田　隆　次

大阪市西区江戸堀北通一丁目七番地　電話 代表443－5561
本　社・東京都中央区八重州四丁目七番地　電話 大代表（272）7411
支　店・名古屋・仙台・静岡・九州・広島
営業所・千葉・横浜・水戸・盛岡・新潟・神戸・沼津・札幌・宇都宮・北九州・熊本

株式会社 井上組

取締役社長　井上福蔵

本社　大阪市都島区網島町6番25号　大阪(351)0530　(352)4031～4
出張所　神戸市生田区加納町三丁目二番地　電話　神戸(33)1780

株式会社 今西組

取締役社長　今西壽雄

本社　大阪市天王寺区上本町七丁目二番地ノ一　電話(772)1251
支店　東京都新宿区内藤町一番地　電話(354)0581～5
営業所　神戸市生田区下山手通四丁目四番地ノ一　電話(33)6060
埼玉県所沢市大字中富字北見元秋津分990番地　電話所沢(22)0180

株式会社 大林組

取締役社長　大林芳郎

本　店・大阪市東区京橋三丁目七五番地　電話　大代表(941)0861番
支　店・東京・札幌・仙台・横浜・名古屋・神戸・岡山・広島・福岡・高松

株式会社 奥村組

社長　奥村太四郎

大阪市阿倍野区松崎町1の2の3　電話　大阪(621)1101(大代表)
支　店　札幌・仙台・東京・名古屋・広島・四国・九州

鹿島建設株式会社

会長　鹿島守之助

取締役社長　渥美健夫　　取締役大阪支店長　橋本正二

本　社　東京都港区元赤坂1－2－7　電話　東京(404)3311(大代)
大阪支店　大阪市東区瓦町五の七一(瓦町ビル)　電話　大阪(203)3381

株式会社 金山工務店

代表取締役　金山伊三次郎

本　社　大阪市東区内淡路町1丁目2　電話　大阪代表(942)5461番
東京支店　東京都中央区日本橋堀留町1丁目2　電話　東京代表(663)7844番
堺支店　堺市中瓦町2丁87(博愛ビル4階)　電話　堺②局2751番

株式会社 神崎組大阪支店

取締役支店長 佐伯武男

大阪市北区曽根崎新地1丁目21 電話 (341) 7371 (代表)
本店・姫路市北条口86－3 電話 姫路 (23) 2021(代表)

株式会社 近畿建設

代表取締役 川崎敬三

本社 大阪市西区靱本町4の103 電話大阪(代)(532)0081～5
滋賀支社 滋賀県栗太郡栗東町字上鈎171 電話(07755)(2)1361～2

株式会社 熊谷組大阪支店

専務取締役支店長 泉治郎一

大阪市西区西道頓堀通二丁目一番地 電話 (538) 1841番 (大代表)
本社 東京都新宿区筑土八幡町二二番地 電話 (260) 2111番 (大代表)
支店 札幌・仙台・北関東・東京土木・東京建築・横浜・名古屋・広島・四国・福岡

株式会社 鴻池組

取締役社長 鴻池藤一

本店 大阪市東区北久宝寺町4－27 電話 代表 (252) 3100
支店 東京・名古屋・福岡・広島・松江・仙台

甲南建設工業株式会社

代表取締役 原精一

本社 大阪市東淀川区十三西之町4丁目3 電話(06) 302－1551代表
営業所 尼崎市南塚口町2丁目29番34号 電話(06) 429－4569
神戸市葺合区八幡通5丁目6番地 電話(078) 22－6293
堺市宿屋町東3丁1番19号 電話(0722)2－5423

株式会社 小坂井組

取締役社長 小坂井正夫

本社 大阪市北区太融寺町五六番地 電話 代表 (311) 9331
営業所 京都市
出張所 東大阪市・和歌山市・堺市

株式会社 金剛組

代表取締役 金剛利隆

大阪市天王寺区椎寺町66番地 電話 (779) 7731～5・夜間5930

佐藤工業株式会社

取締役社長 佐藤欣治・取締役大阪支店長 山本良勝

本　社・東京都中央区日本橋本町4－8　電話 東京 (662) 2331 (大代)
大阪支店・大阪市東区北浜1－25　電話 大阪 (203) 7221 (代表)
支　店・東京・名古屋・富山・札幌・福岡・仙台・広島

三和金属工業株式会社建設部

総合建設請負業
建設大臣登録
(ワ)第5222号

本　社	大阪市西区立売堀南通3丁目71	電話大阪(531)大代表6331
東京支店	東京都港区西新橋3丁目10番6号(西谷ビル)	電話 東京(432)2961～2
名古屋支店	名古屋市中区錦3丁目23番31号(栄町ビル)	電話名古屋(962)代表4521
福岡営業所	福岡市渡辺通2丁目10街区51(平島ビル)	電話 福岡(74)代表0661
広島営業所	広島市鉄砲町6番7号	電話 広島(21)1283
堺工場	堺市大仙西町5丁132	電話 堺(41)代表3722
初芝工場	堺市土塔町5　8	電話 (0723) (7) 5181
千葉駐在所	千葉県市原市五井6483－1	電話 (0477) (2)5601

三和建設株式会社

代表取締役 竹下文武

本　社	大阪市東淀川区加島町431	TEL (301) 6636代
東京支店	東京都港区西新橋2丁目19番1号	TEL東京 (436)1271代
京都営業所	京都市右京区西大路五条上ル	TEL京都 (311)8897
東京工場	川口市仁志町1～241	TEL川口 (52) 4100
高槻工作所	高槻市芝生町5の2	TEL高槻 (74) 0381

島藤建設工業株式会社大阪支店

常務取締役
支店長 斉藤健一

本　社 東京都港区赤坂8丁目5番34号 電話 東京 (403) 1511
支　店 大阪市北区茶屋町31番地の2 電話 大阪 (372) 6001代表

清水建設株式会社

社長 吉川清一

本　社 東京都中央区宝町二ノ一
支　店 大阪・名古屋・広島・高松・福岡・金沢・仙台・札幌

住友建設株式會社

常務取締役大阪支店長　野　村　太　郎

大阪支店　大阪市東区北浜5丁目22番地(新住友ビル2号館)電話　(202) 代表7421番
本　店　東京都新宿区荒木町13番地　電話　(353) 代表5111番

株式会社 錢高組

取締役社長　錢　高　輝　之

本　店　大阪市西区阿波座上通3丁目2番地　電話 大阪 (531) 6431番(大代表)
支　店　札幌・仙台・東京・名古屋・広島・福岡
営業所　青森・秋田・盛岡・前橋・新潟・千葉・横浜・静岡・津・京都
神戸・岡山・高松・松山・松江・北九州・熊本・長崎・大分

大末建設株式会社

取締役社長　山　本　末　男

本　　社	大阪市南区大和町1番地	電話 (213) 大代	0555
大阪工場	大阪府松原市丹南3丁目2番26号	電話 松原㉜大代	8600
東京支店	東京都千代田区神田駿河台2の9	電話 (294) 大代	4311
名古屋支店	名古屋市中区錦1丁目2番11号(岩田ビル)	電話 (211) 代	5421
広島支店	広島市東白島町21－16(多田ビル)	電話	21－0210
九州支店	福岡市天神3丁目3番11号(新梅居ビル)	電話	76－5331
営　業　所	札幌・仙台・千葉・埼玉・横浜・立川・京都・滋賀・神戸・奈良・和歌山・岡山		

大成建設株式会社

常務取締役
支店長　菅　澤　英　夫

大阪支店　大阪市東区本町4丁目27番地　TEL大阪 (262)1131大代表

大日本土木株式会社大阪支店

大阪駐在
常務取締役　山　田　　豊
取締役支店長　高　木　政　夫

	530 大阪市北区堂島北町9	電話 06 (341) 代表5931
東京本社	101 東京都千代田区神田松永町19	電話 03 (255) 代表0371
本　　店	500 岐阜市長住町2丁目3	電話 0582 (62) 代表6141
支　　店	東京・名古屋	
営　業　所	神戸・京都・奈良・和歌山・上六・岡山・広島・九州	
	宮崎・熊本・静岡・長野・中津川・三重・横浜・千葉・仙台	

株式会社 竹中工務店

取締役社長　竹　中　錬　一

本　店　大阪市東区本町4丁目27　電話 大阪 (252) 1201番(大代表)
営業所　札幌・仙台・東京・横浜・千葉・静岡・名古屋・富山
京都・神戸・岡山・広島・高松・北九州・福岡

鉄建建設株式会社大阪支店

常務取締役支店長　勝田頼春

大阪市大淀区天神橋筋六丁目五番地(天六阪急ビル)　電話 (358) 0321(代表)

本社・東京都千代田区三崎町二丁目五番三号　電話東京 (262) 3411(代表)

東海興業株式會社大阪支店

取締役社長　中西小一　　専務取締役 大阪支店長　小松英二

本　社　東京都千代田区丸の内3の4 日石ビル　電話 東京 (212) 3261

大阪支店　大阪市北区梅田町27 サンケイビル　電話 大阪 (343) 0451

支　店　東京・名古屋・仙台・札幌

東急建設株式会社

取締役社長　五島昇　　取締役支店長　八馬芳郎

本　店・東京都渋谷区大和田町16渋谷三菱ビル　電話 東京(462)5111大代

大阪支店・大阪市北区太融寺町 33 大阪合同ビル　電話 大阪 (313) 2491代

戸田建設株式会社大阪支店

取締役支店長　加納秀雄

大阪市東区本町3丁目27の1 (センバ・セントラルビル)

電話(252) 6311(大代表)

本社・東京都中央区京橋1丁目3番地

大阪支店営業所・京都・神戸・金沢・富山

飛島建設株式會社大阪支店

常務取締役支店長　篠原忠治

大阪市東区島町2丁目28番地　電話 (942) 2481(代表)

本　社　東京都千代田区九段南2丁目3番28号

明日をささえる

西松建設

大阪建築支店　大阪市東区釣鐘町2丁目41番地

取締役支店長　島田勢喜

本　社　東京都港区芝西久保桜川町13番地

株式会社 西田工務店

取締役社長　西田義郎

大阪本店　堺市石津西町7（臨海センタービル3階）　電話　堺（44）5221代表
本　社　岸和田市上野町西26番33号　電話岸和田貝塚㉓2881代表
支　店　東京　営業所　大阪・神戸　出張所　和歌山・堺・名古屋・姫路

日東建設株式会社

取締役社長　長久保俊夫
取締役支店長　榎宝一

本社　102 東京都千代田区平河町1丁目2番地12　電話東京　03（265）（大代表）4281番
支店　530 大阪市北区末広町12番地（新末広ビル）　電話大阪　06（351）代 0623 番

日本建設株式会社

社長　生田重政

本　社　大阪市東区安土町4－5　TEL（261）7591－6
支　店　東京・名古屋・福岡・広島・仙台・札幌・四国

野村建設工業株式会社

取締役社長　岩本義心

本　社　大阪市東区高麗橋二丁目九番地　電話(202) 代表4791
東京支店　東京都千代田区大手町二丁目一番一号　電話(241) 代表4171

株式会社 間組大阪支店

常務取締役 支店長　吉村幾蔵

大阪市東区横堀町二丁目七〇番地　電話（203）代表 2821
本　店・東京都港区赤坂青山南町一丁目一番地　電話　代表 8171
支　店・東京・仙台・名古屋・大阪・福岡・高松・広島・長野・札幌

長谷川組株式会社

取締役社長　長谷川為一

本　社　大阪市天王寺区大道町四丁目一三〇
電　話（771）（代表）4148・4149・4140
工作場　大阪市生野区巽四条町103の2
電　話（791）2744番

総合建設 株式会社 長谷川工務店 ビル経営

取締役社長 水上芳美

本　社　東京都渋谷区道玄坂2－29－20　TEL(463) 5451(代表)
大阪支店　大阪市東区平野町5の40　TEL(203) 5661(代表)

阪神土木工業株式会社

取締役社長 藤原正一

本　社　大阪市北区梅田町93番地　電話　(341) 5445(代)
神戸支店　神戸市東灘区御影本町2－18　電話　神戸(85) 5362
西宮営業所　西宮市池田町4の31　電話　西宮(22) 3433
岡山営業所　岡山市内田43番地　電話　岡山(24) 6689
出張所　芦屋・尼崎・和歌山・京都・寝屋川

Z 不二建設株式会社

取締役社長 山口吾郎

本社　大阪市西区阿波座上通4丁目8　〒550 電話 大阪 (06) 541－5534代表・9301代表
支店　東京都新宿区西新宿4丁目5番2号　〒160 電話 東京 (03) 377－5171代表
名古屋市中区千代田4丁目11番17号　〒460 電話名古屋 (052) 321－8481代表
出張所　大垣・京都・神戸・広畑・大分

不動建設株式会社

取締役社長 庄野勝

大阪本社　大阪市東区平野町5丁目30番地　電話　大阪 (201) 1121
東京支社　東京都中央区銀座4丁目2番16号　電話　東京 (567) 1751
支店　大阪・東京・九州・名古屋 君津・大分・神戸・横浜・北海道・千葉・仙台
営業所　広島・岡山・福岡・長崎

株式会社 藤木工務店

本店・大阪市東区両替町一丁目一三・電話 大阪 06(942) 1461(代)
支店・東京都新宿区三栄町二三番地・電話 東京 03(357) 1611(代)
倉敷市鶴形一丁目十ノ三二・電話 倉敷0864(22) 3330(代)
高松市丸ノ内十一番地ノ十三　電話 高松0878(51) 7272(代)
出張所・京都・名古屋・津・岡山・新居浜・徳島・福岡・熊本

未来をひらく 藤田組

取締役大阪支店長 古賀文之介

大阪市北区堂島中2丁目38番地　電話 (345) 代表7671
本社・東京都渋谷区千駄ヶ谷4－6－15
支店・東京・札幌・横浜・名古屋・大阪・広島・九州・リマ・カラカス
(藤田組からフジタ工業へ……昭和46年2月1日より社名変更予定)

真柄建設株式会社大阪支店

取締役
支店長　佐々木孝治

大阪支店　大阪市西区京町堀3丁目12番地　電話 大阪（06）443－0641(代表)
東京本社　東京都千代田区麹町5丁目1番地　電話 東京（03）263－1211(代表)
支店・営業所　東京・名古屋・金沢・富山・福井・京都・大津・神戸・新潟

前田建設工業株式会社 大阪支店

常務取締役支店長　島田光富

支店　大阪市東区石町2丁目7番地　電話大阪(942)1301(代表)
本社　東京都千代田区富士見2丁目10番地の26号　電話東京(265)5551番(代表)

株式会社 松村組

取締役社長　松村雄吉

本社・大阪市北区空心町一丁目七〇番地　電話 代表大阪（353）1131
支店・東京・札幌・名古屋・広島・福岡

三井建設株式会社 大阪支店

常務取締役
支店長　竹内慶久

大阪支店　大阪市北区常安町21番地 三井ビル別館　電話大阪（443）代表1321
本社　東京都中央区日本橋室町二ノ一(三井ビル)　電話東京(270)大代表8651
支店　東京土木・東京建築・札幌・仙台・横浜・名古屋・広島・福岡

株式会社 村上工務店

取締役社長　村上秀二

本社　大阪市大淀区豊崎東通り3丁目16番地の16　TEL（372）2924
営業所　東京・神戸

村本建設株式会社

取締役社長　村本豊嗣

本社　奈良県北葛城郡広陵町安部547　電話　大和高田　（52）6021(代表)
大阪支店　大阪市天王寺区上本町9丁目49　電話　大阪　（779)1571(代表)
東京支店　電話 東京（265)5851(代)
名古屋支店　電話 名古屋（241)1511(代)
福岡支店　電話 福岡（74)0119

望月建設株式会社

取締役社長　望月小太郎

本　　社　大阪市北区堂島上1丁目18　電話大阪(344) 8651(代表)
第一工作所　豊中市島江1丁目1　電話 (332) 4831
第二工作所　豊中市小曽根4丁目904　電話 (332) 4832

株式会社 森組

取締役社長　森　幸治

本　社　大阪市東区横堀2丁目14番地　電話 (231) 8283～7番
(支店) 東京・名古屋・奈良　(営業所) 和歌山・尼崎・神戸・岡山

株式会社 森本組

代表取締役社長　森本積善

本　社　大阪市天王寺区夕陽ケ丘町三番地　電話　大阪 (779) 1451
支　店　東京・名古屋・広島
営業所　松江・神戸
出張所　奈良・米子・下北山・西明石・和歌山・河内・相生・木曽福島

株式会社 盛工務店

代表取締役　盛道雄

本　社・大阪市旭区赤川町二丁目八番地　電話大阪(921) 3471(代表)
営業所・神戸・福岡・西宮

矢島建設株式会社

取締役社長　矢島浩三

本　社　東京都中央区銀座七丁目11－3　電話 東京 (572) 代1436
大阪支店　大阪市南区北炭屋町八番地　電話 大阪 (271) 代5837
取締役副社長
支店長　仁平信也
支店・営業所　仙台・福岡・蒲郡・和歌山

株式會社 米田工務店

取締役会長　米田治郎兵衛
代表取締役　米田良男

本　社　大阪市天王寺区逢坂上ノ町7　TEL　大阪(06) 771－7775代表

賀　正

1971

建材・設備・工事業者有志

アルナ工機株式会社

取締役社長　日比憲一

本社　兵庫県尼崎市東難波町１－４－５　電話大阪　(401)7281代表
支社　東京都千代田区岩本町3－1(扇ビル)　電話東京　(862)7281代表
支店　名古屋市熱田区市場町１０８　電話名古屋(681)6666代表

浅野スレート株式会社

取締役支店長　谷　幸一

本社　東京都港区芝浜松町４の２　電話 (434) １２１１
支店　大阪市大淀区中津浜通り３の１１の１　電話 (372) ５３５１

株式会社 井上浄夫商店

取締役社長　井・上浄夫

本社　大阪市西区江戸堀１－１０１　電話 441－8531(代)
支社　東京都中央区八丁堀４－２－２　電話 551－６７５６

タイル・瓦工事

井上窯業株式会社

代表取締役　井上秋次

大阪市天王寺区生玉町４０番地　電話 771－２８２５(代)
営業所　豊中・奈良・寝屋川

株式会社 梅彦

代表取締役　松永彦太郎

本社　大阪市北区舟場町20番地　電話 06 (371) ４０３６代
営業所　大阪市北区道本町４０番地　電話 06 (312) ６１７１代
茨木工場　茨木市字清水２４６番地　電話0726 (43) ６１４９代
寝屋川工場　寝屋川市河北一番地　電話0720 (21) ４３３８代

陶磁タイル・オリエンタルモザイコ
（陶磁・ガラスを主材とする壁画構成・立体構成）

関西タイル商会

大阪市西区江戸堀北通1ノ19（オカダビル） 電話 （443） 9131（代表）

各種冷暖房・空気調整機器専門製作

木村工機株式会社

代表取締役 木村悦造

本社 大阪市東区上町13番地 電話(06) 761－6921
東京営業所 東京都中央区八重洲4丁目5番地（新光ビル） 電話(03) 273－8821
名古屋営業所 名古屋市中区錦1丁目4番27号（高野ビル） 電話(052)211－5048
福岡営業所 福岡市大名1丁目12番52号（内藤ビル） 電話(092) 77－0628
八尾製作所 大阪府八尾市北久宝寺2丁目2番7号 電話(0729)23－0621

電気・計装・空調・土木

近畿電氣工事株式會社

取締役社長 大森久司

本店 大阪市北区南扇町11 電話 312－1281（大代）

株式会社 建材社

取締役社長 上西圭治

本社 東京都中央区銀座6－6－7 電話 572－7411
支店 大阪市北区中之島2－22 電話 203－3721

アルミサッシ・ドア、住宅用サッシ、ストア・フロント
アルミ流し台、フレクサラム、スパンドレル

三協アルミニウム工業株式会社大阪支店

取締役支店長 川中正道

本社・工場 富山県高岡市早川70 電話0766－22－5030
大阪支店 大阪市西区靱1-123（近畿富山会館） 電話 443－9601～7

株式会社 シエル石油大阪発売所

アスファルト製品販売部

部長 栗山和三

本社 大阪市北区堂島浜通り1－25 電話 大阪（363） 0441大代表
分室 大阪市東淀川区西中島町2－76 電話 大阪（303）7131 代表
事務所 東京・福岡

建築写真の撮影から仕上げ・カラー写真の一貫生産
記録アルバム作成・パネル張り・装飾用大伸し
作品集・竣工アルバム及びパンフレットの編集・印刷

G.T.SUN OSAKA ジーチーサン

大阪市東区北浜3丁目52
電話 06（231）1263～4・6791・〒541

SINKO

新晃工業株式会社

本　　社／大阪市東区大川町1（淀屋橋勧銀ビル）　〒541 ☎(06) 202－4761㈹
大阪支店／大阪市東区大川町1（淀屋橋勧銀ビル）　〒541 ☎(06) 202－4761㈹
東京支店／東京都千代田区有楽町1－5(有楽町ビル）　〒100 ☎(03) 216－4311㈹
名古屋支店／名古屋市中区栄町4－1－1（中日ビル）　〒460 ☎(052)261－1731㈹

神東塗料株式会社

社長　山口由美

本　社　尼崎市南塚口町6－10－73　電話 429－6261(大代)
東京支店　東京都中央区八重洲3－3(八重洲口会館)　電話 272－4011(大代)

SNK

新日本空調株式会社大阪支店

支店長　堀田雅邦

大阪支店　大阪市北区堂島浜通1－25－1（新大ビル）電話大阪（344）6031(代)
本　社　東京都中央区日本橋本石町4-2(三井第2別館）電話東京(279)5671(大代)

須賀工業株式会社

取締役社長　須賀孝

東京・横浜・大阪・名古屋・京都・神戸・広島・福岡

精研冷機株式会社

取締役社長　木内清三
専務取締役　和田正八郎

本　　社　大阪市南区瓦屋町3番丁68番地（オートセンタービル）電話761－1141㈹
東京営業所　東京都千代田区九段南2丁目2番5号（九段ビル）電話262－3241㈹

建築用接着剤・各種コーキング剤製造・販売・責任施工

セメダイン株式会社

大阪支店長　大山昭典

大阪市南区大宝寺町東之丁41　電話（251）3555（大代表）

西日本アスファルト事業協同組合
西日本床工事事業協同組合

株式会社 タテバヤシ商店

代表取締役　舘林熊司

京都市南区西九条大国町37　電話（075）681－7221（代）

大阪ガス風呂ショップ

タナカ風呂

代表者　田中照雄

大阪市浪速区元町1丁目747　（但し国鉄湊町駅南へ50メーター西側）
電話（641）5313・6221・8128

工場　守口市大宮通り4丁目25　電話（992）3822

田島応用化工株式会社
大阪営業所

大阪市西区京町堀1－74　電話441－5951（代）

田村商会

創業明治24年

田村亨

本店　神戸市生田区京町72（クレセントビル）　電話（078）39－1881（代）
支店　東京都中央区八重洲1－1（八重洲田村ビル）　電話（03）271－6181～2

鉄骨・鉄塔
橋梁・製缶　鉄構造物設計施工

株式会社 大成鉄工所

代表取締役　高杉善久

本社工場　枚方市出口383　電話（0720）31－7001～8
広島営業所　広島市横川町新町8-19（ライトビル）　電話（0822）32－8859

暖・冷房・空気温湿度調整装置設計施工

高砂熱学工業株式会社

大阪支店　大阪市北区梅田8(新阪急ビル)　電話 345−4521(代)
本　　社　東京都千代田区神田駿河台4−2　電話 255−8211(代)

株式会社 高村電機製作所

取締役社長　副島栄八

本　　社　大阪市北区河内町2−28　電話06(358) 6351(代表)
工　　場　大阪府八尾市佐堂町3−3−12　電話0729(99)0151(代表)

株式会社 立花商會

取締役社長　佐竹孝雄

本　社　大阪市西区阿波堀通2−47　電話 541−9521(大代)
支　店　東　京・名古屋・堺・神　戸
営業所　大阪：東・北・中央、東京：町田・鹿島

東光電気工事株式会社大阪支社

取締役支社長　姉川正男

本　　社　東京都千代田区西神田1丁目4番5号　電話03-292-2111(大代)
大阪支社　大阪市東区高麗橋5丁目28番地　電話06-202-0325　(代)

室内装飾
床貼材料

合名会社 利倉幸商店

代表社員　利倉清

本　　社・大阪市南区長堀橋筋2の20　電話　大阪 (211)0571
京都営業所・京都市中京区河原町夷川下ル指物町　電話　京都 (231)3277

共栄パーライト販売株式会社

取締役社長　橘泰治

本　社　大阪市東区森之宮西の町594　電話(941)9243(代)

NABCO

自動ドアーはこのマーク

ナブコドアーエンジン株式会社

取締役社長　中畔登鬼男

本　社　〒550　大阪市西区阿波堀通2－7　TEL（代）532－5841
営業所　名古屋・広島・高松・金沢・京都・神戸/和歌山・浜松・岐阜・津・富山・松山・徳島

NAIGAI

保温・保冷・設計・施工
サーモパネル板による
空調機ケーシング
設計・施工
サーモテックス吹付
サーモ耐火板
耐火被覆

内外アスベスト株式会社大阪支店

大阪市都島区善源寺町2丁目3番14号　電話(06) 922－1371㈹
高松営業所　高松市木太町新関2813　電話(0878) 62－8916
本　社　東京都北区東田端町1-4-8　電話(03) 800－2111㈹
支　店　札幌・名古屋・広島　出張所　福岡・仙台

ダイヤラス・鉄筋ラス・親子ラス・ラスシート・リブラス・溶接金網

中川ラス製作所

代表者　中川楢栄

大阪市南区鰻谷仲之町31　但し十合百貨店北ノ辻東へ入ル南側
電話　(271) 5228～9・(252) 8861～3

特許 強力ギルソイド・アスタイト防水

西日本アスファルト事業協同組合

東　京・千代田区岩本町3の11の13　田島応用内　TEL代表(866) 6101
大　阪・大阪市西区京町堀1の74　TEL代表(441) 5951
名古屋・TEL(571) 6361　広島・TEL(21)0266　福岡・TEL(28)4012

株式会社 西原衛生工業所大阪店

取締役社長　伴一郎

大阪市大淀区中津南通4丁目11番地　電話大阪(458)代3531番

PRESS

日刊建設産業新聞・日刊建産速報

株式会社 日刊建設産業新聞社

取締役社長 花村茂彦　取締役支社長 山邊敏郎

大阪支社　大阪市東区淡路町1丁目14(八千代ビル)　電話 (231) 8171(代)
本　社　東京都板橋区板橋町1丁目48－8　電話03(961)1691(代)
神戸支局　神戸市葺合区八幡通5丁目6－1　電話078(29)0541－2
京都支局　京都市右京区鳴滝本町11－4　電話075(463)0683

大阪で唯一つの

株会式社 **日刊建設新聞社**

取締役社長　中山豊雄

大阪本社　大阪市東区高麗橋1丁目3（東洋ビル）　電話202－6861(代表)

株式会社 **日刊建設通信関西支社**

代表取締役会長　田中一

取締役支社長　成田辰美

大阪市西区京町堀1－6－8　電話（444）4451代表

本社・東京都港区西新橋2－11－4　電話（502）8581代表

日本アスファルト年限保証防水（日本アス協組員）

ニトルーフシート防水 } 冷工法

NPシート2号防水 }

N.S塗膜防水工法（冷工法）

日新工材株式会社

代表取締役　井場績

大阪市西区新町北通1－17　電話（541）3785～6・2721

倉庫・西区新町北通1－18　（538）3830・3989

建設省東計第240号認可

日本アスファルト防水工業協同組合　関西支部

大阪市東淀川区瑞光通り4-30-2 日新工業株式会社大阪支店内

電話（329）7737～40

日本イトン工業株式会社

日本セメント株式会社イトン事業本部

大阪支店長　吉村英男

大阪支店　大阪市北区曽根崎中1－52　電話06(311) 5231代表

社団法人 **日本サッシ協会関西支部**

大阪市浪速区敷津町3－20（建団連会館）　TEL(632)6171(交)

支部長 福田好雄　理事 田島清美　理事 光島光三郎

理事 岩住幸治郎　理事 谷山俊輔　監事 高橋渡

理事 大桑善治　理事 日比憲一　監事 野網俊雄

理事 佐竹達二　理事 平尾近夫

エレベータ・リフト・カーリフト
設計・製作・据付・修理

日本エレベータ工業K. K.

代表取締役 長尾正大

本　　社　大阪市大淀区天神橋筋六丁目　天六阪急ビル　電話 06(351) 4927㈹
東京営業所　東京都北区田端町３１１　東京建築興業ビル　電話 03(822) 0995㈹
工　　場　大阪市東淀川区小松中通５丁目６番地　電話 06(328) 0363㈹

温湿度調整・暖冷房・換気給排水・衛生設備
設計並施工

日本管工業株式会社

本　　社　京都市南区西九条豊田町20－１　電話 681－5101～5
大阪営業所　大阪市北区天満橋筋１－３７　電話 352－3501～3
四日市営業所　四日市市浜田西末広町　電話 53－7431～3
大津出張所　大津市打出浜１３－１５　電話 22－９７３８
津営業所　津市栄町２－１１１　電話 8－３６１０

日本建鉄株式会社

取締役社長　石川辰雄

本社・東京支店　東京都千代田区大手町 2－6－2(日本ビル)　電話 東京270－6511(大代表)
大阪支店　大阪市北区梅田町４７番地(新阪神ビル)　電話 大阪341－4331(代　表)

日本熱学工業株式会社

取締役社長　牛田正郎

本　　社
大阪事業本部　大阪市北区万才町５０番地　TEL大代表(312) 8671
東京事業本部　東京都港区芝西久保桜川町2 第17森ビル　TEL大代表(501) 7631

原田今商事株式会社

取締役社長　原田守蔵

本　　社　電話06－541－７４５５(代)
水分営業所　電話06－541－３８４３～4

HARDWARE HIGAKI

株式会社 日垣本社

取締役社長　日垣桂一

本　　社　大阪市南区安堂寺橋通２－３　電話 261－５０９１
東大阪支店　東大阪市稲田１１４１－１　電話 789－５４８１
東京支店　東京都墨田区向島３－３５－６　電話 623－８３１１
名古屋営業所　名古屋市西区那古野町３－７　電話 561－９４９１
札幌営業所　札幌市北１２条東５丁目223-46　電話 741－３１１１
福岡営業所　福岡市御供所町２－４２　電話 27－１５５１



フクビ化学工業株式会社

取締役社長　八木熊吉

本社工場　福井市三十八社町33－66　電話 22−7280
大阪営業所　大阪市南区長堀橋筋1－1(森久ビル)　電話 271−8531



電気設備工事　計装工事

富士電業株式会社

取締役社長　田中実

本　社　大阪市西区北堀江上通1丁目65　電話(541) 0564代表
営業所　東京・名古屋・広島・福岡



室谷商事株式会社

取締役社長　室谷山水

本　社　神戸市生田区北長狭通4丁目　電話078 −33−0881
支　店　大阪市北区絹笠町50(堂ビル)　電話06− 364−2031



明研化学工業株式会社

取締役社長　村田鞆二

外内装材　特許　エマルリシン　プレハタイル　内装材　エマジュラク　エマソフト
エマレックスリシン　明研リシン　エマミックス　防火レックス
エマルスキン　エマールール　エマトップ

本社	明石市中谷町888番地	電話明石代表(913) 3456
第二工場	神戸市垂水区岩岡町野中字福吉564	
大阪営業所	大阪市東区北久宝寺町2丁目6(三京ビル)	電話 06 (271) 3967代
東京営業所	東京都墨田区両国4丁目37　13坂井ビル	電話 03(634) 1756～8
名古屋営業所	名古屋市西区枇杷島通4丁目47	電話 052 (521) 6373代
広島営業所	広島市天満町11－23(内藤ビル)	電話 0822 (91) 5927
福岡営業所	福岡市小林町124	電話 092 (41)4426



森村金属株式会社

取締役社長　森村嘉治

本　社　大阪市南区高津町4番丁28　☎(06) 631—7845
東京営業所　東京都墨田区錦糸2丁目3—5　☎(03) 625—3991

株式会社 矢橋大理石商店大阪支店

取締役支店長　北垣圭一

大阪市東区高麗橋2(野村ビル)　TEL 202−4905
本社岐阜　TEL0584-71-1211　東京支店　TEL03-214-3561
名古屋支店　TEL052-561-3441　営業所　福岡・広島・札幌

引戸用レール各種、階段スベリ止め各種、アルミ押出形材
アルミ窓手すり、窓格子、アルミ梯子、脚立

安田レール株式会社

取締役会長　安田誠一

本　社　大阪市南区末吉橋通1－17　TEL251-7091～8
東京営業所　東京都中央区日本橋本町4-4(クラウンビル)　TEL662-4457～9



株式会社 山本建材社

代表取締役　山本武雄

本　社　大阪市西区西長堀南通1－1　電話 541－1861～7
東　店　東大阪市金物町3号1番　電話 723－2277～8



山本窯業化工株式会社

取締役社長　山本禎彌

本社・工場　大阪府摂津市別府365　電話(06) 381－9131～5
営業所　東京・名古屋・広島・福岡・仙台

銘木と建材

株式会社 吉川商店

本　社　和歌山市西布経町1の1　電話 0734－23－5257(代)
営業所　田辺市新庄町491　電話 0739－22－0259・6350
出張所　和歌山県海草郡下津町下222　電話 07349－2－1423(代)



ウレタン・エポキシ樹脂の合成ゴム塗膜防水剤
〝ラバシール〟責任施工

ラバレヂン工業株式会社

取締役社長　原淳

本　社　大阪市浪速区桜川5丁目2番地の8田坂ビル　電話 大阪 (561)6601(代)
出張所　名古屋市北区清水町6の4　電話名古屋(911)6801



理研鋼機株式会社大阪支店

支店長　長井誕

大阪支店　大阪市東区高麗橋5－45(興銀ビル別館)　電話06－202－7745(代)
本　社　東京都北区神谷3－10－8　電話03-902-3111(大代)
東京支店　東京都港区西麻布4-15-21(第6興和ビル)　電話03-407-6111(大代)
支　店　名古屋・仙台

日本電気硝子㈱代理店　**営業品目**　鉛硝子・ガラスブロック・光り壁
㈱各務クリスタル製作所代理店　ゲージグラス・レンズ・サンストップ

株式会社 伊勢谷特殊硝子製作所

代表取締役　伊勢谷圭作

本　　社　大阪市西区靱本町4丁目83　電話　大　阪（541）9161代
支　　店　名古屋市北区駒止町1丁目64　電話　名古屋（981）5650
（912）3962

大阪装飾株式会社

取締役社長　蜷川智造

本　社　大阪市西区京町堀2丁目64番地　電話代表 06（441）0931
営業所　東京都豊島区東池袋1丁目45番地　電話代表 03（984）7725

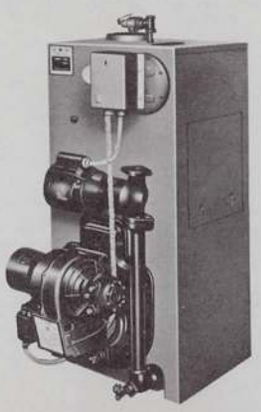
東西建築サービス株式会社

取締役社長　布袋國雄

本　　社　大阪市東区横堀2－48　電話 06（202）3626
事務所所在地　東　京・名古屋

セントラルヒーティングは世界最大の規模を誇る

アメリカン・スタンダード社製 **A-3ボイラ**



＊予算が許せるなら、多少のむりを押してもA－3ボイラを組み込んで下さい。必らず施主から感謝される高級品です。

AMERICAN STANDARD　IDEAL STANDARD　提携　汽車製造株式會社

■米国市場の80％を独占■鋳鉄製本体は耐久性抜群（米国で70年、日本で40年の実績あり）
■暖房と給湯が一台で可能■全自動で操作は簡単■静かな運転音■A重油・灯油・軽油いずれでも可
■家庭用から営業用まで72機種■部品の在庫豊富

汽車製造株式會社　大阪市東区南本町4丁目20（有楽ビル8階）　〒541　電話(06)251－8001

生きたデザイン　すぐれたクラフト

家具・造作・室内装飾・船舶・航空機内部艤装工事　設計施工
及び
建築設計監理

大丸 室内装工部

大　阪　大阪市南区鰻谷仲之町38　TEL（252）0641
東　京　東京都中央区八重洲4の3　TEL（271）0935
名古屋　名古屋市中区錦2丁目2の13号　TEL（231）0256

空気調和・冷暖房設備
給排水・衛生設備 設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区芝浜松町2－7　電話(434)6171(大代)
大阪支社　大阪市東淀川区加島町375　電話(302)2271(代)
支　店　北海道・仙台・名古屋・広島・福岡
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

冷暖房　各種サッシ
給排水、衛生水道　環境衛生施設
電気　荷役運搬機械
厨房　化学鉱山機械

三機工業 株式会社 大阪支店

取締役社長　大前玉男
取締役支店長　樋口勝栄
大阪市東区北浜2丁目22番地　電話 大阪 (202) 代表3071
本　店　東京・日比谷・三信ビル
支　店　名古屋、福岡、札幌、広島、仙台、富山
出張所　横浜、金沢、静岡、高松

電気・空調・給排水・衛生設備・設計施工

大阪電気暖房株式会社

取締役社長　菅谷知巳
本店　大阪市西区江戸堀1－60　電話 (441) 8231大代
支店　東京・名古屋・福岡
営業所　札幌・仙台・金沢・神戸・広島
出張所　京都・岡山・高松・熊本・横浜
新潟・富山・福井・豊田

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市都島区都島本通4－10－30　電話 (922)6251(代)
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話 (667)3431(大代)
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

給排水・衛生
暖冷房・換気 設計施工

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平
大阪市北区高垣町一・電話 大阪372局7151(代)
京都市東山区大和大路正面上ル 電話 京都561局4945(代)
神戸市生田区下山手通六ノ一・電話神戸34局 5892

空気調和・衛生設備
設計施工

株式会社 三晃空調

本　社　大阪市北区富田町16番地　電話(363)大代表1371
支　店　東京都千代田区神田小川町2丁目1番地　電話(292) 代表7751
広島市紙屋町1丁目2番22号　電話(47) 代表4535
福岡市大名1丁目8番12号　電話(76) 代表3795
出張所　名古屋・富山・神戸・福井・京都・松江

営業種目 ●空気調和設備 ●給排水衛生設備 ●塗装設備
●蒸気噴射式冷凍機／設計・製作・施工

空気調和のケンザイ 株式会社 建材社

本社・東京支店＝東京都中央区銀座6－6－7　㊫(572)7411 代
大阪支店＝大阪市北区中之島2－22　㊫(203)3721 代
名古屋支店＝名古屋市中区錦2－2－13　㊫(211)1535 代
出張所＝札幌・仙台・豊田・金沢・神戸
広島・松山・福岡・バンコック

須賀工業株式会社

空気調和 衛生設備

大阪市西区土佐堀通1丁目14　電話 441－5171
支店－東京・大阪・名古屋・京都・神戸・福岡
営業所－広島　出張所－北九州

水道・衛生・暖冷房・其他管工事
設計並施工
(旧斎藤久孝事務所)

斎久工業株式会社大阪支店

大阪市北区常安町11番地
電話 大阪 (443) 5041～5番
東京本社　東京都千代田区大手町2の8番地(日本ビル)
電話 東京 (270) 7411番(代表)
札幌営業所　札幌市南大通西4丁目1札幌道銀ビル　電話 札幌 22)5756
金沢営業所　金沢市高岡町2番16号　電話 金沢 21)2074
福井出張所　福井市御幸2の1　電話 福井 24)2436
高松出張所　高松市2番丁9　電話 高松 21)5195
岡山出張所　岡山市大供380の1　電話 岡山 24)5486

空気調和　地盤凍結　冷凍冷蔵

精研冷機株式会社

本　社　大阪市南区瓦屋町3番丁68番地
(オートセンタービル2階) 郵便番号542
電話 大阪 (06) 761(代)1141～8番(直通)
東京営業所　東京都千代田区九段南2丁目2番5号
(九段ビル8階) 郵便番号102
電話 東京(03) 262－3241～4番

創業 大正二年
暖冷房・換気・温湿度空気調和 設計
病院諸設備・給排水衛生・水族館設備 施工

株式会社 斎藤省三商店

東京店　東京都千代田区丸の内2の2　丸ビル676号
電話 212(代)3751
大阪店　大阪市西区土佐堀通1の1　大同ビル616号
電話 443代 3361
札幌店　札幌市北十条西18丁目36番地　電話 61(代)4371
名古屋店　名古屋市中区栄3の5番29号　千代田ビル514号
電話 261(代)0641
京都店　京都市南区西九条春日町48番地　電話 681(代)1781

温湿度調整装置、暖房
冷房、水道、搬送機設備
設計並ニ施工

第一工業株式会社大阪支店

大阪市北区富田町30　電話(364) 6661(代)
本　社　東京都千代田区丸ノ内3-3-1(新東京ビル)
電話 (211) 8511・8561(代)
仙台支店　仙台市新伝馬町60
電話 (21) 4491－
名古屋支店　名古屋市東区東門前町3－6
電話 (971) 3621

冷房・暖房・温湿度調整装置
換気・給排水・衛生設備
設計施工

第一企業株式会社大阪支店

大阪市北区北同心町1丁目57
電話 (351) (代表) 2808
本社 東京都文京区本郷1丁目12－5
電話 (814) (代表) 5151
支店出張所 名古屋・福岡・札幌・仙台・高松・広島

平山工業株式会社

衛生・空気調和設備 ・ 設計・施工

TEL (441)㈹ 1994.(443) ㈹0331 大阪市西区江戸堀通2の2

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工

髙砂熱学

大阪支店 大阪市北区梅田8番地(新阪急ビル8階)
電話 大阪 (312) 4521 (代表)
本社 東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

空気調和・恒温恒湿・冷凍・冷蔵
給排水衛生 設備 設計施工

不二熱學工業株式會社

本店 大阪市南区順慶町2－50 電話 261－2436㈹
東京支店 東京都大田区西馬込1－2－1 電話 773－1231㈹
営業所 銀座・浜松・京都・神戸・福岡

Carrier
空気調和装置、各種冷凍機
設計・製作・施工

東洋キヤリア工業株式会社 大阪支店

大阪市北区堂島浜通1－25 (新大ビル)
電話 大阪 (344) 1512 (大代)
本社 東京都中央区日本橋本石町4－2 (三井第二別館)
支店東京・名古屋 出張所 九州
工場 埼玉県北足立郡・東京都足立区

冷暖房・温湿度調整・水道
衛生・環境衛生施設
設計施工

山田工業株式会社

本社 大阪市西区京町堀1丁目62 電話(443) 代表8161～9
支店 名古屋市中村区水主町1の12 電話(541)0966(551)1655
出張所 東京都港区赤坂2丁目3～12
赤坂ピークビル5階 電話 (583) 1467
神戸市生田区北長狭通7丁目1の1 電話 (34) 1778・4386

MODAIR
空気調和設備
換気・除塵設備 設計施工

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区京町堀4丁目 TEL(443) 8071
本社 東京都中央区京橋2丁目9 TEL(562) 1351
支店 名古屋・福岡

空気調和装置・冷暖房・換気装置
ファン・ヒーター・クーラー
スチール・アルミ・サッシ・ドア・シャッター
設計・製作・施工

理研鋼機株式会社

大阪支店 大阪市東区高麗橋5－45 (興銀ビル別館)
電 大阪 代 (202) 7745番
本社・工場 東京都北区神谷3の10の8
電 東京 代 (901) 3191番
空調事業部 東京都港区西麻布4-15-23(第5興和ビル)
電 東京 代 (409) 0151番
支店 名古屋・仙台

温湿度調整・暖冷房・換気給排水・衛生設備
設計並施工

日本管工業株式会社

代表取締役 市川繁雄

本社 京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681) 5101～5・夜間専用(691) 1045
大阪営業所 大阪市北区天満橋筋1－37(天満橋北詰)
電話 (352) 3501～3
四日市営業所 四日市市浜田西末広町 電話㊸7431～3
大津出張所 大津市打出浜13－15 電話 0775 ㉒9738
津営業所 津市栄町2－111 電話⑧3610

Carrier
冷暖房は CARRIER キャリア

東洋キヤリア工業(株)製品販売店・特約工事店

日本冷熱工産株式会社

本社及大阪営業所 大阪市西区土佐堀通1－16(石川ビル)
電話大阪 (443) 3661～5

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

㈱西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津南通4丁目11 電話大阪(458)3531番
出張所＝京都・福岡

エレベータ・リフト・カーリフト
設計・製作

日本エレベータ工業株式会社

代表取締役 長尾正大

本社 大阪市大淀区天神橋筋六(天六阪急ビル) (351) 4927代
大阪営業所 (351) 4927代 サービス事業所 (328) 0364代
東京営業所 (822) 0995代 工場 (328) 0363代

各種電気工事設計施工
浅海電気株式会社
取締役社長　浅海正雄
本　社　大阪市北区老松町1丁目22
電話大阪(362)8701
東京支社　東京都新宿区戸塚1－95－7
電話(200)5911代表
支　店　名古屋・札幌・福岡
営業所　旭川・横浜・浜松・姫路・高松

電気設備 ε 設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役　山本博三
本　社　大阪市北区中之島3の3　朝日ビルディング
TEL　代表　(448)1361
営業所　大阪市西区土佐堀通り4の8
TEL　代表　(448)1361
営業所　京都市右京区西京極郡三反田町11の5
TEL　代表　(311)1185

電気工事設計施工
太陽工藤工事株式会社
取締役会長　西村庄市
取締役社長　小林四郎
本　社　大阪市福島区上福島北1－2
TEL(06)452－1151(代)
電力工事本部　大阪市此花区恩貴南之町73
TEL(06)462－1301(代)

電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
大阪支社
支社長　姉川正男
大阪市東区高麗橋五丁目二八番地　電話大阪(202)0325～9番
本　社　東京都千代田区西神田1丁目4番地5号
支　社　札幌・仙台・丸ノ内・名古屋・福岡
出張所　旭川・白河・横浜・静岡・富山

電気工事・計装工事
設計施工
栗原工業株式会社
取締役社長　栗原信英
大阪市北区高垣町16番地(東阪急ビル)
電話　大阪(313)1101(大代)
支店　東京・名古屋・舞鶴・大阪南・神戸・広島・九州

電気工事 中 設計・施工
中本電気株式会社
取締役社長　中本正明
本　社　大阪市城東区野江東之町三丁目一五
電話大阪(931)代表7341～5
0388・2193
資材倉庫　大阪市城東区野江東之町三丁目一一　電話大阪(931)7004
奈良営業所　奈良県御所市御国通り360　電話御所(2)2607・4259

電気工事設計施工
株式会社　**三興社**
代表取締役　林　敏夫
本　社　大阪市北区絹笠町50(堂ビル7階)
電話㈹3671(代)
支　店　東京都中央区日本橋箱崎町3丁目2番地
電話㈹1478(代)
出張所　川崎・相模原・堺・福山

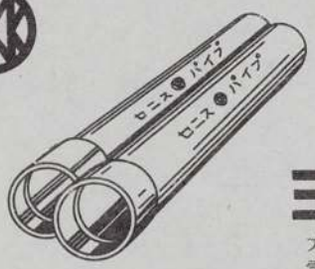
各種電気工事設計施工・制御盤製作
野里電気工業株式会社
取締役社長　池内文夫
本　社　大阪市西淀川区柏里町1丁目110番地
電話大阪(472)代表1101～7
支　店　東京都品川区西五反田6丁目25番11号(福島ビル)
電話東京(491)1746(492)0182・0350
営業所　北九州市小倉区鋳物師町23番地
電話小倉(56)5665・5818
出張所　群馬・千葉・和歌山・名古屋

電気・暖冷房・空調工事設計施工
三宝電機株式会社
取締役社長　嘉納伝三
本　社　大阪市北区絹笠町五〇(堂ビル三階)
電話(364)1471(代)
支　社　東京都中央区明石町6－23(辻孝ビル)
電話(542)5641
営業所　名古屋市北区城見通二丁目二〇番地
電話(991)5131～3
出張所　神戸市・堺市・高槻市・姫路市

電気工事設計施工
富士電業株式会社
取締役社長　田中実
本　社　大阪市西区北堀江上通1丁目65
電話大阪(541)0564～7・7148～9
営業所　東京・名古屋・広島・福岡

電気工事・計装工事・設計施工
中央電気工業株式会社
取締役会長　今村　騰
取締役社長　立石行男
本　社　大阪市北区梅ケ枝町56番地
電話　大阪　大代表(312)8881
支　店　東京・名古屋・四日市・神戸・和歌山
営業所　松山・京都・草津・静岡・水島・福岡

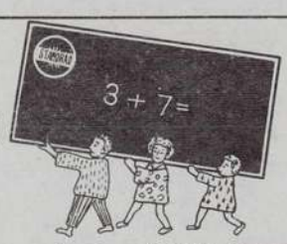
各種電気工事設計施工
株式会社　**ヤマト電気商会**
取締役社長　山本永造
本　社　大阪市北区西堀川町15番地
電話大阪(364)代3056
東京支店　東京都港区新橋5－34－6　相馬ビル5階
電話東京(434)3848・(431)8435
出張所　大阪南・札幌・名古屋・四日市・松山・徳山



トラフ・ヒューム管
ベンチレーター・マンホール

株式会社
三幸商會
大阪市北区与力町一ノ一〇
電話　大阪(358)　4031

奉仕感謝の店
タイル工事施工
特許申請中・完全滑止タイル
サンエス
SSS　タイル新発売
(カタログ進呈)
株式会社 川岸窯業商店
大阪市西区靱本町2丁目98　靱本町電停前
電話　大阪　(532)　0461～4番



Standard　Board&Slate
フタバ黒板
大阪市東住吉区桑津町三丁目101番地　電話大阪(717)4561～2

営業品目
●カネボウゴーレックス防水
●化粧壁材ソリジットスタイン吹付
●樹脂砂壁エバーサンド吹付
●樹脂蛭石エバテックス吹付
合同特許建材工業株式会社
本社営業所・大阪市東住吉区駒川町3－54　電話(702)代7814～6
特約代理店・東京・名古屋・金沢・広島・今治・福岡

耐酸ツボ各種
陶器、ガラス製品卸問屋
セトモノのデパート
源八橋セトモノ百貨店をご利用下さい。
株式会社 吉田芳雄商店
本　店 大阪市北区旅篭町18 電話(361)3450・(364)2345
源八橋店 大阪市北区天満橋筋4—78 電話(358)1790・1838



株式会社 矢橋大理石商店
大阪支店
大阪市東区高麗橋二丁目九　野村ビル五階
電話　大阪　(202)　4905

FUTABAYA DECORATORS, LTD.
建築物・船舶等の造作工事及び
室内装飾工事の設計施工
建具、パネル、家具、各種木工品の製作
内外装飾織物、窓掛、敷物、壁紙類一式
(創業大正7年)
二葉屋装備工業 株式会社
取締役社長　若林繁吉
大阪府知事建設登録
(る)第16216号
大阪市大淀区本庄川崎町2の6
電話・大阪(371) 3321～3・3630

社寺数奇屋用瓦……大仏瓦
内外装用窯変美術タイル……大仏タイル
(株) 大仏

本社	京都市東区山今熊野大仏池田町9の9	075(541)3344(代)
大阪営業所	守口市佐多東町1丁目23アマダビル	06(901)0156
名古屋営業所	名古屋市守山区大字小幡山脇27	052(792)1321
東京営業所	東京都渋谷区上原1丁目29の4	03(467)1641
工場	京都清水・山城・瀬戸	



本　社 大阪市北区堂島北町16　TEL (345)9055(代表)
本町営業所 大阪市東区本町4-27御堂ビル　TEL (252) 3906
横堀営業所 大阪市東区横堀2－36　TEL (202) 5260

雨水浸入剝落防止
耐震耐風
安定軽量



ナニワ緩勾配瓦
3寸緩勾最適軽量水止付(空葺)瓦
ナニワ瓦株式会社
大阪市浪速区元町一丁目二番地　電話(641)

発明賞に輝く各種特許235件所有

特許 鈴木シャッター

65年の歴史最高の技術最大の生産

防煙火・防災・防盗

鈴木式防煙火シャッター・リンググリル®シャッター・
ステンレスシャッター・アルミニュームシャッター・
40・ピーアップ®シャッター・汎用シャッター
その他特殊シャッターの製造
アフターサービスの完璧

KJK 株式会社 鈴木シヤタア商会
大阪市北区茶屋町33番地 電話大阪(06市外局番)371代表4151~6
北陸営業所 金沢市長田町119番地 電話金沢(0762市外局番)21-2287

スチール
アルミ
ステンレス
サッシ・ドアー
カーテンウオール
シヤッター
三高式オペレーター・ドアーハンガー

TRADE MARK
M.T.K.S

株式会社 三高製作所
本社・工場 尼崎市神崎五反田280番地
電話大阪(499) 8151代表

近代建築の要求する

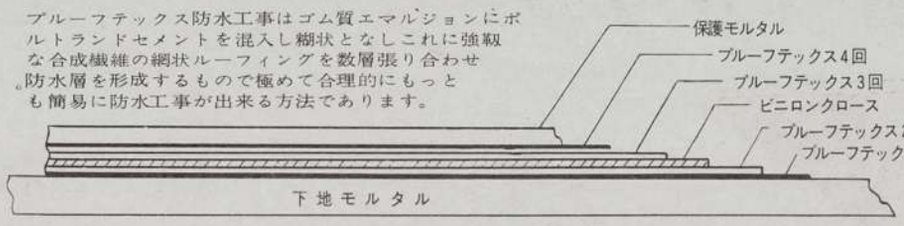
＊特許 小俣式 ステンレス・アルミニウム 防火シャッター

設計
製作
施工

小俣シャッター工業株式会社大阪支店
大阪支店 大阪市北区若松町30 電話大阪(364)9004・9016・4825
本社工場 東京都北区田端町1138 電話東京(893)5211~5

プルーフテックス防水工事

プルーフテックス防水工事はゴム質エマルジョンにポルトランドセメントを混入し糊状となしこれに強靱な合成繊維の網状ルーフィングを数層張り合わせ防水層を形成するもので極めて合理的にもっとも簡易に防水工事が出来る方法であります。



《特長》
1)防水性が優秀
2)接着力が強大
3)火気を要しない
4)耐摩耗性
5)物理的強度優秀

耐酸工事・防水工事専門店 耐酸化学工業株式会社
大阪市北区高垣町80番地
電話大阪(06)361・0178代

腐らない そして燃えない
法定不燃材 829号
ケミカラーオーシマメタル
新しい型の
ひふくてっぱん
屋根材、壁材・谷樋棟包水切に
スタンダードメタルの大島応用化学
東大阪市新庄(782)4171代



Taniyama
送風機
株式会社 谷山鐵工所
営業品目
●LAF形 リミットロード送風機
●VAF形 可変式軸流送風機
●SAF形 ストリームライン送風機
●CAF形 遠心式静音軸流送風機
(特 許)
本社工場/大阪市城東区野江東之町二丁目一番地
電話 大阪(931)代7803～9
東京出張所/東京都文京区湯島四丁目六番十七号
東京(814)6651～3

シヤッターの総合メーカー
豊かな経験と
最新の技術…
東洋シヤッター
東洋シヤッター株式会社
本 社 大阪市東区谷町5－30 新野村ビル TEL(762)5861代
本 社 東京(543)2281・名古屋(331)6171・大阪(352)4571
営業所 横浜・滋賀・京都・神戸・福岡・他全国主要都市

全国で好評の……新興の内装壁材を！

ダイシンコート

新しい時代の新らしい壁
ヒル石基材の燃えぬ壁材

（特長）

塗・吹・保・防・耐音・耐温・耐水・耐火



革新塗料現る

①ソフトな感覚、優雅な味
②ペイント塗料に優る
③塗りかえ自由
④安価で塗りよい
⑤吹付施工も自由
⑥洗いも下地も自由

繊維塗料の
シンコソール

全国有名建材店又は当社へ

繊維壁材（通称）わたかべ

耐水、耐アルカリ性時代来る

漆喰差支なし
ドロマイドプラスター
セメントモルタル
下地
落ちない
塗り良い
塗面が強く
水に強く
（特長）

すゝき・すゞか・新いすゞ・四香・七宝・錦紋・王座

●カタログお送りします



（株）新興建材工業所
大阪市西区南堀江通6丁目39番地　TEL 大阪(538)2951～5・(541)5757～9
営業所　東京・高槻・明石・姫路・四国・中国

発売元

新興壁材工業（株）
大阪市住吉区粉浜本町4丁目26番地　TEL 大阪（672）1661～3

（株）九州新興建材工業所
福岡市上牟田八田町26の1　TEL 福岡（41）5225～6

特許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

燃えない
われない
腐らない

長尺物・色彩自由・責任施工

品種　オリエンタルメタル（O.P.M）
オリエンタルスーパーメタル（S.P.M）
オリエンタルカラードメタル（C.P.M）
カラースーパーオリエンタルメタル（C.S.P.M）

波板規格　S小波　S大波　V波　ボックス波　Wジャンボ波

用途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
通風器・排気ダクト・モニター

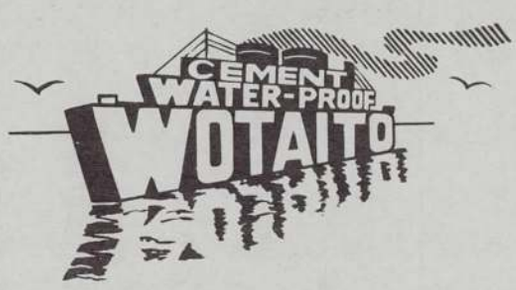
カタログ御請求下さい。

オリエンタルメタル製造株式会社

本社　兵庫県尼崎市昭和南通り3－26松本ビル　電話　大阪(412) 5131代表
東京支社及工場　埼玉県蕨市塚越5丁目6番32号　電話　蕨　(42) 3115～8
大阪支社及工場　兵庫県尼崎市長洲稲川新田44　電話　大阪(488) 1081代表
九州支店及工場　福岡県遠賀郡水巻町頃末　電話　八幡（69）2831～4
名古屋支店及工場　名古屋市中村区泥江町1の24第2中経ビル　電話　名古屋(581)2781～4

・日本建築協会優良証明

セメント硬化促進増強防水剤



ウォータイトB号

合成樹脂系防水剤　スーパーウオータイト
合成ゴム系防水剤（クロロプレン系）　ウオータイトK
合成ゴム系防水剤（ポリウレタン系）　ウオータイトU

JIS合格品
御一報次第型録並仕様書進呈

ウォータイト式防水工事代行店
安藤工事　TEL福　岡（28）5207
川添商店　TEL鹿児島（51）0001
大三工業　TEL高　松（51）6811
伊東工業　TEL徳　島（52）6880
豊永建材　TEL広　島（61）6371
東邦防水　TEL札　幌（82）3133

株式会社 日本セメント防水剤製造所

大阪事務所　TEL大　阪（941）2626・2628
宝塚市高台　TEL宝　塚（86）2　1　5　3
名古屋出張所　TEL名古屋（331）1　5　3　1
仙台出張所　TEL仙　台（23）0　7　2　1
東京出張所　TEL東　京（431）8　6　4　8

新製品
特許セメント分散剤
コンクリート減水剤
●リグコン

特許 セメント分散剤 コンクリート減水剤
リグナール

建設大臣認定
●三段ブロック
其の他コンクリート二次製品

●宅地造成・分譲
指導　神戸大学土木工学部長
田中　茂教授
設計　日建設計工務株式会社
現在二団地設計中

●耐火・防水外見板
SPボード代理店

●日本鋼管
NKプレハブ代理店

●高弾性目地材　エスシール#31
●防水材　エスシール#21

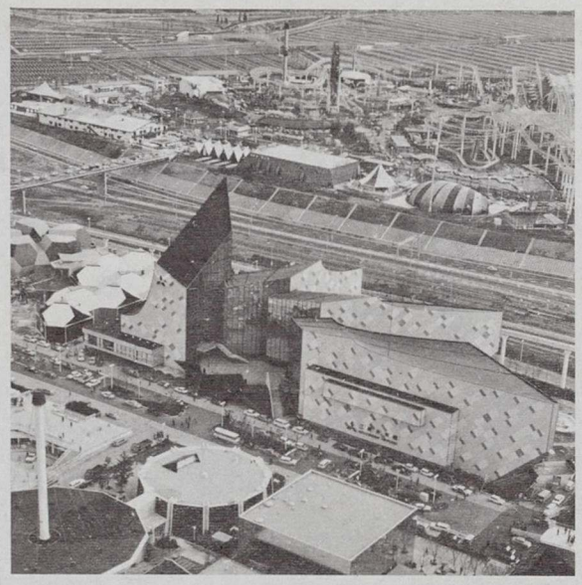
リグナール製造発売元
神戸枝料株式会社

本　社　神戸市葺合区熊内町2丁目88番地
電話078代表（23）1421・6956
東京営業所　電話03（294）6167・6177
福山出張所　電話0849（23）2　6　7　9



石の上にも30年——

一口に30年といっても、サンドイッチパネルについて色々の変遷がありました。どんなに時代が変っても私たちは常に最良の品質をお届けすることを心がけています。
一年一年の実績は石にきざまれた年輪の如く着実に伸長を示しており、各方面から「旭化工板のサンドイッチパネル」とご指定いたゞいております。



万博三菱未来館
（ユニオンボードS型使用）

ユニオンボード ——耐火断熱板
●耐火認定60分Wn1021　30分Wn0027・Wn028
●防火構造認定 第55号 第99号

カルトン ——軽量断熱板
●実用新案 第731329号

アコニオン ——防火吸音大型板

KCパネル ——色彩耐火板
●耐火認定（30分Wn0019）

ベニオン ——化粧断熱板
●特許申請中

ポーライト ——六面プレス高級木毛セメント板
●準不燃材認定 第2031号

カネライトパネル ——軽量断熱板

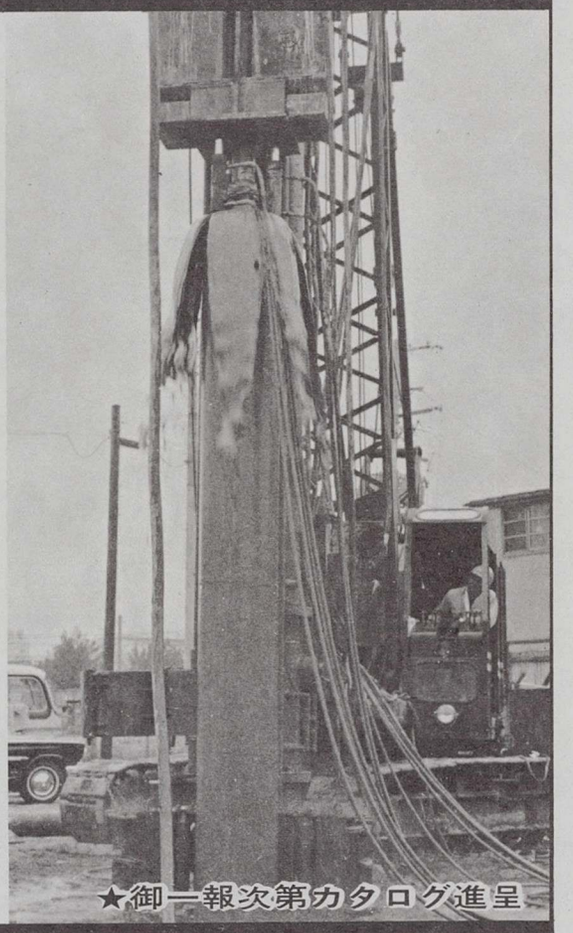
JIS表示許可工場（第1076号）

旭化工板製造株式会社

本社・工場　尼崎市下坂部久々知前235
TEL　大阪(06)491－6781（代）
東京営業所　東京都台東区駒形2－3－5（駒形武蔵野ビル）
倉庫　TEL　東京(03)842－9251（代）
名古屋出張所　名古屋市中区丸ノ内3－18－12（大興ビル）
TEL　名古屋(052)961－5940
福山出張所　福山市松浜町1－1－4（福山不動産ビル）
TEL　福山(0849)23－1491
鈴鹿工場　鈴鹿市三日市町1859
TEL　鈴鹿(05938)8－1165～6

タイプ
TAIP工法
にはハンマー不要です
〈完全無音無振動既製杭工法〉

従来の既製杭を利用して杭打施工時の
振動・騒音を完全に追放しました!!



■主な特長

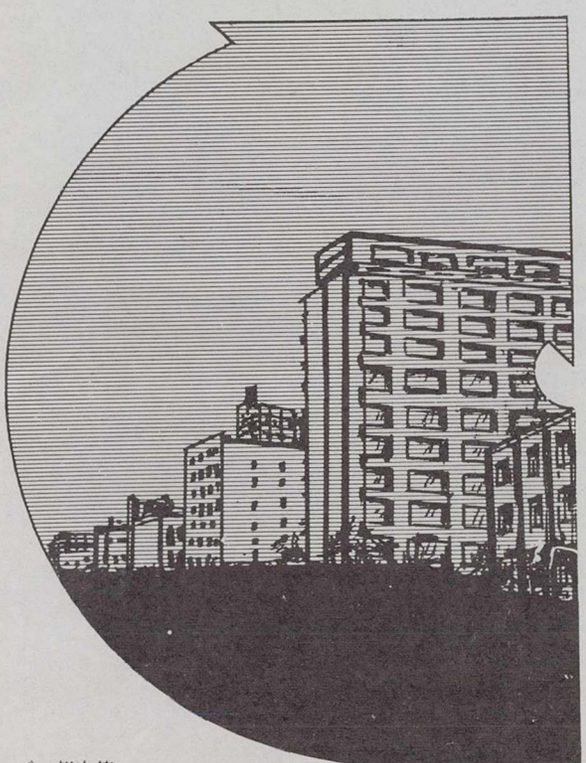
1. ネジ込力を杭押込力に変えるので完全無振動無騒音です。
2. 根入長さが長く安定した支持杭が施工出来ます。
3. スライムの沈積はありません。
4. 完全に支持層に岩着させるので大きな支持力が期待出来ます。
5. 何米でもヤトイ杭で納められ地下室のある建築に最適です。

TAKECHI 株式会社 武智工務所

■本　　社　大阪市東区高麗橋2の20(高麗新ビル)　TEL大阪(202)3233(代)
■名古屋支店　名古屋市中区錦1－3－2(殖産ビル)
■福岡支店　福岡市赤坂1－15－33(第二菊陽ビル)
■営業所　東京・静岡・富山・広島・熊本・鹿児島　■工場　大阪・名古屋・鹿児島

★御一報次第カタログ進呈

モルタル・コンクリート用
マノール 防水剤



＊マノール防水剤はセメントの加水分解生成物である水酸化石灰と化学的に結合し、硬化機構を妨げることなくセメント粒子に撥水性を与えて毛細管の表面張力を低下させ、吸水性を減少させます。
＊AE効果により適量の空気を連行し、気孔を閉塞することなくセメント・プラスター及び砂の粒子に対し分散性を与えワーカビリティーを向上させます。また特有な粘着性によって材料分離、レイタンスの発生を防止します。
＊セメントと結合した生成物は永久不変質の物質で、水や空気中の塩類、酸類も作用せず、セメントの中性化を防ぎ、鋼材、木材等の腐蝕・腐朽を防止して構造物の耐久性を高め、その防水・防湿効力は恒久的です。

その他マノール製品
急結剤・接着剤・剥離剤・早強剤・防凍剤
エスコート(セメント起泡剤)・**エアコール**(場所打ち杭工法添加剤)

ご一報次第
カタログ進呈します

セメント混和剤・助材綜合メーカー
株式会社 油脂化工社

東京都品川区大井1－15－1		☎ 東京	(774)4111代表
関東営業所	茨城県土浦市大町1213	☎ 土浦	(21)5189
東北営業所	福島県福島市下野寺字遠原	☎ 福島	(34)7111
盛岡営業所	岩手県盛岡市南大通3－12－50	☎ 盛岡	(24)0213
大阪営業所	大阪市東成区東中本2－17－26	☎ 大阪	(971)4765



全く新しい床タイルです

三星ピサロンは、従来のビニールタイルとは製法原料配合が全く違います。塩ビの他に最近開発された新しい共重合体の特殊樹脂を用いた画期的な新製品です。軟質プレスタイプの床タイルに比べ仕上り安定性がよく、カレンダー方式の流れ模様とは対照的な静止した現代模様。ピサロンの持つエラスチックで高級な質感、すぐれた歩行感は、床タイルの新しい世界を開きました。

協同組合員が責任をもって施工いたします

三星ピサロンは、材料だけの販売はいたしません。責任施工の出来る協組員が入念な仕上げをします。

これからはピサロンの時代です

三星ピサロンの新しい色調、パターンは、現代のインテリアデザインに要求される個性的な床造りには欠かせません。東京浜松町の超高層世界貿易センタービルの4F以上の各階通路、エレベーターホールにも、使用されております。〝三星ピサロン〟はその模様がフランスの画家ピサロのタッチに似ていることから、名付けられたものです。

東日本床工事事業協同組合
西日本床工事事業協同組合
〈専用品〉

三星タイル
ピサロン
製造元＝田島応用化工株式会社

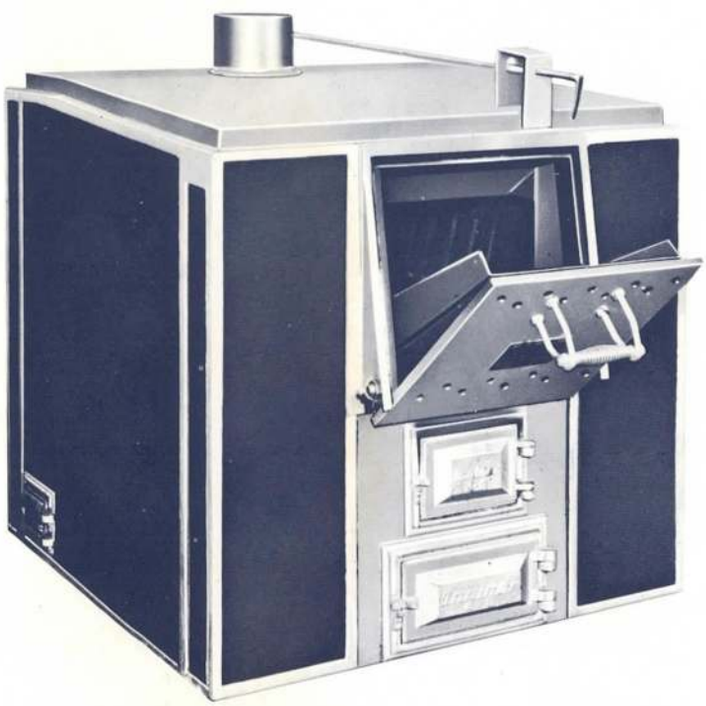
★規格＝333.3　×333.3　×2㎜　9枚／m²
　　333.3　×333.3　×3㎜　9枚／m²
★色数＝18色
★価格＝2㎜厚品　1,200円／m²（300m²以上）
　　3㎜厚品　1,800円／m²（300m²以上）
　　小部屋割増・階段40％高

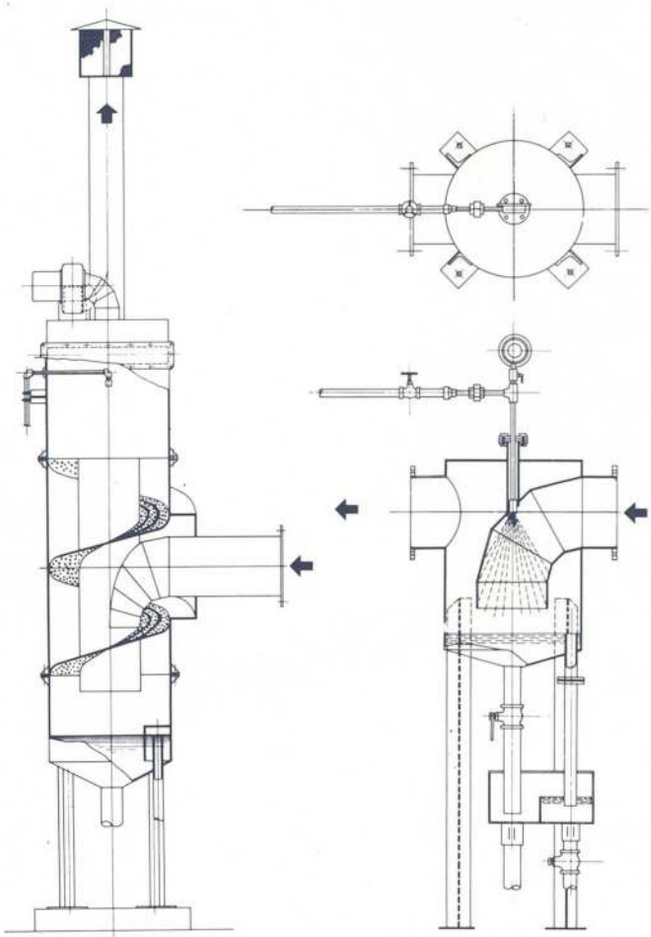
建築と社会 “ARCHITECTURE AND SOCIETY” 第52輯第1号
■昭和46年1月25日発行(毎月1回25日発行)・昭和24年3月19日第3種郵便物認可

Inciner TYPE DUTCHER

煤煙除去機ダッチャー

においと煤煙をおとす





規格

型式	大きさ mm 外径	高さ	煙突接続管径 mm 入口	出口	給水 管径	所要水量 ℓ/min	排出 オーバーフロー管径	ドレーン管径	吸引ファン 三相 200V
DUTCHER－1	400 φ	600	200 φ	200 φ	15A (½B)	5	40A(1½B)	25A(1B)	
DUTCHER－2	450 φ	655	250 φ	250 φ	15A (½B)	5	40A(1½B)	25A(1B)	
DUTCHER－3	520 φ	815	300 φ	300 φ	15A (½B)	6	50A(2B)	32A(1¼B)	
DUTCHER－4	575 φ	920	350 φ	350 φ	15A (½B)	7	50A(2B)	32A(1¼B)	
DUTCHER－5	700 φ	999	400 φ	400 φ	15A (½B)	8	50A(2B)	32A(1¼B)	
DUTCHER－200	400 φ	2,100	200 φ	130 φ	15A (½B)	10	32A(1¼B)	50A(2B)	400W
DUTCHER－350	700 φ	2,700	350 φ	200 φ	15A (½B)	12	32A(1¼B)	50A(2B)	400W ×2又は3

※注記．大きさのうち高さには支台を含んでおりません

※御使用状況により多少の仕様変更をすることがあります

総発売元 インシナー商事株式会社
製造元 インシナー工業株式会社

本社 東京都品川区東五反田2の8の7 電話東京(441)2291－8
大阪支店 大阪市北区牛丸町55 東洋ビル 電話大阪(372) 0481
名古屋営業所 名古屋市昭和区恵方町2－8 電話名古屋(841) 5874
福岡営業所 福岡市春吉3丁目 春野ビル 電話福岡 (76) 1880
修善寺工場 静岡県田方郡修善寺町牧之郷沖の原 電話修善寺(72)0287－9

ご入会のお申込は・社団法人 日本建築協会 〒541 大阪市東区北浜3－37 電話大阪(06)231-9648・9649・9640 振替口座大阪39975番

定価 300円(送料共)